

授業名	人間と仏教 a・b・c・d・e			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	CS1101
英文名	Human and Buddhism			開講時期	春・秋学期		必修選択	必修	
担当者	伊藤 茂樹・工藤 美和子			対象学生	総合文化1回生、幼児教育1A・1B・1C・1D				
授業の概要	本授業は仏教の起源である開祖釈尊の生き方とその教え、また法然の生涯と教えを中心として概説することにより、我々の生きる意義を理解することを目指す。「ブッダの生涯」「ブッダの教え」「法然の生涯」「法然の教え」というテーマの下に、宗教観、仏教という宗教誕生の必然を概説し、私たちの人間形成に意義を持つ内容を学び、建学の理念を学んで行きたい。								
学修成果到達目標	1) 建学の精神を理解することが出来る。 2) 釈尊の教えである「苦」の理念を自らの問題として理解することが出来る。 3) 法然の平等思想を理解することが出来る。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (汎用能力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テキスト	『ブッダと法然』(学術図書出版社、2019年)								
参考書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	理解度テストを回収の後、解答の解説を行います。								
留意事項	板書や講義の内容をしっかりとノートに取ること。								
オフィスアワー	後日研究室前に掲示します。								
実践的教育									

授業名	人間と仏教 a・b・c・d・e	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	「仏教とは何か」	(学修内容) 宗教とは？ 仏教とはどのような教え？ 何故仏教を学ぶの？ 仏教を学ぶ基本中の基本を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (10分) シラバスを読んでおく。
第2回	「仏教から学ぶこと」	(学修内容) 建学の理念を概説します。華頂学園の環境をみつめてみましょう。宗教、仏教を学ぶ意義について学びましょう。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 釈尊について、教科書を一通り読んでおくこと。建学の精神をノートにまとめる。
第3回	「法然上人御廟参拝」	(学修内容) 法然上人の御廟を参拝します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 御廟参拝をレポートにまとめる。
第4回	「ブッダの生涯 誕生」	(学修内容) 仏教の開祖ブッダの生涯を、誕生とその事蹟、出家以前の生活について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ブッダの誕生について、該当する教科書の範囲を読むこと。授業後は、ノートを整理する。
第5回	「ブッダの生涯 四門出遊」	(学修内容) ブッダの出家の経緯(四門出遊等)について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 四門出遊について、該当する教科書の範囲を読むこと。授業後は、ノートを整理する。
第6回	「ブッダの生涯 苦行」	(学修内容) ブッダが出家の後、苦しい修行を何度も経験し、三十五歳で悟りを開いたことについて概説します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 出家後のブッダについて、該当する教科書の範囲を読むこと。授業後は、ノートを整理する。
第7回	「ブッダの生涯 悟り」	(学修内容) 悟りの内容である縁起の思想。四諦八正道について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 四諦八正道について、該当する教科書を読むこと。 授業後はノートを整理する。
第8回	「ブッダの生涯 釈尊の伝道」	(学修内容) 釈尊は、35歳で悟りを開いて後、教化伝道の生活を送ります。釈尊の教化伝道の生活を学びます。確認テストを実施します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 釈尊の伝道について、該当する教科書の範囲を読むこと。 授業後は、ノートを整理する。
第9回	「法然の生涯と思想 誕生」	(学修内容) 法然上人の誕生とその背景について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 法然上人の誕生について、該当する教科書の範囲を読むこと。授業後、ノートを整理する。
第10回	「法然の生涯と思想 父の死」	(学修内容) 法然上人は9歳で父の死に直面します。その後、僧侶としての道を進んでゆきます。比叡山登山と、延暦寺での修学について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 父の死について、該当する教科書の範囲を読むこと。授業後、ノートを整理する。
第11回	「法然の生涯と思想 修学」	(学修内容) 法然上人は、比叡山で一定の年月を修行して過ごした後、南都遊学をします。浄土教に出会うまでを概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 法然上人の比叡山修学、南都遊学について、教科書の該当する範囲を読むこと。授業後、ノートを整理する。
第12回	「法然の生涯と思想 立教開宗」	(学修内容) 法然上人の浄土宗開宗と、浄土宗の教えについて学びます。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 浄土宗の開宗について、該当する教科書の範囲を読むこと。授業後、ノートを整理する。
第13回	「法然の生涯と思想 大原問答」	(学修内容) 大原問答と東大寺講説について、概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 大原問答と東大寺講説について該当する教科書の範囲を読むこと。授業後、ノートを整理する。
第14回	「法然の生涯と思想 臨終」	(学修内容) 専修念仏教団の法難と法然上人の臨終について概説します。また知恩院の成立も理解します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 法難、臨終について、該当する教科書の範囲を読むこと授業後、ノートの整理をする。
第15回	講義総括	(学修内容) 講義のまとめ、ブッダ・法然の教えが現代の我々とどのように関わるかを考えます。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 全15回分授業のノートを読み返しておくこと。ブッダの悟り、法然上人の教えをまとめる。

授 業 名	基礎ゼミナール xa・xb			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	CS1102
英 文 名	Freshman Seminar I			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	必修		
担 当 者	工藤 美和子・伊藤 茂樹			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	2年間の学びで、日本文化・現代文化における知識を学び、大学での学びに必要な能力を獲得することを目的とすると同時に、社会人としての基本的教養を身につけることで、将来への見通しをたてることを目的とします。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 大学での学びの見通しをもつことができる。 2) 学生生活を送るうえで必要な表現力を身につけることができる。 3) 学生生活を送るうえで必要な情報検索能力を身につけることができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テ キ ス ト	特に指定しません。								
参 考 書	授業内にて指示します。								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートやレジュメはコメントを付けて返却します。								
留 意 事 項	個人やグループ活動の進捗状況によって修整するなど、授業時に変更を加えていくこともあります。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付するので確認してください。								
実践的教育									

授 業 名		基礎ゼミナール xa・xb
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	高校と大学の学生生活の違いを知ろう	(学修内容)総合文化学科のディプロマポリシーを学ぶ。履修登録の科目を考え、自ら学ぶ学習内容を考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 講義内容の振り返りを行う。
第2回	高校と大学の学生生活の違いを知ろう 学生生活と教員編	(学修内容)ポータルサイトやGmailを活用する方法、大学と高校の先生の違いについて知る。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 講義内容の振り返りを行う。
第3回	学生生活をデザインしよう	(学修内容)学生生活のタイムマネジメントを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 講義内容の振り返りを行う。
第4回	目的と方法 望む将来像について考える	(学修内容)目的と方法の違いを理解するし、将来像について考えてみる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業の振り返りを行う。
第5回	目的と方法 目的を見すえて計画を立てる	(学修内容)目的の立て方を学び、ワークシートへ書き込む。 (事前事後学修課題の内容)(60分) ワークシートへの書き込みと授業の振り返りを行う。
第6回	授業を学ぶ・授業に学ぶ	(学修内容)中学校や高校の授業と大学の授業の違いを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業の振り返りをする。
第7回	授業を理解するために	(学修内容)自律的に学ぶとは何かについて考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業の振り返りを行う。
第8回	レポートの書き方を学ぼう	(学修内容)感想文とレポートの違い、レポートの書き方について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業の振り返りを行う。
第9回	レポートを書いてみよう	(学修内容)課題のレポートを書いてみる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) レポートに取り組み提出する。
第10回	学外学習 事前学習	(学修内容)学外学習について知る。事前学習の方法、レジュメ作成法を学び、グループ毎に事前学習を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学習に取り組む。
第11回	学外学習実施	(学修内容)学外研修を実施する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学習を意識しながら学外研修にのぞむ。
第12回	学外実習 事後学習	(学修内容)グループ毎に事後学習を行う。レジュメを作成し発表(プレゼンテーション)の準備を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) グループ全体で取り組むこと。分からないことがあれば担当教員に相談すること。
第13回	学んだことを発表しよう 第1回発表会	(学修内容)グループ毎に発表する。レジュメを準備する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) グループ全体で発表の準備に取り組むこと。
第14回	学んだことを発表しよう 第2回発表会	(学修内容)グループ毎に発表する。レジュメを準備する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) グループ全体で発表の準備に取り組むこと。
第15回	授業の総括	(学修内容)夏期休暇中に取り組む課題について知る。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 課題の準備を行う。

授 業 名	基礎ゼミナール A ~ K			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CS1102
英 文 名	Freshman Seminar IA ~ K			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	武田 康晴・鈴木 えり子・小川 隆昭・水谷 隆・名賀 亨・高岡 理恵・野田 隆生・山部 泰司・坂口 みゆき・浅田 隆・伊藤 茂樹			対 象 学 生	幼児教育1回生				
授業の概要	1回生春学期の基礎ゼミナールは「初年次教育」と位置づけ、大学での学びの特徴、目的を見据えて学ぶ意義、学びの方法として講義の受け方、レポートや小論文の書き方、発表資料作成の仕方、プレゼンテーション方法などを体験的に学ぶ。また、その中に幼児教育学科としての取り組みを盛り込んでいく。授業形態としては、20人までの少人数クラスを専任教員が担当し、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなど演習を基本として実施する。また、客観的評価としてのPROGテストや主観的評価としての学修ポートフォリオ等も活用しながら、学生が自分自身と向き合うことができるようゼミナールを運営していく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 幼児教育学科のディプロマポリシーを理解している。 2) 将来の目的を明確に説明できる。 3) レポートの書き方の基礎を身につけ実践できるようになる。 4) 発表方法(資料、口頭発表)の基礎を身につけ実践できるようになる。 5) 担当教員や学生と良好なコミュニケーションを図ることができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	必要に応じて資料等を配布する。								
参 考 書	必要に応じて紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物については必ず添削し、授業の運営や個別面談の資料として活用する。また、必要に応じ、コメントして返却する。								
留 意 事 項	基礎ゼミナールは、授業の1つですが、学修や学生生活の基礎を支える役割も果たします。毎回の出席はもちろん、担当教員や学生同士で積極的にコミュニケーションを図って下さい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	各教員が授業時に伝える。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		基礎ゼミナール A ~ K	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーションとゼミへの導入（履修登録等のサポート含む）全体での授業を予定	<p>（学修内容）基礎ゼミナールの位置づけやプログラムなどを確認しながらゼミの役割を共有する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分）</p> <p>シラバスを確認しておく。講義要項を確認して不明な点をなくす。質問事項をメモする。</p>	
第2回	オリエンテーションとゼミへの導入（2年間流れ、Gmailの使い方など）全体での授業を予定	<p>（学修内容）学校行事や学科行事を含めて2年間の流れを共有し、ポータルサイトやGmailの使い方、学修ポートフォリオの記入などを理解する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分）</p> <p>華頂短期大学のホームページを開いてみる。Gmailを使い、ゼミナール担当教員にメールを送信する。</p>	
第3回	お互いに知り合うワークショップ（学校生活のイメージ作り）	<p>（学修内容）自己紹介シート等を作成、それを使った自己紹介などを通じてゼミメンバーと交流する。また、オリエンテーションでの疑問を解消する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分）</p> <p>キャンパスライフや講義要綱に目を通し、自分に関係のある箇所に線を引いて確認する。</p>	
第4回	お互いに知り合うワークショップ（少人数の関係づくり）	<p>（学修内容）二人一組や小グループも活用しながら、ゼミメンバーが交流を通じて互いに知り合う。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分）</p> <p>本日のゼミで分かったことをノートに書き出す。</p>	
第5回	合同ゼミナール（絵本大賞の説明、SNSの注意点、課外活動など）全体での授業を予定	<p>（学修内容）幼児教育学科全体に関係する絵本大賞、子どもデパート、SNSの注意点などについて説明・共有する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分）</p> <p>華頂短期大学のホームページを確認しておく。絵本大賞のテーマを考え所定の用紙で提出する。</p>	
第6回	学生生活の目標（望む将来について考える）	<p>（学修内容）適宜ワークシートも活用しながら将来の夢や望む将来像を整理する。また、学生同士で共有する時間を持つ。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分）</p> <p>将来の夢について聞かれたらどう答えるか考えておく。ワークシートを完成して提出する。</p>	
第7回	学生生活の目標（望む将来に向かう計画を立てる）	<p>（学修内容）適宜ワークシートを活用しながら、1年後の目標や1年間で取り組むことなどを整理する。また、学生同士で共有する時間を持つ。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分）</p> <p>教員や学生とのコミュニケーションを参考に自分の計画をブラッシュアップする。</p>	
第8回	興味のあるテーマについて情報収集	<p>（学修内容）望む将来像や実現の計画も参考に、自分の興味のあるテーマについて図書館等を活用して調べてみる。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分）</p> <p>何について調べるかを考えておく。調べた内容についてノートに整理する。</p>	
第9回	興味のあるテーマについて情報収集	<p>（学修内容）図書館等も活用して調べた興味のあるテーマについてまとめる。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分）</p> <p>授業時間と合わせてまとめを完成し提出する。</p>	
第10回	大学での学び方（課題の探求、授業の受け方、ノートの取り方、試験について）	<p>（学修内容）春学期の前半を振り返り、各自のノートも参照しながら、大学での学び、ノートの取り方、筆記試験・レポート試験について整理する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分）</p> <p>自分の書いたノートを持参する。授業で分かったことを復習し、翌日の授業から実践する。</p>	
第11回	レポートの書き方	<p>（学修内容）レポートの基本的な書き方（体裁、書式、テーマ選び、内容）を習得する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分）</p> <p>基本的な書き方を踏まえて、短いレポートを書いて提出する。</p>	
第12回	レポートの書き方	<p>（学修内容）基本的な書き方を踏まえて作成したレポート（事後学習）を学生が相互添削し、レポートの書き方について理解を深める。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分）</p> <p>授業中に添削したレポートを清書して提出する。</p>	
第13回	プレゼンテーション資料の作成	<p>（学修内容）発表方法（口頭、レジュメ、ポスター、パワーポイント）や分かりやすい資料作成のポイントを学ぶ。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分）</p> <p>前週までに作成したレポートについて資料を作成する。</p>	
第14回	春学期の振り返り	<p>（学修内容）PROGテストや学修ポートフォリオ、また春学期に作成したワークシートも活用し春学期の学修について振り返りを行う。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分）</p> <p>振り返りで気付いたことをまとめておく。</p>	
第15回	春学期の振り返り と夏季休暇に向けて	<p>（学修内容）振り返りで気付いたことを共有し、夏季休暇の過ごし方について計画を立てる。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分）</p> <p>基礎ゼミナールの内容を踏まえ、春学期全体について振り返りレポートを作成する。</p>	

授 業 名	基礎ゼミナール xa・xb			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CS1110
英 文 名	Freshman Seminar II			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	必 修		
担 当 者	工藤 美和子・伊藤 茂樹			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	日本文化・現代文化における知識を学び、社会人としての基本的教養を身につけ、社会に貢献できる基礎力と応用力を育成することを目的とします。目的を達成するために、グループワークやプレゼンテーションの機会を設けます。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 大学における学びの見通しをもつことができる。 2) 日本文化・現代文化について必要な知識を学び、豊かな教養を有することができる。 3) 将来目標をたて、達成のために主体的に行動することができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	特に指定しません。								
参 考 書	授業内で指示します。								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートや発表用レジュメはコメントを付けて返却します。								
留 意 事 項	個人発やグループ活動の進捗状況によって修整するなど、授業時に変更を加えていくこともあります。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付するので確認してください。								
実践的教育									

授業名	基礎ゼミナール xa・xb	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	基礎ゼミナール の振り返り	(学修内容) 基礎ゼミナール の復習を行う。基礎ゼミナール で課した課題について確認する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 基礎ゼミナール の内容を整理する。各自ゼミ生が課題レポート作成および発表の準備を行う。
第2回	課題 レポート作成	(学修内容) 課題について調査したことをもとにレポートを作成する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) レポート作成の準備。
第3回	課題 レポート提出	(学修内容) レポートを作成し提出。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 作成したレポートを担当教員に提出する。
第4回	課題の個別発表準備	(学修内容) レポートを参考に課題の個別発表準備を行う。発表者を4つのグループに分け発表の順番を決める。 (事前事後学修課題の内容) (60分) レポートをもとにレジユメを作成する。分からないことがあれば必ず担当教員に相談する。
第5回	個別発表会 Aグループ	(学修内容) 課題の個別発表会を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表者はレジユメの準備をする。他の学生は発表内容にコメントや質問などを行う。
第6回	個別発表会 Bグループ	(学修内容) 課題の個別発表会を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表者はレジユメの準備をする。他の学生は発表内容にコメントや質問などを行う。
第7回	個別発表会 Cグループ	(学修内容) 課題の個別発表会を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表者はレジユメの準備をする。他の学生は発表内容にコメントや質問などを行う。
第8回	個別発表会の総括	(学修内容) 個別の発表について振り返りを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 活動の準備、発表内容やレジユメの記述方等について整理を行う。
第9回	グループワーク 研究課題の選択	(学修内容) グループ毎に研究課題に何を取り上げるか話し合い決める。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表する研究テーマを決め、グループ内で役割を決める。
第10回	グループワーク 研究テーマの発表	(学修内容) 各グループが研究テーマ・テーマ選択の目的・方法について発表する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 活動の準備、整理、発表の準備を行う。担当教員に進捗状況を報告すること。
第11回	グループ発表会 第1回発表会	(学修内容) 各グループが立てた研究テーマに関して発表を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表の準備を行う。レジユメを準備する。
第12回	グループ発表会 第2回発表会	(学修内容) 各グループが立てた研究テーマに関して発表を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表の準備を行う。レジユメを準備する。
第13回	グループ発表会の総括	(学修内容) グループ発表会の振り返りを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 活動の準備、発表内容やレジユメの記述方等について整理を行う。
第14回	今後の学習計画策定	(学修内容) 創作表現演習 ・ にむけて学修計画を策定する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 次年度の「創作表現演習」に必要な準備は何かを考える。
第15回	授業の総括	(学修内容) 基礎ゼミナール 全体を振り返る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 次年度の「創作表現演習」への準備を行う。

授 業 名	基礎ゼミナール A ~ K			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	CS1110
英 文 名	Freshman Seminar IIA~K			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	必 修		
担 当 者	武田 康晴・鈴木 えり子・小川 隆昭・水谷 隆・名賀 亨・高岡 理恵・野田 隆生・山部 泰司・坂口 みゆき・浅田 瞳・伊藤 茂樹			対 象 学 生	幼児教育1回生				
授業の概要	基礎ゼミナール は、春学期に引き続き教員と学生、学生同士のコミュニケーションや協働を基本とし、学修や学生生活の基盤となる時間と位置づけられる。内容については、幼児教育学科全体として取り組む「絵本の作成」を軸にテーマを設定したフィールドワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなど演習を基本として実施する。また、春学期に作成した計画や学修ポートフォリオ等も活用しながら、学生が自分自身と向き合うことができるようゼミナールを運営していく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 幼児教育学科のディプロマポリシーを理解している。 2) 将来の目的を明確に説明できる。 3) レポートの書き方の基礎を身につけ実践できるようになる。 4) 発表方法（資料、口頭発表）の基礎を身につけ実践できるようになる。 5) 担当教員や学生と良好なコミュニケーションを図ることができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用（双方向型授業）		グループワーク I C T 活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力 (課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	必要に応じて資料等を配布する。								
参 考 書	必要に応じて紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出物については必ず添削し、授業の運営や個別面談の資料として活用する。また、必要に応じ、コメントして返却する。								
留 意 事 項	基礎ゼミナールは、授業の1つですが、学修や学生生活の基礎を支える役割も果たします。毎回の出席はもちろん、担当教員や学生同士で積極的にコミュニケーションを図って下さい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	各教員が授業時に伝える。								
実践的教育									

授 業 名		基礎ゼミナール A ~ K	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	夏季休暇の振り返りと秋学期への導入	(学修内容) 春学期の最後に策定した夏季休暇の計画も参考に夏季休暇を振り返る。また、秋学期の学修、学生生活について確認する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認しておく。学修ポートフォリオの当該箇所を入力する。	
第2回	絵本作成の準備 (私の好きな絵本)	(学修内容) 各自が自分の好きな絵本を持参し、お互いに読み聞かせや紹介をして共有し、絵本作りのヒントを得る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 図書館や学科演習室も活用し、自分の好きな絵本を選定しておく。	
第3回	手作り絵本の作成 (ストーリー、構成)	(学修内容) 絵本のストーリーや基本構成を考えるとところから、絵本作りをスタートする。また、個別面談の準備をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ストーリーの概要を考えてくる。個別面談シートを記入して提出する。	
第4回	手作り絵本の作成 (ページ割、下絵) 個別面談	(学修内容) コピー用紙のサンプルも活用し、ページ割、下絵など絵本の作成を進める。また、並行して個別面談を実施する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時間以外も活用して絵本作成を進める。	
第5回	手作り絵本の作成 (下絵、ストーリー配置) 個別面談	(学修内容) 提出用の用紙に下絵、ストーリーを配置して絵本の作成を進める。また、並行して個別面談を実施する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時間以外も活用して絵本作成を進める。	
第6回	手作り絵本の作成 (完成に向けた作業) 個別面談	(学修内容) 各自の進度に合わせて絵本の作成を進める。また、並行して個別面談を実施する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時間以外も活用して絵本作成を進める。	
第7回	手作り絵本の作成 (完成に向けた作業) 個別面談	(学修内容) 各自の進度に合わせて絵本の作成を進める。また、並行して個別面談を実施する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時間以外も活用して絵本作成を進める。	
第8回	フィールドワーク (見学)	(学修内容) 保育の視点を意識して公園や動物園等の近隣施設を訪問・見学し、保育の視点を学ぶ。実施日が前後することがある。 (事前事後学修課題の内容) (30分) フィールドワークの成果をまとめておく。	
第9回	フィールドワークの振り返り	(学修内容) フィールドワークを通じて学んだことを出し合い、グループで話し合うことで保育の視点を整理する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) グループで話し合った内容をまとめる。	
第10回	テーマの選定とレポート作成について	(学修内容) 次週より実施する保育教材研究を通じて学ぶテーマを選定し、春学期の資料も活用してレポート作成について確認する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 春学期の資料 (レポート作成) について確認しておく。授業を踏まえ、自分の探究するテーマを決定する。	
第11回	保育教材の探求	(学修内容) 各自またはゼミ単位で設定したテーマに沿って保育教材 (または保育に関連する内容) について探求する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 探求成果をノートにまとめておく。	
第12回	保育教材の探求	(学修内容) 各自またはゼミ単位で設定したテーマに沿って保育教材 (または保育に関連する内容) について探求する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 探求成果をノートにまとめておく。	
第13回	保育教材の探究	(学修内容) 各自またはゼミ単位で設定したテーマに沿って保育教材 (または保育に関連する内容) について探求する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの探求成果をレポートにまとめる。	
第14回	絵本大賞の発表と表彰式 (全体)	(学修内容) ゼミ推薦 (一次審査) 作品の中から大賞、奨励賞等を選出 (二次審査) し表彰する。また 2 年生ゼミへの準備を進める。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業時に配布する所定の用紙に必要事項を記入して提出する。	
第15回	1年間の振り返りと絵本の完成	(学修内容) 基礎ゼミナールで取り組んできた内容を中心に 1年間の学生生活を振り返る。また絵本を製本して完成する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業の内容を参考にまとめたレポートを作成する。学修ポートフォリオの当該箇所を入力する。	

授 業 名	総合ゼミナール A ~ K			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CS2116
英 文 名	Senior Seminar I			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	必 修		
担 当 者	福井 百合子・渋谷 郁子・小川 隆昭・高岡 理恵・坂口 みゆき・鈴木 えり子・浅田 瞳・名賀 亨・山部 泰司・山本 明美			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>授業や実習を経験して見えてきた自分自身の課題を明らかにし、その改善について客観的にとらえ、子ども理解と保育実践の力を確実に身につける。</p> <p>2年間の学びや、卒業後も学び続けることができるように、自分自身のテーマについて探究し続けるための方法を理解する。</p> <p>ゼミ生同士が積極的に交流を図り、お互いを高め合い、集団の一人としての自覚を持って活動する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1．総合演習のまとめレポート作成に向けて、幼児教育・保育に関することで各自取り組むテーマを設定することができる</p> <p>2．自分自身が取り組むテーマについて、プレゼンテーションができる</p> <p>3．自分自身の取り組みの中間報告をレポートにまとめることができる</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	必要に応じて資料等を配布します。								
参 考 書	必要に応じて紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	制作物・提出物については、適宜教員からのフィードバックをおこないます。								
留 意 事 項	総合ゼミナールは短大生活の集大成としてとらえています。毎回出席はもちろんですが、教員や学生同士での積極的なコミュニケーションを図ってください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	第1回目の授業で伝えます。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		総合ゼミナール A ~ K	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	ガイダンス(全体)	(学修内容)総合ゼミナールのねらいや目的を共有する (事前事後学修課題の内容)(30分) 時間割を作成・持参する	
第2回	ポートフォリオを作成する	(学修内容)2年次の学びの目標を設定しポートフォリオを記入する (事前事後学修課題の内容)(30分) 自己紹介シートを作成する	
第3回	お互いに知り合うワークショップ	(学修内容)自己紹介シート等を作成、それを使った自己紹介などを通じてゼミメンバーと交流する。また、オリエンテーションでの疑問を解決する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ワークショップの内容を書き取り、フィードバックを行う	
第4回	フィールドワーク	(学修内容)新緑の季節を楽しみ、学外へ散策する (事前事後学修課題の内容)(30分) 学外で気になったことを小レポートにまとめる	
第5回	保育教材の研究(1)手遊び	(学修内容)さまざまな教材を楽しみ、子どもの遊びについて考える (事前事後学修課題の内容)(30分) 手遊びをひとつ全員の前で披露できるようにする	
第6回	保育教材の研究(2)制作	(学修内容)さまざまな教材を楽しみ、子どもの遊びについて考える (事前事後学修課題の内容)(30分) 教育実習の対象年齢にあった制作をひとつ考え、作成できるようにする	
第7回	保育教材の研究(3)絵本の読み聞かせ	(学修内容)さまざまな教材を楽しみ、子どもの遊びについて考える (事前事後学修課題の内容)(30分) 気になった絵本を選び、メンバーの前で読み聞かせを行う	
第8回	運動遊びに関する企画・運営(全体)	(学修内容)運動遊びに関する企画・運営を行う (事前事後学修課題の内容)(30分) 子どもたちを対象にした運動遊びをひとつ考えておく	
第9回	学生企画の活動についての話し合い	(学修内容)秋学期の活動の企画についてゼミメンバーで話し合う (事前事後学修課題の内容)(30分) 自分の考えた企画を発表できるようにしておく	
第10回	プレゼンテーションへの個別指導(1)	(学修内容)各自が取り組むテーマを確認・検討すると同時に、第12回の授業で実施するプレゼンテーションについて指導する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自のテーマを考え、教員から個別指導が受けられるようにレジュメにまとめておく	
第11回	プレゼンテーションへの個別指導(2)	(学修内容)各自が取り組むテーマを確認・検討すると同時に、第12回の授業で実施するプレゼンテーションについて指導する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自のテーマを考え、教員から個別指導が受けられるようにレジュメにまとめておく	
第12回	春学期の振り返り	(学修内容)春学期を振り返り、自己の課題について考える。また、ゼミメンバーに情報を共有し、将来について考える機会を設ける。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 取り組みたいテーマについての小レポートを作成する	
第13回	秋学期に向けての企画を考える	(学修内容)秋学期の活動の企画についてゼミメンバーで話し合う (事前事後学修課題の内容)(30分) どの企画をやりたいのか、自分の意見をまとめておく	
第14回	キャリアを考える(全体)	(学修内容)現職の保育者の話を聞き、自分のキャリアについて考える時間をもつ (事前事後学修課題の内容)(30分) 講演についての感想をまとめる	
第15回	春学期のまとめ	(学修内容)半年間の活動の振り返りを行い、PDCAサイクルの検証を行う (事前事後学修課題の内容)(30分) 半年間の活動について、自分の考えをまとめる	

授 業 名	総合ゼミナール A ~ K			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CS2122
英 文 名	Senior Seminar II			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		必 修	
担 当 者	福井 百合子・渋谷 郁子・小川 隆昭・高岡 理恵・坂口 みゆき・鈴木 えり 子・浅田 瞳・名賀 亨・山部 泰司・山本 明美・野田 隆生			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>授業や実習を経験して見えてきた自分自身の課題を明らかにし、その改善について客観的にとらえ、子ども理解と保育実践の力を確実に身につける。</p> <p>2年間の学びや、卒業後も学び続けることができるように、自分自身のテーマについて探究し続けるための方法を理解する。</p> <p>ゼミ生同士が積極的に交流を図り、お互いを高め合い、集団の一人としての自覚を持って活動する。</p> <p>また、自分自身の考えを明確な根拠を示し、表明するためのプレゼンテーションを行う。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1．自分自身の取り組みに必要な情報を自主的に調べ、必要があれば制作、フィールドワーク、ワークショップ等を計画・調整・実践することができる</p> <p>2．自分自身の取り組みについて、プレゼンテーションができる</p> <p>3．自分自身の取り組みをレポートにまとめることができる</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	必要に応じて資料等を配布します。								
参 考 書	必要に応じて紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	制作物・提出物については、適宜教員からのフィードバックをおこないます。								
留 意 事 項	総合ゼミナールは短大生活の集大成としてとらえています。毎回出席はもちろんですが、教員や学生同士での積極的なコミュニケーションを図ってください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	第1回目の授業で伝えます。								
実践的教育									

授 業 名		総合ゼミナール A ~ K	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション（全体）	（学修内容）秋学期に向けて、夏休みの学修を振り返り、目標を立てる （事前事後学修課題の内容）（30分） 夏休みの学習（保育実習、教育実習）を振り返る	
第2回	卒業レポートのテーマ設定（1）	（学修内容）個別面談にてテーマ設定をおこなう （事前事後学修課題の内容）（30分） テーマについての方法や結論をまとめておく	
第3回	卒業レポートのテーマ設定（2）	（学修内容）個別面談にてテーマ設定をおこなう （事前事後学修課題の内容）（30分） テーマについての方法や結論をまとめておく	
第4回	企画に関する計画と実践（1）	（学修内容）学生企画に関する計画と実践をおこなう （事前事後学修課題の内容）（30分） 自分の役割に沿った準備をおこなう	
第5回	企画に関する計画と実践（2）	（学修内容）学生企画に関する計画と実践を行う （事前事後学修課題の内容）（30分） 自分の役割に沿った準備をおこなう	
第6回	企画に関する計画と実践（3）	（学修内容）学生企画に関する計画と実践をおこなう （事前事後学修課題の内容）（30分） 自分の役割に沿った準備をおこなう	
第7回	実践に関する振り返り	（学修内容）全体で集まり、実践に関するプレゼンテーションをおこなう （事前事後学修課題の内容）（30分） プレゼンテーションについての振り返りをおこなう	
第8回	運動遊びに関する企画・運営（全体）	（学修内容）運動遊びに関する企画・運営をおこなう （事前事後学修課題の内容）（30分） 子どもたちを対象にした運動遊びをひとつ考えておく	
第9回	演習レポートを作成する（1）	（学修内容）総合ゼミナールのまとめの作成をおこなう （事前事後学修課題の内容）（30分） 教員の指導をもとに文書の修正をおこなう	
第10回	演習レポートを作成する（2）	（学修内容）総合ゼミナールのまとめの作成を行う （事前事後学修課題の内容）（30分） 教員の指導をもとに文書の修正をおこなう	
第11回	演習レポートを作成する（3）	（学修内容）総合ゼミナールの文書の添削指導をおこなう （事前事後学修課題の内容）（30分） 教員の指導をもとに文書の修正をおこなう	
第12回	キャリアを考える	（学修内容）子どもの人権を考える講話を聴く （事前事後学修課題の内容）（30分） 授業の感想をまとめる	
第13回	演習レポートを作成する（4）	（学修内容）総合ゼミナールの文書を提出する （事前事後学修課題の内容）（30分） 文書を完成させる	
第14回	演習レポートを発表する（1）（全体）	（学修内容）総合ゼミナールの文書について発表をおこなう （事前事後学修課題の内容）（30分） 発表資料を作成する	
第15回	演習レポートを発表する（2）	（学修内容）総合ゼミナールの文書について発表をおこなう （事前事後学修課題の内容）（30分） 発表資料を作成する	

授 業 名	創作表現演習			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CS2119
英 文 名	Senior Seminar I			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	松尾 章子・新矢 昌昭・工藤 美和子・伊藤 茂樹			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>学科の学びを通して関心のあるテーマを選び、課題発見を通して自らの学修を進める。これまでの学びや経験を活かして、総合文化学科1回生対象のフィールドワークを企画する。ゼミ担当者を中心に、ゼミ生と協働して企画・募集を行う。フィールドワークを秋学期に実施すべく、1回生対象にプレゼンテーションを実施し、参加者決定までを行う。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 各自の興味関心に基づいたテーマについて、学びを進めることができる。 2) ゼミ生と協働しながら、フィールドワークを企画・募集することができる。 3) 企画したフィールドワークについて、パワーポイントを使用してプレゼンすることができる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	なし								
参 考 書	適宜授業中に指示します。								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートについては、コメントを付して返却します。 プレゼンテーションについてはその都度コメントします。								
留 意 事 項	演習授業ですので、積極的な参加を期待します。 中間発表は、必ず一人一度は行います。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	全体オリエンテーション	(学修内容) 授業の進め方について説明する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後: 本日の内容を振り返り、重要な事柄についてはスケジュール帳に書き込む。	
第2回	全体グループワーク: 研究テーマの検討	(学修内容) 各自興味のあるテーマについて話し合う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: プリントを読み、研究テーマについて考える。 事後: 研究テーマの内容や方法について再検討する。	
第3回	フィールドワーク企画1: 各ゼミで内容検討(日時・テーマ)	(学修内容) 秋学期のフィールドワーク企画に向けて、ゼミごとに検討を開始する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: フィールドワーク企画の一つを考える。 事後: フィールドワークテーマについて詳しく調べる。	
第4回	各ゼミ: 研究テーマの検討	(学修内容) 興味・関心のある研究テーマについて、ゼミごとに検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後: 第6回授業でテーマを決定できるように再検討する。	
第5回	フィールドワーク企画2: 各ゼミで内容検討(行程・参加費)	(学修内容) フィールドワークの行程や詳細について、ゼミごとに検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: フィールドワーク訪問先の情報を調べる。 事後: 行程を見直し、注意点や再検討の必要な点などをメモする。	
第6回	各ゼミ: 研究テーマの決定と計画の立て方	(学修内容) 個々の研究テーマを決定し、今後の計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 希望する研究テーマを決める。 事後: 研究計画書を作成する。	
第7回	フィールドワーク企画3: 全体で内容検討(他ゼミと共有・調整)	(学修内容) 各ゼミで検討中のフィールドワーク案を、他ゼミと共有し日程や訪問先について調整を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 各ゼミの内容を全員が理解する。 事後: 調整が必要な箇所について検討する。	
第8回	各ゼミ: 研究の進め方(個別面談)	(学修内容) 個々の研究の進め方について個人面談を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後: 研究テーマ・研究計画について各自整理する。	
第9回	フィールドワーク企画4: 各ゼミでプレゼンテーションに向けて準備	(学修内容) 1回生対象のプレゼンテーションに向けて、パワーポイントを作成などの準備を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: パワーポイントのレイアウトを考える。 事後: プレゼンテーションに向けてリハーサルを行うなど準備を行う。	
第10回	各ゼミ: 研究構成と目次案	(学修内容) レポートの構成と目次案の立て方を学び、検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後: 目次案を作成し、次回授業時に提出する。	
第11回	各ゼミ: 構成と目次案(個別面談)	(学修内容) レポートの構成と目次案について個人面談を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後: 構成と目次案に沿って研究のイメージを膨らませる。	
第12回	フィールドワーク企画5: プレゼンテーション(1回生との調整により、日程が前後することがある)	(学修内容) 1回生を対象に、秋学期フィールドワークについてプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: パワーポイントを作成し、プレゼンの準備をする。 事後: 募集要項のとり、参加者の調整を行う。	
第13回	各ゼミ: 中間発表	(学修内容) それぞれの研究テーマの進捗状況について、ゼミごとにレジュメを作成して発表し、共有する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 中間発表時の配布資料を作成する。	
第14回	各ゼミ: 草稿執筆・創作の準備(個別面談)	(学修内容) 草稿執筆・創作に向けて、今後の予定を立て準備を始める(個別面談)。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後: 草稿執筆・創作について復習する。	
第15回	フィールドワーク企画6: 各ゼミでプレゼンテーションの振り返り まとめ	(学修内容) プレゼンテーションと春学期の振り返りを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後: レポートをまとめる。	

授 業 名	創作表現演習			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CS2127
英 文 名	Senior Seminar II			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	松尾 章子・新矢 昌昭・工藤 美和子・堀出 雅人・ 伊藤 茂樹			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>学科の学びを通して関心のあるテーマを選び、課題発見を通して自らの学修を完成させる。主体的、継続的に探究しようとする意欲をもって、多面的、論理的に考えた成果を、適切な表現方法を用いて発表する。 創作表現演習Iで企画したフィールドワークも実施する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 中間発表全体会で、研究テーマのポイントを踏まえてプレゼンすることができる。 2) 各自の研究テーマを、レポート12,000字又は創作物とレポート5,000字にまとめることができる。 3) ゼミ生と協働して、企画通りにフィールドワークを実施することができる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	なし								
参 考 書	適宜、授業中に指示します。								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポート・制作物はコメントを付して返却します。								
留 意 事 項	中間発表は、必ず一人一度は行います。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。								
実践的教育									

授 業 名		創作表現演習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	論理的に書くには	(学修内容) 論理的な書き方について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後: 授業のまとめをする。	
第2回	主張と根拠	(学修内容) 主張と根拠の関係性について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後: 授業のまとめをする。	
第3回	中間発表会の準備 1: 目的	(学修内容) 中間発表会の準備をする。発表内容について個別にアドバイスする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前事後: 発表の整理、準備を行う。	
第4回	中間発表会の準備 2: 方法	(学修内容) 中間発表会の準備をする。発表内容について個別にアドバイスする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前事後: 発表の整理、準備を行う。	
第5回	中間発表会の準備 3: 考察	(学修内容) 中間発表会のパワポ・レジュメを作成する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後: パワポ・レジュメを確認し、発表の練習を行う。	
第6回	フィールドワーク実施 (各ゼミの設定日に実施)	(学修内容) 1回生を対象にフィールドワークを実施する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: フィールドワーク内容・注意点・役割分担を確認する。 事後: 実施後の気づきを書き留める。	
第7回	中間発表会 1	(学修内容) 中間発表会第1回目を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 担当教員にパワポ・レジュメを提出する。 事後: アドバイスを書き留めて、考察する。	
第8回	中間発表会 2	(学修内容) 中間発表会第2回目を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 担当教員にパワポ・レジュメを提出する。 事後: アドバイスを書き留めて、考察する。	
第9回	レポート構成の再確認	(学修内容) 研究レポートの再確認を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前事後: 研究レポート発表の事後指導を受ける。	
第10回	草稿作成 1: 序論・本論・結論の3部構成を知る	(学修内容) 研究レポート提出に向けて草稿を整え、体裁内容を点検する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前事後: 草稿を作成する。担当教員に進捗状況を報告し指導を受ける。	
第11回	草稿作成 2: 序論を書く	(学修内容) 研究レポート提出に向けて草稿を整え、体裁内容を点検する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前事後: 草稿を作成する。担当教員に進捗状況を報告し指導を受ける。	
第12回	草稿作成 3: 本論を書く	(学修内容) 研究レポート提出に向けて草稿を整え、体裁内容を点検する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前事後: 草稿を作成する。担当教員に進捗状況を報告し指導を受ける。	
第13回	草稿作成 4: 本論と結論を書く	(学修内容) 研究レポート提出に向けて草稿を整え、体裁内容を点検する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前事後: 草稿を作成する。担当教員に進捗状況を報告し指導を受ける。	
第14回	提出準備	(学修内容) 研究レポート提出に向けて草稿を整え、体裁内容を点検する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後: 提出前の点検作業を行う。	
第15回	レポート提出前の点検	(学修内容) 最終的な確認と点検を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後: 内容、誤字脱字等の最終確認を行う。	

授業名	情報ビジネス演習 b ~ g			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	CS1106
英文名	Information Business Practice b~g			開講時期	春・秋学期		必修選択	必修	
担当者	猿渡 綾子・谷口 永里子			対象学生	幼児教育1回生				
授業の概要	現在、パーソナルコンピューターを介した記録や情報検索などが日常的におこなわれ必要不可欠となっている。コンピューターを用いた基本的な情報活用能力を習得するため、本科目では文章編集ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどの使い方や活用方法、インターネットを用いた情報検索などについての実習をおこなう。またインターネットや情報機器を使用するにあたっての注意事項についても併せて学習する。演習データの提供や提出はICTを活用して実施する。								
学修成果到達目標	1) Microsoft Wordによる文書入力・整形、図表の作成・挿入などの操作ができる 2) Microsoft Excelによるデータ入力、関数を用いた計算、グラフや表の作成・整形などができる 3) Microsoft PowerPointによるスライド作成、図表の挿入・整形などができる 4) インターネットリテラシーを習得し、インターネットやSNSを適切に利用できる 5) 課題解決のために必要な情報を探索し、分析・評価・整理、アウトプットができる								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	保育者のためのパソコン講座 阿部正平 萌文書林								
参考書									
課題に対するフィードバックの方法	提出された制作物やプレゼンテーションについてはコメントを付けて返却します								
留意事項	情報処理室のパソコンで各自作業を行いますので、入学時に配布されたユーザーIDとパスワードを毎回必ず持参してください。 2回目以降はUSBメモリにデータを保存しますので、毎回USBメモリを持参してください。容量やメーカーは問いませんので各自で準備してください。 毎回の授業の内容は前回の授業内容をふまえたものであるため、欠席をしないように心がけること。								
オフィスアワー	授業初回にアナウンスします。 【谷口】授業の前後時間で対応します。 【猿渡】研究室前にも掲示します。								
実践的教育									

授業名	情報ビジネス演習 b ~ g	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション Windowsの基本操作 メールの基本操作 情報セキュリティ、モラル	(学修内容) 授業概要の説明、情報処理室の使用手法、Gメールの送受信 アカウントの追加、情報に関するリスク・対策・モラルについて (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバス、教科書P31～49、373～382、392～395を読む 入学時に配布されたポータルサイトの冊子を読み持参
第2回	Word 1 (基本操作)	(学修内容) USBメモリ使用上の注意、Wordの開始、保存、終了 コピー & 貼り付け、ページ設定、書式設定、文字カウント (事前事後学修課題の内容) (30分) USBメモリを購入し持参する、教科書P132～140、153、154を読む 第2回課題 (Word・書式設定をした文書) をメールに添付し提出
第3回	Word 2 (文書作成と整形)	(学修内容) 検索と置換、ヘッダーとフッター、ページ番号の挿入 インデントとTabキー、箇条書きなど (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P137～147、156～160を読む 第3回課題 (Word・Tabキーを使用した文書) をメールに添付し提出
第4回	Word 3 (図入りの文書の作成)	(学修内容) 図形、画像の作成、挿入、テキストの配置 Snipping Tool の使い方など (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P181～189を読む 第4回課題 (Word・図形や画像を使用した文書) をメールに添付し提出
第5回	Word 4 (表作成) 文献検索	(学修内容) 単純な表、複雑な表の作成 文献検索について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P168～181を読む、第5回課題 (Word・表) を印刷し提出 文献検索より書籍を1冊選んで読み、次回持参
第6回	Word 5 (総復習)	(学修内容) 課題の作成 (レジメの作成) (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P129～200を読んで、第2～5回目までの授業を復習する 第6回課題 (Word・レジメ) をメールに添付し提出
第7回	Excel 1 (基本操作、関数)	(学修内容) セル、シート等、各画面の説明、データ入力 簡単な計算式など (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P216～251を読む 第7回課題 (Excel・セル番地を使用した計算) をメールに添付し提出
第8回	Excel 2 (関数)	(学修内容) 各種関数 (合計、平均、最大値・最小値、四捨五入、IF関数など) (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P236～240を読む 第8回課題 (Excel・関数を使用した計算) をメールに添付し提出
第9回	Excel 3 (表、グラフの作成)	(学修内容) 罫線、文字の配置、セルの挿入・削除・結合 棒、折線、円、複合などのグラフ、印刷設定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P241～266を読む 第9回課題 (Excel、Word・グラフ) を印刷し提出
第10回	Excel 4 (既存データベースの利用)	(学修内容) e-Stat のデータを利用し、情報を分析評価し整理する (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P244～248を復習し、レポート案を作成してくる
第11回	Excel 5 (総復習)	(学修内容) 前回の情報分析結果をレポートにまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 第11回課題 (e-Statデータを利用したレポート) をメールに添付し提出
第12回	PowerPoint 1 (基本操作)	(学修内容) スライドサイズの変更、スライドマスターの編集、箇条書き インデント、Tabキーの使い方、画像の加工、アニメーションの設定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P332～344を読む 第12回課題 (PowerPoint・画像加工) をメールに添付し提出
第13回	PowerPoint 2 (Word、Excelとの連携)	(学修内容) グラフ、表の作成、ノートの記入、印刷設定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P328～360を読む 第13回課題 (PowerPoint・グラフ) を印刷し提出
第14回	PowerPoint 3 (総復習)	(学修内容) プレゼンテーション技法 最終プレゼンテーション用のスライドを作成 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P328～360を読んで、第12～13回の復習をする 発表用スライドを完成させ、メールに添付し提出
第15回	PowerPoint 4 (プレゼンテーション)	(学修内容) PowerPointを使ったプレゼンテーションの実際 (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表用原稿を作成する

授 業 名	キャリアデザイン a			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CS1105
英 文 名	Career Design a			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	新矢 昌昭			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	<p>キャリアデザインとは、「どのような職業につきたいのか」「どのような働き方や家庭生活を送りたいか」といった人生の理想を描き、理想の実現に向けた計画のことである。この講義では、キャリアとは何かという基礎を学び、グループワーク、グループアクティビティなどを通して自らのキャリアを描いていく。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 自らのキャリアやキャリア・デザインについて具体的にできる 2) 進路実現に向けた計画性を養う 3) 自己理解を確立する</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力 (課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	使用しない。プリントを配布								
参 考 書	授業中に適宜指示します。								
課題に対する フィードバック の方法	グループワーク、グループアクティビティ、発表などへのコメントを加える								
留 意 事 項	インターンシップを受講する学生は、履修することが望ましい。キャリアセンターが実施する企画に参加する場合がある								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室の扉に提示する								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) この講義の進め方と諸注意 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおく	
第2回	キャリアデザインとは何か	(学修内容) キャリアの意味 (事前事後学修課題の内容) (30分) キャリアの意味を自身で書いておく(前回にプリント配布)	
第3回	外部講師による講義 その1	(学修内容) 働くとは (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に内容を提示するので、質問を考えてくること	
第4回	京都ジョブパークの見学	(学修内容) 京都ジョブパークの見学、職員による説明 (事前事後学修課題の内容) (30分) 京都ジョブパークの概要を理解しておく	
第5回	自己理解	(学修内容) 自己理解の重要性 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自己紹介をまとめておく	
第6回	自己理解の実践	(学修内容) 自己紹介の発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自己の気づきをまとめる	
第7回	自己理解の振り返り	(学修内容) 自己をみつめる (事前事後学修課題の内容) (60分) 自己紹介文の提出	
第8回	自己理解とコミュニケーション	(学修内容) グループワークを通じた自己理解 (事前事後学修課題の内容) (60分) 課題について予め考えておく	
第9回	外部講師による講義 その2	(学修内容) 社会人力 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に内容を提示するので、質問を考えてくること	
第10回	業界研究	(学修内容) 業界とは何か (事前事後学修課題の内容) (60分) 興味のある業界を調べておく	
第11回	企業研究	(学修内容) 企業とは何か (事前事後学修課題の内容) (60分) 興味のある企業を調べておく	
第12回	業界、企業研究発表	(学修内容) 発表と質疑応答 (事前事後学修課題の内容) (60分) 興味のある業界、企業についてのレジュメ作成	
第13回	グループアクティビティ その1	(学修内容) グループによる課題解決(集団の意思決定) (事前事後学修課題の内容) (60分) 自身で予め課題についてまとめておく	
第14回	グループアクティビティ その2	(学修内容) グループによる課題解決(商品開発) (事前事後学修課題の内容) (60分) 自身で予め課題についてまとめておく	
第15回	キャリアデザインの発表	(学修内容) キャリアデザインの発表と質疑応答 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自らのキャリアデザインのレジュメ	

授 業 名	キャリアデザインb・c			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CS1105
英 文 名	Career Design b・c			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	竹本 記子			対 象 学 生	幼児教育1AB・1CD				
授業の概要	<p>現在の雇用・労働を取り巻く環境は大きく変わりつつあり、個人の選択肢も多様化し、それに伴ってチャンスとリスクも拡大する傾向にあります。同時に、企業組織と従業員個人の関係も変化してきており、かつてのような「会社任せ」ではなく、自ら主体的に自分自身のキャリアをデザインしながら、その目標に向かって学習と経験を積み重ねていくことが必要になっていきます。</p> <p>そのためには大学生活の中で学びや経験を積み重ねながら、働き方や生き方を模索し、意志決定していくことが必要となります。本講義では自分自身や社会について考える機会を、知識と情報を提供すると共に、自らの気づきや他者との違いを考えます。社会がどのような人材を求めているのかに気づき、社会から求められる人材になるためには今何をしたら良いかをキャリア理論を通じて自分のキャリアを切り拓く手がかりを得ます。「考える」ことが基本ですので、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを含んだ内容です。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 自らの将来を切り拓くため、働く意味、キャリアやキャリア・デザインの重要性を説明することができる。</p> <p>2) 自分の大学生活の送り方について明確な意識と進路実現に向けた具体的な行動計画を立てることができる。</p> <p>3) 進路実現のためインターンシップや実習や就職活動に取り組み意義と心構えを表現することができる。</p> <p>4) 課題解決に向けて自主的に、また、仲間と積極的にコミュニケーションを取り協力して臨むことができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点		知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	適宜ワークシートや資料を配布します								
参 考 書	授業中に適宜指示します。								
課題に対する フィードバック の方法	提出を求める課題に対して、授業中での講評、あるいは、適宜、コメントを付けて返却することで学修成果へのフィードバックを行います。グループでのプレゼンテーションの際は事前に評価指標を公表します。その指標に沿って、発表後に全体やグループへコメントを返します。								
留 意 事 項	必ずキャリアデザイン専用のノート(1冊)・グループワークなどで使用するための裏写りしない黒の水性のペンを準備してください。ノートは授業中に書き込みながら進め適宜提出を求めます。職場で求められる対人関係に関する基本的な力の習得をめざしているため、授業中にグループワークをおこないます。多くの受講生と対話できるワークを実施するので積極的に関わりを持ってください(対人関係など配慮事項のある受講生は早めに相談してください)。毎回の授業時にふりかえりシートやプリントを配布します。授業担当の指示をよく聴き適切に提出してください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の業務経験など：企業や行政・教育機関でのファシリテーションを活用した、対話の場づくり(各種モチベーションアップやダイバーシティ&インクルージョンなどのヒューマンスキル研修・ワークショップ企画・運営)や大学生や社会人に対するキャリア開発を実施。特定非営利活動法人理事・会長として、大学生・大学院生と社会人との学びを通じた交流機会の企画、実施。</p>								

授 業 名		キャリアデザインb・c	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション・学生と社会人の違い	(学修内容)オリエンテーション授業の目的と趣旨、内容をイメージする、シラバス全体の説明と学生と社会人の違いについて考える (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:シラバスを読み、授業の概要を把握する 事後:授業で学んだことを周囲の社会人と話をする。	
第2回	キャリアデザインと社会求められる能力	(学修内容)キャリアデザインと社会のキャリアの潮流を理解する。社会に求められる能力データとともに考える。社会人基礎力について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:社会人に求められる能力とはなにかを考えてくる。 事後:配布資料「社会人基礎力シート」を完成させる	
第3回	社会求められる能力を高める	(学修内容)コミュニケーションの重要性・コミュニケーションについてコミュニケーションスタイル診断を参考に個人ワークおよびグループワーク。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:配布資料社会人基礎力シートを他者に見せてコメントをもらう 事後:診断の結果を他者に伝えてコメントをもらう	
第4回	キャリアデザインのための自己理解	(学修内容)自己分析とワークを通じて、自己認識を深めると共に自分の高め方・活かし方について理解する。私の大切にしていること価値観の共有。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:指定されたテーマについて考えてくる 事後:価値観から気づいたことをノートにまとめる	
第5回	キャリアデザインのための自己理解	(学修内容)「相互理解・共有」のスキルアップからインタビューを通じて自己理解を深める。聴く、質問することの重要性を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:指定されたテーマについてノートにまとめてくる 事後:授業で気づいた発見は、どんな経験があるのかノートにまとめる	
第6回	チームから学ぶ社会と組織	(学修内容)グループワークを実施し、チーム力の検証に加えて、個人と協同の違いを体感する。展開力・要約力・プレゼン力の強化も図る。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:チームの中の自分の役割はいつもどんな役割だったか考えてくる 事後:協同することの意義をノートにまとめる。	
第7回	チームから学ぶ社会と組織	(学修内容)グループワークを実施し、個人と協同の違いを体感する。グループワークに必要な合意形成・要約力・プレゼン力の強化も図る。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:指定されたテーマについてノートにまとめてくる 事後:チームでの討議をうまく進めるための工夫点について記入	
第8回	キャリア理論と自分の弱みを強みに変える	(学修内容)キャリア理論を知ることで自分のキャリアデザインのヒントにする。リフレームにより、弱みを強みに変える方法でものの見方・視野を広げる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:指定されたテーマについて考えてくる 事後:3つ以上のリフレームを私生活で実施してノートに記入	
第9回	自分の強みを活かした自己紹介・自己効力感	(学修内容)ビジネス場面で使用される文書の構成と表現方法を取り上げる。今学んだ論理構成で自己PRを書いてみる。質問力を強化する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:ここまでの授業を活かし、自分の強みや自己PRを書いてくる 事後:学んだ論理構成を活かして自己PRを完成させる	
第10回	社会の中で働くことの意義社会・業界・職種を知る	(学修内容)働くことの意義について実際に働く人の人生から学ぶ。質問力の向上を目指す。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:指定された内容について調べて質問を考えてくる 事後:興味を持ったことを調べてノートにまとめる	
第11回	社会・業界・職種を知る	(学修内容)社会について知るためには多くの情報ツールがある。情報をどう選択し集めるのか。視野を広げるヒントを得る。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:気になるニュースを調べておくこと 事後:次回の授業までに気になる企業・団体・組織を調べてくる	
第12回	職場や社会人の理解	(学修内容)各自が興味をもつ企業や団体等について調べた結果、どのような情報が入手でき、何が入手しにくいかを考えます。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:いくつかの企業や団体のHPを閲覧し、調べておくこと 事後:配布資料「行動計画表」を次回までに完成させ提出	
第13回	目標設定と表現スキルを高める	(学修内容)ビジネス場面で使用される目標設定の仕方、伝えるように伝えるための論理構成を活かす。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:指定されたテーマについてノートにまとめてくる 事後:配布資料「目標設定シート」を完成させる	
第14回	自分らしいキャリアデザイン	(学修内容)話の組み立てと表現方法を学ぶ。実際に役立てるための視点を考えます。プレゼンテーションで伝える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:「指定されたテーマについてノートにまとめてくる 事後:プレゼンテーションについての振り返りをまとめておく	
第15回	まとめ・私のキャリアデザイン	(学修内容)キャリアデザイン全体の振り返り、授業全体のまとめを行う。自己成長について具体的に話す。キャリアをデザインするための計画をする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:理解できた点、不十分である点がどこであるかを振り返っておく 事後:最終レポート作成に向けて、どのように生かせるかをまとめる	

授業名	ビジネスマナー			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	CS1113
英文名	Business Etiquette			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	東野 國子			対象学生	幼児教育1回生、総合文化1回生				
授業の概要	<p>ビジネスマナーは、社会の常識やルールを学ぶことによって、相手の立場に立った行動することを基本とします。本講義では働く場での人間関係や環境を知り、より良い人間関係を築くことに欠かすことのできないコミュニケーション能力の向上を目指します。また働く場にふさわしい社会人としての立ち居振る舞いについてはロールプレイを通して演習し実践力を身に付け、接客対応ができるまでの応用力を身に付けることを目標とします。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 社会人としてふさわしい立ち居振る舞いができる。 2) 人間関係を円滑にするコミュニケーションができる。 3) 働く場のルールや環境を知り、「働く」ことに対する意識と心構えができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	青木テル著 『ビジネスマナー』早稲田教育出版								
参考書	講義中に指示します								
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題についてはコメントをつけて返却します。実技についてはその場でコメントします。								
留意事項	授業で学修したことはすぐに実践してください。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：国際博覧会でコンパニオンの研修と管理を担当。 一般企業等での新人研修、ビジネスマナーの研修を多数担当。大学ではビジネスマナー、秘書実務、コミュニケーション技法、就職面接対策、インターンシップ事前マナー研修を担当。 秘書技能検定準1級面接審査員、サービス接遇実務検定準1級面接審査員の経験を有する。</p>								

授業名	ビジネスマナー	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション/働くことへの心構え	(学修内容) 授業の進め方についてのオリエンテーション/学生と社会人の違いを知り働くことへの心構えについて学修する (事前事後学修課題の内容)(30分) 授業までにシラバスをよく読んで確認しておく
第2回	社会人としての立ち居振る舞いと基本のあいさつ	(学修内容) 話し方の基本を学修し感じの良い挨拶や立ち居振る舞いをペアワークで練習する (事前事後学修課題の内容)(30分) 復習として感じの良い挨拶の仕方を身に付けるための練習を行う
第3回	話し方/敬語を知る	(学修内容) 敬語の種類と作り方を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として基本的な敬語を覚える
第4回	話し方/接遇用語をつかう	(学修内容) 敬語と接遇用語を使い、人間関係を円滑にするコミュニケーション力を身につける (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として基本的な接遇用語を覚える
第5回	電話対応の基本と受け方	(学修内容) 電話対応の基本を学び、感じの良い電話の受け方ができるようにする (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として学修した話し方を色々な場面で実践する
第6回	電話対応の基本とかけ方	(学修内容) 電話対応の基本を学び、感じの良い電話のかけ方ができるようにする (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として感じの良い電話のかけ方ができるように練習をする
第7回	電話対応の基本と伝言メモ作成	(学修内容) 感じの良い電話の受け方やかけ方を復習し、伝言メモの作成を行う (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として実習先やインターンシップ先に電話ができるように練習しておく
第8回	来客の対応の基本	(学修内容) 来客対応の基本を学び、感じよくお客様を迎える準備をする/ペアワークで練習をする (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として感じの良い笑顔、挨拶、立ち居振る舞いができるようにする
第9回	訪問の基本	(学修内容) 他社を訪問する際の基本を学び、実習先などの訪問の準備を行う (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として実習先や自分が目指す職場への訪問をイメージし復習しておく
第10回	冠婚葬祭と慶事	(学修内容) 社会人として必要な交際業務について知り、対処ができるようにする (事前事後学修課題の内容)(30分) 復習として職場の環境や仕事の内容、仕事の進め方について確認しておく
第11回	冠婚葬祭と弔事	(学修内容) 社会人として必要な交際業務を知り、対処ができるようにしておく (事前事後学修課題の内容)(30分) 復習として自分が興味をもつ業界の情報を集め、内容を整理する
第12回	贈答/パーティーの種類	(学修内容) 社会人として必要な贈答の知識とパーティーの基本を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として簡単な会議の議事録を作成する
第13回	ビジネス文書(社内文書)	(学修内容) 社会人として必要とされるビジネス文書の作成ができるようにする (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として冠婚葬祭についての知識を確認しておく
第14回	ビジネス文書(社外文書)	(学修内容) 社会人として必要とされる社外文書の形式について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として例を参考にしながら簡単な社内文書が書けるようにしておく
第15回	文書の取り扱い	(学修内容) 文書の保管の方法などについて学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として色々な場面を想定してお礼状が書けるようにしておく

授 業 名	社会人マナー			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	IC1403
英 文 名	Social Manners			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	東野 國子			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	<p>社会人として知っておくべき常識とマナーについて学修します。社会常識を日常生活・仕事に関連させて考え、自らの行動・実践に応用することができることを目標としています。具体的には社会人としての立ち居振る舞いや言葉遣いの演習を通して、より良い人間関係の構築に欠かせないコミュニケーション能力の向上を目指します。また自己表現の重要性を認識することで、就職活動等の面接や実社会で必要となる「自分で考えること」や「伝えること」も含めて社会人としての基礎的マナーをグループワークやロールプレイを行いながら学んでいきます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 社会人としての常識を知り、自らの行動や実践に応用できる。 2) マナーや言葉遣いの演習を通して自己表現ができる。 3) 人間関係を円滑にするコミュニケーションができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	社会稲本恵子他著 『社会人基礎力 大学生の社会人準備講座』 晃洋書房 2018年								
参 考 書	『新社会人の教科書』 仕事のスキル&マナー 株式会社学研プラス 2016年 『人間関係もうまくいく大人の気づかい&マナーノート』 永岡書房 2016年								
課題に対する フィードバック の方法	提出された課題物についてはコメントを付けて返却します。実技についてはその都度コメントを返します。								
留 意 事 項	授業で学修したことはすぐ実践し、身につけるようにしてください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の業務経験など：国際博覧会でコンパニオンの研修と管理を担当。 一般企業等での新人研修、ビジネスマナーの研修を多数担当。大学ではビジネスマナー、秘書実務、コミュニケーション技法、就職面接対策、インターンシップ事前マナー研修を担当。 秘書技能検定準1級面接審査員、サービス接遇実務検定準1級面接審査員の経験を有する。</p>								

授業名	社会人マナー	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション/社会人の常識とマナーとは	(学修内容) 授業計画について グループワークにより社会人の知っておくべきことを考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前にシラバスの内容をよく読んで確認しておくこと
第2回	働く上で知っておくべきこと	(学修内容) 働くということや働く上でのルールを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として自分自身が社会で働く上で必要なことをまとめておくこと
第3回	第一印象の大切さ	(学修内容) 第一印象の重要性と構成要素を知り、それぞれのポイントを学び、グループで自己紹介をする (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として印象の良い自己紹介を練習する
第4回	社会人に必要な立ち居振る舞い	(学修内容) 社会人として必要な立ち方、座り方、お辞儀の仕方や挨拶の仕方を学び、ロールプレイを行う (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として学んだ立ち居振る舞いが身につくまで練習しておく
第5回	社会人として必要な言葉遣い 1 敬語とは何かを学ぶ	(学修内容) 敬語の種類と基本的な作り方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として次週までに基本的な敬語を覚える
第6回	社会人として必要な言葉遣い 2 社会での敬語の使い方を知る	(学修内容) 立場や職位による敬語の使い分けを学び、グループで練習をする (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として学んだ敬語の使い分けを実践する
第7回	社会人として必要な言葉遣い 3 接遇用語を学んで人間関係をよくする	(学修内容) 接遇用語学び、動作を付けてペアワークで実践する (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として学んだことを学校など色々な場面で実践する
第8回	話を伝える・話を聴く	(学修内容) 人間関係を円滑にするための話の仕方と聴き方を学ぶ/ペアワークで練習する (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として学んだことを学校など色々な場面で実践する
第9回	目的をもって話す	(学修内容) 色々な場面で目的を持って話す練習をする/自己アピールを考えグループ内で発表する (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として感じのよい自己アピールが出来るように練習する
第10回	電話対応 1 電話の特徴と受け方の基本を学ぶ	(学修内容) 電話対応の基本を学び、ペアワークで電話を受ける練習をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として基本的な受け答えと、伝言メモが作成できるようにする
第11回	電話対応 2 電話のかけ方の基本を学ぶ	(学修内容) 電話をかける際の注意点と基本的な電話用語を学ぶ/ペアワークを行う (事前事後学修課題の内容) (90分) 復習として実習先やインターンシップ先を想定した感じの良い電話ができるように練習しておく
第12回	訪問のマナー 1 基本的な訪問時のマナーを知る	(学修内容) 基本的な訪問時のマナーや上座・下座、名刺の受け渡しについて学ぶ/ペアワークを行う (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として学んだことを実践できるようにしておく
第13回	訪問のマナー 2 来客対応の基本を学ぶ	(学修内容) 来客の受付と対応について学ぶ/グループワークを行う (事前事後学修課題の内容) (90分) 復習として学んだことを実践できるようにしておく
第14回	文書の作成 1 手紙を書くための基本を学ぶ	(学修内容) 手紙の構成と手紙用語、封筒の書き方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (90分) 復習として実習先や企業などにお礼状が書けるようにする
第15回	文書の作成 2 ビジネス文書の基本を知る	(学修内容) ビジネス文書の種類と書き方について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として例を見ながら簡単な社内文書が書けるようにする

授 業 名	インターンシップ			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CS1115
英 文 名	Internship			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	新矢 昌昭			対 象 学 生	幼児教育1回生、総合文化1回生				
授業の概要	春季休暇中に行うインターンシップを通して、さらなる社会人に向けての心構え、職業意識の形成を培うことが目的である。インターンシップや講義を通して自分がどんな仕事や職種に向いているかという職業適性を把握する。特に、外部講師や企業見学先では、自身の意見や質問を積極的に行って欲しい。また、就職活動に向けて個人ごとに就職希望先企業の研究を行い発表する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 自身の職業適性を把握することができる 2) 自身の職業、職種選択を決定し、自身の将来を見据えることができる 3) 社会人を養うことができる								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	使用しない。プリントを配布する								
参 考 書	講義中に適宜指示する								
課題に対する フィードバック の方法	グループワークや発表に関して、コメントを加える								
留 意 事 項	春学期と同じく、高い意欲や自覚、積極性が求められる。そのため安易な気持ちでは受講できないことを理解して欲しい。キャリアセンターが実施する企画に参加する場合がある								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室の扉に掲示する								
実践的教育									

授 業 名	インターンシップ	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) この講義の進め方 (事前事後学修課題の内容) (30分) 春学期インターンシップの報告書を提出
第2回	インターンシップ報告会1	(学修内容) 春学期のインターンシップ体験発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップで学んだことのレジュメ
第3回	インターンシップ報告会2	(学修内容) 春学期のインターンシップ体験発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップで学んだことのレジュメ
第4回	インターンシップ報告会3	(学修内容) 春学期のインターンシップ体験発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップで学んだことのレジュメ
第5回	希望就職先の事前研究	(学修内容) 企業研究について (事前事後学修課題の内容) (60分) 該当企業の情報、資料収集
第6回	希望就職先の研究発表	(学修内容) 企業研究発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 該当企業の研究成果レジュメ
第7回	会社見学事前学習	(学修内容) 会社見学先について (事前事後学修課題の内容) (60分) 会社見学先を理解するため、資料、情報収集を行っておく
第8回	会社見学の実施	(学修内容) 会社見学 (事前事後学修課題の内容) (30分) 会社見学先での意見や質問を考えておく
第9回	会社見学事後学習	(学修内容) 会社見学の振り返り発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 会社見学先で、自身が学んだことについてのレジュメ作成
第10回	外部講師による講演1回目	(学修内容) 経営者による講演 (事前事後学修課題の内容) (60分) 講演先企業の研究。意見や質問を考えておく
第11回	外部講師による講演2回目	(学修内容) 経営者による講演 (事前事後学修課題の内容) (60分) 講演先企業の研究。意見や質問を考えておく
第12回	学外授業	(学修内容) 大阪企業家ミュージアム見学 (事前事後学修課題の内容) (60分) 大阪企業家ミュージアムについて調べておく。意見や質問を考えておく
第13回	インターンシップの準備	(学修内容) インターンシップ先企業の確認と諸注意 (事前事後学修課題の内容) (60分) 必要書類を作成しておく
第14回	インターンシップ事前学習	(学修内容) インターンシップ先企業についての研究発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップ先企業についてのレジュメの作成
第15回	インターンシップ事前説明会	(学修内容) 職業体験の心構えと準備 (事前事後学修課題の内容) (60分) 『インターンシップの手引き』を読んでおく

授 業 名	インターンシップ			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CS1107
英 文 名	Internship			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	新矢 昌昭			対 象 学 生	幼児教育1回生、総合文化1回生				
授業の概要	夏季休暇中に行うインターンシップを通して社会人に向けての心構え、職業意識の形成を培うことが目的である。主としてインターンシップに向けての準備や企業研究をグループごとに行い発表する。講義内では、意見や質疑応答を積極的に行うことが重視される								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) プレゼンテーション能力、探究心を養うことができる 2) 企業研究、自己分析をすることができる 3) インターンシップを通して、社会への理解、職業意識を高めることができる								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力 (課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	使用しない。プリントを配布する								
参 考 書	講義中に適宜指示する								
課題に対する フィードバック の方法	グループワーク、発表へのコメントを加える								
留 意 事 項	インターンシップは、受け入れ先の時間を割き実施してもらうため、高い意欲や自覚、積極性が求められる。そのため安易な気持ちでは受講できないことを理解して欲しい。キャリアセンターが実施する企画に参加する場合がある								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室の扉に掲示する								
実 践 的 教 育									

授 業 名	インターンシップ	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) この講義の進め方 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおく
第2回	グループワークの実践	(学修内容) 課題に対するグループワーク (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読み、自身の考えをまとめておく
第3回	グループワークの実践と復習	(学修内容) 課題に対するグループワークとグループワークの振り返り (事前事後学修課題の内容) (60分) 先週で学んだ自身の考え、反省点をまとめておく
第4回	会社見学の準備	(学修内容) 会社見学先の企業研究発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 会社見学先を理解するため、資料、情報収集を行っておく
第5回	会社見学の実施	(学修内容) 会社見学 (事前事後学修課題の内容) (60分) 会社見学先での意見や質問を考えておく
第6回	会社見学のまとめ	(学修内容) 会社見学の振り返り発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 会社見学先で、自身が学んだことについてのレジュメ作成
第7回	外部講師による講義1回目	(学修内容) 働くこととは何か (事前事後学修課題の内容) (60分) 自身にとって働くこととは何かを考えておく
第8回	外部講師による講義2回目	(学修内容) 近年の就職活動についての動向 (事前事後学修課題の内容) (60分) 就職活動に対する疑問を考えておく
第9回	外部講師による講義3回目	(学修内容) インターンは何故するのか (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンをなぜするのかを考えておく
第10回	就業体験先の確認	(学修内容) 就業体験先企業の確認と諸注意 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンに関する必要書類の作成
第11回	インターンシップの準備	(学修内容) インターンシップ先企業分析 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップ先企業についての資料、情報収集(
第12回	インターンシップの事前学習1回目	(学修内容) インターンシップ先企業についての研究発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップ先企業についてのレジュメの作成
第13回	インターンシップの事前学習2回目	(学修内容) インターンシップ先企業についての研究発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップ先企業についてのレジュメの作成
第14回	インターンシップ事前説明会	(学修内容) インターンシップの心構えと準備 (事前事後学修課題の内容) (60分) 『インターンシップの手引き』を読んでおく
第15回	インターンシップに向けて	(学修内容) インターンシップ先企業の最終確認と諸注意と抱負発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップに向けての自身の抱負を考えておく

授 業 名	プレゼンテーション演習			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	IC1406
英 文 名	Presentation Practice			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	堀出 雅人			対 象 学 生	総合文化1回生				
授 業 の 概 要	<p>複雑化する社会の中で、職場や地域社会の場において、さまざまな価値観をもった他者と協働するにあたり、自らの意見やアイデアを相手にわかりやすく伝えるための力（「プレゼンテーション力」）が今後より一層求められるでしょう。国際的な競争に生き残るための技術革新や新商品の開発、我が国が抱える少子高齢、人口減少をはじめさまざまな社会的課題など、私たち一人ひとりから生み出されるアイデアや解決方法がいま必要とされています。その解決法を他者と共有し、共感を生み出したり、アイデアとアイデアをつなげ創造するためのツールとして、プレゼンテーションの場が会社や地域社会で設けられています。そこで、この授業では、プレゼンテーションの作成を助けるMicrosoft社のPowerPointの基本的な操作方法の習得とともに、オリジナルのスライド資料作りおよびプレゼンを通して、相手にわかりやすく伝え共感を生み出すための力を伸ばすことを目的としています。そのため、授業中に、教室のPCを活用した作品作り、クリッカーをはじめ学内ネットワークを活用した作品に対する学生と教員とのやりとり、プレゼンテーションとその評価などアクティブ・ラーニングを実践します。</p>								
学 修 成 果 対 象 授 業	<p>(1)職場や地域を想定し、社会人として自らの考えを相手にわかりやすく伝えることができる (2)PowerPointの基本的な操作方法を習得できる (3)課題に対して自ら工夫して作品づくりに取り掛かることができる (4)他者の意見やアイデアを参考に、自らの作品のより善く修正することができる</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用（双方向型授業）		グループワーク I C T 活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力 (課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	noa出版 『ドリルマスター PowerPoint 2016 & プレゼンテーション』 noa出版 2016年								
参 考 書	授業時に適宜指示します								
課 題 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク の 方 法	授業終了時にコメントカードを配布し、次回の授業時冒頭に提出をもとめる場合は、その授業時間中での講評や後日各自にコメントをつけたカードを返却します。最終課題として、各自、文化をテーマにスライド資料を作成し、プレゼンを実施しますが、その計画、途中経過、プレゼンといった区切り区切りで資料などをチェックし、より内容が充実するように適宜助言をします。								
留 意 事 項	パソコンを操作する時間が増えます。人前での発表を課題とします。特別な配慮が必要がある場合は事前に相談してください。 基本的にテキストに沿って学修を行うため、必ずテキストを購入することをお願いします。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業実施期間中の毎週水曜日のお昼休み								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：特定非営利活動法人学習開発研究所 所員として、E-Learninシステムの設計および運用に携わる								

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	ガイダンス	(学修内容) 本授業のねらいと流れを説明することができる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 シラバスを読んでくる 事後 授業の感想をコメントカードにまとめ次回提出	
第2回	プレゼンテーションの基本を学ぶ	(学修内容) 自らのプレゼンテーション能力を磨く必要性を説明できる(テキストの範囲:STEP1) (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストSTEP1を読んでくる 事後 ネットや雑誌などでビジネスの世界等でプレゼンに関する記事を調べる	
第3回	プレゼンテーションの達人たち/PowerPointの立ち上げ	(学修内容) 【ICT活用】内容 人を惹きつけるプレゼンの達人のプレゼンの特徴を説明できる, PowerPointの立ち上げ方法を理解し, 操作できる. (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストSTEP2を読んでくる 事後 授業の感想を配布するコメントカードにまとめ次回提出	
第4回	PowerPointを活用した資料作成	(学修内容) 資料の作成過程とアウトラインの作成方法を理解し操作できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストSTEP3を読んでくる 事後 「良い」プレゼン資料のポイントをコメントカードにまとめ次回提出	
第5回	プレゼンテーションの作成	(学修内容) 状況に応じたスライドテーマの選択しスライド作成の準備ができる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストSTEP4を読んでくる 事後 日本(京都)文化・国際文化・現代文化で調べたい文化を次回まで決める	
第6回	プレゼンテーションを編集	(学修内容) スライド資料の編集やヘッダーとフッターを操作できる 調べたい文化についてインターネット等で情報を獲得できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストSTEP5を読んでくる 事後 受講生に紹介した文化のテーマを決める	
第7回	特殊な文字やイラストを挿入	(学修内容) ワードアートと画像の挿入方法を理解し操作できる 他の受講生に紹介した文化の材料を整理することができる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストSTEP6を読んでくる 事後 発表用スライド資料の構成を考える	
第8回	表やグラフを挿入	(学修内容) 説得力を高めるプレゼン作りのため, データをExcelでグラフ化したものを貼り付けられる. 情報を引用する際の注意事項を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストSTEP7を読んでくる 事後 発表用スライド資料のテーマに沿った統計データを検索する	
第9回	図形の挿入	(学修内容) PowerPointの機能としてSmartArtや図形・表をスライドに挿入することができる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストSTEP8を読んでくる 事後 発表スライド資料にも図形や表を挿入するため, その内容を検討する	
第10回	アニメーション効果	(学修内容) プレゼンの効果をより高めるアニメーション機能を理解し操作できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストSTEP9を読んでくる 事後 発表スライド資料を作成しはじめる	
第11回	発表準備	(学修内容) プレゼンを行い際に必要な準備物を理解し用意することができる(パソコンとプロジェクターの接続方法や手元資料の印刷方法等) (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 STEP10を読む 事後 発表スライドの途中経過を報告できるように準備する	
第12回	プレゼンする時の注意事項	(学修内容) プレゼンを行い際の服装や話し方、質疑応答の仕方など基本事項を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 STEP13を読む 事後 発表スライドの完成・提出にむけて準備を進める	
第13回	プレゼンの成果発表	(学修内容) 【プレゼンテーション】自らが取り上げたテーマに沿ってプレゼンテーションを行い質疑応答ができる(一人5分程度) (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 発表用プレゼンを完成させ当日までに担当教員にデータを提出 事後 プレゼンを終えた反省点をコメントカードにまとめ次回に提出	
第14回	プレゼンの反省とスライド資料の改善	(学修内容) 【ICT活用】発表会の結果を受けて、他者の意見を参考にスライド資料を修正することができる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストSTEP11,STEP12を読む 事後 修正したスライド資料を期日までに教員にデータで提出	
第15回	学修成果のふりかえり	(学修内容) プレゼンの達人といまの自分のプレゼン力と比較し、今後、どういった力をつける必要があるか分析し、授業後の学びにつなげることができる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 これまでの授業をふりかえった感想をコメントカードにまとめ提出 事後 最終レポートに向けて教員の他の受講生のコメントをまとめる	

授 業 名	ビジネス文書表現			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CS1114
英 文 名	Business Writing			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	水谷 隆			対 象 学 生	幼児教育1回生				
授業の概要	<p>ビジネスの現場で用いる文書は、特定の相手に対して、必要な事項を過不足なく、誤解の生じないように伝達することを目的としたものです。その目的にかなう文書を作成するためには、伝えるべき内容にふさわしい形式で、受け手を明確に意識し、簡潔に表現することが必要です。この授業では、ビジネスの現場にふさわしい形式（フォーマット）と言語表現のポイントを説明した上で、実際に文書を作成することで、その体得を図ります。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) ビジネスで用いられる各種の書式を目的に応じて使い分けができる。 2) 目的に合う簡潔な文章表現ができる。 3) 敬語を中心とした待遇表現が適切に使い分けられる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	プリントを配布します。								
参 考 書	授業中適宜紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートは、学生相互の批評とともに、コメントを付して返却します。								
留 意 事 項	<p>授業時に作成する文書は、学生相互の添削の対象とします。 授業の進行等の事情に応じて各回の内容を変更することがあります。なお、その際には事前事後学習課題と併せて、前もって連絡します。 国語辞典あるいはそれに類するもの（スマホのアプリ等）を持参してください。</p>								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付するので、確認してください。								
実践的教育									

授業名	ビジネス文書表現	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス ビジネス文章表現とは	(学修内容) 授業の運営方針の確認 ビジネスで用いる文書の特徴についての解説および作文 (事前事後学修課題の内容) (20分) 予習として、シラバスを読んでおく。
第2回	用件の伝達を目的とした文章について	(学修内容) 批評の観点提示と学生相互の批評 作文の修正 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、添削された作文を読み返す
第3回	ビジネス文書の基本フォーマット 解説と作成	(学修内容) ビジネス文書の基本フォーマットの解説 作成実習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、ビジネス文書のフォーマットについて自分なりに調べておく
第4回	ビジネス文書の基本フォーマット 相互添削と修正	(学修内容) 前回作成文書を相互添削し、完成版を作る (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、自分の作成した文書を見直しておく
第5回	ビジネス文書の基本フォーマット 電子メールの解説と作成	(学修内容) 電子メールの基本的書式解説 作成実習 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、電子メールの書式について自分なりに調べておく
第6回	目的別文書の理解と体得 書簡文(縦書き)の解説と作成	(学修内容) 縦書き書簡文の書き方解説 作成実習 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、縦書き書簡文の書き方について自分なりに調べておく
第7回	目的別文書の理解と体得 書簡文(縦書き)の修得	(学修内容) 前回作成の書簡を相互添削し、完成版を作る (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、自分の作成した書簡文を見直しておく
第8回	目的別文書の理解と体得 書簡文(横書き)の解説と作成	(学修内容) 横書き書簡文の書き方解説 作成実習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、横書き書簡文の書き方について自分なりに調べておく
第9回	目的別文書の理解と体得 書簡文(横書き)の修得	(学修内容) 前回作成の書簡を相互添削し、完成版を作る (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、自分の作成した書簡文を見直しておく
第10回	目的別文書の理解と体得 履歴書	(学修内容) 履歴書(履歴部分)の作成に関する解説と実習 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、履歴書の書き方について確認しておく
第11回	目的別文書の理解と体得 履歴書	(学修内容) 履歴書(履歴部分)のチェックと修正 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、自分の作成した履歴書を見直しておく
第12回	目的別文書の理解と体得 履歴書	(学修内容) 自己PR文の作成 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、自分のアピールポイントを整理しておく
第13回	目的別文書の理解と体得 履歴書	(学修内容) 自己PR文のチェックと修正 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、自分の作成した自己PR文を見直しておく
第14回	目的別文書の理解と体得 添え状 他	(学修内容) 履歴書送付時の添え状他の解説と作成実習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、履歴書の送付の仕方について自分なりに調べておく
第15回	まとめ	(学修内容) 授業の振り返りと自己評価。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、授業全体を振り返り、自己の課題と今後の学修について考えておく。

授 業 名	情報文化と倫理			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CS2121
英 文 名	Information Culture and Ethics			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	湯川 宗紀			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>PC、ネット、スマホ等々が日常に欠かせなくなり、意識さえしなくなった世界、それはどのような世界で我々にどんな恩恵をもたらし、どのような不幸をもたらすのか。</p> <p>現代に至るまでのメディアの歴史、それによる社会変容、理論的研究を紹介し、現代における情報文化の問題点と倫理について資料・映像を使い、事例を交えながら考えていきます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1.メディアの変化を歴史的に学ぶことにより現状の情報文化を把握することができる。</p> <p>2.これまでのメディア研究から情報に対する倫理を理解することができる。</p> <p>3.現在のネット環境と自身との関わり方を考えることができる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	必要に応じて資料を配付する								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートにコメントを付けて返却								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	講義前後に対応します								
実 践 的 教 育									

授 業 名		情報文化と倫理
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 講義計画 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認しておく
第2回	聞くことから観ること	(学修内容) 語りから文字への変化について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第3回	書物	(学修内容) グーテンベルクの活版印について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第4回	書物が誕生する社会的背景	(学修内容) 社会状況と印刷技術について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第5回	書物がもたらした社会変容	(学修内容) 技術による社会変容について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第6回	出版メディアの誕生	(学修内容) マス・メディア、新聞の誕生について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第7回	電子メディア・ラジオの誕生	(学修内容) ラジオと聴衆についての理論紹介 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第8回	電子メディア・テレビの誕生	(学修内容) テレビと視聴者についての理論紹介 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第9回	コンピューターの歴史	(学修内容) コンピューターの発展とその背景について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第10回	インターネットの歴史	(学修内容) インターネットの歴史、特に日本国内での歴史について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第11回	「検索」が世界を創る	(学修内容) 検索システムによる社会変容について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第12回	新しい『1984』 SNSで楽しみ進める監視・管理社会	(学修内容) SNSの問題点、倫理点について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第13回	IoTとビッグデータ	(学修内容) 現状のIT技術の紹介と問題点について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第14回	意識すら出来ないIT化社会での倫理	(学修内容) 現代社会でのITリテラシーについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第15回	まとめ	(学修内容) これまでのまとめ (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく

授業名	キャリア実践演習			開講学年	2回生	単位数	1単位	科目コード	CS2120
英文名	Career Practical Seminar I			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	新矢 昌昭			対象学生	幼児教育2回生、総合文化2回生				
授業の概要	この講義では、目前に迫った進路決定の実現について、計画的、綿密的に実践することに目的がある。就職活動本番に向けたグループディスカッションや模擬面接、発表、討議などを中心に行う。また、この講義を就職活動や進路活動と結びつけ、学生間で情報共有も図りたい。								
学修成果到達目標	1) 自己の進路実現と連携する 2) 就職活動について、明確な意識を持つ 3) 就職活動情報を共有する								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	使用しない。プリントを配布								
参考書	講義中に適宜指摘する								
課題に対するフィードバックの方法	グループワークや発表などに関して、コメントを加える								
留意事項	キャリアセンターが実施する企画に参加する場合がある。インターンシップを受講していることが望ましい								
オフィスアワー	研究室の扉に提示する								
実践的教育									

授 業 名		キャリア実践演習
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)この講義ですること (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスを読んでおくこと
第2回	就職活動に向けて	(学修内容)就職活動への諸注意 (事前事後学修課題の内容)(30分) 就職活動スケジュールの確認
第3回	コミュニケーション力を身につける	(学修内容)グループワークの実践 (事前事後学修課題の内容)(60分) ワークシートをまとめておく
第4回	面接練習	(学修内容)個人面接 (事前事後学修課題の内容)(30分) 「面接に対する心構え」を読んでおく
第5回	集団面接練習	(学修内容)集団面接 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「面接に対する心構え」を読んでおく
第6回	グループディスカッション	(学修内容)就職活動を想定したグループディスカッション (事前事後学修課題の内容)(60分) ワークシートをまとめておく
第7回	先輩からのアドバイス その1	(学修内容)先輩による就職活動体験の報告 (事前事後学修課題の内容)(60分) 現在の週就職活動の不安や悩みをまとめておく
第8回	先輩からのアドバイス その2	(学修内容)先輩による就職活動体験の報告 (事前事後学修課題の内容)(60分) 現在、就職活動の不安や悩みをまとめておく
第9回	外部講師による講義	(学修内容)今の就職活動と自己の将来 (事前事後学修課題の内容)(30分) 講師に対する質問をまとめておく
第10回	学内企業説明会準備	(学修内容)事前の諸注意と企業紹介 (事前事後学修課題の内容)(30分) どの企業を回るのかを考えておく
第11回	学内企業説明会 1回目	(学修内容)学内企業説明会への参加 (事前事後学修課題の内容)(60分) どのようなものであったのかをレポート
第12回	学内企業説明会 2回目	(学修内容)学内企業説明会への参加 (事前事後学修課題の内容)(60分) どのようなものであったのかをレポート
第13回	就職活動報告 その1	(学修内容)現在の就職活動についての現状と報告 (事前事後学修課題の内容)(60分) 現状の就職活動に関するレジユメの作成
第14回	就職活動報告 その2	(学修内容)現在の就職活動についての現状と報告 (事前事後学修課題の内容)(60分) 現状の就職活動に関するレジユメの作成
第15回	就職活動報告 その3	(学修内容)現在の就職活動についての現状と報告 (事前事後学修課題の内容)(60分) 現状の就職活動に関するレジユメの作成

授 業 名	キャリア実践演習			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	CS2128
英 文 名	Career Practical Seminar			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	新矢 昌昭			対 象 学 生	幼児教育2回生、総合文化2回生				
授業の概要	この講義では、来年から社会人になるための心構えや知識を涵養することに目的がある。特に、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」である社会人基礎力を完成してもらいたい。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 社会人基礎力を完成する 2) 現代社会を把握する 3) 自己の将来設計を明確にする								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	使用しない。プリントを配布する								
参 考 書	講義中に適宜指摘する								
課題に対するフィードバックの方法	グループワークや発表などに関して、コメントを加える								
留 意 事 項	キャリア実践演習 を受講しておくこと。インターンシップを受講していることが望ましい								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室の扉に掲示する								
実践的教育									

授業名	キャリア実践演習	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 講義の進め方と諸注意 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバを読んでおく
第2回	現代社会と若者	(学修内容) わたしたちを取り巻く社会情勢 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第3回	現代社会と経済	(学修内容) 経済の動き (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第4回	新聞を読む	(学修内容) 新聞の読み方 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布新聞を読んでおく
第5回	新聞から見る現代 その1	(学修内容) 新聞記事を元に発表、討議 (事前事後学修課題の内容) (60分) 新聞を用いたレジュメを作成
第6回	新聞から見る現代 その2	(学修内容) 新聞記事を元に発表、討議 (事前事後学修課題の内容) (60分) 新聞を用いたレジュメを作成
第7回	大阪企業家ミュージアム見学	(学修内容) 大阪企業家ミュージアムの見学と職員による講義 (事前事後学修課題の内容) (30分) 大阪企業家ミュージアムについて調べておく
第8回	社会人力の復習	(学修内容) 社会人力とは何か (事前事後学修課題の内容) (30分) 社会人力についての配布プリントを読んでおく
第9回	社会人力の確認	(学修内容) 社会人力ワーク作業 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自らの社会人力を配布プリントから確認しておく
第10回	社会人力の完成に向けて	(学修内容) 社会人力チャート記入 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自己の社会人力の弱点を認識しておく
第11回	社会人力の発表	(学修内容) 自己の社会人力についての発表と討議 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自己の社会人力についてのレジュメ
第12回	社会人力グループワーク	(学修内容) グループワークを通して社会人力を考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回発表したレジュメについて、修正、加筆したものを用意
第13回	下級生に向けてのアドバイス その1	(学修内容) 就職活動へのアドバイス (事前事後学修課題の内容) (60分) 就職活動体験のレジュメを作成
第14回	下級生に向けてのアドバイス その2	(学修内容) 就職活動へのアドバイス (事前事後学修課題の内容) (60分) 就職活動体験のレジュメを作成
第15回	下級生に向けてのアドバイス その3	(学修内容) 就職活動へのアドバイス (事前事後学修課題の内容) (60分) 就職活動体験のレジュメを作成

授 業 名	ビジネス英語			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	IC2409
英 文 名	Business English			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	松尾 章子			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>ビジネスシーンで英語が使える人材の必要性がますます高まっている。ここでは、基本的なビジネスの場における英語表現を学修し、実際のビジネスシーンで活用できるようにする。また、ビジネス上重要な英語表現を反復し、ロールプレイングを行うことで、英語で会話することへの抵抗感をなくし、楽しみながら活きた英語表現の修得を目指す。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 英語で簡単な英語応対ができる。 2) プロトコルの基本的な考え方を理解している。 3) テキストに沿って、ビジネスEメールやビジネスレター、自身の英文履歴書を書くことができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	芳野総子他著 『はじめてのビジネス・イングリッシュ』 三修社 1,800円+税								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	提出物については、返却時に解答とコメントを付して返却します。								
留 意 事 項	<p>積極的な授業参加を期待します。 提出物は期日に間に合うように提出してください。 遅刻・欠席等により授業内テストを受けられなかった場合、次回授業時間前までに限り追試験を受けることができます。 ただし、点数の上限は8割とします。提出物についても、同じく次回授業時間前まで受け付けます。 30分までの遅刻は0.5回の欠席扱い、30分以上の遅刻については欠席扱いとします。</p>								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に掲示しますので、確認してください。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：英会話スクールAEON 講師</p>								

授 業 名	ビジネス英語	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション Unit 1: 来客対応の基本	(学修内容) 授業の進め方・到達目標の説明 Unit 1の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: Unit 1の英文を声に出して3回以上読む。 事後: Unit 1のExercisesを声に出して3回以上読む。
第2回	Unit 2: 約束のない客、見送り	(学修内容) Unit 2の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: Unit 2の英文を声に出して3回以上読む。 事後: Unit 2のExercisesを声に出して3回以上読む。
第3回	Unit 3: 電話対応の基本	(学修内容) Unit 3の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: Unit 3の英文を声に出して3回以上読む。 事後: Unit 3のExercisesを声に出して3回以上読む。
第4回	Unit 4: 問い合わせ、伝言	(学修内容) Unit 4の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: Unit 4の英文を声に出して3回以上読む。 事後: Unit 4のExercisesを声に出して3回以上読む。
第5回	Unit 5: プロトコルの原則、出迎え、送迎	(学修内容) Unit 5の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: Unit 5の英文を声に出して3回以上読む。 事後: Unit 5のExercisesを声に出して3回以上読む。
第6回	Unit 6: 車中での会話、工場訪問、夕食会	(学修内容) Unit 6の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: Unit 6の英文を声に出して3回以上読む。 事後: Unit 6のExercisesを声に出して3回以上読む。
第7回	Unit 7: 観光案内、見送り	(学修内容) Unit 7の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: Unit 7の英文を声に出して3回以上読む。 事後: Unit 7のExercisesを声に出して3回以上読む。
第8回	Unit 8: プレゼンテーションの基本	(学修内容) Unit 8の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: Unit 8の英文を声に出して3回以上読む。 事後: Unit 8のExercisesを声に出して3回以上読む。
第9回	Unit 9: アウトラインと定型的な表現	(学修内容) Unit 9の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: Unit 9の英文を声に出して3回以上読む。 事後: Unit 9のExercisesを声に出して3回以上読む。
第10回	Unit 10: サンプルプレゼンテーション	(学修内容) Unit 10の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: Unit 10の英文を声に出して3回以上読む。 事後: Unit 10のExercisesを声に出して3回以上読む。
第11回	Unit 11: Eメールの構成	(学修内容) Unit 11の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: Unit 11の英文を声に出して3回以上読む。 事後: Unit 11のExercisesを声に出して3回以上読む。
第12回	Unit 12: サンプルEメール	(学修内容) Unit 12の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: Unit 12の英文を声に出して3回以上読む。 事後: Unit 12のExercisesを声に出して3回以上読む。
第13回	Unit 13: ビジネス・レター	(学修内容) Unit 13の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: Unit 13の英文を声に出して3回以上読む。 事後: Unit 13のExercisesを声に出して3回以上読む。
第14回	Unit 14: 英語による面接	(学修内容) Unit 14の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: Unit 14の英文を声に出して3回以上読む。 事後: Unit 14のExercisesを声に出して3回以上読む。
第15回	Unit 15: 英文履歴書の書き方	(学修内容) Unit 15の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: Unit 15の英文を声に出して3回以上読む。 事後: Unit 15のExercisesを声に出して3回以上読む。

授 業 名	健康と食の文化			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	IC1202
英 文 名	Health and Food Culture			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	佐藤 愛			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	<p>「食文化」は、健康やQOLへ影響を及ぼす要因の1つと言え、「健康寿命」の長さが世界トップクラスである日本の食文化は諸外国からも注目されている。</p> <p>本授業では、健康と日本の食文化の特色についての基礎的知識を学び、ユネスコ無形文化遺産である「和食・日本人の伝統的な食文化」を守りつつ、諸外国の優れた点を取り入れてきた日本の食文化や世界の食文化をどのように継承していくかを考える。随所でグループワークを行う。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> 日本の食文化がユネスコの無形文化遺産に選ばれた理由を理解し、説明できる。 日本および日本の食文化に多大な影響を及ぼした諸外国の食文化について、その特色を理解し、説明できる。 健康的な食生活について説明できる。 日本の食文化を次世代へどのように継承したいかを説明できる。 								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)		課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	江原絢子 他 編著 『新版 日本の食文化 「和食」の継承と食育 』2017年								
参 考 書	必要に応じて、授業中に紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたものをチェック後、必要な部分については次週以降に解説する。								
留 意 事 項	現在の日本の食が持つ問題点についても考え、自分としてはどうしていけば良いかを考え続けてほしい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回の授業でお伝えします。								
実践的教育									

授 業 名		健康と食の文化
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	日本の食文化とは	(学修内容) 日本の食文化について、その特徴を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 日本の食文化の特徴について考えてくる。
第2回	和食文化の継承と保護	(学修内容) 和食がなぜユネスコ無形文化遺産に選ばれたのかを考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 和食以外で、食に関する文化がユネスコ無形文化遺産に選ばれているものがあるか調べておく。
第3回	栄養と健康	(学修内容) 栄養面から健康について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 普段食べている食品に含まれている栄養素を調べておく。
第4回	食と健康	(学修内容) 食事バランスガイドについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 今の自分の食生活で、体に悪いなと思う点があるか考えておく。
第5回	世界の食文化形成	(学修内容) 世界の食文化がどのように形成されたかをみていく。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 中国料理、インド料理、ヨーロッパ料理の特徴を調べておく。
第6回	ファーストフード	(学修内容) ファーストフードと健康について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ファーストフードが健康に与える影響を考えておく。
第7回	日本の食文化形成と展開	(学修内容) 食文化の発展について、歴史的な視点から現状の課題を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 現在の日本の食文化についてどんな問題があるか考えておく。
第8回	主食の文化	(学修内容) 日本の主食、世界各地の主食を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 日本における主食の消費量の変化を調べておく。
第9回	副食の文化	(学修内容) 魚介類、大豆、野菜などで構成される和食を支える副食文化について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 食生活の中で副食を約何品、どのような種類を食べるかまとめておく。
第10回	発酵とだしの文化	(学修内容) 発酵や和・洋・中のだしについて学ぶ。特に鰹節だし、昆布だしについては生理作用も含め、詳しくみていく。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 日頃使用するだし汁、発酵食品について調べておく。
第11回	食卓のコーディネートとマナー	(学修内容) 日本の料理様式とその特徴・食器について学び、食卓のルールに則ったマナーを身につける。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 和食のマナーにおいてマナー違反とされる箸使いについて調べておく。
第12回	外食文化の成立と変化	(学修内容) 外食の多様化について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 紹介したい飲食店を調べてくる。
第13回	行事と地域の食文化	(学修内容) 行事食と郷土料理について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の地域の郷土料理を調べてくる。
第14回	家庭・地域、学校、社会における食育	(学修内容) 家庭・地域、学校、情報社会における食育について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 雑誌、テレビ、インターネット等から、紹介したい食情報をまとめてくる。
第15回	これまでのまとめ	(学修内容) これまでの振り返りを行い、自身の意見を共有する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 日本の食文化のどの部分を、どのような方法で、誰に伝えたいかを理由も踏まえて考えてくる。

授 業 名	日本文化			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	IC1201
英 文 名	Japanese Culture			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	工藤 美和子			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	日本の歴史を背景に、日本文化の成立と多面性について学びます。授業では、古代から現代までを対象に、地域文化、宗教文化、生活文化などの文化領域を歴史的、相対的な視点をふまえつつ日本文化について考えます。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 日本文化の特徴を説明することができる。 2) 時代や身分階層による文化の変遷を説明することができる。 3) 自国の文化と異文化を公平にみる視点を養うことができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	特に指定しません。授業内にて資料を配付します。								
参 考 書	授業内にて指示します。								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートはコメントを付けて返却します。								
留 意 事 項	高等学校の日本史教科書や資料集を一読して、文化史の流れを把握してください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付するので確認してください。								
実践的教育									

授 業 名		日本文化
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の進め方について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業内のまとめをしておく。
第2回	「日本」および「文化」とは何か	(学修内容) 「日本」と「文化」の概念について考えます。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に「日本」と「文化」を日本語辞典や歴史辞典で調べ、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめること。
第3回	日本神話と神々	(学修内容) 日本神話と祭祀を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に「神話」を日本語辞典や歴史辞典で調べ、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめること。
第4回	仏教の伝来と受容	(学修内容) 仏教の伝来と受容がもたらした影響を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に「仏教伝来」を調べ、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめること。
第5回	中国文化の受容と展開	(学修内容) 中国文化が日本にもたらした影響を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に大陸伝来の文化を調べ、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめること。
第6回	国風文化	(学修内容) 国風文化を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に「国風文化」について歴史辞典で調べ、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめること。
第7回	貴族と武家の文化	(学修内容) 貴族文化と武家文化の形成と展開を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に「貴族」「武家」を日本語辞典や歴史辞典で調べ、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめること。
第8回	寺社と芸能	(学修内容) 寺社と芸能(狂言・能・歌舞伎など)との関係を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に「芸能」を日本語辞典で調べ、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめること。
第9回	儒教と日本文化	(学修内容) 儒教思想が日本に与えた影響を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に「儒教」について日本語辞典等で調べ、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめること。
第10回	蘭学と国学	(学修内容) 蘭学との伝来と影響、国学の成立と展開を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に「蘭学」と「国学」について日本語辞典や歴史辞典で調べ、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめること。
第11回	都市の文化	(学修内容) 江戸時代の都市のあり方を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に「都市」という言葉を日本語辞典等で調べ、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめること。
第12回	町人と学問	(学修内容) 江戸時代の町人文化を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に「町人」について日本語辞典や歴史辞典で調べ、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめること。
第13回	海外からみた日本文化	(学修内容) 近代日本の西洋化を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に「近代」「近代化」について日本語辞典や歴史辞典で調べ、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめること。
第14回	創られた伝統と文化	(学修内容) 創られた日本文化観について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事後、授業内容や配付資料をもとに、前近代と近代以降の日本文化観の変化について各自ノートにまとめること。
第15回	授業の総括	(学修内容) 授業全体の振り返りを行います。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 授業のまとめをしておく。

授業名	日本の歴史			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	IC1203
英文名	Japanese History			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	工藤 美和子			対象学生	総合文化1回生				
授業の概要	伝統的な日本文化を理解し、それらを生かして地域社会の発展に寄与するためには、日本文化・社会の歴史的背景に関する基礎知識が必要となります。また、現在までに明らかになっている歴史的知見が、どういったプロセスで見出されてきたのかを理解することで、今後、主体的に知識を獲得していくための指標を得ることができるでしょう。本授業では、日本史における基礎的知識を確認しつつ、幾つかの事象を掘り下げることで、歴史的に物事を考えるための視座を養います。								
学修成果到達目標	1) 「歴史学」という学問分野の基本的な考え方を理解することができる。 2) 日本の各時代における社会の特性を理解し、説明できる。 3) 歴史的に物事を考えるための視座を得ることができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	毎回の授業でレジュメを配布する。								
参考書	五味文彦他・他編『新 もういちど読む 山川日本史』(山川出版社、2017年) 詳説日本史図録編集委員会編『詳説日本史図録 第8版』(山川出版社、2020年)								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートはコメントをつけて返却します。 適宜、解説が必要なものについては、次回授業で説明します。								
留意事項	参考図書や高校の日本史教科書を一読してください。								
オフィスアワー	研究室に日時を貼付するので確認してください。								
実践的教育									

授業名	日本の歴史	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	「歴史を研究する」とは？	(学修内容) 歴史教科書を比較することから、高校日本史と大学での「歴史学」の違いを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学習 シラバスと参考図書を粗方、一通り読んでおく。 事後学習 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。
第2回	「史料」と「史実」	(学修内容) 教科書や概説書に書かれる歴史的事象がどのようにして明らかになったのかを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学習 第一回授業で提示した課題について再考しておく。 事後学習 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。
第3回	「歴史を叙述する」とは？	(学修内容) 教科書や概説書に書かれる歴史的事象がどうして取り上げられるのかを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学習 第二回授業で提示した課題について再考しておく。 事後学習 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。
第4回	飛鳥時代 『日本書紀』と仏教伝来	(学修内容) 『日本書紀』の記述から歴史的な事象を拾い上げるプロセスを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学習 高校教科書・参考書の「飛鳥時代」の部分を読んでおく。 事後学習 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。
第5回	奈良時代 律令の制定と古代社会	(学修内容) 古代社会の様相について、律令から読み解く。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学習 高校教科書・参考書の「奈良時代」の部分を読んでおく。 事後学習 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。
第6回	平安時代 平安貴族社会の変転	(学修内容) 古代社会の移り変わりとその影響により出現する新たな貴族社会の有様について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学習 高校教科書・参考書の「平安時代」の部分を読んでおく。 事後学習 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。
第7回	院政期・鎌倉時代 鎌倉幕府の成立と武家社会	(学修内容) 中世社会の成立を史料から読み解く。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学習 高校教科書・参考書の「鎌倉時代」の部分を読んでおく。 事後学習 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。
第8回	南北朝・室町時代 室町幕府の成立と伝統文化	(学修内容) 中世社会の変化について、絵画資料から読み解く。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学習 高校教科書・参考書の「南北朝室町」の部分を読んでおく。 事後学習 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。
第9回	戦国時代 応仁・文明の乱と地域社会の発展	(学修内容) 室町幕府の崩壊による地域社会の発展について、絵図から理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学習 高校教科書・参考書の「戦国時代」の部分を読んでおく。 事後学習 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。
第10回	織豊期 天下統一と秀吉の「京都改造」	(学修内容) 近世社会の成立と京都における都市構造の変化について、現在に残る史跡などから理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学習 高校教科書・参考書の「織豊期」の部分を読んでおく。 事後学習 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。
第11回	江戸時代前期 「文治政治」と五代将軍綱吉の治世	(学修内容) 江戸時代の治世と政争について、複数の文献史料から読み解く。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学習 高校教科書・参考書の「江戸前期」の部分を読んでおく。 事後学習 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。
第12回	江戸時代後期 明治維新への過程	(学修内容) 近世社会の変容と近代への過程を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学習 高校教科書・参考書の「江戸中後期」の部分を読んでおく。 事後学習 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。
第13回	明治時代 廃仏毀釈と寺社景観の変貌	(学修内容) 近代社会の成立とその政策による景観変化について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学習 高校教科書・参考書の「明治時代」の部分を読んでおく。 事後学習 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。
第14回	大正・昭和前期 御大典と京都	(学修内容) 近代社会の変容とその政策による景観の変化について、京都をフィールドとして理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学習 高校教科書・参考書の「大正～戦前」の部分を読んでおく。 事後学習 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。
第15回	授業の総括	(学修内容) 15回を改めて総括し、歴史的に物事を考える視座について確認する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学習 1～14回の授業を復習し、疑問点等が無いが確認しておく。 事後学習 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。

授業名	京都の風土と文化			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	IC1209
英文名	Climate and Culture in Kyoto			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	工藤 美和子			対象学生	総合文化1回生				
授業の概要	人は自然と共生し、人々との関わりのなかで文化を築きあげてきた。本講義では、京都を事例に、自然と人間との関わり、人々との交流のなかで育まれてきた文化について学習する。都市景観の変遷にも着目してみたい。								
学修成果到達目標	1) 自然と生活との関わりについて理解を深める 2) 様々な事例を通して、自分の意見を述べることができる 3) 京都で培われてきた文化の歴史的、文化的背景を理解できる								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (80%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	講義内で配布するプリント。								
参考書	講義内で紹介する								
課題に対するフィードバックの方法	提出物にはコメントをつけて返却をする。								
留意事項	京都に関連する新聞記事や文献を読んだり、ガイドブックや地図を見たりして、様々なことから関心をもつように心がける。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育									

授 業 名		京都の風土と文化	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	京都と風土	(学修内容)「風土」とは何か、京都の地形 人々が抱く「京都」の範囲 (事前事後学修課題の内容)(10分) 予習として、「風土」という言葉を辞書で調べてくること	
第2回	京都の通り	(学修内容)住所表記 両側町 辻子と路地 メインストリートの変遷 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする	
第3回	京都の町屋と民家	(学修内容)町屋の構造 鐘馗さん 伊根の舟屋 美山かやぶきの里 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする	
第4回	京都の花街	(学修内容)花街 祇園界隈の景観形成 花見小路 上知 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする	
第5回	京都の都市景観	(学修内容)歴史的建造物群保存地区 景観条例 近代的建築 田の字地区 老舗 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする	
第6回	東山の景観	(学修内容)上知 二条～四条の景観形成 平安神宮 市電 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする	
第7回	計算された庭園	(学修内容)庭園 借景 庭園鑑賞 おもてなし (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする	
第8回	東山の植生	(学修内容)里山 林野利用 植生の変化 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする	
第9回	北山杉	(学修内容)北山杉 川端康成の小説『古都』 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする	
第10回	複雑な行政境	(学修内容)府県境 自然国境 画定 飛び地 境界神 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする	
第11回	河川補修と都市景観	(学修内容)鴨川 河川補修 河川近辺の景観の変化 市街地の形成 先斗町 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする	
第12回	京都の地下水	(学修内容)名水と観光 地下水脈 地下水を利用した産業 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする	
第13回	京都の同業者町	(学修内容)同業者町 地名 西陣 仏具店 茶道 清水焼団地 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする	
第14回	京都と映画撮影所	(学修内容)京都撮影所の歴史 時代劇 東映 松竹 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする	
第15回	古都「京都」と小京都	(学修内容)京都と小京都との関係 アンノン族 観光 津和野 中村 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする	

授業名	京都理解			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	IC1204
英文名	Understanding Kyoto			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	工藤 美和子			対象学生	総合文化1回生				
授業の概要	古代から近現代の日本において、政治・文化・宗教の中心に位置した京都について、その歴史と文化をたどり、京都で創られ全国に発信された京都文化について学びます。								
学修成果到達目標	1) 京都の歴史と文化を知ることができる。 2) 京都の歴史と文化の理解を深めることができる。 3) 京都の歴史と文化について説明することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	特に指定しません。授業内で資料を配付します。								
参考書	授業内で指示します。								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートはコメントを付けて返却します。								
留意事項	興味関心を抱いて京都を散策してください。								
オフィスアワー	研究室に日時を貼付するので確認してください。								
実践的教育									

授業名	京都理解	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	創られた京都イメージ 竹林から石畳へ瞬間移動	(学修内容) 京都のイメージについて考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業のまとめをする。
第2回	江戸の人の京都好き	(学修内容) 『都名所図会』を読む。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配付資料へ目を通し、授業内容や史料をもとに各自ノートをまとめる。
第3回	どうして平安京は京都市内なの？	(学修内容) 現在の京都市が平安京に選ばれた理由を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートをまとめる。
第4回	学外授業 京都市平安京創生館	(学修内容) 京都市平安京創生館の見学。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 見学後、小レポートを作成し提出する。
第5回	宗教空間都市・京都	(学修内容) 宗教空間という性格をもつ京都について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートをまとめる。
第6回	政の都市・京都	(学修内容) 政の中心地京都の歴史とその役割について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートをまとめる。
第7回	東京遷都 京都大打撃	(学修内容) 東京遷都がもたらした影響と京都の近代化について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートをまとめる。
第8回	京都に行こう作戦 博覧会と円山公園	(学修内容) 観光都市化への変貌を京都の近代化を代表する博覧会や円山公園建設を例にとりながら学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートをまとめる。
第9回	学外授業 円山公園	(学修内容) 円山公園をめぐる。小レポートの作成。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自小レポートを提出する。
第10回	京美人 美人の条件は不変ではないよ	(学修内容) 京美人の歴史の変遷について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートをまとめる。
第11回	京の着だおれ ほんまものの着物	(学修内容) 京都の服飾文化について古代から近世を中心に学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートをまとめる。
第12回	京都の祭礼 1年365日祭礼三昧	(学修内容) 京都の祭礼と歴史背景について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートをまとめる。
第13回	祇園御霊会 怨霊から御霊への誘い	(学修内容) 祇園祭の歴史の変遷について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートをまとめる。
第14回	祇園御霊会から祇園祭へ	(学修内容) 現代の祇園祭の現状について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートをまとめる。
第15回	授業の総括	(学修内容) 授業全体の振り返りを行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業のまとめをする。

授 業 名	伝統芸能と工芸			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	IC1401
英 文 名	Traditional Performance Art and Industrial Art			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	工藤 美和子			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	古代より日本にはさまざまな伝統芸能がアジア諸国より伝来し変容しながら継承されてきました。古代から現代まで伝わる伝統芸能のいくつかを学びます。また京都には国指定の伝統工芸品が17あります。これら伝統工芸のいくつかも紹介しながら、伝統の技が継承されてきたという点で互いに共通点をもつ芸能と工芸の関係についても学びます。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 伝統芸能と工芸について知識を得ることができる。 2) 伝統芸能と工芸について理解を深め説明することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	特に指定しません。授業内で資料を配付します。								
参 考 書	授業内で指示します。								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートはコメントを付けて返却します。								
留 意 事 項	博物館や資料館、伝統産業会館、伝統芸能の催しを随時紹介します。各自、興味関心を持ってできるだけ見学に行ってください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室日時を貼付するので確認してください。								
実践的教育									

授業名	伝統芸能と工芸	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の進め方について説明する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業のまとめをしておく。
第2回	伝統芸能とは何か	(学修内容) 「伝統」と「芸能」という言葉について辞書を用いてその意味を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「伝統」および「芸能」の意味を辞典等を用いて調べる。
第3回	伝来した芸能	(学修内容) 大陸から伝来した芸能について知識を得て理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。
第4回	宮中と雅楽寮	(学修内容) 宮廷社会と雅楽寮の仕組みについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。
第5回	散楽について	(学修内容) 散楽の伝来と歴史の変遷を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。
第6回	猿楽について	(学修内容) 猿楽の歴史の変遷を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌舞伎に関する教材を視聴し、授業で学んだ歌舞伎の内容を小レポートにまとめて提出する。
第7回	猿楽から能・狂言へ 能楽	(学修内容) 能楽について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。
第8回	猿楽から能・狂言へ 狂言	(学修内容) 狂言について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「工芸」という言葉の意味を辞書等を用いて調べる。
第9回	学外授業 大江能楽堂	(学修内容) 大江能楽堂への見学。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。
第10回	能楽・狂言と工芸 能面	(学修内容) 能面について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。
第11回	能楽・狂言と工芸 西陣織	(学修内容) 装束に用いられる西陣織について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。
第12回	仏教と工芸 仏壇と仏像	(学修内容) 京仏具や仏像について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。
第13回	仏教と工芸 僧衣	(学修内容) 京の仏教関係の工芸として僧衣について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。
第14回	学外授業 京都伝統産業会館	(学修内容) 京都伝統産業会館で伝統芸能と工芸との関係について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 体験授業で学んだことを小レポートにまとめて提出する。
第15回	授業の総括	(学修内容) 授業全体の振り返りを行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業のまとめをしておく。

授 業 名	日本の歳時と年中行事			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	IC1402
英 文 名	Seasonal and Annual Events			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	伊藤 茂樹			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	日本は四季があり、様々な行事がある。季節を感じ、古式ゆかしい日本の行事を学ぶことを目的とする。正月、雛祭り、お盆、彼岸とあるように、各行事の意義を概説し、フィールドワークでは、その一端を体験する。また適宜グループワークを実施して相互に理解を深め、新たな知見を得る場としたい。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 四季にまつわる日本の諸行事を理解する 2) 地域における習慣の相違を学び、地域文化を尊重することを目指す 3) 様々な文献を駆使して積極的に調べる方法を身につける								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	必要資料をこちらで配布します。								
参 考 書	ありません。								
課題に対する フィードバック の方法	レポートを回収後、コメントをして返却します。								
留 意 事 項	関連する本、例えば祭り、暦、日本の習俗についての本を積極的に読んでください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	後日、研究室に掲示します。								
実践的教育									

授業名	日本の歳時と年中行事	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、本講義で学ぶ内容を説明します。桜見学。	(学修内容) 講義の内容を説明します。また、近辺の桜の見学に行きます。 (事前後学修課題の内容) (20分) シラバスをじっくりと読んでください。
第2回	京都東山の春行事 - 知恩院の御忌	(学修内容) 京都の春の行事ともいえる知恩院の御忌について概説します。 (事前後学修課題の内容) (30分) ノートをしっかりまとめてください。配布プリントを参照してください。
第3回	知恩院御忌の参拝 - フィールドワーク	(学修内容) 衣装比べと呼ばれる知恩院の御忌を参拝して、行事を拝観してもらいます。 (事前後学修課題の内容) (30分) 前回のノートを参照すること。授業後、感想文を書くこと。
第4回	元号について	(学修内容) 日本の元号について概説します。 (事前後学修課題の内容) (30分) ノートをまとめてください。配布プリントを参照してください。
第5回	日本の暦について	(学修内容) 日本の暦について概説します。 (事前後学修課題の内容) (20分) ノートをまとめる。配布プリントを参照する。
第6回	フィールドワーク - 京都御所	(学修内容) 京都御所を拝観します。 (事前後学修課題の内容) (50分) フィールドワークで発見したことや感じたことをまとめてもらいます。
第7回	一年の行事について	(学修内容) 日本古来からの行事。また近年はやりだした行事などをグループワークで探ります。内容を検討し皆でディスカッションします。 (事前後学修課題の内容) (30分) 皆さんが経験しているお正月の初詣やおせち料理を教えてください。まとめてください。
第8回	大晦日とお正月	(学修内容) お正月の意義を概説します。皆さんが体験するお正月行事、初詣やおせち料理についてディスカッションします。 (事前後学修課題の内容) (30分) お正月の意義や、それぞれの家での過ごし方などをまとめてもらいます。
第9回	初詣のコースを考える	(学修内容) 初詣のコースを検討してみましょう。それぞれがおすすめの初詣コースを作成してプレゼンテーションしてもらいます。 (事前後学修課題の内容) (30分) 初詣のコースをまとめて提出してもらいます。
第10回	フィールドワーク - 初詣に関連ある場所を参詣します -	(学修内容) 講義中に皆で検討した初詣のコースを実際に参詣します (事前後学修課題の内容) (20分) ノートをまとめる、配布プリントを参照する。
第11回	日本の年中行事について - 祭り	(学修内容) 日本の祭りには、どのようなものがあるのか。関心あるものを取り上げ皆でディスカッションします。 (事前後学修課題の内容) (30分) 地方における特色ある祭り行事を調べてください。
第12回	日本の年中行事について - 祭り	(学修内容) 関心のある全国の祭りを取り上げ、それぞれ内容を調べて発表してもらいます。 (事前後学修課題の内容) (20分) 発表内容をまとめて提出してもらいます。
第13回	京都の祭りについて - 祇園祭・葵祭・時代祭	(学修内容) 京都の祭りについて概説します。 (事前後学修課題の内容) (20分) ノートをまとめます。配布プリントを整理してください。
第14回	フィールドワーク	(学修内容) 京都で行われる祭りについてゆかりの場所に行きます。 (事前後学修課題の内容) (30分) フィールドワークについて感想や発見したことをまとめてもらいます。
第15回	講義のまとめ	(学修内容) これまでの内容をふり返りまとめます。 (事前後学修課題の内容) (30分) ノートやプリントを整理し、関心のあったところをまとめてレポート提出してください。

授 業 名	伝統産業に学ぶ			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	IC1404
英 文 名	Traditional Industry			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	工藤 美和子			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	現在の京都は、18世紀末の天明の大火以後の姿であり、京都の伝統産業は何度も途切れているのが現状です。さらに、明治維新以降、首都機能が東京に移ったことで、京都の伝統産業界は様々な形で近代化に直面します。以上の点から、今日、日本の伝統産業の源とまで評されるようになった、京都の伝統産業が中断と継続を繰り返すなかで、どのような対応をとってきたのかについて考えていきます。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 主要な京都の伝統産業の知識を得ることができる。 2) 京都の伝統産業の文化的背景、製造工程、今日的課題を知り、語るができる。 3) 伝統産業の近代化に尽力した人物や組織の知識を得ることができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	特に指定しません。授業内で資料を配付します。								
参 考 書	授業内で指示します。								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートはコメントを付けて返却します。								
留 意 事 項	取り上げる伝統産業について、できる限り先入観を排して吸収するように努めてください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室の日時を貼付するので確認してください。								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の進め方について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業のまとめをしておく。	
第2回	創造された京都	(学修内容) 天明の大火後の京都の景観を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。	
第3回	京都の近代化 琵琶湖疏水事業	(学修内容) 琵琶湖疏水事業について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 琵琶湖疏水について、事前に配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。	
第4回	京都の近代化ー疏水事業と電力産業	(学修内容) 京都で行われた電力産業について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。	
第5回	京都の近代化 疏水と京都の人々	(学修内容) 疏水が京都の人々にもたらした影響を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。	
第6回	京焼・清水焼 誕生と変遷	(学修内容) 京焼・清水焼の誕生と歴史の変遷を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 京焼・清水焼について事前に配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。	
第7回	京焼・清水焼 芸術としての京焼・清水焼	(学修内容) 海外で評価された京焼・清水焼について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。	
第8回	京焼・清水焼 戦時下の窯業	(学修内容) 戦時中(第2次世界大戦)の京焼・清水焼の実態について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。	
第9回	京都の茶産業 茶の伝来	(学修内容) 茶の伝来と歴史の変遷を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 京都と茶について事前に配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。	
第10回	京都の茶産業 喫茶文化	(学修内容) 喫茶文化を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。	
第11回	京都の茶産業 宇治茶の栽培	(学修内容) 宇治と茶栽培を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。課題を出すので小レポートを作成する。	
第12回	京都の茶産業 現代の茶文化	(学修内容) 現代の抹茶ブームを学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。課題の小レポートを提出する。	
第13回	京都と菓子産業 菓子の伝来	(学修内容) 菓子の歴史と京菓子の誕生について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 和菓子について、事前に配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。	
第14回	京都の菓子産業 現代の京菓子	(学修内容) 京都の和菓子文化について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。	
第15回	授業の総括	(学修内容) 授業全体の振り返りを行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業のまとめをしておく。	

授 業 名	日本の文学と心			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	IC2213
英 文 名	Japanese Literature and Mind			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	土井 哲治			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	初の日本人ノーベル文学書受賞者である川端康成の、西欧文学との大きな違いを意識した授賞式の講演、「美しい日本の私 - その序章 - 」を味読しながら、川端康成が西欧の人々に伝えたかった、日本文学に描かれた日本人の心について考察し、それを手がかりとして各自の知見を深める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1. 日本文学が伝統的に取り扱ってきた、日本人の心について、いくつか語るができる。 2. 特に西洋との違いに留意して、日本文学の扱う日本人の心について、初歩的な説明ができる。 3. 過去の日本文学の作品が、現代日本文化へ影響したことについて、数事例具体的に紹介することができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	ネット上に公開されているものを使用する。各自入手して、授業時に持参すること。								
参 考 書	授業内容に応じて随時紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	口頭のもの随時対応する。レポートはコメントして返却する。								
留 意 事 項	授業時に発言を求めるとのこと。準備をしておくこと。 次の授業で発言を求めるとのことについては、毎回解説する。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎回の授業終了後								
実践的教育									

授業名	日本の文学と心	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	導入と短大近辺の文学事跡の紹介	(学修内容) 授業の概要と進め方について解説する。 近辺の文学事跡を紹介する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 川端康成についてよく調べてくる。
第2回	「道元と明恵の和歌」のところを読む	(学修内容) 講演の冒頭箇所を精読し、川端康成が何を言いたいのかを考察する。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 明恵について少し詳しく調べておく。 「本来の面目」という語をよく理解しておく。
第3回	「雪月花の時、最も友を思う」のところを読む	(学修内容) 続きの部分を精読し、雪見、月見、花見について考察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 雪見、月見、花見の歴史について調べてくる。
第4回	「良寛の和歌」のところを読む	(学修内容) 次の部分の論理展開を十分考慮しながら精読し、川端康成の意図を考察する。 (事前事後学修課題の内容) (120分) 良寛について少し詳しく調べておく。 ここまでの論旨を考察する。
第5回	和顔愛語について ここまでの論旨について討議	(学修内容) 良寛の「和顔愛語」を味読する。 川端康成がまず何を伝えようとしたのかを討議して確認する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の課題を熟考し、自分の考えをまとめておく。
第6回	「末期の目」のところを読む	(学修内容) 「末期の目」のところを精読し、ここまでの部分との関係を考察する。 (事前事後学修課題の内容) (120分) 芥川龍之介『或旧友へ送る手記』を読んでくる。
第7回	「一休の詩偈」のところを読む	(学修内容) 取り上げられている一休の詩偈を十分理解して精読し、前回のところとの関係を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 一休について十分調べておく。
第8回	「魔界」について	(学修内容) 日本文学に描かれた「魔界」と川端康成の「魔界」について解説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 仏教用語の「魔界」について十分調べてくる。
第9回	作庭、華道、茶道のところを読む	(学修内容) 作庭、華道、茶道に関する必要事項を解説しながら精読し、川端康成が言いたかったことを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (120分) 池坊専応と作庭の歴史について調べておく。
第10回	王朝文学のところを読む	(学修内容) 王朝文学に言及している箇所を精読し、冒頭で言っていたこととの論理的な整合性を吟味する。 (事前事後学修課題の内容) (120分) 王朝文学の大まかな全体像を把握してくる。 前半との整合性について考察する。
第11回	和歌の移り変わりのところを読む 曖昧とも矛盾とも指摘されている前半との関係について討議	(学修内容) 和歌の変遷を解説しながら味読する。 前半と王朝文学への言及以降の内容との整合性を討議して確認する。 (事前事後学修課題の内容) (120分) 和歌の歴史を大まかに調べておく。 授業内容を踏まえ前回の課題を再考し、自分の考えをまとめておく。
第12回	「西行の和歌」のところを読む	(学修内容) 西行の和歌を引用しながら川端康成が何を伝えようとしたのかを、精読して理解する。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 西行について十分調べておく。
第13回	「虚無」「虚空」のところを読む	(学修内容) 最後の箇所を精読して、川端康成が全体として何を言わんとしたのかを考察する手がかりとする。 (事前事後学修課題の内容) (120分) この講演の全体の趣旨について考え始める。
第14回	エドワード・ジョージ・サイデンステッカー、ドナルド・ローレンス・キーンとアーサー・ウェイリーについて	(学修内容) この講演の翻訳者であるサイデンステッカー以下、日本文学の西欧紹介の三人について解説する。 (事前事後学修課題の内容) (120分) 前回の課題を継続する。オフィスアワーを利用して質問できるようにしておく。
第15回	全体についての討議とまとめ	(学修内容) この講演の全体の趣旨について討議の上、確認する。 (事前事後学修課題の内容) (120分) この講演の全体の趣旨についての考察を発表できるようにまとめておく。

授 業 名	華道・茶道・香道体験			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	IC2411
英 文 名	Japanese Flower Arrangement, Tea Ceremony, and Incense Ceremony			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	工藤 美和子			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	華道・茶道・香道は、仏教伝来とともに日本に伝わって以降、日本の風土や文化と習合しながら時代とともに展開していった。本講義では、華道・茶道・香道の歴史の変遷を学ぶことにより、日本文化への理解を深める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	華道・茶道・香道の伝統文化について見識を深めるとともに、感性を育むことができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解							汎用的技能
		態度・志向性							総合的な学習経験と創造的思考力
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク	ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）	グループワーク I C T活用（自主学習支援）	プレゼンテーション					
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	特に指定しない。授業内で資料を配付します。								
参 考 書	授業内で紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートはコメントをつけて返却します。								
留 意 事 項	体験授業を2回予定しています。真摯な態度でのぞんでください。また、授業の内容に関する展覧会や体験会なども紹介します。興味関心のある方は積極的に参加してください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付するので確認してください。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	華道・茶道・香道体験	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	華道 仏教と供花	(学修内容) 仏教と華の関係を知る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料に目を通し、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第2回	華道の歴史 室町時代	(学修内容) 室町時代に成立する華道の歴史変遷について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料に目を通し、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第3回	華道の歴史 戦国時代	(学修内容) 戦国時代の華道の歴史変遷について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料に目を通し、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第4回	立花の大成	(学修内容) 立花について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料に目を通し、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第5回	生花の成立と展開	(学修内容) 生花の成立と展開について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料に目を通し、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第6回	茶の伝来 奈良時代	(学修内容) 茶の伝来とその効能の歴史について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料に目を通し、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第7回	茶道の歴史 平安・鎌倉時代	(学修内容) 平安時代から鎌倉時代の茶の歴史について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料に目を通し、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第8回	茶道の歴史 室町時代と闘茶	(学修内容) 室町時代に流行した闘茶を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料に目を通し、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第9回	茶の湯の発展 村田珠光から千利休へ	(学修内容) 村田珠光・千利休が弘めた茶の湯を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料に目を通し、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第10回	学外授業 闘茶体験	(学修内容) 闘茶体験を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 学外授業について小レポートを作成し担当教員に提出すること。
第11回	香と宗教	(学修内容) 香が仏教・キリスト教・イスラム教など様々な宗教で必要とされる理由について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料に目を通し、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第12回	香の伝来	(学修内容) 日本に伝来した香について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料に目を通し、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第13回	香の種類と効能	(学修内容) 香木や香料の知識とその効能について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料に目を通し、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第14回	古典文学にみる香	(学修内容) 『枕草子』や『源氏物語』に登場する香の表現や意味について知る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料に目を通し、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第15回	学外授業 香道体験	(学修内容) 香道体験を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 学外授業について小レポートを作成し担当教員に提出すること。

授 業 名	和食文化体験			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	IC2410
英 文 名	Washoku Experience (Japanese Food Culture)			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	塩田 二三子			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	平成25年、「和食；日本人の伝統的な食文化」は、ユネスコの人類の無形文化遺産に登録された。その「和食」とは、料理そのものではなく、「自然を尊ぶ」という日本人の気質に基づいた「食」に関する「習わし」を文化と位置付けることで登録されている。1回生時には「健康と食の文化」において、この「和食文化」の健康的意義を中心に話を進めてきた。本授業では、ビデオや資料を見たり、実物に触れることで「和食文化」を体感してもらいたい。また、理解を深めることを目的として、適宜、グループワークも行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・和食文化の特徴を理解し、説明できる。 ・自分の地元の郷土料理を知り、人に伝えることができる。 ・和食文化に興味を持ち、守り、次世代へつなげていこうと思える。 								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	特に使用しない。適宜プリントを配布する。								
参 考 書	授業中に例示する。								
課題に対する フィードバック の方法	添削後返却する。								
留 意 事 項	受講人数や時間割によっては内容を変更します。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回の授業で連絡します。								
実践的教育									

授 業 名		和食文化体験
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の進め方、「健康と食の文化」の復習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 「健康と食の文化」の授業内容を振り返っておく
第2回	和食文化と水	(学修内容) 和食文化に大きく影響を及ぼす水について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 水が食文化とどう関係するか考えておく
第3回	お茶について	(学修内容) お茶の種類や歴史、淹れ方について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) お茶にはどんな種類があるか調べてくる
第4回	京の食文化ミュージアム：あじわい館 見学	(学修内容) 京の食文化ミュージアム：あじわい館を見学し、京都の食文化について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) あじわい館について調べておく
第5回	行事食 1 (亥の子餅)	(学修内容) 亥の子餅について、そのいわれや作り方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 行事食にはどんなものがあるか調べてみる
第6回	伝統野菜について	(学修内容) 京の伝統野菜について、その種類や栄養価、利用例を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の出身地の伝統野菜について調べてみる
第7回	漬物について	(学修内容) 京の三大漬物を中心に、その種類と製法、栄養学的価値等について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 京の三大漬物とは何か調べてくる
第8回	おばんざいについて	(学修内容) 京のおばんざいとはどのようなものかその優れた点等を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 京のおばんざいとして思いつくものをいくつか考えておく
第9回	調味料について 1 (塩・砂糖)	(学修内容) 和食を支える調味料についてその種類や製法を学ぶ 1回目は塩・砂糖を中心に (事前事後学修課題の内容) (30分) 砂糖の種類を調べてくる
第10回	調味料について 2 (発酵調味料)	(学修内容) 和食を支える調味料についてその種類や製法を学ぶ 2回目は発酵を利用した調味料について (事前事後学修課題の内容) (30分) 発酵を利用して得られる調味料にはどのようなものがあるか調べてくる
第11回	だしについて	(学修内容) だし汁の種類や特徴、そのとり方について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 1回生時の科目「健康と食の文化」の「だしの文化」を復習しておくこと
第12回	郷土料理 1 (調べてみよう)	(学修内容) 自分の出身地の郷土料理について調べる (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の出身地にどのような伝統食品があるか調べてくる
第13回	行事食 2 (正月料理)	(学修内容) 雑煮、三種肴を中心に、その意味や作り方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の家での正月の食事についてまとめておく
第14回	郷土料理 2 (発表)	(学修内容) それぞれ自分の出身地の伝統食品や郷土料理について発表する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) できれば写真などの資料を集めるなど発表の準備をしておく
第15回	まとめ	(学修内容) 和食文化継承の課題について考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 今、なぜ、和食文化の継承に危機感がもたれているのか考えておく

授 業 名	英語で学ぶ日本文化			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	IC2407
英 文 名	Japanese Culture in English			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	松尾 章子			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	海外から日本を訪れる人々が増える中、英語の需要もますます高まっています。日本を訪れる人々に日本の文化を紹介して理解してもらえよう、日本の慣習や文化、日本食、スポーツや歴史など幅広いトピックを英語で取り上げ、理解を深めます。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 日本を訪れる外国人がよくする質問に、英語で5つ以上答えられる。 2) 興味のあるトピックを1つ選び、英語で簡単に説明することができる。 3) 指定された進出単語を半分以上書くことができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ()		プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	ロッキー・トーマス著 『英語で読む外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史』 東京書籍 1,440円+税								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	テストや提出物については、テスト終了時や返却時に解説を行う。								
留 意 事 項	積極的な授業参加を期待します。 提出物は期日に間に合うように提出してください。 遅刻・欠席により授業内テストを受けられなかった場合、次回授業時間前までに限り追試験を受けることができます。 ただし、点数の上限は8割とします。提出物についても、同じく次回授業時間前まで受け付けます。 30分までの遅刻は0.5回分の欠席扱い、30分以上の遅刻については欠席扱いとします。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。								
実 践 的 教 育									

授業名	英語で学ぶ日本文化	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の進め方・到達目標の説明 効果的な学習プランを立てる。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 事前: シラバスを読む。
第2回	1 世界都市への発展: 江戸から東京へ	(学修内容) 第1章の内容理解と練習 (事前事後学修課題の内容)(40分) 事前: 1の予習(勉強方法は授業での説明に準ずる) 事後: 1の復習(復習方法は授業での説明に準ずる)
第3回	2 誉れ高い日本の武士: 侍	(学修内容) 第2章の内容理解と練習 (事前事後学修課題の内容)(40分) 事前: 2の予習(勉強方法は授業での説明に準ずる) 事後: 2の復習(復習方法は授業での説明に準ずる)
第4回	3 日本の雅な象徴: 着物	(学修内容) 第3章の内容理解と練習 (事前事後学修課題の内容)(40分) 事前: 3の予習(勉強方法は授業での説明に準ずる) 事後: 3の復習(復習方法は授業での説明に準ずる)
第5回	4 かつてのポップカルチャー: 歌舞伎	(学修内容) 第4章の内容理解と練習 (事前事後学修課題の内容)(40分) 事前: 4の予習(勉強方法は授業での説明に準ずる) 事後: 4の復習(復習方法は授業での説明に準ずる)
第6回	5 思いスポーツ: 相撲	(学修内容) 第5章の内容理解と練習 (事前事後学修課題の内容)(40分) 事前: 5の予習(勉強方法は授業での説明に準ずる) 事後: 5の復習(復習方法は授業での説明に準ずる)
第7回	6 弾丸列車: 新幹線	(学修内容) 第6章の内容理解と練習 (事前事後学修課題の内容)(40分) 事前: 6の予習(勉強方法は授業での説明に準ずる) 事後: 6の復習(復習方法は授業での説明に準ずる)
第8回	7 日本初の世界の物語: 漫画	(学修内容) 第7章の内容理解と練習 (事前事後学修課題の内容)(40分) 事前: 7の予習(勉強方法は授業での説明に準ずる) 事後: 7の復習(復習方法は授業での説明に準ずる)
第9回	8 日本を世界に知らしめた: 美術と工芸	(学修内容) 第8章の内容理解と練習 (事前事後学修課題の内容)(40分) 事前: 8の予習(勉強方法は授業での説明に準ずる) 事後: 8の復習(復習方法は授業での説明に準ずる)
第10回	9 動く芸術: 映画	(学修内容) 第9章の内容理解と練習 (事前事後学修課題の内容)(40分) 事前: 9の予習(勉強方法は授業での説明に準ずる) 事後: 9の復習(復習方法は授業での説明に準ずる)
第11回	10 コスプレの聖地: 秋葉原	(学修内容) 第10章の内容理解と練習 (事前事後学修課題の内容)(40分) 事前: 10の予習(勉強方法は授業での説明に準ずる) 事後: 10の復習(復習方法は授業での説明に準ずる)
第12回	プレゼンテーション	(学修内容) テキストから一つテーマを選びプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前: プレゼンテーションの準備 事後: 振り返り
第13回	17 日本の鼓動: 京都	(学修内容) 第17章の内容理解と練習 (事前事後学修課題の内容)(40分) 事前: 17の予習(勉強方法は授業での説明に準ずる) 事後: 17の復習(復習方法は授業での説明に準ずる)
第14回	20 丼ぶり一杯の幸せ: 日本の麺文化: 麺類	(学修内容) 第20章の内容理解と練習 (事前事後学修課題の内容)(40分) 事前: 20の予習(勉強方法は授業での説明に準ずる) 事後: 20の復習(復習方法は授業での説明に準ずる)
第15回	29 タイで王となった日本人: 山田長政	(学修内容) 第29章の内容理解と練習 (事前事後学修課題の内容)(40分) 事前: 29の予習(勉強方法は授業での説明に準ずる) 事後: 29の復習(復習方法は授業での説明に準ずる)

授業名	装いの文化			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	IC2221
英文名	Clothing Culture			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	馬場 まみ			対象学生	総合文化2回生				
授業の概要	人々の装いは、時代により、また地域により多様に変化してきた。本講義では、日本と西洋の女性の装いの変化と現代の服飾文化をみていく。理解を深めるために、適宜映像を鑑賞し、ディスカッションを行う。								
学修成果到達目標	1. 日本の服飾文化の変化を理解することができる。 2. 西洋の服飾文化について理解することができる。 3. 現代の装いの文化について説明することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テキスト	使用しない。								
参考書	随時指示する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。								
留意事項									
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く)設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。								
実践的教育									

授 業 名		装いの文化	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	科目ガイダンス	(学修内容) 講義内容と授業の進め方について (事前事後学修課題の内容) (10分) シラバスを読んでおく	
第2回	平安時代の装い：貴族の装い	(学修内容) 平安時代の身分階級と貴族の装いについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく。	
第3回	平安時代の装い：文様と色彩	(学修内容) 平安時代時代の装いと文様・色彩について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく。	
第4回	江戸時代の装い：女性の装い	(学修内容) 衣装比べと奢侈禁止令について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく。	
第5回	江戸時代の装い：きものの文様と色彩	(学修内容) 女性の装いときものの文様と色彩について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく。	
第6回	江戸時代の装い：きもの・帯・化粧	(学修内容) 女性の装いときもの・帯・化粧について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく。	
第7回	近代の装い：洋服と和服	(学修内容) 洋服の導入と和服の装いについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく。	
第8回	近代の装い：和服の装い	(学修内容) 近代的な和服の展開について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく。	
第9回	近代の装い：和服文様の近代化	(学修内容) 近代的な和服文様について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく。	
第10回	現代の装い：和服	(学修内容) 現代の和服産業について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく。	
第11回	西洋のファッション：近代的洋服の成立	(学修内容) 近代的な洋服の成立過程について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく。	
第12回	西洋のファッション：シャネル	(学修内容) シャネルの生涯とファッションについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく。	
第13回	西洋のファッション：戦後の装い	(学修内容) 戦後ファッションの変化と特徴について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく。	
第14回	西洋のファッション：ディオール	(学修内容) ディオールのファッションについて 映像を鑑賞してディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく。	
第15回	現代の装いの文化	(学修内容) 現代の装いの文化と課題について (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの講義内容を振り返る。	

授 業 名	ものづくりの文化			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	IC2215
英 文 名	Manufacturing Culture			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	工藤 美和子			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	本講義では「ものづくり」を生活においてしようされる道具類のうち、材料・技巧・意匠によって美的効果を備えた物品・およびその製作として定義し、18世紀の産業革命から21世紀の現代にいたるまで、ものづくりへの思想や活動、実際に製作された製品の様式美や生産者の想いについて学んでいく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	「ものづくり」という言葉の意味を考えることができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (80%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	特に指定しません。授業内で資料を配付します。								
参 考 書	授業内で紹介します。								
課題に対するフィードバックの方法	レポートにはコメントを付けて返却します。								
留 意 事 項	博物館や資料館など、授業に関する内容の展示会などが開催されたならば、各自興味関心をもってできるだけ足を運んでください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に日時を貼付するので確認してください。								
実践的教育									

授業名	ものづくりの文化	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	「ものづくり」とは何か	(学修内容)「ものづくり」の定義について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第2回	中世ヨーロッパの職業意識と仕事	(学修内容)今村仁司『仕事』より、産業革命以前の職業観や生産された製品(工芸品)に対する中世の思想を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第3回	産業革命と資本主義	(学修内容)産業革命誕生の背景と資本主義とは何かを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第4回	資本主義下におけるものづくり	(学修内容)資本主義経済のもとに行われる生産活動のメリットとデメリットについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第5回	ルナ・ソサエティとウェッジウッド	(学修内容)ルナ・ソサエティの誕生とその活動を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第6回	ジョン・ラスキン 人間性の細分化	(学修内容)ジョン・ラスキンが提唱した資本主義による労働と製品(工芸)生産への弊害を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第7回	アーツ・アンド・クラフト運動の誕生	(学修内容)アーツ・アンド・クラフト運動が結成された背景を知る。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第8回	アーツ・アンド・クラフト運動とウィリアム・モリス	(学修内容)アーツ・アンド・クラフト運動の提唱者の1人ウィリアム・モリスの工芸と美術観を学ぶとともに、ヨーロッパに広がる運動の様相を探る。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第9回	アーツ・アンド・クラフト運動の影響 アール・ヌーヴォーの誕生とその造形	(学修内容)アール・ヌーヴォー(新しい芸術)の誕生と特徴を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第10回	バウハウス その誕生と背景	(学修内容)バウハウスが誕生した背景を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第11回	バウハウス 合理主義かつ機能主義への挑戦	(学修内容)バウハウスとモダンについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第12回	バウハウスの影響	(学修内容)現代社会の製品(工芸)に与え続けるバウハウスの影響を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第13回	柳宗悦と民藝運動	(学修内容)ウィリアム・モリスの思想に共鳴した柳宗悦の民藝運動思想を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第14回	現代工業製品にみる「用の美」	(学修内容)柳宗理が提唱した「用の美」について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第15回	授業の総括	(学修内容)授業の振り返りを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。

授 業 名	アジアの文化			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	IC2220
英 文 名	Asian Culture			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	伊藤 茂樹			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	アジアの文化を学びます。私たちの日本は、東アジアに位置しています。まわりが海に囲まれた島国日本も、アジア各国の様々な文化が伝来しています。アジアの文化を学びます。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) アジアの文化の意義を考える。 2) 文化交流史を理解する。 3) アジア文化における日本の地位を理解する。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	必要に応じてプリントで配布します。								
参 考 書	必要に応じてプリントを配布します。								
課題に対するフィードバックの方法	作成したレジュメにコメントや訂正を加える。また、フィールドワークでは適宜補足や説明を行う								
留 意 事 項	わからない事は積極的に質問してください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	後日研究室の扉に掲示します。								
実践的教育									

授業名	アジアの文化	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション（アジアの文化とは何か？）	（学修内容）アジアの文化とは何かを概説します。また今後の学習のあり方を説明します。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 授業の内容をまとめる
第2回	正倉院を学ぶ	（学修内容）正倉院は、聖武天皇や光明皇后の遺品が多くおさめられているのですが、ここにはアジア各地の文物がみえます。正倉院について概説します。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 授業の内容を整理し、関心のあることを探してください。
第3回	正倉院の宝物	（学修内容）正倉院には、アジア各国の文物が伝来しています。具体的にどのようなものが残っているのが学びます。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 授業の内容を整理してください。
第4回	フィールドワーク（事前授業）	（学修内容）次週フィールドワークを行うにあたって、正倉院を自分で調べてもらいます。関心のあるところを探し出し、発表してもらいます。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 発表した内容をまとめて提出してもらいます。
第5回	フィールドワーク	（学修内容）正倉院展に行きます。 （事前事後学修課題の内容）（60分） フィールドワークで見つけたことや感じたことをまとめてください。
第6回	フィールドワーク（事後学習）	（学修内容）正倉院展を見学して、発見したことや関心の持ったことをあらためて発表してもらいます。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 発表した内容を確認し、レポートで提出してもらいます。
第7回	シルクロードを学ぶ	（学修内容）シルクロードを通り中国へは様々な文化が伝来しました。シルクロードを通じた文化交流史を学びます。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 講義の内容を整理してもらいます。
第8回	シルクロードを学ぶ	（学修内容）シルクロードを通り、中国へは様々な文化が伝来しました。宗教文化も重要なものです。シルクロードを通じた宗教文化を学びます。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 講義で関心のあるところをまとめて調べて下さい。
第9回	フィールドワーク	（学修内容）国立歴史民族博物館へ行きます （事前事後学修課題の内容）（60分） フィールドワークで見つけたことや、感じたことをまとめてください。
第10回	呉越国の文化	（学修内容）東アジアに広まる文化は、銭弘俶の呉越国が大きな影響を持ちます。呉越国の文化を学びます。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 講義の内容をまとめてください。
第11回	呉越国の文化	（学修内容）東アジアに広まる文化は、銭弘俶の呉越国が大きな影響を持ちました。東アジアに流れる呉越文化を文化交流史から学びます。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 講義の内容をまとめてください。
第12回	フィールドワーク	（学修内容）東アジア交流史からみる中国文化の伝来。アジアの文化が色濃くみえる場所へフィールドワーク行きます。 （事前事後学修課題の内容）（60分） フィールドワークで見つけたことや、感じたことをまとめてください。
第13回	中村元『シナ人の思惟方法』を読む	（学修内容）『シナ人の思惟方法』を読んで、中国人の思惟方法を学びます。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 読んだ箇所をまとめてください。
第14回	中村元『韓国人の思惟方法』、『日本人の思惟方法』を読む	（学修内容）『韓国人の思惟方法』『日本人の思惟方法』を読んで、韓国人・日本人の思惟方法を学びます。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 読んだ箇所をまとめてください。
第15回	まとめ	（学修内容）アジア文化を総合的に考え、まとめてもらいます。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 関心のあることをまとめてレポートで提出してもらいます。

授 業 名	日本の伝統芸能と大衆文化			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	IC2214
英 文 名	Traditional Performance Art and Popular Culture in Japan			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	工藤 美和子			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	日本の伝統芸能について、説教・念仏踊り・祝福芸能・落語など仏教芸能を題材に、その成立と発展過程を考察する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	(1) 日本の芸能の歴史をたどりながらその特質を考察することができる。 (2) 説教・念仏踊り・祝福芸能・落語など仏教が生み出した様々な芸能の歴史的流れを理解することができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	特に指定しません。授業内で資料を配付します。								
参 考 書	授業内で紹介します。								
課題に対するフィードバックの方法	レポートにはコメントをつけて返却します。								
留 意 事 項	授業に関する芸能の開催について紹介します。興味関心のある方はできるだけ足を運んで伝統芸能を見聞してください。外部講師による講演は、講師の諸事情によって変更等が生じる場合があります、ご了承ください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に日時を貼付ので確認してください。								
実践的教育									

授 業 名	日本の伝統芸能と大衆文化	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の進め方や成績評価について説明する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容を各自ノートにまとめる。
第2回	仏教と歌	(学修内容) 御詠歌・和讃・歌念仏と歌比丘尼について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容を各自ノートにまとめる。
第3回	説教の歴史	(学修内容) インド・中国・日本の説教の歴史と何が語られたのかを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容を各自ノートにまとめる。
第4回	節談説教	(学修内容) 節談説教とは何かを学び、その型や芸能性について考察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容を各自ノートにまとめる。
第5回	仏教と踊り 念仏踊り	(学修内容) 日本各地に伝わる念仏踊りを知る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容を各自ノートにまとめる。
第6回	京都と六斎念仏	(学修内容) 念仏踊りの1つで京都に現在でも伝わる六斎念仏について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容を各自ノートにまとめる。
第7回	祝福芸能	(学修内容) 祝福芸能とは何かを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容を各自ノートにまとめる。
第8回	祝福芸能 傀儡子と『傀儡子記』	(学修内容) 平安時代に書かれた『傀儡子記』を資料に傀儡子の役割を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容を各自ノートにまとめる。
第9回	祝福芸能 来訪神	(学修内容) 日本各地の来訪神を知り、その共通点や異なるところは何かを考察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容を各自ノートにまとめる。
第10回	外部講師による授業	(学修内容) 外部講師を招き講演および実演。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容を各自ノートにまとめる。
第11回	仏教と講談 「太平記読み」	(学修内容) 講談の誕生と「太平記読み」について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容を各自ノートにまとめる。
第12回	仏教と落語 安楽庵策伝と『醒睡笑』	(学修内容) 落語の祖・安楽庵策伝の生涯と著作『醒睡笑』から現在でも演じられている落語の元となった数話を紹介する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容を各自ノートにまとめる。
第13回	三遊亭円朝作『真景累ヶ淵』を読む	(学修内容) 三遊亭円朝が創作した怪談噺とその1つ『真景累ヶ淵』の内容を知り、なぜ怪談噺が生まれたのかを考察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容を各自ノートにまとめる。
第14回	『真景累ヶ淵』にみる人々の願い	(学修内容) 怪談噺『真景累ヶ淵』の幽霊の姿にみる因果の教えと当時の人々が受容した仏教思想を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容を各自ノートにまとめる。
第15回	授業の総括	(学修内容) 授業の振り返りを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容を各自ノートにまとめる。

授 業 名	人物史			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	IC2219
英 文 名	History of Great People			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	新矢 昌昭			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	本講義では、主として人物の思想について考えたい。彼らは、どのように時代と格闘したのかについて、その思想から、その人物の目指した理想や理念を考え、また現代社会に生きる我々が何を学ぶのかについても、常に考えていきたい。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 現代に生きるわれわれにとって、取り上げた人物から彼らの時代的な意義を掴むことができる 2) 時代と人物との関係を把握することができる 3) 人物と思想を考える								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (85 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (15 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	使用しない。史料を配布する								
参 考 書	講義中に指摘する								
課題に対する フィードバック の方法	配布史料に関する解説、学生への考えにコメントを加える								
留 意 事 項	わからない箇所は、講義後に聞くこと								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室の扉に掲示する								
実践的教育									

授業名	人物史	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 人物史とは何か (事前事後学修課題の内容) (30分) 自身の好きな歴史的人物について調べておく
第2回	人物史の方法	(学修内容) 人物から歴史、社会を考える (事前事後学修課題の内容) (60分) どのような人物が主として取り上げられているのかを高校の教科書から調べておく
第3回	足利義教ーくじ引き將軍	(学修内容) くじ引き將軍の目指したもの (事前事後学修課題の内容) (30分) 義教についての基礎的な理解をしておく
第4回	足利義教ー恐怖政治の思想	(学修内容) 恐怖政治の思想 (事前事後学修課題の内容) (60分) 歴史的な恐怖政治の共通項について考えておく
第5回	織田信長の思想	(学修内容) 信長の目指したもの (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布史料を読み、信長の人物像を自身で描く
第6回	明智光秀と本能寺の変ー黒幕の存在	(学修内容) 信長を殺しを巡る疑わしい人々 (事前事後学修課題の内容) (30分) 信長と明智光秀の関係の基礎的な理解をしておく
第7回	フィールドワーク 安土	(学修内容) 滋賀県立安土城考古博物館、安土城 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自身で安土に何を注目するのか、その注目した点について調べる
第8回	安土についての発表	(学修内容) フィールドワーク事後報告 (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自が設定したテーマについてレジュメを用
第9回	新撰組の思想	(学修内容) 芹沢鴨は本当に乱暴者なのか (事前事後学修課題の内容) (30分) 意幕末水戸藩についての理解しておく
第10回	残念さんー歴史の犠牲者	(学修内容) 水井精一と山本誠一郎 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布史料を解説しておく
第11回	夏目漱石の『こころ』の思想	(学修内容) DVD鑑賞 (事前事後学修課題の内容) (30分) 漱石について理解しておく
第12回	『こころ』についてのグループワーク	(学修内容) 『こころ』をみんなで考える (事前事後学修課題の内容) (60分) ワークシートに記入しておく
第13回	夏目漱石と近代社会	(学修内容) 漱石は近代日本をどのように見ていたのか (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料を読んでおく
第14回	夏目漱石と個人主義	(学修内容) 個人主義は可能か (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料を読んでおく
第15回	夏目漱石と現代	(学修内容) 現代社会と漱石 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料を読んでおく

授 業 名	情報メディアの活用			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	IC1211
英 文 名	Practical Use of Information and Media			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	堀出 雅人			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	<p>私たちの生活にいまや欠かすことができない携帯電話やスマートフォン。仕事や暮らしに関わる情報をいつでもどこでもインターネットを介して収集することが可能となりました。企業や自治体も、消費者や住民が求める情報、また周知が必要な情報を的確に伝えるために、ホームページやSNSを活用した広報活動に力を入れています。就職先として企業や自治体職員等を目指す上で、配属された部署での事業PRなどを周知するために、ホームページやSNSを使って広報する力は必須のものとなるでしょう。そこで本授業では、就職先で基本的な広報活動が担える力を育成することを目指します。具体的に、PCやスマートフォンを活用し、華頂生やオープンキャンパス参加者を対象に「総合文化学科での学び」を説明する資料の作成など具体的な課題に取り組みます。また授業中に、完成した課題を発表する機会を作ります。発表を通してプレゼンテーション力を伸ばします。以上を通して、受講生一人ひとりそれぞれの情報メディアの「活用」力を高めていきます。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>(1)情報メディアの特徴を説明することができる (2)情報メディアを活用したチラシや簡易新聞等を作成できる (3)仲間と協力して一つの目標に向かって活動できる (4)情報発信する際のルールやマナーが説明できる</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用（双方向型授業）		グループワーク I C T 活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テ キ ス ト	テキストはありません。各回に印刷資料の配布または必要事項を板書します。								
参 考 書	授業中に適宜指示します。								
課題に対するフィードバックの方法	提出を求めるコメントカードについては、後日、授業の際に講評したり、必要に応じてコメントを添えて返却します。グループワークで作成する各課題については適宜アドバイスを行います。事前に評価指標を伝え、その指標に則り、プレゼンテーションの回にチェックし、指導を行います。								
留 意 事 項	授業中盤から課題制作のためにグループワークを実施します。 課題制作上、学校備え付けのPCとは別に、各自の所持しているスマートフォンやタブレットPCを使用する場合があります。 配慮事項のある学生は事前に相談してください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業実施期間中の毎週水曜日のお昼休み								
実践的教育	実践的教育 教員の業務経験など：特定非営利活動法人学習開発研究所 所員として、E-Learninシステムの設計および運用に携わる。								

授業名	情報メディアの活用	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)「情報メディアの活用」の15回を通した目標と内容を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 シラバスを読んでくる 事後 授業の感想や要望をコメントカードに記入して次回に提出
第2回	情報メディアの特徴	(学修内容)情報の送信側と受信側、それぞれの立場から情報メディアの特徴を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前「情報メディア」の意味を辞書などで調べてくる 事後 情報の送受信の特徴をコメントカードにまとめ次回提出
第3回	インターネットを活用した広報	(学修内容)企業や自治体では消費者や地域住民に向けてホームページやSNSを活用した広報に力を入れている。具体的な例を挙げてその特徴を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 企業や自治体のホームページを1つずつ閲覧してくる 事後 授業で示された基準をもとに事前学習で調べたページをチェックする
第4回	ホームページ上での広報の特徴	(学修内容)企業や自治体の広報用ホームページの現在のおおよその構成を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 複数の企業や自治体のホームページを閲覧し比較してくる 事後 広報用ホームページの特徴をコメントカードにまとめ次回提出
第5回	SNS上での広報の特徴	(学修内容)現在、企業や自治体によるSNSを活用した広報の在り方を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 企業や自治体が行うSNS上の広報活動を調べてくる 事後 各SNSの特徴を生かした広報の在り方をコメントカードにまとめ次回提出
第6回	「炎上」等トラブルを防ぐために	(学修内容)著作権への抵触、不適切な画像・動画の拡散、攻撃的な記事のアップなど「炎上」の実際と防ぐためのチェック体制について説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 企業や自治体のネット上での広報における「炎上」事例を調べる 事後「炎上」回避する要点をコメントカードにまとめ次回提出
第7回	広報活動にチャレンジ	(学修内容)【グループワーク】本学の入試広報等を想定し、届けたい受信者の興味関心を意識して、記事作りのテーマを考え決めることができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 記事にするテーマを考えてくる 事後 グループワークで出た意見をもとに更に記事内容を検討してくる
第8回	広報用記事のフレーム決定	(学修内容)【グループワーク】メディアの特徴を意識した記事の構成を提案することができる。次回フィールドワークの目標設定し準備することができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 参考になる広報記事を探す 事後 フィールドワークに向けて下調べなど各自準備を整える
第9回	広報用記事の材料収集	(学修内容)【フィールドワーク】広報記事に掲載する材料を探すために大学近隣でフィールドワークに参加し成果を挙げることができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 記事作成のため必要な材料を事前にピックアップしておく 事後 フィールドワークを実施した反省をコメントカードにまとめ次回提出
第10回	収集した材料の加工	(学修内容)【グループワーク】フィールドワークで収集したデータを集約して、記事に掲載するデータを文字の挿入など適宜加工することができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 フィールドワークで収集した材料をできるようにデータを保管 事後 広報記事の内容を検討してくる
第11回	広報用記事の作成	(学修内容)【グループワーク】広報記事をグループ内で分担して作成することができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 グループ内で担当を割り振り、事前準備を進める 事後 プレゼンテーションに向けて、記事を完成させて発表の段取りを整える
第12回	完成した広報用記事の共有	(学修内容)【プレゼンテーション】グループごとに作成した広報用記事と工夫した点を紹介することができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 限られた時間の中でプレゼンするため、プレゼンの練習を前日までにやる 事後 プレゼンの反省をコメントカードにまとめ次回提出
第13回	広報用動画の編集	(学修内容)【グループワーク】フィールドワークで撮影した画像データをPCソフトやスマホアプリを活用しつなげ動画にすることができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 動画に掲載する画像を整理しておく 事後 次回の発表に向けて動画を完成させる
第14回	制作した広報用動画の発表	(学修内容)【プレゼンテーション】制作した広報用動画をグループごとにプレゼンすることができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 前日までに動画を完成、メンバーとプレゼンの練習をおこなう 事後 他のグループからのコメントを記録し最終レポートに反映させる
第15回	学修成果のふりかえり	(学修内容)情報メディアを活用した広報の意義と制作上の要点を説明することができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 授業を振り返りインターネットを活用した広報の要点を整理する 事後 最終レポートに向けて、他の受講生から出た意見を記録しておく

授業名	情報ビジネス演習 a・h			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	CS1106
英文名	Information Business Practice a			開講時期	秋学期		必修選択	必修	
担当者	佐藤 愛・谷口 永里子			対象学生	総合文化1回生				
授業の概要	現在、パーソナルコンピュータを介した記録や情報検索などが日常的におこなわれ必要不可欠となっている。コンピュータを用いた基本的な情報活用能力を習得するため、本科目では文章編集ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどの使い方や活用方法、インターネットを用いた情報検索などについての実習をおこなう。またインターネットや情報機器を使用するにあたっての注意事項についても併せて学習する。演習データの提供や提出はICTを活用して実施する。								
学修成果到達目標	1) Microsoft Wordによる文書入力・整形、図表の作成・挿入などの操作ができる 2) Microsoft Excelによるデータ入力、関数を用いた計算、グラフや表の作成・整形などができる 3) Microsoft PowerPointによるスライド作成、図表の挿入・整形などができる 4) インターネットリテラシーを習得し、インターネットやSNSを適切に利用できる 5) 課題解決のために必要な情報を探索し、分析・評価・整理、アウトプットができる								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	情報リテラシー教科書 Windows 10/Office 2016対応版(オーム社)								
参考書									
課題に対するフィードバックの方法	提出された制作物やプレゼンテーションについてはコメントを付けて返却します								
留意事項	情報処理室のパソコンで各自作業を行いますので、入学時に配布されたユーザーIDとパスワードを毎回必ず持参してください。 2回目以降はUSBメモリにデータを保存しますので、毎回USBメモリを持参してください。容量やメーカーは問いませんので各自で準備してください。 毎回の授業の内容は前回の授業内容をふまえたものであるため、欠席をしないように心がけること。								
オフィスアワー	授業初回にアナウンスします。 研究室前にも掲示しますので確認してください。								
実践的教育									

授業名	情報ビジネス演習 a・h	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション Windowsの基本操作 メールの基本操作 情報セキュリティ、モラル	(学修内容) 授業概要の説明, 情報処理室の使用手法, Gメールの送受信 アカウントの追加, 情報に関するリスク・対策・モラルについて (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバス、教科書第1章(1-3を除く)、第2章を読む 入学時に配布されたポータルサイトの冊子を読み持参
第2回	Word 1 (基本操作)	(学修内容) USBメモリ使用上の注意, Wordの開始、保存、終了 コピー & 貼り付け, ページ設定, 書式設定、文字カウント (事前事後学修課題の内容) (30分) USBメモリを購入し持参する, 教科書第1章1-3、第3章3-1、3-2を読む 第2回課題 (Word・書式設定をした文書) をメールに添付し提出
第3回	Word 2 (文書作成と整形)	(学修内容) 検索と置換, ヘッダーとフッター、ページ番号の挿入 インデントとTabキー、箇条書きなど (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第3章3-3、3-4を読む 第3回課題 (Word・Tabキーを使用した文書) をメールに添付し提出
第4回	Word 3 (図入りの文書の作成)	(学修内容) 図形、画像の作成、挿入, テキストの配置 Snipping Tool の使い方など (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第3章3-5を読む 第4回課題 (Word・図形や画像を使用した文書) をメールに添付し提出
第5回	Word 4 (表作成) 文献検索	(学修内容) 単純な表、複雑な表の作成 文献検索について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第3章3-5を読む, 第5回課題 (Word・表) を印刷し提出 文献検索より書籍を1冊選んで読み、次回持参
第6回	Word 5 (総復習)	(学修内容) 課題の作成 (レジメの作成) (事前事後学修課題の内容) (30分) 第6回課題 (Word・レジメ) をメールに添付し提出
第7回	Excel 1 (基本操作、関数)	(学修内容) セル、シート等、各画面の説明, データ入力 簡単な計算式など (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第4章4-1、4-2-1を読む 第7回課題 (Excel・セル番地を使用した計算) をメールに添付し提出
第8回	Excel 2 (関数)	(学修内容) 各種関数 (合計、平均、最大値・最小値、四捨五入、IF関数など) (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第4章4-2を読む 第8回課題 (Excel・関数を使用した計算) をメールに添付し提出
第9回	Excel 3 (表、グラフの作成)	(学修内容) 罫線、文字の配置、セルの挿入・削除・結合 棒、折線、円、複合などのグラフ, 印刷設定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第4章4-3、4-4、4-8を読む 第9回課題 (Excel、Word・グラフ) を印刷し提出
第10回	Excel 4 (既存データベースの利用)	(学修内容) e-Stat のデータを利用し、情報を分析評価し整理する (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第4章を復習し、レポート案を作成してくる
第11回	Excel 5 (総復習)	(学修内容) 前回の情報分析結果をレポートにまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 第11回課題 (e-Statデータを利用したレポート) をメールに添付し提出
第12回	PowerPoint 1 (基本操作)	(学修内容) スライドサイズの変更, スライドマスターの編集, 箇条書き インデント、Tabキーの使い方, 画像の加工、アニメーションの設定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第5章5-1、5-2、5-3を読む 第12回課題 (PowerPoint・画像加工) をメールに添付し提出
第13回	PowerPoint 2 (Word、Excelとの連携)	(学修内容) グラフ、表の作成, ノートの記入, 印刷設定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第5章5-7を読む 第13回課題 (PowerPoint・グラフ) を印刷し提出
第14回	PowerPoint 3 (総復習)	(学修内容) プレゼンテーション技法 最終プレゼンテーション用のスライドを作成 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第5章5-4、5-5、5-6を読む 発表用スライドを完成させ、メールに添付し提出
第15回	PowerPoint 4 (プレゼンテーション)	(学修内容) PowerPointを使ったプレゼンテーションの実際 (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表用原稿を作成する

授業名	現代文化			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	IC1205
英文名	Contemporary Culture			開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	富川 拓			対象学生	総合文化1回生				
授業の概要	<p>本授業では、現代文化の特徴について、様々な領域の具体的な事例を通して学びます。授業では、講義に加えてグループワーク・ディスカッション・フィールドワーク・発表を実施し、現代文化に対する理解を深めます。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 現代文化の特徴について理解する。 2) 自身と現代文化との関わり方を意識して考えられるようになる。 3) グループワーク・ディスカッション・フィールドワーク・発表などに主体的に取り組むことができるようになる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テキスト	特に指定しません。								
参考書	授業中に適宜指示します。								
課題に対するフィードバックの方法	グループワーク・ディスカッション・発表・授業中に課すレポートに対しては、講評を行います。								
留意事項	グループワーク・ディスカッション・フィールドワーク・発表などに主体的に取り組んでください。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育									

授業名	現代文化	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の概要、学修成果・到達目標、評価方法、授業計画等について (事前事後学修課題の内容) (20分) 事前にシラバスの内容を確認しておいてください。
第2回	メディア 1 マンガ、アニメ、映画等	(学修内容) メディアと現代文化について考えます。 マンガ、アニメ、映画等について (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習内容を復習し、用語等を覚えるようにしてください。
第3回	メディア 2 インターネット、SNS、スマホ等	(学修内容) 引き続き、メディアと現代文化について考えます。 インターネット、SNS、スマホ等について (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習内容を復習し、用語等を覚えるようにしてください。
第4回	ジェンダー 1 性別役割分業、異性愛主義等	(学修内容) ジェンダーと現代文化について考えます。 性別役割分業、異性愛主義等について (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習内容を復習し、用語等を覚えるようにしてください。
第5回	ジェンダー 2 男女共同参画等	(学修内容) 引き続き、ジェンダーと現代文化について考えます。 男女共同参画等について (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習内容を復習し、用語等を覚えるようにしてください。
第6回	恋愛・結婚・家族	(学修内容) 恋愛・結婚・家族と現代文化について考えます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習内容を復習し、用語等を覚えるようにしてください。
第7回	子ども、子育て・子育て	(学修内容) 子ども、子育て・子育てと現代文化について考えます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習内容を復習し、用語等を覚えるようにしてください。
第8回	仕事	(学修内容) 仕事と現代文化について考えます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習内容を復習し、用語等を覚えるようにしてください。
第9回	ボランティア	(学修内容) ボランティアと現代文化について考えます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習内容を復習し、用語等を覚えるようにしてください。
第10回	地域	(学修内容) 地域と現代文化について考えます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習内容を復習し、用語等を覚えるようにしてください。
第11回	フィールドワークの準備	(学修内容) 個人、グループでフィールドワークの準備。フィールドワークのスケジュール等をグループでディスカッションして検討。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 現地の情報等を各自で調べておいてください。
第12回	フィールドワーク 1 施設の見学等 1回目	(学修内容) フィールドワーク。施設の見学等。1回目 (事前事後学修課題の内容) (60分) フィールドノートの整理 1回目
第13回	フィールドワーク 2 施設の見学等 2回目	(学修内容) フィールドワーク。施設の見学等。2回目 (事前事後学修課題の内容) (60分) フィールドノートの整理 2回目
第14回	フィールドワークの振り返り	(学修内容) グループワークと発表 (事前事後学修課題の内容) (90分) 各自で振り返り(グループワークと発表)の準備をしておいてください。
第15回	現代文化 振り返りとまとめ	(学修内容) グループワークと発表 (事前事後学修課題の内容) (90分) 各自で振り返り(グループワークと発表)の準備をしておいてください。

授業名	表現文化			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	IC1206
英文名	Representation Culture			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	全 炳昊			対象学生	総合文化1回生				
授業の概要	現代文化は、独自のテーマや領域において様々な表現の「ツール」を介して現象する。多様な担い手によって拡散する現代文化の特徴を知るため、授業では多様なジャンルで展開する総合コンテンツとしての「韓流」という文化現象に注目する。韓流の歴史や展開過程、担い手間の相互関係から韓流が如何にグローバル化へ乗り出したのか、またその過程に内在している問題は何かを考察することで、現在進行形である韓流の「イマ」を探る。授業の導入としては、現代文化に対する理解とともに理論的考察を進め、続けて韓流の歴史や各ジャンル別の展開過程について見ていきたい。後半には、韓流をめぐる問題とともに、日韓両国の関係において韓流がどのような役割や機能を担うことができるのか、その可能性を図るため、韓国社会における日本文化（「日流」）の様子とその特徴についての考察を行う。								
学修成果到達目標	日常的で身近な文化現象の社会的背景や意味を知ることができる。 韓流の歴史と展開過程を通して、特定の文化現象が社会の中でどのような役割と機能を持っているのか、把握することができる。 韓流という文化現象の理解から、日韓関係の今後について考えることができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	特に指定しません。								
参考書	井上俊 編（2014）『現代文化を学ぶ人のために』世界思想社 クォン・ヨンソク（2010）『「韓流」と「日流」？文化から読み解く日韓新時代』NHKブックス								
課題に対するフィードバックの方法	メールにてコメントを行います。 postjeon@gmail.com								
留意事項	毎回の講義時に出されるワークシートは自分の言葉で作成し、必ず提出すること。								
オフィスアワー	講義時間前後に限って、控え室などに在室します。 他には、メールにて授業関連の相談などを行います。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：映画配給会社にて、日本語と韓国語の翻訳・通訳に関する企画および運用の統括として勤務。 企業と行政の現場における通訳業務に携わる。								

授業名	表現文化	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション・「みせもの」としての文化	(学修内容) 講義概要と進行の流れ なぜ、「韓流」に焦点を合わせているのか。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。
第2回	現代文化を考える - 「都市的」生活様式としての文化	(学修内容) 都市的な生活様式における現代文化の特徴 「都市的」であることの意味を知る。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。
第3回	現代文化を考える - 「消費する(される)」ものとしての文化	(学修内容) 「消費」の担い手は誰なのかを知る。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。
第4回	現代文化を考える - 「情報」を共有する手段としての文化	(学修内容) 私たちが求めているものとは何か。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。
第5回	文化研究の視点と方法 - いくつかの理論的アプローチ	(学修内容) 「カルチュラル・スタディーズ」と「言説分析」 「ジェンダー・スタディーズ」と「文化的再生産」 (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。
第6回	何が「表現」されるのか - 「韓流」の歴史と現状	(学修内容) 文化現象としての「韓流」の歴史と現状 (グループワークで韓流を自由に語る) (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。
第7回	何が「表現」されるのか - 戦略としての「韓流」と担い手	(学修内容) 商業戦略としての韓流から文化戦略へ ダイナミック・コリアの正体 / (GWの成果をプレゼンする) (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。
第8回	どのように「表現」されるのか - ドラマシーンにおける「韓流」	(学修内容) 「冬ソナ」から韓流「時代劇」ブームまで 韓流トレンド・ドラマ (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。
第9回	どのように「表現」されるのか - 映画シーンにおける「韓流」	(学修内容) 韓国映画産業の歴史と戦略 (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。
第10回	どのように「表現」されるのか - 音楽シーンにおける「韓流」	(学修内容) K-popの過去と現在 音楽が国境を越える時 (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。
第11回	どのように「表現」されるのか - 文学シーンにおける「韓流」	(学修内容) 韓国版「ハルキスト」たち 大型書店における「日本文学コーナー」の意味 (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。
第12回	今までの総括 - 「韓流」という文化現象の実像と虚像	(学修内容) 問題と今後を考える。 (グループワークで韓流を自由に語る) (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。
第13回	相反する「表現」のカタチ - 韓国社会における「日流」	(学修内容) 文学、アニメを中心とする「日流」の実像 (グループワークで韓流を自由に語る) (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。
第14回	相反する「表現」のカタチ - 「韓流」と「日流」の狭間で日韓関係を考える	(学修内容) それぞれの文化現象から「みえる」もの (グループワークで韓流を自由に語る) (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。
第15回	成果発表および総括	(学修内容) 身近な韓流との関わりから思うこと。 課題設定および報告会 / (GWの成果をプレゼンする) (事前事後学修課題の内容)(60分) 報告の準備をしておくこと。

授 業 名	現代スポーツ文化			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	IC1207
英 文 名	Contemporary Sport Culture			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	新矢 昌昭			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	スポーツは、身体、物質、精神など文化と密接な関係にあります。この講義では、スポーツがどのように文化に影響を与えたのかをスポーツの歴史を通して考えていきます。特に、オリンピックや近代スポーツに注目し現代文化との関係や問題を考えていきます。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 文化としてのスポーツを理解することができる 2) オリンピックの歴史や問題点などを理解することができる 3) 現代社会でのスポーツの意義を考えることができる								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (85 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (15 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	使用しない。プリントを配布する								
参 考 書	適宜紹介する								
課題に対する フィードバック の方法	配布資料についての解説、グループワーク発表などにコメントを加える								
留 意 事 項	配布資料は必ずよみ、自身でまとめておくこと。講義中に考えを求める。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室の扉に掲示する								
実 践 的 教 育									

授業名	現代スポーツ文化	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) この講義の進め方 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおく
第2回	スポーツとは何か	(学修内容) スポーツの定義 (事前事後学修課題の内容) (60分) スポーツに対するイメージを考えて、まとめておく
第3回	近代スポーツの誕生	(学修内容) 近代スポーツとは何か (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読んでおく
第4回	オリンピックとは	(学修内容) オリンピックの歴史 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読んでおく
第5回	近代オリンピックとは	(学修内容) 近代オリンピックの光と影 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読んでおく
第6回	ベルリンオリンピック	(学修内容) ヒトラーとオリンピック (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読んでおく
第7回	ベルリンオリンピックを見る	(学修内容) ベルリンオリンピックのDVD鑑賞 (事前事後学修課題の内容) (60分) 感想文を書く
第8回	オリンピックとナショナリズム	(学修内容) 国家とスポーツの関係 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読んでおく
第9回	オリンピックとナショナリズムについてのグループワーク	(学修内容) グループワーク (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回で学んだことについて自分の問題点としてまとめておく
第10回	現代社会の中のスポーツとプロ	(学修内容) 現代社会の中のスポーツの位置づけと職業としてのスポーツ (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読んでおく
第11回	スポーツとジェンダー	(学修内容) スポーツの中の男女 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読んでおく
第12回	プロ野球の歴史	(学修内容) 電鉄会社とプロ野球 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読んでおく
第13回	プロ野球とファン	(学修内容) ファンはどのようにできるのか (事前事後学修課題の内容) (60分) スポーツ新聞を読んでおく
第14回	アシックス スポーツミュージアム見学	(学修内容) アシックス スポーツミュージアムでスポーツについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) アシックス スポーツミュージアムのHPを読んでおく
第15回	まとめ	(学修内容) 全体のまとめ (事前事後学修課題の内容) (60分) アシックス スポーツミュージアムの感想文の提出

授業名	メディア文化史			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	IC1210
英文名	History of Media Culture			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	富川 拓			対象学生	総合文化1回生				
授業の概要	<p>本授業では、様々なメディア・メディア文化の歴史や現状、課題について、具体的な事例を通して学び、自身とメディアとの関わり方を意識して考えられるようになることを目標としています。</p> <p>授業では、講義に加えてグループワーク・ディスカッション・フィールドワーク・発表を実施し、メディア・メディア文化に対する理解を深めます。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 様々なメディア・メディア文化の特徴、現状と課題について学び、メディアリテラシーを身につける。</p> <p>2) 自身とメディアとの関わり方を意識して考えられるようになる。</p> <p>3) グループワーク、ディスカッション、発表、フィールドワークなどに主体的に取り組むことができるようになる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	特に指定しません。								
参考書	授業中に適宜指示します。								
課題に対するフィードバックの方法	グループワーク・ディスカッション・発表・授業中に課すレポートに対しては、講評を行います。								
留意事項	日頃からメディアに関心を持つようになしてください。 グループワーク・ディスカッション・フィールドワーク・発表などに主体的に取り組んでください。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育									

授業名	メディア文化史	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の概要、学修成果・到達目標、評価方法、授業計画等について (事前事後学修課題の内容) (20分) 事前にシラバスの内容を確認しておいてください。
第2回	メディア文化	(学修内容) メディア、社会、文化、メディア文化について (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習内容を復習し、用語等を覚えるようにしてください。
第3回	メディアの歴史 1 声、文字、印刷と書籍	(学修内容) 声、文字、印刷と書籍について。記号、コミュニケーションについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習内容を復習し、用語等を覚えるようにしてください。
第4回	メディアの歴史 2 新聞、電話、ラジオ、テレビ、インターネット、SNS、携帯電話、スマホ	(学修内容) 新聞、電話、ラジオ、テレビ、インターネット、SNS、携帯電話、スマホについて。メディアリテラシー、情報リテラシーについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習内容を復習し、用語等を覚えるようにしてください。
第5回	日本文化とメディア 1 マンガ、アニメ等	(学修内容) マンガ・アニメ・映画・ゲームについて。アニメ、映画等の聖地巡礼について (事前事後学修課題の内容) (60分) 日本のマンガ・アニメ・映画・ゲームについて事前に各自で調べてきてください。
第6回	日本文化とメディア 2 グループディスカッション	(学修内容) 日本文化とメディアについて、グループでディスカッションし、発表する (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自でディスカッション、発表の振り返りをしてください。
第7回	ジェンダーとメディア 1 性別役割分業、異性愛主義等	(学修内容) ジェンダー、性別役割分業、異性愛主義、男女共同参画について (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習内容を復習し、用語等を覚えるようにしてください。
第8回	ジェンダーとメディア 2 ジェンダー表象	(学修内容) メディアにおけるジェンダー表象について (事前事後学修課題の内容) (60分) 普段から接しているメディアにおけるジェンダー表象について、各自で調べ、分析してください。
第9回	子育て・教育とメディア	(学修内容) 子育て・教育とメディアとの関連、絵本や教科書について (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習内容を復習し、用語等を覚えるようにしてください。
第10回	フィールドワークの準備	(学修内容) 個人、グループでフィールドワークの準備。フィールドワークのスケジュール等をグループでディスカッションして検討。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 現地の情報等を各自で調べておいてください。
第11回	フィールドワーク 1 施設の見学等 1回目	(学修内容) フィールドワーク。施設の見学等。1回目 (事前事後学修課題の内容) (60分) フィールドノートの整理 1回目
第12回	フィールドワーク 2 施設の見学等 2回目	(学修内容) 引き続き、フィールドワーク。施設の見学等。2回目 (事前事後学修課題の内容) (60分) フィールドノートの整理 2回目
第13回	フィールドワーク 3 施設の見学等 3回目	(学修内容) 引き続き、フィールドワーク。施設の見学等。3回目 (事前事後学修課題の内容) (60分) フィールドノートの整理 3回目
第14回	フィールドワークの振り返り	(学修内容) グループワークと発表 (事前事後学修課題の内容) (90分) 各自で振り返り(グループワークと発表)の準備をしておいてください。
第15回	メディア文化論 振り返りとまとめ	(学修内容) グループワークと発表 (事前事後学修課題の内容) (90分) 各自で振り返り(グループワークと発表)の準備をしておいてください。

授 業 名	情報サービス			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	IC1208
英 文 名	Information Service			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	図書館における情報ニーズとサービス、レファレンスツール及びレファレンスプロセスについて学習する。情報サービスとは何か、また情報やサービスを提供する際に注意すべきことは何か、図書館と図書館員の役割を把握することが目的である。図書館における情報サービスの実際を理解するために、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 図書館における情報サービスの種類とその内容について説明することができる。 2) レファレンス事例とレファレンス資料に関するプレゼンテーションを10分間行うことができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力 (課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	授業にて指示する。								
参 考 書	『情報サービス論』(現代図書館情報学シリーズ5)、山崎久道、樹村房、2012年								
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	・ 図書館の情報サービスについて理解を深めるために、公共図書館などに出向き、興味関心のあるテーマについて図書館員に質問し、レファレンスサービスを体験していただくことが望ましい。 ・ 本講義において学習するレファレンスサービス理論及び情報検索理論は、「情報サービス演習」において発展的にレファレンス演習課題として取り組む際に必要となる理論である。本講義中に基礎的な理論はしっかりと理解し、「情報サービス演習」の学習に繋げてもらいたい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館で勤務。実務経験をもとに情報サービスについて話をします。								

授業名	情報サービス	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスを読んでおくこと。
第2回	情報社会と図書館	(学修内容)図書館の役割について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 情報社会の特質についてまとめたプリントを配付するのでよく読んでおくこと。
第3回	情報サービスの実際 直接的サービス	(学修内容)情報サービスのうち直接的サービスの内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第1回授業で解説したレファレンスサービスの概要について復習し、まとめておくこと。
第4回	情報サービスの実際 間接的サービス	(学修内容)情報サービスのうち間接的サービスの内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 情報サービスの種類と内容をまとめたプリントを配付するのでよく読んでおくこと。
第5回	レファレンスサービスの理論と実際	(学修内容)レファレンスサービスの理論を学習する。サービスの実施に関わる具体的問題についてグループディスカッションを行うことで理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(20分) レファレンスサービスの理論に関わる配付プリントをよく読んでおくこと。
第6回	レファレンスプロセス	(学修内容)レファレンスプロセスの概念について学習し、情報探索行動に対応したレファレンスプロセスの在り方について理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(20分) レファレンスプロセスに関するプリントを配付するのでよく読んでおくこと。
第7回	情報検索と情報検索システム 種類と内容	(学修内容)情報検索の種類・内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 情報検索システムに関する配付資料をよく読んでおくこと。
第8回	情報検索と情報検索システム 検索過程	(学修内容)情報検索システムにおける検索過程の内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 図書館に行き、OPACを用いて特定のテーマに関する情報検索を行い、結果をまとめておくこと。
第9回	情報サービスにおける各種情報源の利用法	(学修内容)個々の情報源の特性を理解し、多様な情報源を駆使した情報サービスを提供する技能を習得する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 図書館に行き、授業中に紹介した各種情報源を手に取り、利用すること。
第10回	情報サービスと知的財産権	(学修内容)著作権法について概説し、図書館における複写サービスなどについて学習する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 図書館に行き、複写サービスの内容と範囲を確認しておくこと。
第11回	オンラインデータベース	(学修内容)オンラインデータベースの作成から利用までの流れを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 図書館に行き、いくつかのオンラインデータベースを用いて情報検索を行い、それぞれのオンラインデータベースの特徴をまとめておくこと。
第12回	電子ジャーナル	(学修内容)電子ジャーナルの種類について概説する。オープンアクセス雑誌と機関リポジトリについて学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 図書館に行き、電子ジャーナルを利用しておくこと。
第13回	レファレンス事例について(プレゼンテーション)	(学修内容)レファレンス質問とその回答についてまとめ、プレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表レジュメを作成する。
第14回	レファレンス資料の概要について(プレゼンテーション)	(学修内容)前回のレファレンス事例中にある参考資料について、レファレンス資料としての特徴をまとめ、プレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表レジュメを作成する。
第15回	まとめ	(学修内容)今後の情報サービスあり方について考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回までの配付プリントを読んでおくこと。

授 業 名	サブカルチャー			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	IC1212
英 文 名	Subculture			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	全 炳 昊			対 象 学 生	総合文化1回生				
授 業 の 概 要	<p>「サブカルチャー」という言葉は、それが使われる国や地域、集団、時代に応じて指し示す意味内容が違って来る、多義的な概念である。こうしたサブカルチャーの多義性について理解してもらうために、授業では、在日コリアンの歴史と文化、そして現在を中心テーマに設定している。日本社会におけるサブ(マイノリティーor非主流or周辺人)としての生活を余儀なくされた在日コリアンの歴史を通して、彼ら独自の生活様式や文化が如何にしてサブカルチャーとして定着したのか、その展開過程に注目する。授業の流れとしては、導入としてのサブカルチャーに対する理解を図るための理論的背景から、在日コリアンの歴史と文化、そして彼らの生活様式がどのように維持・変化してきたかについて考察する。合わせて後半に至っては、様々な在日(ブラジル・中国・ベトナム)の様相を比較・考察することで、日本社会における「多文化共生」の可能性について考えてみたい。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>サブカルチャーの多義性について理解することができる。 在日コリアンの歴史と文化、生活様式について理解することができる。 多文化共生の可能性に対する自分なりの見解を示すことができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用(双方向型授業)		グループワーク I C T 活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テ キ ス ト	特に指定しません。								
参 考 書	伊奈正人(1999)『サブカルチャーの社会学』世界思想社 ディック・ヘプディジ(1986)『サブカルチャー - スタイルの意味するもの』未来社 尹健次(2015)『「在日」の精神史1・2・3』岩波書店								
課 題 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク の 方 法	メールにて対応いたします。 postjeon@gmail.com								
留 意 事 項	事前学習は必要ありませんが、毎回の講義時に出されるワークシートは自分の言葉で作成し、必ず提出すること。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業時間前後に限って、控え室などに在室します。 その他、授業関連の相談などには、メールにて対応いたします。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：映画配給会社にて、日本語と韓国語の翻訳・通訳に関する企画および運用の統括として勤務。 企業と行政の現場における通訳業務に携わる。								

授業名	サブカルチャー	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション・「サブ」が意味するもの：講義概要と進行の流れ	(学修内容) なぜ、「在日コリアン」に注目するのか。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な「サブカルチャー」との関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。
第2回	サブカルチャーとは何か - サブカルチャーの正体	(学修内容) 様々なサブカルチャーの様相 (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な「サブカルチャー」との関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。
第3回	サブカルチャーとは何か - 理論的アプローチ	(学修内容) 「イデオロギー」としてのサブカルチャー 「ポスト・モダン」なサブカルチャー (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な「サブカルチャー」との関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。
第4回	サブカルチャーとは何か - 実態としてのサブカルチャー	(学修内容) サブカルチャーの担い手は誰なのか。 地域と集団、そして時代から考えるサブカルチャーの実像 (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な「サブカルチャー」との関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。
第5回	「在日」を生きる - オールドカマーとニューカマー	(学修内容) 在日コリアンの歴史を考える。 (グループワークで思いを共有する) (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な「サブカルチャー」との関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。
第6回	「在日」を生きる - 映しだされる「在日」(1) : 映画の中の在日「表象」	(学修内容) 映画の素材としての「在日」を考える。 (DVD教材などを使った鑑賞会を行う) (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な「サブカルチャー」との関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。
第7回	「在日」を生きる - 映画解説および分析	(学修内容) 映画の素材としての「在日」を語る。 (グループワークで思いを共有する/プレゼンを行う) (事前事後学修課題の内容) (30分) 映画に対するコメントを用意すること。(A4-1枚程度)
第8回	「在日」を生きる - 映しだされる「在日」(2) : 映画の中の在日、家族、そして日本社会	(学修内容) 映画の素材としての「在日」を考える。 (DVD教材などを使った鑑賞会を行う) (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な「サブカルチャー」との関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。
第9回	「在日」を生きる - 映画解説および分析	(学修内容) 映画の素材としての「在日」を語る。 (グループワークで思いを共有する/プレゼンを行う) (事前事後学修課題の内容) (30分) 映画に対するコメントを用意すること。(A4-1枚程度)
第10回	「在日」を生きる - 在日コリアンの文化と生活様式	(学修内容) 地域文化としての「在日」 民族教育はいかに継続するのか。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な「サブカルチャー」との関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。
第11回	「在日」を生きる - 日本人と韓国・朝鮮人と在日	(学修内容) 在日コリアンにとって、「アイデンティティ」とは何か。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な「サブカルチャー」との関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。
第12回	「在日」の様相 - 在日ブラジル人の場合	(学修内容) 地域と集団、そして文化 (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な「サブカルチャー」との関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。
第13回	「在日」の様相 - 在日中国人の場合	(学修内容) 地域と集団、そして文化 (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な「サブカルチャー」との関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。
第14回	「在日」の様相 - 在日ベトナム人の場合	(学修内容) 地域と集団、そして文化 (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な「サブカルチャー」との関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。
第15回	成果報告および総括	(学修内容) 「在日」との出会いから見えるもの(課題および報告会) (GWの成果としてプレゼンを行う) (事前事後学修課題の内容) (60分) 報告会の準備をしておくこと。

授 業 名	先端的京都体験			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	IC1405
英 文 名	Ultramodern Kyoto Experience			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	新矢 昌昭			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	<p>京都は「古都」というイメージがあるが、明治以降、近代化と「古都」の両輪で形成された都市であった。この講義では、この近代化と「古都」の両方に注目し、現代における京都を考え、先端的京都の意義をフィールドワークを通して考えていく。また、京都を比較的な観点から見るために、中心だけではなく外からも眺めてみる。そのためには事前発表として探訪先の史跡に関する予備知識をグループで発表し、次いで実地調査を行う。結果、予備知識と実地調査の差異はどうかであったのかを確認し、新たに明らかになったことなどをグループで事後学習で発表報告する形態をとる。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 近代化と「古都」を考えることができる 2) 先端的京都の意義を理解することができる 3) 「京都らしさ」を考えることができる</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)		課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	使用しない、プリントを配布する								
参 考 書	適宜紹介する								
課題に対する フィードバック の方法	作成したレジュメにコメントや訂正を加える。また、フィールドワークでは適宜補足説明を行う。								
留 意 事 項	日常的に京都をどんな町か考えてほしい								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室の扉に掲示								
実 践 的 教 育									

授業名	先端的京都体験	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) この講義の進め方 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおく
第2回	近代化する京都	(学修内容) 京都の近代化事業について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布史料を読んでおくこと
第3回	京都のグローバル企業	(学修内容) 先端技術を有する企業の特徴と歴史 (事前事後学修課題の内容) (30分) グローバルな視野に立つ京都の企業を調べておく
第4回	レジユメの作成方法と発表の仕方	(学修内容) 発表の仕方とグループ分け、行先の選定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 各自、どこに行きたいのか、それは何故かをまとめておく
第5回	第1グループ。事前発表と討論	(学修内容) 第1グループによる事前学習発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第1グループはレジユメを作成しておく
第6回	フィールドワーク1回目	(学修内容) 第1グループによる現地調査と案内 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第1グループによるガイドの作成、経路確認
第7回	第1グループの事後学習、討論 第2グループの事前学習、討論	(学修内容) 第1グループによる調査内容、反省点のレジユメ 第2グループによる事前学習発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第1、第2グループごとにレジユメを作成しておく
第8回	フィールドワーク2回目	(学修内容) 第2グループによる現地調査と案内 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第2グループによるガイドの作成、経路確認
第9回	第2グループの事後学習、討論 第3グループの事前学習、討論	(学修内容) 第2グループによる調査内容、反省点のレジユメ 第3グループによる事前学習発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第2、第3グループごとにレジユメを作成しておく
第10回	フィールドワーク3回目	(学修内容) 第3グループによる現地調査と案内 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第3グループによるガイドの作成、経路確認
第11回	第3グループの事後学習、討論 第4グループの事前学習、討論	(学修内容) 第3グループによる調査内容、反省点のレジユメ 第4グループによる事前学習発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第3、第4グループごとにレジユメを作成しておく
第12回	フィールドワーク4回目	(学修内容) 第4グループによる現地調査と案内 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第4グループによるガイドの作成、経路確認
第13回	第4グループの事後学習、討論 第5グループの事前学習、討論	(学修内容) 第4グループによる調査内容、反省点のレジユメ 第5グループによる事前学習発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第4、第5グループごとにレジユメを作成しておく
第14回	フィールドワーク5回目	(学修内容) 第5グループによる現地調査と案内 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第5グループによるガイドの作成、経路確認
第15回	第5グループの事後学習、討論 全体のまとめ	(学修内容) 第5グループによる調査内容、反省点のレジユメ (事前事後学修課題の内容) (60分) 第5グループはレジユメを作成しておく

授 業 名	観光英会話			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	IC2414
英 文 名	Tourism Orientated English Conversation			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	松尾 章子			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	リスニングとスピーキング、観光や旅行の際に必要なとされる初歩的な語彙や表現に重点をおいて学習する。ネイティブの英語話者が普段使用している表現も学ぶ。旅行実務英語に関する英語については、希望者が多ければ授業に取り入れる。観光英会話の習得を目標とするため、授業中はグループワークやプレゼンテーションを取り入れ、英語でのコミュニケーション力を高める活動も多く実施する。								
学 修 成 果 達 成 目 標	1) 身近な場で出会う外国人とのコミュニケーションに慣れ、スモールトークを行うことができる。 2) ファストフード店やレストランの簡単な対応を英語で行うことができる。 3) 観光に関連するシチュエーションで、必要とされる事柄を平易な英語で伝えることができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	工藤多恵著『すぐに使える！ニッポン案内』センゲージラーニング株式会社 2,000円＋税								
参 考 書	観光英検センター編『新・観光英検3級の過去問題』三修社 2,000円＋税								
課題に対するフィードバックの方法	定期試験は、採点后解説を付して、定期試験返却期間中に希望者に返却する。 授業内試験・小テストは、返却時または実施後に解説を行う。								
留 意 事 項	テキストの会話表現を授業外で何度も声に出して読み練習してください。 演習授業のため、積極的な授業参加と授業外練習を期待します。 30分以内の遅刻は0.5回の欠席扱い、30分以上の遅刻は欠席扱いとします。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に掲示しますので、確認してください。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：英会話スクールAEON 英会話講師								

授業名	観光英会話	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Introduction Unit 1: ファストフード店での注文対応	(学修内容) 授業の進め方、事前・事後学修方法について説明する。ファストフード店での注文に関する内容を学ぶ。Special Activity: Rice Ball (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)p.15のReadingのあらすじと問題の答えを書き次回の授業開始時に提出。Unit1内の会話文を声に出して5回以上ずつ読む。テスト勉強。
第2回	Unit 2: レストランでの来客対応 Review Quiz 1	(学修内容) レストランでの来客対応に関する表現を学ぶ。 Special Activity: Ramen (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)p.23のReadingのあらすじと問題の答えを書き次回の授業開始時に提出。Unit2内の会話文を声に出して5回以上ずつ読む。テスト勉強。
第3回	Unit 3: レストランでの接客サービス Review Quiz 2	(学修内容) レストランでの接客サービスに関する表現を学ぶ。 Special Activity: Chopsticks (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)p.31のReadingのあらすじと問題の答えを書き次回の授業開始時に提出。Unit3内の会話文を声に出して5回以上ずつ読む。テスト勉強。
第4回	Unit 4: コンビニやスーパーでの接客サービス Review Quiz 3	(学修内容) コンビニやスーパーでの接客サービスに関する表現を学ぶ。 Special Activity: Oden (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)p.39のReadingのあらすじと問題の答えを書き次回の授業開始時に提出。Unit4内の会話文を声に出して5回以上ずつ読む。テスト勉強。
第5回	Unit 5: 買い物や飲食の会計 Review Quiz 4	(学修内容) 買い物や飲食の会計に関する表現を学ぶ。 Special Activity: Sign (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)p.47のReadingのあらすじと問題の答えを書き次回の授業開始時に提出。Unit5内の会話文を声に出して5回以上ずつ読む。テスト勉強。
第6回	Unit 6: 商品やサービスへの苦情対応 Review Quiz 5	(学修内容) 商品やサービスへの苦情とその対応に関する表現を学ぶ。 Special Activity: Apology (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)p.55のReadingのあらすじと問題の答えを書き次回の授業開始時に提出。Unit6内の会話文を声に出して5回以上ずつ読む。テスト勉強。
第7回	Review 1: Units 1-6 Review Quiz 6	(学修内容) Unit 1 からUnit 6 の表現を復習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前)pp.57, 58, 60の問題を解く。 (事後)p.60の英文を声に出して5回以上読む。
第8回	Unit 7: ホテルや旅館での宿泊客受付	(学修内容) ホテルや旅館での宿泊客受付に関する表現を学ぶ。 Special Activity: Japanese Inn (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)p.67のReadingのあらすじと問題の答えを書き次回の授業開始時に提出。Unit7内の会話文を声に出して5回以上ずつ読む。テスト勉強。
第9回	Unit 8: 商業施設でのサービス提供や近隣情報の案内 Review Quiz 7	(学修内容) 客が利用できるサービスや近隣情報の案内に関する表現を学ぶ。 Special Activity: Souvenir (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)p.75のReadingのあらすじと問題の答えを書き次回の授業開始時に提出。Unit8内の会話文を声に出して5回以上ずつ読む。テスト勉強。
第10回	Unit 9: 旅行者への観光案内 Review Quiz 8	(学修内容) 旅行者の希望に応じた店や観光地などの提案に関する表現を学ぶ。 Special Activity: Culture (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)p.83のReadingのあらすじと問題の答えを書き次回の授業開始時に提出。Unit9内の会話文を声に出して5回以上ずつ読む。テスト勉強。
第11回	Unit 10: 道案内 Review Quiz 9	(学修内容) 道案内に関する表現を学ぶ。 Special Activity: Map Symbol (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)p.91のReadingのあらすじと問題の答えを書き次回の授業開始時に提出。Unit10内の会話文を声に出して5回以上ずつ読む。テスト勉強。
第12回	Interview Challenge (天候・その他の理由により、日程が多少前後することがある)	(学修内容) フィールドワーク：学外に出て、外国人に英語でインタビューを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前)インタビューで話したい内容・英文を10個書き出し、インタビュー日までに教員からのオッケーをもらう。
第13回	Unit 11: 交通機関の利用案内や観光施設の情報提供 Review Quiz 10	(学修内容) 交通機関の利用案内や観光施設の情報提供に関する表現を学ぶ。 Special Activity: Transportation (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)p.99のReadingのあらすじと問題の答えを書き次回の授業開始時に提出。Unit11内の会話文を声に出して5回以上ずつ読む。テスト勉強。
第14回	Unit 12: 券売機や電化製品の使用方法の説明 Review Quiz 11	(学修内容) 券売機や電化製品の使用方法の説明に関する表現を学ぶ。 Special Activity: Contoller (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)p.107のReadingのあらすじと問題の答えを書き次回の授業開始時に提出。Unit12内の会話文を声に出して5回以上ずつ読む。テスト勉強。
第15回	Review 2: Units 7-12 Review Quiz 12	(学修内容) Unit 7 からUnit 12 の表現を復習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)pp.109, 110, 112の問題を解く。

授業名	プログラミング演習			開講学年	2回生	単位数	1単位	科目コード	IC2412
英文名	Programming Practice			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	吉岡 史樹			対象学生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>社会の情報化によってコンピュータやスマートフォンの利用者が増え、教育の必修化も始まり、今後ますますコンピュータを扱うためのプログラミングの必要性が高まってくることが予想される。しかしながら、プログラミングには何ができて、何ができないのか、その本質的な性質と役割を理解することも重要である。</p> <p>このような背景を踏まえ、本授業ではプログラミングのまったくの初習者が「プログラミングとはなにか」を言葉で説明できるようになることを目的とし、実際に自らがプログラミング体験し、失敗や苦勞を積み重ねながら、上記の問いに答えられるようになることを目指す。</p>								
学修成果到達目標	<p>(1) コンピュータやスマートフォンで動くプログラムを、自分自身の作業によって作ることができる</p> <p>(2) プログラムを作るための知識や方法を、自分で調べて解決に導くことができるようになる</p> <p>(3) インタラクティブやゲームなど、プログラムならではの内容を自分たちで企画し、人と協力しながら成果物を作ることができる</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	授業内で紹介する(主にウェブサイトやデジタル資料となる)								
参考書									
課題に対するフィードバックの方法	授業中のプログラミング製作課題は、提出後受講者間に共有し、レビューができるようにします。								
留意事項	<p>日々の生活の中で、プログラムがいつ、どこで、何のために用いられているのか、家庭だけでなく屋外においても観察することを意識すること。</p> <p>また、小さな子供に「プログラミングって何?」と聞かれたら、自分ならどう答えるだろうかという問いを持って臨むこと。</p>								
オフィスアワー	非常勤のため質問などには授業時に伝えるメールアドレスまで連絡すること								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の進め方 (事前事後学修課題の内容) (30分) 参考サイトを調べる	
第2回	プログラミングの前準備	(学修内容) コンピュータの操作について プログラムの種類と役割 (事前事後学修課題の内容) (30分) 参考サイトを調べる	
第3回	プログラムの作り方(1) 描く	(学修内容) 図形をつくってみる 色をあつかう (事前事後学修課題の内容) (30分) 参考サイトを調べる 自分のコンピュータ等で実践してみる	
第4回	プログラムの作り方(2) 動かす	(学修内容) 動きのあるプログラムをつくる プログラムのなかに流れる時間について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 参考サイトを調べる 自分のコンピュータ等で実践してみる	
第5回	プログラムの作り方(3) つくる	(学修内容) 課題製作 (事前事後学修課題の内容) (30分) 参考サイトを調べる 授業中に完成しなかった部分のフォロー	
第6回	すでにあるプログラムを「分解」してみる(1) 読む	(学修内容) 動作しているプログラムを「読む」 プログラムを「部品」に分けて理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 参考サイトを調べる	
第7回	すでにあるプログラムを「分解」してみる(2) 分ける	(学修内容) プログラムを入れ替えたり、取り外したりして、 コードと動きの関係を発見する (事前事後学修課題の内容) (30分) 参考サイトを調べる	
第8回	すでにあるプログラムを「分解」してみる(3) 考察する	(学修内容) プログラムがどのような考えで作られているのかを 自分なりに分析し、方法を理解する (事前事後学修課題の内容)	
第9回	プログラムの共同制作(1) 企画する	(学修内容) 個人作業だけではなく、複数の人で手分けしてプログラムをつくる アイデアを作り、実現方法を立案する (事前事後学修課題の内容) (30分) 制作を一緒に行うグループ内で、知識共有をする	
第10回	プログラムの共同制作(2) 一緒に作る	(学修内容) グループ内でそれぞれの制作作業を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 制作を一緒に行うグループ内で、知識共有をする	
第11回	プログラムの共同制作(3) Do It With Others	(学修内容) 共同制作プログラムを完成させる (事前事後学修課題の内容) (30分) 制作を一緒に行うグループ内で、知識共有をする	
第12回	最終成果物の企画 企画	(学修内容) 最終成果物としてつくる内容を検討する (事前事後学修課題の内容) (30分) どのようなプログラムを作りたいかを、事前に考えておく	
第13回	最終成果物の制作 制作	(学修内容) 制作作業 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業時間内にできなかった作業のフォロー	
第14回	最終成果物の制作 完成	(学修内容) 最終成果物を提出する (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業時間内にできなかった作業のフォロー	
第15回	まとめ	(学修内容) 最終成果物をレビューする 学習した内容のまとめを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 提出され共有されたプログラムを各自で事前に見ておく	

授 業 名	WEBコミュニケーション演習			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	IC2408
英 文 名	Web Communication Practice			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	堀出 雅人			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>SNSは交友関係、趣味、ビジネス、暮らしに欠かせないものとなっています。特に、一個人が自らの楽しみを情報発信するなかで、大きな共感を生み、新しい商品やサービスの開発、さらには起業につながっています。</p> <p>本授業では、SNSの基本的な仕組みを理解するとともに、実際にSNSで情報発信を行うなかでその発信力を磨き、卒業後の社会生活で役立つ知識やスキルの習得を目指します。その一方で、SNSの影の部分、モラルの問題やセキュリティの問題を取り上げ、トラブルに巻き込まれない活用方法を検討します。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) SNSの基本的な仕組みを説明できる。</p> <p>2) SNSを活用した情報発信のノウハウを説明できる。</p> <p>3) SNSを利用する際の注意点を説明できる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	授業担当者が作成した資料を配布します。								
参 考 書	授業中に適宜紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	レポートなど提出をもとめた課題に対してはプリントへの書き込みやメールなどなんらかの形でフィードバックのコメントします。								
留 意 事 項	実際にInstagramを用いて演習を行います。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業実施期間中の毎週水曜日のお昼休み								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：特定非営利活動法人学習開発研究所において、e-learningによる大学生、中小企業などのエンジニアの学習環境の開発と運用に携わった</p>								

授業名	WEBコミュニケーション演習	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の目的と15回の流れを説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 日々のSNSの付き合い方を振り返ってまとめてくる 事後: 授業後にコメントカードへ感想を書き込む
第2回	SNSの基本的な仕組み	(学修内容) SNSで何ができるのか、その基本的な機能を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: Instagramの機能について調べてくる 事後: 授業後にコメントカードへ感想を書き込む
第3回	SNSが開発、普及した経緯	(学修内容) 2000年代から現在にかけて爆発的に普及したSNSの特徴について説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: SNSがなぜ浸透したのかその背景を調べてくる 事後: 授業後にコメントカードへ感想を書き込む
第4回	フォロワーとの交流 リアルなつながり	(学修内容) 家族、友人、職場での関わりなど日常生活でつながりがある者同士のSNS上でのやりとりがそのつながりに与える影響を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: SNSとのやりとりで人間関係が好転した事例を書き出してくる 事後: 授業後にコメントカードへ感想を書き込む
第5回	フォロワーとの交流 パーチャルなつながり	(学修内容) 共通の趣味や志向性が合う者同士で現実世界では面識がなくてもSNS上のつながりだけで意気投合することができる心理的背景を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: パーチャルなつながりが人びとに与える効果を書き出してくる 事後: 授業後にコメントカードへ感想を書き込む
第6回	SNSとインフルエンサー	(学修内容) インフルエンサーの影響について説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 自分にとってのインフルエンサーを書き出してくる 事後: 授業後にコメントカードへ感想を書き込む
第7回	SNSと日常生活	(学修内容) SNSで発信することで日常生活を送る気持ちや生活が向上した事例を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: マスメディアに登場する有名人以外でSNSで活躍するアカウントを書き出す 事後: 授業後にコメントカードへ感想を書き込む
第8回	SNSと起業	(学修内容) 起業する場合の費用を抑えた広報の在り方を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 起業について調べてくる 事後: 授業後にコメントカードへ感想を書き込む
第9回	SNSで映える撮影技法	(学修内容) SNSで写真を投稿する際の撮影技法を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: これまで投稿したSNSのなかで最も気に入っている画像を選択する 事後: 授業後にコメントカードへ感想を書き込む
第10回	SNSで映える画像加工	(学修内容) SNSに投稿する画像を加工する技法を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 画像を加工する技法について調べてくる 事後: 授業後にコメントカードへ感想を書き込む
第11回	SNSで注目を惹くメッセージ	(学修内容) SNSに投稿する効果的な文章について説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: SNS上でフォローしているアカウントのお気に入りのメッセージを選択する 事後: 授業後にコメントカードへ感想を書き込む
第12回	フォロワーを増やす各種戦略	(学修内容) フォロワーを増やすための工夫を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: フォロワーを獲得する工夫を調べてくる 事後: 授業後にコメントカードへ感想を書き込む
第13回	SNSの負の側面 現実とフェイク	(学修内容) 偽りのフォロワーとフェイクニュースについて説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: SNSの負の側面について調べてくる 事後: 授業後にコメントカードへ感想を書き込む
第14回	SNSの負の側面 セキュリティ	(学修内容) SNSとセキュリティの問題について説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 情報流失などトラブル事例を調べてくる 事後: 授業後にコメントカードへ感想を書き込む
第15回	SNSと私たちの暮らし	(学修内容) 15回の授業を振り返ってSNSによるコミュニケーションの可能性と危険性を説明することができる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 日々のSNSの付き合い方を振り返ってまとめてくる 事後: 授業後にコメントカードへ感想を書き込む

授業名	現代の音楽			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	IC2218
英文名	Contemporary Music			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	小川 隆昭			対象学生	総合文化2回生				
授業の概要	人間はなぜ音楽を必要とするのだろうか。その疑問を解くために歴史をさかのぼり過去から音楽を見つめなおすことにより、時代とともに変化していった音楽、また宗教と密接な関係を持ちつつ、どのように展開していったことを学ぶ。また、現代の音楽とはどのような音楽かを考察する。								
学修成果到達目標	1) 音楽の歴史を知ることができる。 2) 日本の音楽の推移が理解できる。 3) 流行の音楽の傾向について学ぶことができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	プリントを配布								
参考書	なし								
課題に対するフィードバックの方法	プレゼンテーションの後に講評する								
留意事項	分からないことはまずは自分で調べてみる								
オフィスアワー	後日研究室前に掲示する								
実践的教育									

授業名	現代の音楽	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	この授業の説明。音楽の説明	(学修内容) ガイダンス。音楽とは。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 今日の復習
第2回	紀元前の音階	(学修内容) ピタゴラス音階 (事前事後学修課題の内容) (30分) 分からないところを調べておく
第3回	宗教音楽とカトリック	(学修内容) ネウマ譜 (事前事後学修課題の内容) (60分) 西洋史を復習
第4回	宗教音楽とカトリック	(学修内容) グレゴリオ聖歌 (事前事後学修課題の内容) (60分) 西洋史を復習
第5回	宗教音楽とイスラム	(学修内容) イスラム教とコーラン (事前事後学修課題の内容) (60分) コーランを読む
第6回	宗教音楽とイスラム	(学修内容) イスラム教とコーラン (事前事後学修課題の内容) (60分) コーランを読む
第7回	宗教音楽と仏教	(学修内容) インド仏教 (事前事後学修課題の内容) (60分) 分からないところを調べておく
第8回	宗教音楽と仏教	(学修内容) ヒンドゥー教 (事前事後学修課題の内容) (60分) 分からないところを調べておく
第9回	宗教音楽と仏教	(学修内容) チベットラマ教 (事前事後学修課題の内容) (60分) 分からないところを調べておく
第10回	日本音楽	(学修内容) 仏教伝来以前、後の日本の音楽 (事前事後学修課題の内容) (30分) 分からないところを調べておく
第11回	日本音楽	(学修内容) 仏教伝来以前、後の日本の音楽 (事前事後学修課題の内容) (30分) 分からないところを調べておく
第12回	日本音楽	(学修内容) 明治以降の音楽 (事前事後学修課題の内容) (30分) 分からないところを調べておく
第13回	グループワーク	(学修内容) 2人一組で自分の好きな音楽を調べる (事前事後学修課題の内容) (120分) テーマをきめて調べる
第14回	グループワーク	(学修内容) 2人一組で自分の好きな音楽を調べる (事前事後学修課題の内容) (120分) テーマをきめて調べる
第15回	発表	(学修内容) プレゼンテーション (事前事後学修課題の内容) (60分) プレゼンの準備

授 業 名	マンガ・アニメ・ゲーム文化			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	IC2217
英 文 名	Manga, Anime, and Game Culture			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渡邊 秀司			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	1980年代よりアニメやゲームに耽溺する人たちが現れました。アニメやゲームは時代を経て、特定の人たちによって嗜まれるものではなく、より多くの人たちが日常的に楽しむものに変化しつつあります。その流れの中で、アニメやゲームの背景もより複雑なものになってきています。この講義では現代日本の文化としてのアニメとゲームについて考えてみたいと思います。								
学 修 成 果 到 達 目 標	(1)現代日本の文化としてのアニメ・ゲームを考えることで、社会への視点を涵養していく。 (2)アニメ・ゲームが特定の対象のみに関わるものではないことを理解する。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	特定のテキストは使用しない。資料を配布する。								
参 考 書	多根清史、2011年『教養としてのゲーム史』ちくま新書。 土居伸彰、2017年『21世紀のアニメーションがわかる本』フィルムアート社。								
課題に対する フィードバック の方法	授業終了後、疑問点・感想などを聞くために用紙を配り、疑問点などがその用紙に書かれていた場合、次回の授業でできる限り答えます。								
留 意 事 項	授業中に指示されたアニメ作品は、できる限り視聴をしてください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育									

授業名	マンガ・アニメ・ゲーム文化	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 授業の流れ	(学修内容) 以後の授業の流れについての説明。 注意事項。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 第2回の予習として、ファンタジー作品と呼ばれる小説を1冊読み感想をまとめて次回に提出。
第2回	ファンタジーについて	(学修内容) ゲームやアニメを考える前提としての、ファンタジー作品について物語を楽しむという視点から講義する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、ファンタジー作品を読む意味を、授業の内容をふまえた上でまとめて次回に提出。
第3回	「オタク」とされるひと	(学修内容) アニメ・ゲームの受容者・消費者としての「オタク」層について、「オタク」の社会性という視点から講義する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、授業の中で述べられた内容をふまえて自らの考えを整理し、レポートにして次回に提出。
第4回	ゲームの始まり 「アナログゲーム」と呼ばれるゲームについて	(学修内容) 現在のコンピュータゲームに影響を与えた「アナログゲーム」と称されるボードゲーム、会話型ロールプレイングゲームについて講義する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、授業で配布された資料を参考にしながら内容を整理したうえで自らの考えを整理して、レポートにして次回に提出。
第5回	コンピュータゲームの黎明期	(学修内容) コンピュータゲームの初期において重要な作品とされる『ポン』など、初期のコンピュータゲームについて講義する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、授業で配布された資料を参考にしながら内容を整理したうえで自らの考えを整理して、レポートにして次回に提出。
第6回	コンピュータRPGについて	(学修内容) 『ドラゴンクエスト』など日本製のコンピュータRPGについて講義する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、授業で配布された資料を参考にしながら内容を整理したうえで自らの考えを整理して、レポートにして次回に提出。
第7回	ゲーム研究について1 ルールとしてのゲーム	(学修内容) 「ゲームとは」何かを考察する研究内容について、講義する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、授業で配布された資料を参考にしながら内容を整理したうえで自らの考えを整理して、レポートにして次回に提出。
第8回	ゲーム研究について2 ゲームを文化として考えること	(学修内容) 物語としてのゲーム、ゲームはなぜ楽しいのかなど、ゲームに関する議論を講義する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 第9回の予習として、アニメ映画の『君の名は』もしくは『この世界の片隅に』を視聴し、感想をまとめて次回に提出。
第9回	アニメの中の「わたし」	(学修内容) アニメにおける「わたし」の描き方の変化について講義する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、今回の授業の内容をふまえて『君の名は』もしくは『この世界の片隅に』についてレポートをまとめて次回に提出。
第10回	アニメキャラクターの「わたし」	(学修内容) 宮崎駿の『もののけ姫』と新海誠の『ほしのこえ』を視聴し、登場キャラクターの「わたし」について講義する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、『もののけ姫』のキャラクターと『ほしのこえ』のキャラクターを比較、考察したレポートをまとめて次回に提出。
第11回	「わたし」から「わたしたち」へ	(学修内容) アニメ作品における「わたし」の描き方を考えるための前提となる議論を講義する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、授業で配布された資料を参考にしながら内容を整理したうえで自らの考えを整理して、レポートにして次回に提出。
第12回	結局「わたし」とは何?という疑問	(学修内容) 「わたし」について、いったんアニメ・ゲームの議論から離れて視点のひとつを講義する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、授業の中で述べられた内容をふまえて、自分の感想をまとめて次回に提出。
第13回	アニメにおける表現の変化	(学修内容) アニメ作品の表現が変化しているとする議論もある。デジタル・テクノロジーがアニメーションに何をもたらしたのかについて講義する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、授業で配布された資料を参考にしながら内容を整理したうえで自らの考えを整理して、レポートにして次回に提出。
第14回	2017年のアニメ『夜明け告げるルーのうた』	(学修内容) 『夜明け告げるルーのうた』を視聴して、今までの講義内容を振り返りながら、「わたし」の描き方の変化について講義する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、『夜明け告げるルーのうた』の視聴した感想を次回に提出。
第15回	文化としてのマンガ・アニメ・ゲーム	(学修内容) 今までの講義の内容を総括するものとして、社会と深くつながりを持つマンガ・アニメ・ゲームを講義する。 (事前事後学修課題の内容)(40分) 授業の最後に、今までの授業内容をふまえながら自らの考えを整理し、レポートとして提出する。

授 業 名	エコ文化と世界遺産			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	IC2222
英 文 名	Eco Culture and World Heritage			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	喜多 祐子			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	世界遺産とは、自然環境や歴史を伝える建造物など、人類共通の財産として未来へ残していくものとされる。この世界遺産の制度がどのようにして制定されたのか、どのような場所が世界遺産として認定されているのか、なぜ守っていく必要があるのか、どのような課題に直面しているかを国内外の事例を取り上げながら学習する。また、地域振興の材料として世界遺産が活用され、保護されている点にも注目してみたい。なお、この授業は、パワーポイントをを用いながら、講義の形式をとる。								
学 修 成 果 達 成 目 標	1) 世界遺産の概要を理解できる 2) 世界遺産がどのような経緯で生まれたのか、なぜ守る必要があるのかを説明できる 3) 世界遺産を活用した地元の様々な活動について理解することができる 4) 世界遺産が直面している課題を把握できる								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	なし。講義内でプリントを配布する。								
参 考 書	講義内で紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出物については、コメントをつけて返却する。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：宝塚市文化財審議会委員								

授 業 名		エコ文化と世界遺産	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	世界遺産とは何か	(学修内容)世界遺産の概要について (事前事後学修課題の内容)(20分) 国内外にはどのような世界遺産があるのか調べておく	
第2回	世界遺産条約	(学修内容)世界遺産条約が制定された経緯、世界遺産条約の目的 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする	
第3回	世界遺産の登録条件	(学修内容)世界遺産の登録基準とその実例 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする	
第4回	世界遺産の登録の手続き	(学修内容)世界遺産の登録の手続きとその実例 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする	
第5回	普遍的な価値	(学修内容)世界遺産に求められる「顕著で普遍的な価値」について 各国の見解 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする	
第6回	世界遺産登録に向けた動向	(学修内容)世界遺産登録を目指す政府や地元住民らによる活動とその実例 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする	
第7回	人と自然との調和	(学修内容)自然と文化との関連性 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする	
第8回	世界遺産を活用した地域づくり	(学修内容)世界遺産を活用した地域再生及び保護活動 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする	
第9回	伝統文化と観光振興	(学修内容)伝統文化の保護、資源を活用した観光化 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする	
第10回	負の遺産	(学修内容)人類の歴史において負の要素をもつ遺産 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする	
第11回	地域の開発と保全活動	(学修内容)地域発展のための開発と、それに相反する保護活動について (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする	
第12回	危機遺産	(学修内容)危機にさらされている世界遺産と地元の社会活動について (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする	
第13回	危機遺産の保護活動	(学修内容)世界からの支援と、遺産の保護活動について (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする	
第14回	保全活動とそのあり方	(学修内容)保全をめぐる現状と課題 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする	
第15回	これからの世界遺産と地域活動	(学修内容)これからの世界遺産に求められていること (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする	

授業名	情報科学と文化			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	IC2216
英文名	Information Science and Culture			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	堀出 雅人			対象学生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>車の自動運転の実現、遠隔操作によって家の中の家事を進める「スマート家電」など、IoT(Internet of Things),人工知能(AI;Artificial Intelligence)といった技術革新によって私たちの生活は大きく変わりつつあります。また、SNSや動画投稿サイトなどスマートフォン・アプリによって国内外を問わずひととひととのつながりが広がり、新しい文化が生まれています。携帯電話の所持率の低年齢化または所持する年代の高年齢化、今後更にスマートフォンを中心としたインターネット上の各種メディアを老若男女が使用しそれぞれの生活をより善くしていこうとする傾向が強まると予想されます。一方で、日々のニュースで取り上げられるようにインターネット上のトラブルが絶えません。大学や若者の被害もみられます。そこで、本授業を通して、わたしの「生活とメディア」の現状を捉え、見つめ直す中で、最終的にメディアを介したコミュニケーション上で被害者にも加害者にもならない情報倫理を学修し、実践できる力の習得をめざします。ルールやマナーを理解するためには、自己理解と他者理解が欠かせないプロセスのため、グループワークを授業内で実施します。また、授業内容の理解を深めるために、自らの言葉で発表する、書くといった方法を取り入れます。</p>								
学修成果到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・わたしの生活を支えるメディアの特徴を説明できる ・メールや各SNSの特徴を把握した上で適切な情報発信ができる ・情報セキュリティの基本的な知識・技術を説明し、また実践できる ・ネットトラブルの具体例と解決方法を説明できる ・Society 5.0が目指す社会像を説明できる 								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点		知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	noa出版『2020年度情報倫理ハンドブック』								
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者庁ホームページ「インターネットをめぐる消費者トラブル」 https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_policy/casualty/internet/ ・警察庁ホームページ「サイバー犯罪対策プロジェクト」 https://www.npa.go.jp/cyber/ ・内閣府ホームページ「Society5.0 科学技術政策」 https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html ・そのほか授業中に適宜指示します。 								
課題に対するフィードバックの方法	<p>毎回提出を求めるコメントカードを後日チェックし全体的あるいは個別にコメントを返す プレゼンテーションを行う場面では、評価項目を事前に伝え、プレゼンテーション終了後に、講評を行う</p>								
留意事項	<p>テキストでの学習をおこなうため必ず購入すること グループワークやプレゼンテーション等には積極的に参加すること 配慮事項がある場合は、事前に相談にくること (授業を欠席する場合も事前連絡を)</p>								
オフィスアワー	授業期間中の毎週水曜日お昼休み								
実践的教育									

授業名	情報科学と文化	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) シラバス、テキストpp.1-3を読み、授業の概要を把握し、授業を受ける際の質問事項を整理しておく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学習: シラバスを読み、授業の概要を把握し、授業を受ける際の質問事項を整理しておく
第2回	インターネット上の著作権、肖像権	(学修内容) インターネット上の著作権と肖像権について事例を挙げて説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学習: テキストpp.4-10を読む。事後学修: 著作権、肖像権の侵害に関する事例を一つ調べ配布するコメントカードにまとめる
第3回	さまざまなSNSの特徴	(学修内容) 生活を送る上でSNSを使用する際のメリットとデメリットを説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学習: テキストpp.11-17を読む。復習: 授業中に取り上げるSNSを一つ選ぶ、実際の利用者のトラブル事例をコメントカードにまとめる
第4回	情報を発信する際に意識すること	(学修内容) インターネット上で情報発信する際の注意事項を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習: テキストpp.18-19を読む 復習: To, Bcc, Ccの使い分け方法をコメントカードにまとめる
第5回	1対1、1対特定多数、1対不特定多数の情報送受信	(学修内容) メールやSNS上の情報の送受信の範囲を説明することができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学習: テキストpp.20-22を読む 事後学修: 1対特定多数、1対不特定多数のSNS上のトラブル事例を調べコメントカードにまとめる
第6回	情報セキュリティの3つの観点	(学修内容) パスワード管理、バックアップ、データ整理によるセキュリティ強化の方法を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学習: テキストpp.23-28を読む 事後学修: 情報セキュリティについてできているものとできていないものをコメントカードにまとめる
第7回	データの安全を脅かすもの	(学修内容) マルウェア、不正アクセス、ソーシャルエンジニアリング、フィッシング詐欺について説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学習: pp.29-33まで読む 事後学修: データの脅威となる4つのうち1つを選び具体的な事例をコメントカードにまとめる
第8回	データの安全性を守る技術的対策	(学修内容) 情報を守るセキュリティソフト等の機能を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学習: pp.34-40まで読む 事後学修: 自身が使用しているセキュリティソフト等の情報を守る技術の特徴をコメントカードにまとめる
第9回	ネットワーク上のトラブル事例	(学修内容) 【グループワーク】大学生や若者に被害が与えているネットトラブルについて説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学習: pp.41-44まで読む 事後学修: 授業で取り上げたトラブル事例から1つ選び、それを回避する方法を考え、コメントカードにまとめる
第10回	ネットトラブルを避けるための注意点	(学修内容) 【プレゼンテーション】大学や若者がネットトラブルに遭わないための注意点を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学習: pp.45-52までを読む 事後学修: 授業で学修した注意点を広く学生や若者に周知理解させる方法を考えコメントカードにまとめる
第11回	ネット依存と情報文化	(学修内容) ネット依存の特徴と対策を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学習: 日本のネット依存の現状を調べてくる 事後学修: ネット依存のスクリーニングを行い、結果を考察し、コメントカードにまとめる
第12回	5Gと情報文化	(学修内容) 第5世代移动通信システムの特徴と情報文化の変化を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学習: 5Gについて調べてくる 事後学修: 授業の感想をコメントにまとめる
第13回	Society5.0と情報文化	(学修内容) Society5.0が目指す社会像について説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学習: 内閣府のソサエティ5.0のホームページを検索し、予習してくる 事後学修: 授業の感想をコメントカードにまとめる
第14回	AI予測と情報文化	(学修内容) AIによる気象、犯罪、寿命予測データをどのように活用するのか、考え、自分の意見を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学習: AIによる解析が実社会で活用される事例を調べる 事後学修: 授業の感想をコメントカードにまとめる
第15回	これからの情報社会と文化	(学修内容) 【グループワーク・発表】授業11~14回を振り返って、これからの私の暮らしとメディアについて話し合い発表できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学習: 授業11~14回を振り返って興味をもった箇所を調べる 事後学修: グループワークで話し合った内容をコメントカードにまとめる

授 業 名	ことばと文化			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	IC1301
英 文 名	Words and Expressions			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	柿本 真代			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	ことばと文化は不可分な関係にあり、文化が違えばことばも異なる。本授業では主に絵本の絵とことばの役割を分析したり、外国の昔話の日本における受容を比較検討したりすることによって、日本語による語りと日本文化の特質を考察する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 絵本の絵とことばの関係について説明することができる。 2) 昔話の語りと絵本のことばの違いについて説明できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	適宜、プリント等を配布します。								
参 考 書	小澤俊夫『グリム童話考：「白雪姫」をめぐって』講談社学術文庫、1999年 松岡享子『昔話絵本を考える 新装版』日本エディタースクール出版部、2002年 藤本朝巳『昔話と昔話絵本の世界 新装版』日本エディタースクール出版部、2005年								
課題に対する フィードバック の方法	発表については適宜コメントをします。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回の授業で説明します。								
実 践 的 教 育									

授業名	ことばと文化	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の内容や目的の説明 (事前事後学修課題の内容) (120分) (事前) シラバスを確認しておく (事後) 配布したプリントを読み返す
第2回	ことばと文化	(学修内容) ことばの役割についてこれまでの経験をもとに考えて話し合う (事前事後学修課題の内容) (120分) (事前) 前回の内容を振り返りまとめておく (事後) 配布したプリントを読み返す
第3回	ことばの育ち	(学修内容) 子どもがことばを獲得する過程を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (120分) (事前) 前回の内容を振り返りまとめておく (事後) 配布したプリントを読み返す
第4回	絵本の絵とことば	(学修内容) 絵本の構造を学び絵とことばの役割について考える (事前事後学修課題の内容) (120分) (事前) 前回の内容を振り返りまとめておく (事後) 配布したプリントを読み返す
第5回	絵本の絵とことば	(学修内容) 絵本の「絵」を読むことで絵とことばの役割を考える (事前事後学修課題の内容) (120分) (事前) 前回の内容を振り返りまとめておく (事後) 配布したプリントを読み返す
第6回	おべんとう絵本	(学修内容) おべんとう絵本の制作方法について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (120分) (事前) 前回の内容を振り返りまとめておく (事後) 絵本の制作の続きをする
第7回	おべんとう絵本	(学修内容) 制作したおべんとう絵本を発表する (事前事後学修課題の内容) (120分) (事前) 発表の準備を行う (事後) コメントシートをもとにミニレポートにまとめる
第8回	昔話とことば	(学修内容) 昔話の語りのことばの特徴について考える (事前事後学修課題の内容) (120分) (事前) 知っている昔話をまとめる (事後) 配布したプリントを読み返す
第9回	昔話の映像化	(学修内容) ディズニー映画と昔話の変容について考える (事前事後学修課題の内容) (120分) (事前) ディズニー映画ともなった昔話をまとめておく (事後) 配布したプリントを読み返す
第10回	昔話とテキスト	(学修内容) グリム童話の日本における受容について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (120分) (事前) 前回の内容を振り返りまとめておく (事後) 配布したプリントを読み返す
第11回	昔話の絵本化	(学修内容) 昔話の語りと絵本化の問題について考える (事前事後学修課題の内容) (120分) (事前) 前回の内容を振り返りまとめておく (事後) 配布したプリントを読み返す
第12回	昔話法廷	(学修内容) 映像をもとにディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (120分) (事前) 前回の内容を振り返りまとめておく (事後) 配布したプリントを読み返す
第13回	昔話絵本の発表	(学修内容) 各自おすすめしたい昔話絵本を選び理由とともに発表する (事前事後学修課題の内容) (120分) (事前) 絵本を探し発表の準備をする (事後) コメントシートを読み自己課題をまとめる
第14回	昔話絵本の発表	(学修内容) 各自おすすめしたい昔話絵本を選び理由とともに発表する (事前事後学修課題の内容) (120分) (事前) 絵本を探し発表の準備をする (事後) コメントシートを読み自己課題をまとめる
第15回	まとめ	(学修内容) これまでの授業の内容を整理する (事前事後学修課題の内容) (120分) (事前) プリントを整理しまとめておく (事後) これまでの学びをレポートにまとめる

授 業 名	芸術と文化			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	IC1303
英 文 名	Art and Culture			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	伊藤 茂樹			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	<p>芸術とは、人間の生活に潤いをもたらします。芸術には様々な分野があります。それぞれ先人の苦悩や努力があらわされており、学ぶことがたくさんあります。本講義では、そのような芸術と文化の関連を学んでゆく事を目的とします。具体的には、京都（特に東山区）の中にある様々な芸術的な事象（たとえば仏像、庭園、建築物）、または、舞台芸術等について学び、フィールドワークを通して何かの知見を得、その内容をプレゼンテーションしてもらいます。文化的な意義に踏みこみ、深く学んでゆきます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 芸術が私たちの生活にもたらす意義を確認出来る。 2) 鑑賞の知識を得て、物事を正確に捉えることを確認出来る。 3) 鑑賞の際、自分なりの見解を持つことが出来る。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	必要な資料を配布します。								
参 考 書	必要に応じて紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートは、コメントをつけて返却します。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	講義中指示します。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	芸術と文化	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容)本講義で講義する内容を説明します。日本文化における芸術の意義を概説します。 (事前事後学修課題の内容)(20分) まずは、シラバスをよく読んでください。講義の内容をしっかりと把握すること。
第2回	仏像について(1)起源と意義について	(学修内容)仏像とは何か。仏像の起源や意義を学びます。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布したプリントをよく読み返してください。内容をまとめること。
第3回	仏像について(2)作製技法と種類について	(学修内容)仏像作製における技法や像の種類を学びます。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントやノートをよく見返しておくこと。
第4回	仏師について	(学修内容)仏像を作製する仏師たちについて学びます。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布プリントを整理し、ノートをよく見返しておくこと。
第5回	フィールドワーク	(学修内容)フィールドワークを行います。華頂学園周辺の名刹を訪ね、前回までの講義で学んだ知識を駆使し、仏像を鑑賞しましょう。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 発見したことや感じたことをまとめてください。
第6回	プレゼンテーション:フィールドワーク事後学習	(学修内容)フィールドワークについて発見したことや感想を発表してもらいます。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 発表内容を整理してまとめてください。
第7回	庭園について	(学修内容)庭園について学びます。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ノートをまとめ、配布プリントをまとめてください。
第8回	寺院建築について学ぶ(1)意義	(学修内容)寺院建築の意義について学びます。 (事前事後学修課題の内容)(60分) ノートをまとめ、配布プリントを整理してください。
第9回	寺院建築について学ぶ(2)種類と建築方法	(学修内容)寺院における建造物(本堂、門、塔...)の種類や建築方法を学びます。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ノートをしっかりとまとめてください。配布プリントを見直すこと。
第10回	フィールドワーク事前学習	(学修内容)知恩院における芸術的文化を調べて、発表してください。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 知恩院の芸術的文化について調べて下さい。
第11回	フィールドワーク-知恩院-	(学修内容)これまで学んだ知識を駆使して、知恩院を鑑賞します。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発見した内容や感想をまとめること。
第12回	フィールドワーク事後学習	(学修内容)鑑賞した発見や感想を発表してもらいます。 (事前事後学修課題の内容)(30分) レポート作製します。
第13回	舞台芸術について	(学修内容)落語、歌舞伎等の舞台芸術を学びます (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントとノートを整理してください。
第14回	フィールドワーク:歌舞伎・落語の関連施設	(学修内容)京都内における歌舞伎や落語に関連のある施設にフィールドワークします。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 発見・感想をまとめてください。
第15回	舞台芸術の鑑賞	(学修内容)DVDで歌舞伎・落語等を鑑賞をします。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 内容をまとめてください。講義のあとレポートにすること。

授 業 名	比較文化			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	IC1305
英 文 名	Comperative Culture			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	秋山 裕之			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	<p>文化の定義を概観したのち、いくつかのトピックを通してそれらがいかに多様であるかを示す。 学生どうしでのディスカッションを通して多様性への理解を深め、自身の視点を相対化・客体化できるようになることを目指す。 文化について包括的に考察し、その多様性を尊重することができるようになるための材料を提示したい。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 価値観の多様性や文化的偏見について理解を深めることができる。 2) 文化を比較することで得られる知見にどのような意義があるかを見出すことができる。 3) 多様な物差しがあることを意識したうえでの価値判断ができるようになる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	なし 毎回プリントを配布する。								
参 考 書	電通総研 日本リサーチセンター(編)『世界主要国価値観データブック』2008年 同友館								
課題に対する フィードバック の方法	授業内でコメントする								
留 意 事 項	小グループでのディスカッションを重視しますので積極的に発言してください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	週に1時間×1回設定。曜日・時間帯は3号館4階学生演習室にて掲示。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	比較文化	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 文化とは何か	(学修内容) 講義スケジュール、文化の定義 (事前事後学修課題の内容) (5分) シラバスを読んでくる
第2回	小さな比較の実践	(学修内容) 小グループでディスカッション (事前事後学修課題の内容) (30分) 比較するテーマを考えておく
第3回	名付けの文化 1	(学修内容) ブッシュマンの名付け、諸外国の名付け (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の名前の由来を確認しておく
第4回	名付けの文化 2	(学修内容) 名付けのバリエーションと変化について (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の子にどんな名を付けたいか考えておく
第5回	混ざり合う文化 1	(学修内容) 明治期の日本文化にみられる諸外国の影響 (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習
第6回	混ざり合う文化 2	(学修内容) 現代日本文化<から/>の影響 (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習
第7回	植民地主義と文化侵略	(学修内容) アフリカにおける植民地主義の影響 (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習
第8回	文化の画一化	(学修内容) アメリカニゼーション (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習
第9回	日本における文化交流・文化発信の現在	(学修内容) 現代日本文化の海外展開 (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習
第10回	海外文化とステレオタイプ	(学修内容) 文化的偏見 (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習
第11回	価値観の多国間比較 1	(学修内容) 生活における重要度の多国間比較(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習
第12回	価値観の多国間比較 2	(学修内容) 信頼度の多国間比較(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習
第13回	価値観の多国間比較 3	(学修内容) 幸福度・満足度・家庭教育の多国間比較(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習
第14回	比較文化を行うために	(学修内容) 定量データと定性データ (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習
第15回	多国間比較の実践	(学修内容) 定性データによる多国間比較(グループワークとプレゼンテーション) (事前事後学修課題の内容) (60分) 比較するテーマを考えて下調べをしておく

授 業 名	現代社会の動き			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	IC1306
英 文 名	Social Movement in Today's World			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	新矢 昌昭			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	社会学を通して考えると、さまざまな社会に起こっている現象はどのように見えてくるのだろうか。この講義では、わたしたちの身近なできごとから現代社会の特徴を考えるとともに、わたしたちがいかに社会に左右される存在なのか、について考えていく。主として、現代社会における家族を見て行くが、現代社会に対する複眼的な目を養って欲しい。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 現代社会を理解することができる 2) 複眼的な視野を養うことができる 3) 社会と人間の間を関係を考えることができる								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (85 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (15 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	使用しない。プリントを配布する								
参 考 書	講義中に適宜指摘する								
課題に対する フィードバック の方法	配布資料についての解説、グループワーク発表などにコメントを加える								
留 意 事 項	わからないことは講義後に聞くように								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室の扉に掲示								
実践的教育									

授 業 名		現代社会の動き
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) この講義の進め方 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおく
第2回	近代家族の誕生ー西欧	(学修内容) 西欧近代家族の形成過程 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読んでおく
第3回	近代家族の誕生ー日本	(学修内容) 日本の家族史 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読んでおく
第4回	現代家族の行方	(学修内容) 現代家族の特徴、家族の未来 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布する新聞記事を読み、考えをまとめておく
第5回	恋愛結婚	(学修内容) 恋愛結婚の可能性と行方 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布する新聞記事を読み、考えをまとめておく
第6回	ジェンダー	(学修内容) 現代社会とジェンダー (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布する新聞記事を読み、考えをまとめておく
第7回	「見えない貧困」	(学修内容) 現代社会における貧困問題について (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布する新聞記事を読み、考えをまとめておく
第8回	若者論	(学修内容) 現代社会における若者の生きづらさ (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布する新聞記事を読み、考えをまとめておく
第9回	グループワーク	(学修内容) 若者論を疑う (事前事後学修課題の内容) (60分) グループワークで使用するプリントを予め読んでおくこと
第10回	「わたし」とは何か	(学修内容) アイデンティティの確立は可能か (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布する新聞記事を読み、考えをまとめておく
第11回	「世間」とは何か	(学修内容) 日本は社会ではなく、「世間」では (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読み、考えをまとめておく
第12回	「空気」とは何か	(学修内容) 「空気」に敏感なわたしたち (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読み、考えをまとめておく
第13回	閉塞感を感じる社会	(学修内容) 何故、わたしたちは閉塞感を感じてしまうのか (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読み、考えをまとめておく
第14回	個人について	(学修内容) 日本で個人は可能なのか (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読み、考えをまとめておく
第15回	全体のまとめ	(学修内容) われわれはどこへ行くのか (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布する新聞記事を読み、考えをまとめておく

授業名	コミュニケーション演習			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	IC1302
英文名	Communication Practice			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	武田 康晴			対象学生	総合文化1回生				
授業の概要	<p>コミュニケーションには、意思や情報のやり取りのことで、大きく分けて言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションがある。また、相手や場面、状況によってコミュニケーションの内容は変化する。例えば「挨拶をする」という行為について、笑顔なのか無表情なのか、親しい相手なのか初対面の相手なのか、部屋の中なのか道路なのか、朝なのか夜なのか...、仕方や状況によってコミュニケーションは大きく異なり、伝わる意思や情報も変化してくる。この授業では、様々な角度からコミュニケーションを取り上げ、実際に学生がコミュニケーションを体験することを通じて、コミュニケーションの意味を学び、社会生活の中で意識してコミュニケーションを活用できる力を身につけることを目的とする。授業は、ほぼ全ての回でワークショップ、ディスカッション、プレゼンテーションなどの演習を実施する。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 原稿を見ずに1分間自己紹介、3分間自己紹介ができるようになる。 2) 非言語コミュニケーションの要素を含む資料を用いて1つのテーマについて説明できるようになる。 3) 授業開始時に比べ「コミュニケーション能力が向上した」と自信を持ち、根拠を説明できるようになる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	必要に応じて資料を配布する。								
参考書	必要に応じて紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	課題や振り返りシートについては必ず目を通し、必要に応じて口頭やコメントの記入で対応する。								
留意事項	演習ですので「参加」が前提となります。積極的な発言ばかりが参加ではありませんが、「参加している」ということを強く意識して授業に参加して下さい。								
オフィスアワー	研究室に掲示し、授業中に口頭でも伝達する。								
実践的教育									

授業名	コミュニケーション演習	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション（コミュニケーションに関する講義）	（学修内容）コミュニケーションに関する簡単な講義、簡単な演習取り入れ、演習に導入する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） シラバスを読んでおく。演習内容を意識して、演習に関する振り返りシートを作成する。
第2回	コミュニケーションに関する演習（基本の自己紹介）	（学修内容）基本の自己紹介（1分、3分）を作成し、実演して、教員も交えて学生同士意見交換をする。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 演習内容を意識して、演習に関する振り返りシートを作成する。
第3回	コミュニケーションに関する演習（状況に合わせた自己紹介）	（学修内容）自分に起こりえる状況を2つ挙げ、前回の基本の自己紹介（1分）をアレンジして、状況に合わせた自己紹介を作成、実演する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 演習内容を意識して、演習に関する振り返りシートを作成する。
第4回	コミュニケーションに関する演習（いいところ探し）	（学修内容）目に見えるいいところ、目に見えないいいところをワークシートに書いて準備し二人一組で演習を行う。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 演習内容を意識して、演習に関する振り返りシートを作成する。
第5回	コミュニケーションに関する演習（絵本の読み聞かせ）	（学修内容）絵本を教材として活用し、色々な読み方を実演し、聞いている側がどのような印象を得たのかをディスカッションする。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 演習内容を意識して、演習に関する振り返りシートを作成する。
第6回	コミュニケーションに関する演習（気持ちの表現）	（学修内容）表情、姿勢、態度などの非言語行動を活用して、喜怒哀楽など気持ちを表現してみる。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 演習内容を意識して、演習に関する振り返りシートを作成する。
第7回	コミュニケーションに関する演習（気持ちの表現）	（学修内容）声のトーン、大きさ、調子など非言語行動を活用し、言語的には同じ文章を喜怒哀楽など気持ち込めてを表現してみる。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 演習内容を意識して、演習に関する振り返りシートを作成する。
第8回	中間の振り返りとカンファレンス	（学修内容）前半の演習内容を振り返るとともに、学生が演習に対する思いなどを話せる機会を設定する。 （事前事後学修課題の内容）（90分） 授業内容を踏まえ演習に関する振り返りシートを作成し、それとは別に中間レポートを作成する。
第9回	コミュニケーションに関する演習（図形の伝達）	（学修内容）幾何学的な図形を見て、それを言語だけで伝えることで、言語コミュニケーションのみの不十分さを体験する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 演習内容を意識して、演習に関する振り返りシートを作成する。
第10回	コミュニケーションに関する演習（似顔絵の作成）	（学修内容）顔写真を見て、顔つき等を言語コミュニケーションのみで伝え、似顔絵を作成する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 演習内容を意識して、演習に関する振り返りシートを作成する。
第11回	コミュニケーションに関する演習（状況の説明）	（学修内容）写真や短い動画を見て、状況について言語コミュニケーションのみを使って伝達する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 演習内容を意識して、演習に関する振り返りシートを作成する。
第12回	コミュニケーションに関する演習（地図づくり）	（学修内容）断片的な情報の書かれたカードを用い、グループで除用法を集約することでちづを作ることで、情報の意味を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 演習内容を意識して、演習に関する振り返りシートを作成する。
第13回	コミュニケーションに関する演習（価値観の競売）	（学修内容）価値観の競売ゲームを通じて、自分の価値観の傾向、価値観の違いなどについて体験的に学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 演習内容を意識して、演習に関する振り返りシートを作成する。
第14回	コミュニケーションに関する演習（価値観のすり合わせ）	（学修内容）各自が価値観の順位づけをし、ディスカッションによりグループとして順位を付けることで価値観のすり合わせを体験的に学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 演習内容を意識して、演習に関する振り返りシートを作成する。
第15回	コミュニケーション演習のまとめ	（学修内容）授業全体を振り返りコミュニケーションの効果、意義、留意点等を確認するとともに受講の効果等についてディスカッションする。 （事前事後学修課題の内容）（120分） ディスカッションについては振り返りシートを作成、授業全体に関する総括レポートを作成する。

授業名	情報サービス演習			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	IC1304
英文名	Information Service Practice			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	渡邊 雄一			対象学生	総合文化1回生				
授業の概要	<p>情報サービス、レファレンスサービス業務に必要な各種情報源（冊子体、電子データ）の基礎知識や検索理論・検索技法を講義と演習を通して学習する。また、図書館での蔵書検索、冊子体の文献情報の読み方、データベースの利用法等をテキストに記載されている演習課題を通じて実践的に身につけていく。発信型情報サービスの理解を深めるために、グループワーク、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 図書館利用者の情報要求に対し、適切な情報源(電子情報、冊子情報)を用いて情報探索することができる。 2) 情報検索理論を理解し、適切な情報検索技術を用いて検索することができる。 3) パスファインダーの調査成果についてプレゼンテーションすることができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 () () ()			
テキスト	原田智子『情報サービス演習』（現代図書館情報学シリーズ7）、樹村房、2016年								
参考書	今まどこ『図書館学情報学基礎資料』、樹村房、2016年								
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> レファレンスサービス及び情報検索に関する基礎的な理論を活用し、テキスト記載の演習課題に取り組む中で図書館における情報サービスを実践的に理解していくため、「情報サービス論」で学習した基本的な理論はしっかりと復習しておくこと。 講義で紹介されたデータベースについては、授業後に再度利用し、そのデータベースの特性、内容、利用法をしっかりと復習すること。 								
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。								
実践的教育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに情報サービス、レファレンスサービスについて解説を行います。</p>								

授 業 名		情報サービス演習
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の概要を理解し、授業計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	情報サービスの設計と評価	(学修内容)情報サービス、レファレンスサービスの概要を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト1章、2章を読んで予習しておくこと。
第3回	情報探索の基礎	(学修内容)情報検索理論について、検索方式、検索語、トランケーションを中心に学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト2章を読んで予習しておくこと。
第4回	情報資源の探し方	(学修内容)さまざまな情報資源の種類、使い方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回講義の検索基礎理論を理解しておくこと。 テキスト3章を読んで予習すること。
第5回	Webページ、Webサイトの探し方	(学修内容)Webページ、Webサイト、検索エンジン、インターネット上の情報の探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト4章を読み予習すること。
第6回	図書情報の探し方	(学修内容)図書情報の種類、特徴、探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト5章を読み予習すること。
第7回	雑誌および雑誌記事の探し方	(学修内容)雑誌、雑誌記事の種類、特徴、探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト6章を読み予習すること。
第8回	新聞および新聞記事の探し方	(学修内容)新聞の種類、特徴、探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト7章を読み予習すること。
第9回	言葉、事柄、統計の探し方	(学修内容)言葉、事柄、統計資料の種類、特徴、探し方について学習する。(図書館演習) (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト8章を読み予習すること。
第10回	歴史、日時、地理、地名、地図の探し方	(学修内容)歴史、日時、地理、地名、地図資料の種類、特徴、探し方について学習する。(図書館演習) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト9章、10章を読み予習すること。
第11回	法律、判例、特許の探し方	(学修内容)法令、判例、特許資料の種類、特徴、探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト12章を読み予習すること。
第12回	発信型情報サービス	(学修内容)発信型情報サービス(パスファインダー)の構築する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト15章を読み予習すること。
第13回	人物、企業、団体の探し方	(学修内容)人物、企業、団体資料の種類、特徴、探し方について学習する。(図書館演習) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト9、10章を読み予習すること。
第14回	レファレンスコレクションの整備	(学修内容)レファレンスコレクションの整備・評価の在り方について学習する。Web上に公開されているデータベースの調査、評価を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト14章を読み予習すること。
第15回	パスファインダーの調査成果発表まとめ	(学修内容)パスファインダー調査成果を発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 各自調査結果の発表準備を行う。

授 業 名	ビジネス文書表現			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CS1114
英 文 名	Business Writing			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	水谷 隆			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	<p>ビジネスの現場で用いる文書は、特定の相手に対して、必要な事項を過不足なく、誤解の生じないように伝達することを目的としたものです。その目的にかなう文書を作成するためには、伝えるべき内容にふさわしい形式で、受け手を明確に意識し、簡潔に表現することが必要です。この授業では、ビジネスの現場にふさわしい形式（フォーマット）と言語表現のポイントを説明した上で、実際に文書を作成することで、その体得を図ります。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1) ビジネスで用いられる各種の書式を目的に応じて使い分けができる。 2) 目的に合う簡潔な文章表現ができる。 3) 敬語を中心とした待遇表現が適切に使い分けられる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ()		プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	プリントを配布します。								
参 考 書	授業中適宜紹介します。								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートは、学生相互の批評とともに、コメントを付して返却します。								
留 意 事 項	<p>授業時に作成する文書は、学生相互の添削の対象とします。 授業の進行等の事情に応じて各回の内容を変更することがあります。なお、その際には事前事後学習課題と併せて、前もって連絡します。 国語辞典あるいはそれに類するもの（スマホのアプリ等）を持参してください。</p>								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付するので、確認してください。								
実践的教育									

授業名	ビジネス文書表現	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス ビジネス文書とは	(学修内容) 授業の運営方針の確認 ビジネスで用いる文書の特徴についての解説および作文 (事前事後学修課題の内容) (20分) 予習として、シラバスを読んでおく。
第2回	用件の伝達を目的とした文章について	(学修内容) 批評の観点提示と学生相互の批評 作文の修正 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、添削された作文を読み返す
第3回	ビジネス文書の基本フォーマット 解説と作成	(学修内容) ビジネス文書の基本フォーマットの解説 作成実習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、ビジネス文書のフォーマットについて自分なりに調べておく
第4回	ビジネス文書の基本フォーマット 相互添削と修正	(学修内容) 前回作成文書を相互添削し、完成版を作る (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、自分の作成した文書を見直しておく
第5回	ビジネス文書の基本フォーマット 電子メールの解説と作成	(学修内容) 電子メールの基本的書式解説 作成実習 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、電子メールの書式について自分なりに調べておく
第6回	目的別文書の理解と体得 書簡文(縦書き)の解説と作成	(学修内容) 縦書き書簡文の書き方解説 作成実習 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、縦書き書簡文の書き方について自分なりに調べておく
第7回	目的別文書の理解と体得 書簡文(縦書き)の修得	(学修内容) 前回作成の書簡を相互添削し、完成版を作る (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、自分の作成した書簡文を見直しておく
第8回	目的別文書の理解と体得 書簡文(横書き)の解説と作成	(学修内容) 横書き書簡文の書き方解説 作成実習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、横書き書簡文の書き方について自分なりに調べておく
第9回	目的別文書の理解と体得 書簡文(横書き)の修得	(学修内容) 前回作成の書簡を相互添削し、完成版を作る (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、自分の作成した書簡文を見直しておく
第10回	目的別文書の理解と体得 履歴書	(学修内容) 履歴書(履歴部分)の作成に関する解説と実習 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、履歴書の書き方について確認しておく
第11回	目的別文書の理解と体得 履歴書	(学修内容) 履歴書(履歴部分)のチェックと修正 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、自分の作成した履歴書を見直しておく
第12回	目的別文書の理解と体得 履歴書	(学修内容) 自己PR文の作成 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、自分のアピールポイントを整理しておく
第13回	目的別文書の理解と体得 履歴書	(学修内容) 自己PR文のチェックと修正 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、自分の作成した自己PR文を見直しておく
第14回	目的別文書の理解と体得 添え状 他	(学修内容) 履歴書送付時の添え状他の解説と作成実習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、履歴書の送付の仕方について自分なりに調べておく
第15回	まとめ	(学修内容) 授業の振り返りと自己評価。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、授業全体を振り返り、自己の課題と今後の学修について考えておく。

授 業 名	情報文化と倫理			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CS2121
英 文 名	Information Culture and Ethics			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	湯川 宗紀			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>PC、ネット、スマホ等々が日常に欠かせなくなり、意識さえしなくなった世界、それはどのような世界で我々にどんな恩恵をもたらし、どのような不幸をもたらすのか。</p> <p>現代に至るまでのメディアの歴史、それによる社会変容、理論的研究を紹介し、現代における情報文化の問題点と倫理について資料・映像を使い、事例を交えながら考えていきます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1.メディアの変化を歴史的に学ぶことにより現状の情報文化を把握することができる。</p> <p>2.これまでのメディア研究から情報に対する倫理を理解することができる。</p> <p>3.現在のネット環境と自身との関わり方を考えることができる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	必要に応じて資料を配付する								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートにコメントを付けて返却								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	講義前後に対応します								
実 践 的 教 育									

授 業 名		情報文化と倫理
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 講義計画 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認しておく
第2回	聞くことから観ること	(学修内容) 語りから文字への変化について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第3回	書物	(学修内容) グーテンベルクの活版印について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第4回	書物が誕生する社会的背景	(学修内容) 社会状況と印刷技術について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第5回	書物がもたらした社会変容	(学修内容) 技術による社会変容について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第6回	出版メディアの誕生	(学修内容) マス・メディア、新聞の誕生について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第7回	電子メディア・ラジオの誕生	(学修内容) ラジオと聴衆についての理論紹介 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第8回	電子メディア・テレビの誕生	(学修内容) テレビと視聴者についての理論紹介 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第9回	コンピューターの歴史	(学修内容) コンピューターの発展とその背景について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第10回	インターネットの歴史	(学修内容) インターネットの歴史、特に日本国内での歴史について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第11回	「検索」が世界を創る	(学修内容) 検索システムによる社会変容について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第12回	新しい『1984』 SNSで楽しみ進める監視・管理社会	(学修内容) SNSの問題点、倫理点について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第13回	IoTとビッグデータ	(学修内容) 現状のIT技術の紹介と問題点について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第14回	意識すら出来ないIT化社会での倫理	(学修内容) 現代社会でのITリテラシーについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第15回	まとめ	(学修内容) これまでのまとめ (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく

授 業 名	国際理解			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	IC2307
英 文 名	International Understanding			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	松尾 章子			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	国籍、人種、宗教などにおいて、それぞれ人は異なる背景を持つ。互いを認め合い、「地球市民」として生きる私たちにとって、国際理解はますます重要な資質になってきている。本授業では、宗教（とその歴史）を中心に世界を知り、領土問題を中心に双方の立場・主張を理解することを目指す。グループディスカッションを行い、理解を深める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) ユダヤ教、イスラム教、ゾロアスター教について簡単に説明できる。 2) 日中関係の構造について、簡単に説明できる。 3) 日本が抱える領土問題のうち1つについて、詳しく説明できる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	高橋和夫著 『改訂版 国際理解のために』一般財団法人放送大学教育振興会 2019年 2,400円+税								
参 考 書									
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートは、コメントを付して返却します。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に掲示しますので、確認してください。								
実 践 的 教 育									

授業名	国際理解	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 1 ユダヤ教、キリスト教、イスラム教	(学修内容)ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の基本について (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前:学修項目箇所を読む。 事後:授業の内容から疑問点を探し、さらに深く調べる。
第2回	2 ユダヤ教	(学修内容)安息日、食事の戒律、ユダヤ人について (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:学修項目箇所を読む。 事後:授業の内容から疑問点を探し、さらに深く調べる。
第3回	3 イスラム教	(学修内容)イスラム教の広がり、ハラームとハラールについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:学修項目箇所を読む。 事後:授業の内容から疑問点を探し、さらに深く調べる。
第4回	4 光と闇の戦い/ゾロアスター教	(学修内容)宗教の二要素、善思、善言、善行について (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:学修項目箇所を読む。 事後:授業の内容から疑問点を探し、さらに深く調べる。
第5回	5 ペルシア帝国とユダヤ教徒	(学修内容)バビロン、キュロス「革命」について (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:学修項目箇所を読む。 事後:授業の内容から疑問点を探し、さらに深く調べる。
第6回	6 「三博士」の贈り物	(学修内容)旧約聖書の成立、マルクス主義について (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:学修項目箇所を読む。 事後:授業の内容から疑問点を探し、さらに深く調べる。
第7回	7 ゾロアスター教的世界の広がり	(学修内容)ゾロアスター教のユダヤ教、キリスト教、イスラム教、仏教への広がりについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:学修項目箇所を読む。 事後:授業の内容から疑問点を探し、さらに深く調べる。
第8回	8 東アジアの国際情勢/日中関係の構造	(学修内容)パワー・バランスの変化、日中関係の構造について (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:学修項目箇所を読む。 事後:授業の内容から疑問点を探し、さらに深く調べる。
第9回	9 領土問題とは何か?	(学修内容)領土問題とテクノロジーの進歩、民族主義について (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:学修項目箇所を読む。 事後:授業の内容から疑問点を探し、さらに深く調べる。
第10回	10 なぜ領土問題が起こるのか?	(学修内容)国境線と民族不一致について (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:学修項目箇所を読む。 事後:授業の内容から疑問点を探し、さらに深く調べる。
第11回	11 日本の領土問題	(学修内容)領土問題、領海、排他的経済水域について (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:学修項目箇所を読む。 事後:授業の内容から疑問点を探し、さらに深く調べる。
第12回	12 北方領土問題	(学修内容)北方四島の歴史、ロシアとの交渉の経緯について (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:学修項目箇所を読む。 事後:授業の内容から疑問点を探し、さらに深く調べる。
第13回	13 竹島領土問題	(学修内容)竹島における日本の認識と韓国の認識について (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:学修項目箇所を読む。 事後:授業の内容から疑問点を探し、さらに深く調べる。
第14回	14 尖閣諸島	(学修内容)尖閣諸島における日本と中国の主張について (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:学修項目箇所を読む。 事後:授業の内容から疑問点を探し、さらに深く調べる。
第15回	15 沖ノ鳥島	(学修内容)沖ノ鳥島に関する国際法について (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:学修項目箇所を読む。 事後:授業の内容から疑問点を探し、さらに深く調べる。

授 業 名	人間関係の心理学			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	IC2312
英 文 名	Psychology of Human Relations			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渋谷 郁子			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	人はさまざまな人間関係を経験する中で、自己のアイデンティティを形成していく。本講義では、臨床心理学やカウンセリングなどの観点から、現代社会における人間関係の問題を探求し、人間関係の多様性と複雑さを学ぶ。各回のテーマに沿ったグループワークを行い、さまざまな人間関係の問題に柔軟に対処できる実践力を養う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1. 自己とは何か、他者とは何か、自己と他者との関係性はどのようなものかを説明できる。 2. カウンセリングの考え方を説明できる。 3. 臨床心理学的視点から対人関係を説明できる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	教科書は指定しない。適宜資料を配布する。								
参 考 書	授業内で紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	レポートにはコメントをつけて返却する。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回授業時に伝える。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：教育、福祉機関でカウンセラーとして勤務。								

授業名	人間関係の心理学	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	人生におけるさまざまな人間関係	(学修内容) 一生の中で出会うさまざまな人間関係を、発達段階に沿って概観していく。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 自分を取り囲む人間関係を図で表す。
第2回	自己と他者の成り立ち	(学修内容) 自己と他者の成り立ちについて、発達の観点から理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 思い出せる一番古い記憶をたどり、自分の成り立ちについて考える。
第3回	他者理解(1) 対人認知	(学修内容) 他者理解はどのような要因によってなされているのか、対人認知のプロセスについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 他者を理解する上で、自分が重点を置くポイントは何かを考える。
第4回	他者理解(2) 対人魅力	(学修内容) 他者に心ひかれるのはどのような要因によるものなのか、対人魅力について学ぶ。また、恋愛関係のプロセスについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 他者に好意をもつときの心の動きについて考える。
第5回	自己理解(1) パーソナリティとは何か	(学修内容) パーソナリティとは何か、どのようにすれば把握することができるのかを学ぶ。また、自分のパーソナリティを考える。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 質問紙法を用いて自分のパーソナリティを把握する。
第6回	自己理解(2) 無意識的な側面のパーソナリティ	(学修内容) 無意識的な側面のパーソナリティについての理論や、それを把握する方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 描画法や投影法を用いて自分のパーソナリティを把握する。
第7回	自己理解(3) 自己概念	(学修内容) 生涯のテーマとなるアイデンティティの形成について、様々な角度から考察する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) これまでの授業を振り返り、自分についての自分のイメージを整理する。
第8回	自己理解(4) 人間関係のあり方	(学修内容) 人間関係の築き方における個人差について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 自分の人間関係の特徴を把握する。
第9回	対人援助のコミュニケーション(1) カウンセリング	(学修内容) クライアント中心のカウンセリングの考え方を学び、受容的態度に必要な繰り返しの技法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 授業で行ったロールプレイを振り返る。
第10回	対人援助のコミュニケーション(2) カウンセリング	(学修内容) クライアント中心のカウンセリングの考え方を学び、共感的態度に必要な質問の技法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 授業で行ったロールプレイを振り返る。
第11回	対人援助のコミュニケーション(3) 質問	(学修内容) Yes, Noで答えられる質問を繰り返しながら、問題解決に導くメタファシリテーションの考え方と技法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 授業で行ったロールプレイを振り返る。
第12回	ディスコミュニケーションの生じるプロセス	(学修内容) コミュニケーションがうまくいかないときは何が起きているのか、ディスコミュニケーションの生じるプロセスについて考える。 (事前事後学修課題の内容) (20分) ディスコミュニケーションを経験した場面を思い起こし、うまくいかなかったのはなぜなのかを自分なりに考える。
第13回	ストレスへの反応と対処	(学修内容) ストレスやストレス反応について学び、ストレスコーピングの種類を知る。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 自分のストレス対処法を振り返り、改善点を考える。
第14回	メンタルヘルス	(学修内容) 精神疾患の種類を知り、うつ病や神経症の主症状と支援について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 身近な人が精神疾患に罹った場合にどんな対応・支援ができるかを考える。
第15回	個と集団	(学修内容) いじめやハラスメントなど、集団の中で生じる人間関係の問題について学び、どのように理解すればよいかについて考える。 (事前事後学修課題の内容) (20分) いじめやハラスメントがなぜ起こるのかについて考える。

授 業 名	地域文化と観光			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	IC2308
英 文 名	Local Culture and Tourism			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	新矢 昌昭			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	本講義は、京都、大阪、神戸の「三都物語」のそれぞれの地域の特色ある文化と観光について学ぶことが目的である。まずは、歴史的な三都を学習し、そしてJR西日本「三都物語」のキャンペーンから、地域観光の特徴と「売り」を考えてみたい。また、実際にそれぞれの地域を訪れ、どのような文化と観光の特徴がみられるのかを体感する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 三都について学ぶ 2) 「三都物語」を理解する 3) それぞれの地域の文化と観光を考えてみる								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)		課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	使用しない。プリントを配布する								
参 考 書	適宜紹介する								
課題に対する フィードバック の方法	配布資料についての解説、発表、レジュメなどにコメントを加える								
留 意 事 項	講義やフィールドワークを通して「売り」を疑う。発見や課題を深めて欲しい								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室の扉に掲示する								
実 践 的 教 育									

授 業 名	地域文化と観光	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)この講義の進め方と注意 (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスを読んでおく
第2回	三都とは何か	(学修内容)三都の歴史的考察 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布資料を読んでおく
第3回	京	(学修内容)名所図会にみる京 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布史料を読んでおく
第4回	大坂	(学修内容)名所図会にみる大坂 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布史料を読んでおく
第5回	名所図会の地と現代	(学修内容)フィールドワーク (事前事後学修課題の内容)(30分) 行先の名所図会と現代の案内プリントを読んでおく
第6回	「三都物語」	(学修内容)「三都物語」とは何か (事前事後学修課題の内容)(30分) JR西日本の該当HPを読んでおく
第7回	神戸の文化と観光	(学修内容)神戸の文化的特徴、観光的資源 (事前事後学修課題の内容)(60分) 旅行者のパンフレットを入手し、読んでおく
第8回	京都の文化と観光	(学修内容)京都の文化的特徴、観光的資源 (事前事後学修課題の内容)(60分) 旅行者のパンフレットを入手し、読んでおく
第9回	大阪の文化と観光	(学修内容)大阪の文化的特徴、観光的資源 (事前事後学修課題の内容)(60分) 旅行者のパンフレットを入手し、読んでおく
第10回	神戸フィールドワーク	(学修内容)神戸グループによるガイドと解説 (事前事後学修課題の内容)(60分) レジユメの用意、経路確認をしておく
第11回	神戸フィールドワーク事後学習	(学修内容)神戸グループによる発表 (事前事後学修課題の内容)(60分) 神戸グループは、設定したテーマのレジユメを用意
第12回	京都フィールドワーク	(学修内容)京都グループによるガイドと解説 (事前事後学修課題の内容)(60分) レジユメの用意、経路確認をしておく
第13回	京都フィールドワーク事後学習	(学修内容)京都グループによる発表 (事前事後学修課題の内容)(60分) 京都グループは、設定したテーマのレジユメを用意
第14回	大阪フィールドワーク	(学修内容)大阪グループによるガイドと解説 (事前事後学修課題の内容)(60分) レジユメの用意、経路確認をしておく
第15回	大阪フィールドワーク事後学習	(学修内容)大阪グループによる発表 (事前事後学修課題の内容)(60分) 大阪グループは、設定したテーマのレジユメを用意

授 業 名	女性史			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	IC2309
英 文 名	History of Women			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	馬場 まみ			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	近世から現代にいたる女性の社会的位置づけの変遷について講義する。さらに、戦後の女性にかかわる社会環境の変化と女性の社会的位置づけについて概観し、現代における課題を考える。理解を深めるために、適宜ディスカッションを行いながら授業を進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1. 近世から近代における女性の社会的位置づけを説明することができる。 2. 戦後における、女性を取り巻く社会の変化と女性の状況を説明することができる。 3. 現代社会における女性に関わる課題を指摘することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ()			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	使用しない。								
参 考 書	随時指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く）設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	女性史	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス	(学修内容) 女性史の研究史と女性史を学ぶ意義について (事前事後学修課題の内容) (10分) シラバスを読み、これまでに学んだ女性の生活の歴史について振り返る
第2回	近世社会と女性1: 女訓書とは	(学修内容) 女訓書について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第3回	近世社会と女性2: 女訓書を読む	(学修内容) 女訓書の記述内容について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第4回	近世社会と女性3: 女訓書にみる女性像	(学修内容) 女訓書にみる女性の役割について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第5回	近世社会と女性4: 家父長制と女性	(学修内容) 家父長制と女性に求められる役割について (事前事後学修課題の内容) (60分) 家父長制について調べてくる
第6回	近代社会と女性1: 家政書にみる女性像	(学修内容) 家政書にみる女性について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでくる
第7回	近代社会と女性2: 良妻賢母教育	(学修内容) 近代社会と女性の役割について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第8回	近代社会と女性3: 明治民法と女性	(学修内容) 明治民法における女性の位置づけについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第9回	近代社会と女性4: 近代の女性観	(学修内容) 近世と近代の女性観の違いについて ディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 女性観の違いについて考えてくる
第10回	近代社会と女性5: 女性と社会運動	(学修内容) 婦人参政権運動等の社会運動について (事前事後学修課題の内容) (60分) 婦人参政権運動について調べておく
第11回	現代社会と女性1: 戦後の女性の生活	(学修内容) 戦後の女性の生活について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第12回	現代社会と女性2: 女性と教育	(学修内容) 戦後から現代までの女性に対する教育の変遷について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第13回	現代社会と女性3: 女性差別撤廃条約	(学修内容) 女性差別撤廃条約について (事前事後学修課題の内容) (60分) 女性差別撤廃条約について調べておく
第14回	現代社会と女性4: 男女共同参画社会	(学修内容) 男女共同参画社会について (事前事後学修課題の内容) (60分) 男女共同参画社会について調べておく
第15回	今後の課題	(学修内容) これまでの内容を振り返り、今後の課題についてディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの授業内容を振り返る

授 業 名	ホスピタリティ			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	IC2310
英 文 名	Hospitality			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	藤田 恵美子			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	将来、ホスピタリティ産業(ホテル・旅行・航空・プライダグ)に就職を考えている学生の皆さんへ、ホスピタリティ・マインド(おもてなしの心)とホスピタリティ産業で求められる基礎能力を育成する。ホスピタリティ各業界の現状とその仕事を紹介し、グループワークで応対実践事例を考察する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・おもてなしやホスピタリティ産業(ホテル・旅行・航空・プライダグ)で求められる基礎能力を育成できる。 ・ホスピタリティ産業の現状を理解することができる。 ・ホスピタリティ産業へのキャリアデザインを考えるスタートとなる。 								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	プリント配布								
参 考 書	授業にて指示								
課題に対する フィードバック の方法	毎回提出される気づきや質問には、コメントを付けて返却します。実技や口述については、その都度コメントをします。								
留 意 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の将来を考える場として積極的に参加し、学んだことを日常生活で実行できるよう心掛ける。 ・おもてなしの仕事ですので出席・時間・言葉遣い・課題・マナーに厳しくします。その覚悟を持って受講して下さい。 ・ホスピタリティ産業のニュースだけでなく新聞等で社会の動きに関心を持つようにする。 								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業前後に実施する								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：国際線客室乗務員として勤務。 接遇インストラクターとして新入社員研修等各種企業研修を担当。 その経験を活かし、光陵女子短期大学・大阪国際大学非常勤講師、大阪学院大学短期大学部准教授 として秘書実務・ビジネス実務・エアライン実務とインターンシップの教育指導。								

授 業 名		ホスピタリティ
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション ホスピタリティとホスピタリティ産業について	(学修内容) 授業概要説明 ホスピタリティの語源とホスピタリティ産業の構造について (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) シラバスの内容確認とサービスとホスピタリティ(おもてなし)の違いについて考えておく
第2回	ホテル業界について	(学修内容) リッツカールトンのクレド(信条)からホテルでのホスピタリティ・マインドについてとホテルの仕事内容、求められる人材について (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業内容を復習し、興味のあるホテル・旅館について調べる
第3回	観光・旅行業界について	(学修内容) 旅行会社の業務範囲での分類と仕事内容、求められる人材について (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) 日本の世界遺産について調べておく (事後) 授業内容を復習し、興味のある旅行会社について調べる
第4回	ブライダル業界について	(学修内容) ブライダルプランナーの仕事の特性と仕事内容、求められる人材 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業内容を復習し、興味のあるブライダル会社について調べる
第5回	航空業界について	(学修内容) 航空業界の仕事の特性と各仕事内容、求められる人材 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業内容を復習し、興味のある航空会社と仕事について調べる
第6回	ホスピタリティ産業で求められる基本能力の育成 -1 (表情・アイコンタクト)	(学修内容) 第一印象の大切さ、メラビアンの法則、表情&アイコンタクト (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業内容を復習し、目・表情訓練を実行する
第7回	ホスピタリティ産業で求められる基本能力の育成 -2 (身嗜み・色)	(学修内容) 身嗜みとおしゃれの違い、色彩心理、パーソナルカラーについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業内容を復習し、身の回りの色を調べる
第8回	ホスピタリティ産業で求められる基本能力の育成 -3 (挨拶・態度)	(学修内容) 挨拶・態度(姿勢・お辞儀・歩き方)・マナーの大切さ (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業内容を復習し、日常生活でも実行する
第9回	ホスピタリティ産業で求められる基本能力の育成 -4 (声と言葉遣い)	(学修内容) 発声練習と言葉遣い(配慮表現と敬語)について (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業内容を復習し、発声練習と言葉遣いを日常生活でも実行する
第10回	ホスピタリティ産業で求められる基本能力の育成 -5 (話し方・聴き方)	(学修内容) 正しく伝え、良い聴き手になる(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業内容を復習し、日常生活でも実行する
第11回	顧客満足実践事例-1 (顧客心理)	(学修内容) 顧客心理を理解してCS(顧客満足)実践(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業内容を復習し、アルバイト等日常生活でも活用する
第12回	顧客満足実践事例-2 (タイプ別)	(学修内容) お客様のタイプを知り、対応を考える(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業内容を復習し、アルバイト等日常生活でも活用する
第13回	顧客満足実践事例-3 (交流分析)	(学修内容) 交流分析から対応を考える(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業内容を復習し、アルバイト等日常生活でも活用する
第14回	ホスピタリティマネジメント	(学修内容) ホスピタリティマネジメントについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業内容を復習し、興味ある企業と仕事を絞り込む
第15回	まとめ	(学修内容) 振り返りとホスピタリティ産業へのキャリアデザインについて考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 興味を持ったホスピタリティ産業の企業研究の準備をする

授 業 名	生涯学習			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	IC2311
英 文 名	Lifelong Learning			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>人々が、生涯のいつでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価されるような生涯学習社会の実現のため、学習者の特性の把握、生涯学習・社会教育の内容・方法・形態、生涯学習関連機関相互の連携のあり方、学習情報の提供と相談などの効果的なあり方を学び、生涯学習の新しい可能性を切り拓く力を育成する。ビデオを見たり、グループディスカッションやプレゼンテーションを行いながら授業を進める。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 生涯学習社会の望ましい学習機会や環境について説明することができる。 2) 生涯学習支援者の支援のあり方について説明することができる。 3) 生涯学習振興策の内容と地域の生涯学習推進の実際についてプレゼンテーションを10分間行うことができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	授業中に指示する。								
参 考 書	適宜、授業中に紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	授業中に出示された課題に対して主体的に取り組むこと。地域の生涯学習施設を訪問し、学習活動に参加することが望ましい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実践的教育									

授 業 名	生涯学習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 予習として、シラバスを読んで内容、評価方法などを確認しておく。
第2回	生涯学習とは何か	(学修内容)生涯学習の理念について基本的考えを理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(40分) 予習として身近なところで生涯学習に関わることがどのように行われているかについてまとめておく。
第3回	人間形成と生涯学習	(学修内容)自らが考えるライフコースの中で「学ぶこと」の意味について考えることができる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として自ら生涯にわたって学習することの意味について箇条書きにまとめる。
第4回	生涯発達と発達課題	(学修内容)人間の生涯にわたる発達段階とそれぞれの発達課題の内容について具体的に考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 自らの今後の人生を見通し、学ぶことの意味・必要性について考えてくる。
第5回	生涯学習論の発端と経緯について	(学修内容)生涯学習論の発生の背景とその後の経緯について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、プリントの要点を箇条書きにする。
第6回	ラングランの生涯教育論	(学修内容)ラングランの提唱した生涯教育の理念について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習としてプリントを読んでラングランの考え方の要点をまとめる。
第7回	日本における生涯教育の理念	(学修内容)日本における生涯教育、生涯学習についての基本的考えを理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、日本の生涯教育・生涯学習の歴史的経緯について要点を箇条書きにまとめる。
第8回	諸外国の生涯学習論にみる学習観	(学修内容)諸外国の生涯学習論にみる歴史的経緯と学習観、人間観について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習としてプリントを読んで要点をまとめる。
第9回	OECDのリカレント教育	(学修内容)OECDのリカレント教育について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習としてプリントを読んで要点をまとめる。
第10回	日本における生涯教育論の展開	(学修内容)日本における生涯教育論から生涯学習論への歴史の変遷について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、生涯学習社会の制度的変遷の要点を箇条書きにまとめる。
第11回	日本における生涯学習の必要性と各種審議会答申について	(学修内容)社会教育審議会、中央教育審議会などにみられる生涯教育の理念と具体案について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、プリントを読んで、生涯学習の考え方の歴史の変遷の要点をまとめる。
第12回	生涯学習振興策の立案と推進について	(学修内容)地方自治体が立案する生涯学習振興策の内容を調べ、生涯学習の推進の実際と関連させた上で、整理した内容のプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、自分が住む地方自治体のHPなどから生涯学習振興策を調べてまとめる。
第13回	生涯学習の実施状況 生涯学習世論調査	(学修内容)生涯学習世論調査から生涯学習の実施状況を確認し、グループ討議を通して望ましい生涯学習の在り方について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、自分が住む地方自治体のHPなどから生涯学習実施状況を調べてまとめる。
第14回	生涯学習社会における社会教育について	(学修内容)生涯学習の中核を担う社会教育の役割について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、社会教育の具体的内容について要点をまとめる。
第15回	生涯学習の事例発表	(学修内容)自分が住む地方自治体の生涯学習の取り組みについて、調べた内容のプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、自分が住む地方自治体の生涯学習振興策及び実施状況を調べて、発表用資料にまとめる。

授業名	地域ブランド			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	IC2313
英文名	Local Brand			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	新矢 昌昭			対象学生	総合文化2回生				
授業の概要	地域ブランドとは、地域活性化のための取り組みのことである。この講義では、様々な事例から地域ブランドを検討し、自らの地域ブランドの課題や方策を考察していく。特に、本校が位置する京都は全国でも有数の「京都ブランド」を持っている。フィールドワークや見学を通して、「京都ブランド」の強みや将来性も考察したい。								
学修成果到達目標	1) 地域ブランドを理解する 2) 「京都ブランド」を理解する 3) 自らが住む地域ブランドを考えてみる								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (80%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	使用しない								
参考書	プリントを配布する								
課題に対するフィードバックの方法	グループワーク、発表へのコメントを加える								
留意事項									
オフィスアワー	研究室の扉に貼付する								
実践的教育									

授 業 名	地域ブランド	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)この講義の進め方と諸注意 (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスを読んでおく
第2回	地域ブランドとは何か	(学修内容)地域ブランドの概要 (事前事後学修課題の内容)(60分) どのような地域ブランドがあるのかを調べ、HPなどをコピーしておく
第3回	地域ブランドの背景	(学修内容)何故、地域ブランドなのか (事前事後学修課題の内容)(60分) 興味のある地域ブランドの取り組みを調べておく
第4回	食の地域ブランド	(学修内容)食の地域ブランドの事例 (事前事後学修課題の内容)(60分) 食の地域ブランドについて、どのようなものがあるのかを調べておく
第5回	事例発表 1回目	(学修内容)地域ブランドの発表、討議 (事前事後学修課題の内容)(60分) これまでの講義や自己が調べたことをまとめ、レジュメを作成しておく
第6回	事例発表 2回目	(学修内容)地域ブランドの発表、討議 (事前事後学修課題の内容)(60分) これまでの講義や自己が調べたことをまとめ、レジュメを作成しておく
第7回	創造都市	(学修内容)創造都市とは何か、その事例 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事例について、自ら確認しておく
第8回	アートによる地域ブランド	(学修内容)アートと地域ブランド、その事例 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事例について、自ら確認しておく
第9回	景観地域	(学修内容)景観と地域ブランド、その事例 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事例について、自ら確認しておく
第10回	京都ブランド	(学修内容)京都ブランドの強み (事前事後学修課題の内容)(60分) 京都ブランドについて、どのようなものがあるのかを調べておく
第11回	京都ブランドの歴史	(学修内容)どのようにして、京都ブランドは形成されたのか (事前事後学修課題の内容)(30分) 「古都」京都に関する配布プリントを読んでおく
第12回	京都ブランドについての事前発表	(学修内容)グループごとによる発表、討議 (事前事後学修課題の内容)(60分) 行先についてのレジュメを用意
第13回	京都ブランドを歩く	(学修内容)担当グループによる案内と解説 (事前事後学修課題の内容)(60分) レジュメ作成と行程の提示
第14回	地域ブランドを歩く	(学修内容)担当グループによる案内と解説 (事前事後学修課題の内容)(60分) レジュメ作成と行程の提示
第15回	京都、地域ブランドの事後発表	(学修内容)グループごとによる発表、討議 (事前事後学修課題の内容)(60分) フィールドワーク先のレジュメを用意

授 業 名	多文化共生を考える			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	IC2314
英 文 名	Multicultural Coexistence			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	松尾 章子			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	今日の急速な技術の発展と国家の枠を超えた経済の結びつきの強まりにより、人・物・情報の流れは、地球的規模に拡大され、国民一人ひとりの身近な問題となっている。地域レベルの交流は、異文化の理解等諸外国との相互理解を一層推進するとともに、多文化共生を推進していくためには、日本人住民も外国人住民も共に地域社会を支える主体であるという認識をもつことが大切であるため、多文化共生の実現のために必要な視点や考え方、多文化共生社会の意義を理解する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 多文化共生・異文化コミュニケーションの基礎概念について簡単に説明できる。 2) カルチャーショックと適応のプロセスについて簡単に説明できる。 3) 多文化共生を目指す地域社会のあり方や課題について意見を述べるができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 授業態度・参加意欲 () ()			課題発見・解決能力				
テ キ ス ト	石井敏他著 『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション：多文化共生と平和構築に向けて』 有斐閣選書 2013年 2,000円＋税 徳田剛他編著 『地方発外国人住民の地域づくり』 晃洋書房 2019年 2,400円＋税 テキスト購入については初めの授業で説明します。								
参 考 書									
課題に対するフィードバックの方法	提出物については、コメントを付して返却します。								
留 意 事 項	積極的な授業参加を期待します。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。								
実践的教育									

授 業 名		多文化共生を考える
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 異文化コミュニケーションを学ぶということ	(学修内容) 授業の進め方・到達目標の説明 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：配布プリントを見直し、授業内容をまとめる。
第2回	異文化コミュニケーションの基礎概念	(学修内容) 文化・コミュニケーションの定義、自民族中心主義、文化相対主義、多文化主義について学び考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：配布プリントを見直し、授業内容をまとめる。
第3回	自己とアイデンティティ	(学修内容) 自己、社会・文化的アイデンティティ、多文化社会と多面的アイデンティティについて学び考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：配布プリントを見直し、授業内容をまとめる。
第4回	異文化コミュニケーションの障壁	(学修内容) 障壁の種類、偏見・ステレオタイプについて学び考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：配布プリントを見直し、授業内容をまとめる。
第5回	深層文化の探求	(学修内容) 価値観や思考パターンについて学び考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：配布プリントを見直し、授業内容をまとめる。
第6回	言語コミュニケーション	(学修内容) コミュニケーション・スタイルや文化差・個人差・コンテキストの諸要因について学び考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：配布プリントを見直し、授業内容をまとめる。
第7回	非言語コミュニケーション	(学修内容) 非言語コミュニケーションの特徴や種類について学び考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：配布プリントを見直し、授業内容をまとめる。
第8回	カルチャーショックと適応のプロセス	(学修内容) 異文化適応曲線や異文化適応に影響を及ぼす要因について学び考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：配布プリントを見直し、授業内容をまとめる。
第9回	対人コミュニケーション	(学修内容) 異文化の友人や恋人との関係構築について学び考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：配布プリントを見直し、授業内容をまとめる。
第10回	留学生と交流	(学修内容) 京都在住の外国人と交流し、多文化共生社会について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：配布プリントを見直し、授業内容をまとめる。
第11回	多文化化への対応事例1：京都府、岡山県の事例	(学修内容) 多文化共生の事例から地域社会のあり方を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：配布プリントを見直し、授業内容をまとめる。
第12回	多文化化への対応事例2：島根県、長野県、静岡県 の事例	(学修内容) 多文化共生の事例から地域社会のあり方を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：配布プリントを見直し、授業内容をまとめる。
第13回	生活基盤の整備：愛媛県、兵庫県の事例	(学修内容) 多文化共生の事例から地域社会のあり方を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：配布プリントを見直し、授業内容をまとめる。
第14回	子ども・若者の教育とキャリア形成：四国の事例	(学修内容) 多文化共生の事例から地域社会のあり方を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：配布プリントを見直し、授業内容をまとめる。
第15回	パファパファ体験	(学修内容) 異文化を疑似的に経験し、包括的に学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前：全ての配布プリントを見直す。 事後：レポート提出に向けて準備する。

授 業 名	多文化交流体験			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	IC2315
英 文 名	Multicultural Exchange Experience			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	松尾 章子			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>変化の激しい現代社会を理解するには、基礎的・専門的な知識を身につけるだけでなく、それらを活用し応用する能力が必要となる。グローバル化の進む現在、様々な背景や文化を持つ人々と円滑にコミュニケーションをとるスキルが求められ、異文化に対する理解や協調性・柔軟性が不可欠となるため、異文化交流を体験し現代社会で必要とされるスキルを身につける。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) やさしい日本語で話すことができる。 2) 文化的背景が異なる人々と交流し、話を続けることができる。 3) 非言語コミュニケーションやアサーティブ・コミュニケーションについて説明できる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	なし								
参 考 書	原沢伊都夫著 『グローバルな時代を生きるための異文化理解入門』 研究社 2013年 2,200円+税								
課題に対する フィードバック の方法	提出物についてはコメントを付して返却します。								
留 意 事 項	積極的な授業参加を期待します。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。								
実践的教育									

授 業 名		多文化交流体験	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション 異文化理解	(学修内容) 授業の進め方・到達目標の説明 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前：シラバスを読む。 事後：授業内容をまとめる。	
第2回	文化の冰山モデル トータルカルチャーとサブカルチャー	(学修内容) 文化の基本について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：授業内容をまとめて提出する。	
第3回	交流準備 1：自国文化	(学修内容) 日本についてや学生自身の生活について質問されることを想定し、何気なく過ごしている日常を振り返る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：授業内容をまとめて提出する。	
第4回	多文化交流 1 (調整により、日程は多少前後する)	(学修内容) 多文化交流体験 1 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：交流についての意見・感想をA41枚にまとめてgmailで提出する	
第5回	交流振り返り：交流後の意見・感想の共有 バーンガ体験	(学修内容) 交流体験の振り返りとバーンガを体験する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：授業内容をまとめて提出する。	
第6回	交流準備 2：やさしい日本語	(学修内容) やさしい日本語について学び考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：授業内容をまとめて提出する。	
第7回	多文化交流 2 (調整により、日程は多少前後する)	(学修内容) 多文化交流体験 1 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：交流についての意見・感想をA41枚にまとめてgmailで提出する	
第8回	交流振り返り 2：交流後の意見・感想の共有 ステレオタイプ	(学修内容) 交流体験の振り返りとステレオタイプについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：授業内容をまとめて提出する。	
第9回	交流準備 3：非言語コミュニケーション	(学修内容) 非言語コミュニケーションについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：授業内容をまとめて提出する。	
第10回	多文化交流 3 (調整により、日程は多少前後する)	(学修内容) 多文化交流体験 3 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：交流についての意見・感想をA41枚にまとめてgmailで提出する	
第11回	交流振り返り 3：交流後の意見・感想の共有 世界の価値観	(学修内容) 交流体験の振り返りと世界の価値観について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：授業内容をまとめて提出する。	
第12回	交流準備 4：アサーティブ・コミュニケーション	(学修内容) アサーティブ・コミュニケーションについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：授業内容をまとめて提出する。	
第13回	多文化交流 4 (調整により、日程は多少前後する)	(学修内容) 多文化交流体験 4 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：交流についての意見・感想をA41枚にまとめてgmailで提出する	
第14回	交流振り返り 4：交流後の意見・感想の共有 異文化受容のプロセス	(学修内容) 交流体験の振り返りと異文化授業のプロセスについて考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：授業内容をまとめて提出する。	
第15回	まとめ	(学修内容) 1学期間の総復習を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：レポート提出の準備をする。	

授業名	図書館概論			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	CL1705
英文名	Introduction to Library			開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	渡邊 雄一			対象学生	総合文化1回生				
授業の概要	図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を学んでいく。図書館をめぐる今日的課題についての理解を深めるために、実際の事例にもとづいたグループディスカッション、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。								
学修成果到達目標	1) 図書館の機能・役割を理解し、基本的な専門用語については意味を説明することができる。 2) 図書館というものが人間の暮らしにおいて持つ意味、歴史の中で果たしてきた役割について説明することができる。 3) 図書館の今日的課題に関して、現状と課題について自己の見解をプレゼンテーションすることができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	『図書館概論』(JLA図書館情報学テキストシリーズ 1)、塩見昇、日本図書館協会、2018年								
参考書	随時指示する。								
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留意事項	授業で学んだことを自分で経験して確かめるために、居住地の公共図書館を積極的に利用すること。								
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに図書館について話をします。								

授業名	図書館概論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	図書館とは	(学修内容)図書館の定義、種類について概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.13~P.20をよく読んでまとめておくこと。
第3回	図書館の理念:図書館の自由など	(学修内容)「図書館の自由に関する宣言」について解説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.57~P.64をよく読んでまとめておくこと。
第4回	図書館の自由について考える	(学修内容)図書館の自由に関してグループディスカッションを行い、意見交換の後にプレゼンテーションする。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 「図書館の自由に関する宣言」(テキストP.65~P.67)を読んでおくこと。
第5回	図書館法規と行政	(学修内容)公共図書館の根拠となる法的基盤について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 「教育基本法」、「社会教育法」の条文を読んでおくこと。
第6回	図書館の歴史的展開(欧米)	(学修内容)欧米における公立図書館の制度化の歴史について概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.225~P.228をよく読んでまとめておくこと。
第7回	図書館の歴史的展開(日本)	(学修内容)日本の図書館の歴史的展開を概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.229~P.232をよく読んでまとめておくこと。
第8回	公共図書館の制度と機能	(学修内容)「図書館法」の構成と性格を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 「図書館法」の条文を読んでおくこと。
第9回	公共図書館のサービス	(学修内容)公共図書館が提供するサービスについて概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.146~P.150をよく読んでまとめておくこと。
第10回	公立図書館の管理運営について考える	(学修内容)公立図書館の管理運営に関してグループディスカッションを行い、意見交換の後にプレゼンテーションする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 指定管理者制度に関する配付プリントをよく読んでおくこと。
第11回	学校図書館の制度と機能	(学修内容)学校図書館の役割と機能について概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.161~P.168をよく読んでまとめておくこと。
第12回	大学図書館の制度と機能	(学修内容)大学図書館の法的根拠、機能などについて考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.177~P.183をよく読んでまとめておくこと。
第13回	専門図書館の制度と機能	(学修内容)専門図書館の特性、類別、機能などについて概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.190~P.193をよく読んでまとめておくこと。
第14回	国立図書館の制度と機能	(学修内容)国立図書館の法的基盤、図書館奉仕などについて概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.203~211をよく読んでまとめておくこと。
第15回	出版文化と図書館	(学修内容)出版文化と図書館の貸出サービスとの関係についてグループディスカッションを行い、意見交換の後にプレゼンテーションする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.45~P.48をよく読んでまとめておくこと。

授業名	図書館情報資源概論			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	CL1702
英文名	Introduction to Library Information Resource			開講時期	春学期		必修選択	必修	
担当者	渡邊 雄一			対象学生	総合文化1回生				
授業の概要	近年多様化している図書館情報資源について、その類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存など、図書館業務に必要な情報資源に関する知識を習得することを目的とする。また、図書館の将来を見通した資料収集のあり方や、利用者に対する情報サービスの方法や心得に関する基本的知識の習得も目指す。図書館情報資源をめぐる今日的課題に関してグループディスカッションを行いながら授業を進める。								
学修成果到達目標	1) 図書館が扱う資料(印刷資料、非印刷資料、電子資料)の種類と特性について理解し、説明できる。 2) 図書館で受け入れる資料の処理方法や取り扱い方の注意点、修復方法を理解し、説明できる。 3) ネットワーク情報資源や電子情報資源について理解し、説明できる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	藤田岳久編『図書館情報資源概論』(ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望8),学文社 2016年								
参考書	今まど子編『図書館情報学基礎資料』樹村房,2016年 馬場俊明編『図書館情報資源概論 JLA図書館情報学テキストシリーズ 8』日本図書館協会,2012								
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。								
留意事項	図書館を積極的に利用し、図書館資料の種類・特色について調べておくこと。 積極的な授業参加が求められる。特に、グループディスカッションでは積極的に発言し、意見交換すること。								
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など:レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに図書館資料について解説します。								

授 業 名		図書館情報資源概論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業展開の解説、図書館が取り扱う知識と情報の性質について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) シラバスの内容を確認しておくこと。	
第2回	図書館情報資源の経緯	(学修内容) 図書館資料全般の特質、歴史について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト2章p.12-17を読んでまとめておくこと。	
第3回	印刷資料・非印刷資料の類型と特質	(学修内容) 資料の類型、図書、逐次刊行物、小冊子、視聴覚資料、マイクロ資料、障害者向け資料の定義、種類、特徴、などについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト3章p.18-25 を読んでまとめておくこと	
第4回	電子資料、ネットワーク情報資源の類型と特質	(学修内容) 電子資料、ネットワーク情報資源の定義と特徴、ネットワーク型情報資源、パッケージ型電子資料の種類と特質について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト4章p.26-31を読んでまとめておくこと。	
第5回	地域資料、行政資料、灰色文献	(学修内容) 地域資料の意義、地域資料、行政資料、灰色文献の定義について理解し、地域資料の収集、情報発信のあり方について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト5章p32-37を読んでまとめておくこと。	
第6回	情報資源の生産(出版)と流通	(学修内容) 出版の流通、図書の制作の過程について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト6章p. 38-43を読んでまとめておくこと。	
第7回	図書館業務と情報資源に知識関する知識 図書館と著作権	(学修内容) 図書館情報資源利用と著作権法の関わりについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「図書館と著作権法」に関する情報をインターネットで調べ、わからない言葉を書き出しておくこと。	
第8回	コレクション形成の理論	(学修内容) コレクション形成における資源、コレクション形成理論の史的展開について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト8章p. 50-57を読んでまとめておくこと。	
第9回	コレクション形成の方法	(学修内容) 蔵書構築と蔵書構成、選択、収集、形成、維持について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト9章p. 58-63を読んでまとめておくこと。	
第10回	人文・社会科学分野の情報資源とその特性	(学修内容) 人文・社会科学、科学技術分野、各分野の学問的諸領域、情報資源へのアクセスについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト10章p.64-71を読んでまとめておくこと。	
第11回	科学技術分野、生活分野の情報資源とその特性	(学修内容) 科学技術分野、生活分野の意味、科学技術情報、科学技術コミュニケーション、生活分野の学術文献の特色について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト11章p.72-77を読んでまとめておくこと。	
第12回	資料の受入・除籍・保存・管理の実際	(学修内容) 資料の受入、除籍、保存、資料管理のあり方について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト12章p.78-85を読んでまとめておくこと。	
第13回	情報生産の新たな仕組みと図書館情報資源	(学修内容) クラウドソーシング、クラウドコンピューティング、オープンソース・オープンアクセスなどについて学習する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト13章p.86-91を読んでまとめておくこと	
第14回	電子書籍、電子ジャーナルー 図書館情報資源としての意義と課題	(学修内容) 電子書籍の現状と意義について学習する。電子ジャーナルに関してグループディスカッションを行い、現状と課題について考察する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト14章p.92-97を読んでまとめておくこと	
第15回	まとめ	(学修内容) 総復習 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト15章p.98-117を読んでまとめておくこと	

授業名	図書館基礎特論			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	CL1703
英文名	Special Lecture on Library			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	渡邊 雄一			対象学生	総合文化1回生				
授業の概要	図書館司書資格の授業でこれまで学習した内容を発展的に深める。図書館におけるサービス内容を整理し、図書館サービスに関わるテーマを各自で設定し、関連する文献資料を収集、整理し、自己の見解をまとめ、伝達できるようにする。また、図書館の今日的課題の一つである広報活動の在り方について、グループワーク、プレゼンテーションを通して実践的に学習する。								
学修成果到達目標	1) 各自の関心のあるテーマについて、印刷媒体・電子媒体の資料を用いて適切な情報を収集し、整理し、レポートの形に仕上げる。 2) 自らの考えを映像資料にまとめることができる。 3) 図書館サービスを紹介する映像資料を通して、プレゼンテーションを10分間行うことができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	授業中に指示する。								
参考書	授業中に指示する。								
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度を測る小レポートを回収後に解説を行います。								
留意事項	講義形式ではなく、受講者自身が図書館やデータベースを利用しながら必要な資料を収集し、整理し、成果物を作成し、発表する授業形式であるため、積極的に授業に出席することが求められる。								
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに図書館の今日的課題について話をします。								

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと。	
第2回	図書館資料の探索と活用	(学修内容)図書館資料を効率的に探索し、それを整理する方法について解説する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 図書館での情報検索の方法について考えておくこと。	
第3回	レファレンスサービスを考える	(学修内容)図書館の情報サービスの柱であるレファレンスサービスについて説明する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 図書館に向き、レファレンスサービスを体験しておくこと。	
第4回	レファレンス質問を考える	(学修内容)レファレンス質問を作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) インターネット等を利用してレファレンス事例を探しておくこと。	
第5回	レファレンス回答をつくる	(学修内容)図書館資料を探索し、前回の授業で作成したレファレンス質問の回答を作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 図書館に向き、レファレンス資料に目を通しておくこと。	
第6回	図書館の広報活動について考える	(学修内容)図書館の広報活動の概要を説明する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 広報の意義について考えておくこと。	
第7回	図書館サービスを紹介するビデオを作成するグループをつくる	(学修内容)レファレンスサービスを中心とした図書館紹介ビデオを作成する。グループをつくる。レファレンス質問を決める。 (事前事後学修課題の内容)(60分) レファレンス回答を完成させておくこと。	
第8回	図書館サービスを紹介するビデオを作成するシナリオをつくる	(学修内容)図書館サービスを紹介するビデオのシナリオを作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) ストーリーを考えておくこと。	
第9回	図書館サービスを紹介するビデオを作成する絵コンテをつくる	(学修内容)図書館サービスを紹介するビデオの絵コンテを作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) シナリオを完成させておくこと。	
第10回	図書館サービスを紹介するビデオを作成する仮撮影	(学修内容)仮撮影を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) シナリオと絵コンテを完成させておくこと。	
第11回	図書館サービスを紹介するビデオを作成するシナリオ修正	(学修内容)図書館サービスを紹介するビデオのシナリオを修正する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 仮撮影の内容を振り返る。	
第12回	図書館サービスを紹介するビデオを作成する本撮影	(学修内容)本撮影を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) シナリオを完成させておくこと。	
第13回	図書館サービスを紹介するビデオを作成する編集	(学修内容)撮影したビデオの編集作業を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) サウンドトラックなどの準備をしておくこと。	
第14回	発表	(学修内容)完成した図書館サービス紹介ビデオを発表する。 (事前事後学修課題の内容)(120分) ビデオを完成させておくこと。	
第15回	まとめ	(学修内容)授業を振り返り、レポートを作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) これまでに発表した内容をまとめ、新たに必要な資料があれば入手しておくこと。	

授 業 名	情報資源組織論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CL1707
英 文 名	Theory of Informational Resource Organization			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	喜多 祐子			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	図書館の利用者に情報資源に関する情報を提示し、情報資源そのものを提供できるよう、目録作業、分類作業、件名付与といった間接サービスについて学習する。また、地域、一国、あるいは国際的なレベルでの書誌コントロール、急速な発展を遂げた書誌情報ユーティリティ、メタデータ、書誌データの活用法などについても解説を行なう。基本的には講義形式をとるが、学内の図書館を見学しながら、授業を進める回もある。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 情報資源の組織化を行う意義や目的について説明できる。 2) 情報資源の目録作成に関する基礎的事項を説明することができる。 3) 分類法を理解し、書架を管理する方法を理解できる。 4) 主題分析、統制語検索の手法について理解できる。 5) コンピュータを利用した書誌情報の作成とその活用について理解することができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	講義内で配布するプリント。								
参 考 書	講義で紹介。								
課題に対するフィードバックの方法	提出物を添削し、コメントをつけて返却する。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：宝塚市立中央図書館 資料調査員								

授 業 名	情報資源組織論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	情報資源組織化の意義	(学修内容) 情報資源組織の業務と意義 (事前事後学修課題の内容) (20分) 予習として、図書館員の業務内容をリストアップしておく
第2回	目録の役割と種類	(学修内容) 目録の役割、目録の種類 (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第3回	目録記入の構成	(学修内容) 書誌記述の規則、『日本目録規則』の概要 (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第4回	標目の役割	(学修内容) 標目の機能、標目の種類、典拠ファイル (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第5回	主要な書誌記述規則	(学修内容) 主要な目録規則の概要 (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第6回	集中目録作業	(学修内容) 書誌データの流通、MARC (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第7回	共同目録作業	(学修内容) 総合目録、書誌ユーティリティ (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第8回	書誌コントロールと標準化	(学修内容) 書誌コントロールの種類と歴史 (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第9回	OPACの管理と運用	(学修内容) OPACの機能と管理、メタデータ、RDF (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第10回	主題の分析と検索	(学修内容) 主題分析の意義、自然語、統制語 (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第11回	件名標目表とシソーラス	(学修内容) 件名標目表、シソーラス、「基本件名標目表」の構成 (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第12回	図書の配架方法	(学修内容) 案内板、図書の配架方法、分類の留意点 (事前事後学修課題の内容) (20分) 各自 図書館へ行き、図書の配架方法、および図書館利用者が目的の場所へたどりつけるよう配置された案内板の記載内容を確認しておく
第13回	日本十進分類法による分類作業	(学修内容) 分類法の概要、「日本十進分類法」の構成 (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第14回	多様な情報資源組織の配架と分類記号の付与	(学修内容) 学内の図書館を見学し、別置資料の配架方法とその図書ラベルを確認。別置されている理由、課題について解説 (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第15回	主要な分類法	(学修内容) 主要な分類法の概要 (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする

授 業 名	図書館制度・経営論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CL1706
英 文 名	Theory of Library System and Management			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について学習するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態について学習する。図書館経営やサービス計画に関して理解を深めるために、グループワークやプレゼンテーションを実施する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 図書館設置を規定する法律の内容を理解し、説明することができる。 2) 図書館組織、管理、運営、施設等の、図書館経営に関する基本的な内容を理解し、説明することができる。 3) 図書館サービス計画に関するプレゼンテーションを10分間行うことができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	授業中に指示する。								
参 考 書	授業中に指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	地域の公共図書館に足を運び、その活動状況を観察しておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに図書館制度や経営について話をします。								

授業名	図書館制度・経営論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	図書館の制度	(学修内容)図書館設置を規定する各法律について解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第3回	図書館法	(学修内容)図書館法の条文を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 図書館法の条文を読んでおくこと。
第4回	他館種の図書館に関する法律	(学修内容)学校図書館法、国立国会図書館法などについて解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 学校図書館法、国立国会図書館法の条文を読んでおくこと。
第5回	図書館サービスと法律	(学修内容)著作権法、個人情報保護法などについて解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 著作権法の条文を読んでおくこと。
第6回	図書館の管理運営の外部化 指定管理者制度	(学修内容)指定管理者制度について解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 指定管理者制度について調べておくこと。
第7回	図書館の管理運営の外部化 PFI	(学修内容)PFIについて解説する。管理運営の外部化に関して問題点をグループ討議する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) PFIについて調べておくこと。
第8回	図書館のサービス計画	(学修内容)図書館サービスの計画について概説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第9回	図書館のマーケティング	(学修内容)図書館におけるマーケティングの内容・方法について概説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第10回	図書館の建築計画	(学修内容)図書館建設手順の流れについて解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第11回	レイアウト図をつくる ゾーニング計画	(学修内容)ゾーニング計画をつくる。適切なレイアウトについてグループで討議を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 地域の公共図書館のゾーニングを調べておくこと。
第12回	レイアウト図をつくる 書架	(学修内容)図書館のレイアウト図をつくる。書架を並べる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 地域の公共図書館の書架配置について調べておくこと。
第13回	レイアウト図をつくる 閲覧席	(学修内容)図書館のレイアウト図をつくる。閲覧席を並べる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 地域の公共図書館の閲覧席配置について調べておくこと。
第14回	レイアウト図を発表する ゾーニング計画	(学修内容)作成したゾーニング計画及びレイアウト図を発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) レイアウト図を完成させる。
第15回	レイアウト図を発表する コンセプト・レイアウト図	(学修内容)コンセプトをふまえて作成したゾーニング計画及びレイアウト図を発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) レイアウト図を完成させる。

授業名	図書・図書館史			開講学年	2回生	単位数	1単位	科目コード	CL2713
英文名	History of Books and Libraries			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	渡邊 雄一			対象学生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>図書の形態、印刷、普及、流通に関して歴史的に概説し、あわせて図書館の歴史的な展開についても解説する。古代知識の集積と図書館のはじまり、中世社会の思想と図書館との関係、近世図書館思想の広まりから公共図書館の誕生までの歴史を、西欧、中国、日本の視点から考えていく。図書館の歴史に対する理解を深めるために、グループワークやプレゼンテーションを行いながら授業を進める。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 図書を中心とするメディアの歴史や、西洋・東洋の図書館の歴史を説明することができる。 2) 図書館の歴史的意義、文化的意義を説明することができる。 3) 日本の図書館の歴史に関するプレゼンテーションを10分間行うことができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (55%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (45%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	() () ()			
テキスト	『図書・図書館史』(現代図書館情報学シリーズ11) 佃一可、樹村房、2012年								
参考書	随時指示する。								
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留意事項	普段から図書館に向かうよう心掛け、図書館の様子を観察してもらいたい。グループワークやプレゼンテーションでは主体的な学びが求められる。積極的に授業に参加してもらいたい。								
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに図書館の歴史について解説します。								

授 業 名		図書・図書館史
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	古代の図書館(西洋)	(学修内容)文字の発生と記録、古代の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 古代の文字の種類とその記録媒体について考えておくこと。
第3回	中世の図書館(西洋)	(学修内容)修道院図書館や大学図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.62~P.77をよく読んでおくこと。
第4回	近世の図書館(西洋)	(学修内容)ガブリエル・ノーデやライブニッツの図書館思想などについて学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.94~P.111をよく読んでおくこと。
第5回	近現代の図書館(西洋)	(学修内容)大英博物館図書館やボストン公共図書館の成立などについて学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.134~P.146をよく読んでおくこと。
第6回	中国の図書の歴史(古代・中世)	(学修内容)紙の発明、四部分類について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.27~P.40をよく読んでおくこと。
第7回	中国の図書の歴史(近世・近代)	(学修内容)印刷時代の図書について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.123~P.131をよく読んでおくこと。
第8回	古代の図書館(日本)	(学修内容)奈良時代・平安時代の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.50~P.60をよく読んでおくこと。
第9回	中世の図書館(日本)	(学修内容)鎌倉時代・室町時代の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.86~P.91をよく読んでおくこと。
第10回	近世の図書館(日本)	(学修内容)江戸時代の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.112~P.122をよく読んでおくこと。
第11回	近代の図書館(日本)	(学修内容)明治・大正・昭和前期の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.147~P.166をよく読んでおくこと。
第12回	現代の図書館(日本)	(学修内容)第二次世界大戦以降の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.183~P.204をよく読んでおくこと。
第13回	日本の図書館の歴史について(グループワーク) 図書館の概要	(学修内容)これまでの授業で説明を受けた図書館の中から日本の図書館を一つ取り上げ、その館の概要をワークシートに従って調査する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 取り上げる図書館について、テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。
第14回	日本の図書館の歴史について(グループワーク) 関わった人物	(学修内容)これまでの授業で説明を受けた図書館の中から日本の図書館を一つ取り上げ、その館の創立に関わった人物について調査する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 図書館に行き、取り上げる図書館について記載されている資料を閲覧しておくこと。
第15回	日本の図書館の歴史について(プレゼンテーショ	(学修内容)前回までの調査で明らかになった事項をパワーポイントを用いて発表する。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 前回までの調査で明らかになった事柄を整理し、パワーポイント資料を作成する。

授 業 名	情報資源組織演習			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CL2719
英 文 名	Bibliographic Organization Practice			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	喜多 祐子			対 象 学 生	総合文化2回生総合				
授業の概要	多様な情報資源に関するデータを整理し、図書館の利用者に目的の情報資源を提供することができるための技術を習得する。情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、メタデータの作成などを理解し、情報資源の組織化に必要な能力を身につける。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 情報資源の組織化業務に必要な技術について説明できる。 2) 書誌データを作成することができる。 3) ネットワーク情報資源のメタデータの作成手法を理解できる。 4) 主題分析、分類作業、統制語彙適用を行うことができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力 (課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	木原通夫・志保田務『分類・目録法入門（新改訂第6版）メディアの構成』第一法規 2020年								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	授業中に行う課題については、その場で添削をし、解説をする。提出物に関しては添削をした後、後日返却をする。								
留 意 事 項	講義内容を復習すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：宝塚市立中央図書館 資料調査員								

授 業 名		情報資源組織演習
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	書誌データの作成	(学修内容) 目録法及び記述に関する総則を解説 (事前事後学修課題の内容) (30分) 「情報資源組織論」で学習した内容を復習しておくこと。
第2回	各書誌的事項の記述	(学修内容) 和資料を中心に各書誌的事項の記載方法を解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。
第3回	書誌階層構造	(学修内容) 集合・基礎・構成単位の書誌情報の記載方法を解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。
第4回	継続資料の書誌データの作成	(学修内容) 逐次刊行物に関する書誌情報の記載方法を解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。
第5回	非図書資料の書誌データの作成	(学修内容) 地図資料、電子資料、映像資料、録音資料に関する書誌情報の記載方法を解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。
第6回	標目の付与、『日本目録規則2018年版』	(学修内容) 標目の表記方法を解説、演習問題。『日本目録規則2018年版』の内容を解説。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。
第7回	書誌ユーティリティにおける目録作成	(学修内容) 集中化・共同化による書誌データ作成の実際、メタデータの作成。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。
第8回	書誌データ管理・検索システムの構築	(学修内容) 書誌データベースの構築。メタデータの作成。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。
第9回	主題分析と分類作業の実際	(学修内容) 主題分析の方法を解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。
第10回	日本十進分類法の活用法	(学修内容) 日本十進分類法の構成、利用の仕方を解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。
第11回	日本十進分類法による分類作業 形式区分	(学修内容) 日本十進分類法の形式区分に関する解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。
第12回	日本十進分類法による分類作業 地理区分、海洋区分	(学修内容) 日本十進分類法の地理区分・海洋区分に関する解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。
第13回	日本十進分類法による分類作業 言語区分、固有補助表	(学修内容) 日本十進分類法の言語区分、固有補助表(言語共通区分、文学共通区分ほか)に関する解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。
第14回	分類規程・図書記号の付与	(学修内容) 分類規程、図書記号の付与に関する解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。
第15回	基本件名標目表による件名付与	(学修内容) 基本件名標目表の構成、利用の仕方を解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。

授 業 名	秘書実務			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CL2720
英 文 名	Practical Business in Office Administration			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	藤田 恵美子			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>「秘書の仕事内容の理解と求められる基礎能力の習得」 秘書学概論で学んだことを具現化する。秘書業務を系統立てて具体的に学びながら、秘書だけでなくあらゆる業種や職種において必要とされるビジネス実務のマナー、ルールにまで理解を広げる。グループワークも取り入れながら、学んだ知識を実践で活用できる能力を修得する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 秘書活動の基盤となる知識・技能を身につけることができる。 2. ロールプレイング(役割演習)などを通して秘書業務を演習し、秘書業務が「できる」人材になる。 3. 秘書業務内容を具体的に学び、秘書検定試験に合格できる技能を身につけることができる。 								
学位授与の 方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 授業態度・参加意欲 () ()			課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	「秘書・オフィス実務」 武田秀子・岡田小夜子 著、早稲田教育出版								
参 考 書	「全訂新版 秘書実務」田中篤子著 嵯峨野書院								
課題に対する フィードバック の方法	毎回提出される気づきや質問には、コメントを付けて返却します。実技や口述については、その都度コメントをします。								
留 意 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書に提出用の課題問題が付いているので、必ず教科書は購入し、配布プリントと一緒に持参のこと。 ・ 科目の性格上、出席・時間・私語・提出期限・言葉遣いなどマナーに厳しくします。その覚悟で受講して下さい。 ・ 学んだことは日常生活でも活かし、日常から社会の動きに興味を持つように心掛けて下さい。 								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業前後に実施する								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：国際線客室乗務員として勤務。 接遇インストラクターとして新入社員研修等各種企業研修を担当。 その経験を活かし、光陵女子短期大学・大阪国際大学非常勤講師、大阪学院大学短期大学部准教授として秘書実務・ビジネス実務・エアライン実務とインターンシップの教育指導。								

授業名	秘書実務	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 「秘書実務」では何を学ぶのか	(学修内容) 秘書学概論で学んだことを「秘書実務」で実践へ (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) シラバスを確認しておく (事後) 授業内容を復習する
第2回	言葉遣い	(学修内容) 敬語、接遇用語 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) テキストに目を通し、Exercise問題を考えておく (事後) 授業内容を復習し、日常生活に活かす
第3回	ビジネスマナー	(学修内容) 来客対応(受付・名刺交換・案内・席次・茶菓のマナー、ロールプレイング) (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) テキストに目を通し、Exercise問題を考えておく (事後) 授業内容を復習し、日常生活に活かす
第4回	電話対応	(学修内容) 電話のマナー(かけ方・受け方、ロールプレイング) (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) テキストに目を通し、Exercise問題を考えておく (事後) 授業内容を復習し、日常生活に活かす
第5回	指示の受け方と報告の仕方	(学修内容) 聴き方、伝え方(ロールプレイング) (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) テキストに目を通し、Exercise問題を考えておく (事後) 授業内容を復習し、日常生活に活かす
第6回	スケジュール管理	(学修内容) スケジュール表作成、アポイントメントを取る・受ける(ロールプレイング) (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) テキストに目を通し、Exercise問題を考えておく (事後) 授業内容を復習し、日常生活に活かす
第7回	出張業務	(学修内容) 予約、手配、旅程表作成 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) テキストに目を通し、Exercise問題を考えておく (事後) 授業内容を復習し、日常生活に活かす
第8回	ファイリング	(学修内容) 書類・名刺の整理 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) テキストに目を通し、Exercise問題を考えておく (事後) 授業内容を復習し、日常生活に活かす
第9回	会議・会合	(学修内容) 会議・会合の準備の留意、議事録作成 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) テキストに目を通し、Exercise問題を考えておく (事後) 授業内容を復習し、日常生活に活かす
第10回	ビジネスメール&文書-1(社内文書)	(学修内容) 社内メール&社内文書作成 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) テキストに目を通し、Exercise問題を考えておく (事後) 授業内容を復習し、日常生活に活かす
第11回	ビジネスメール&文書-2(社外文書)	(学修内容) 社外メール&社外文書作成 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) テキストに目を通し、Exercise問題を考えておく (事後) 授業内容を復習し、日常生活に活かす
第12回	受信と発信	(学修内容) 文書&秘密文書の取り扱い (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) テキストに目を通し、Exercise問題を考えておく (事後) 授業内容を復習し、日常生活に活かす
第13回	慶弔	(学修内容) 慶事、弔事のマナーと心得 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) テキストに目を通し、Exercise問題を考えておく (事後) 授業内容を復習し、日常生活に活かす
第14回	食事のマナー	(学修内容) 洋食、和食、立食のマナー (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) テキストに目を通し、Exercise問題を考えておく (事後) 授業内容を復習し、日常生活に活かす
第15回	来客・電話対応まとめ	(学修内容) まとめの状況対応ロールプレイング(役割演習) (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) 授業を振り返り、役割演習の準備 (事後) 授業内容を復習し、日常生活に活かす

授 業 名	秘書学概論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CL2714
英 文 名	Introduction to Office Administration			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	藤田 恵美子			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>「秘書」という職務について、企業組織の中での秘書に着目し、秘書の役割、秘書の業務内容、秘書に求められるもの、秘書として最適な行動をとるための思考などを理論的に学ぶ。さらに、変化する社会環境・経済情勢の中で、上司を補佐する秘書として何が求められるかを考察する。さらに、自分自身のこれからのキャリアについても考える。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組織の中で上司を補佐する秘書として、臨機応変にその場に応じた対応がとれるよう、必要な知識・考え方などを身に付けることができる。 ・ 秘書としてだけでなく、ビジネスパーソンとして変容するビジネス社会に対応できる柔軟な思考力を養うことができる。 ・ 秘書検定試験について知ることができる。 								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	森脇 道子「新版 秘書概論」建帛社								
参 考 書	田中 篤子「秘書学概論」嵯峨野書院 高橋真知子・北垣日出子「秘書概論」樹村房								
課題に対する フィードバック の方法	毎回提出される気づきや質問には、コメントを付けて返却します。課題・口述については、その都度コメントをします。								
留 意 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科目の性格上、出席・時間・私語・提出期限・言葉遣いなどマナーに厳しくします。その覚悟で受講して下さい。 ・ 日常から社会の動きに興味を持つように心掛けて下さい。 								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業前後に実施する								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：国際線客室乗務員として勤務。 接遇インストラクターとして新入社員研修等各種企業研修を担当。 その経験を活かし、光陵女子短期大学・大阪国際大学非常勤講師、大阪学院大学短期大学部准教授 として秘書実務・ビジネス実務・エアライン実務とインターンシップの教育指導。</p>								

授業名	秘書学概論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、「秘書学概論」の内容	(学修内容)「秘書学概論」では何を学ぶのか (事前事後学修課題の内容)(20分) (事前)シラバスを確認しておく (事後)学ぶ内容の理解
第2回	秘書の定義を学ぶ	(学修内容)秘書とは (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)教科書の内容を読み、秘書とは何か、自分なりに考えておく (事後)授業内容と問題の復習をする
第3回	組織の中の秘書	(学修内容)会社組織の理解と秘書の位置づけ (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)教科書の内容を読んでおく (事後)授業内容と問題の復習をする
第4回	秘書の執務形態	(学修内容)組織体に見る様々な秘書の執務形態 (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)教科書の内容を読んでおく (事後)授業内容と問題の復習をする
第5回	秘書の補佐機能	(学修内容)秘書の補佐機能の分析 (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)教科書の内容を読んでおく (事後)授業内容と問題の復習をする
第6回	秘書の業務内容	(学修内容)秘書業務内容とそれぞれの目的・目標 (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)教科書の内容を読んで秘書業務の目的・目標を考えておく (事後)授業内容と問題の復習をする
第7回	秘書業務の特徴	(学修内容)秘書業務処理上の特徴 (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)教科書の内容を読んでおく (事後)授業内容と問題の復習をする
第8回	秘書の資質	(学修内容)秘書に求められる資質と自己理解 (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)教科書の内容を読んでおく (事後)授業内容と問題の復習をする
第9回	秘書と人間関係	(学修内容)職場での人間関係 (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)教科書の内容を読んでおく (事後)授業内容と問題の復習をする
第10回	秘書とコミュニケーション	(学修内容)求められるコミュニケーション力 (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)教科書の内容を読んでおく (事後)授業内容と問題の復習をする
第11回	秘書と情報	(学修内容)秘書が扱う情報の収集・整理・提供、その留意点 (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)教科書の内容を読んで留意点を考えておく (事後)授業内容と問題の復習をする
第12回	秘書の歴史	(学修内容)秘書の歴史から現在・未来を見る (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)教科書の内容を読んでおく (事後)授業内容と問題の復習をする
第13回	秘書の専門分化	(学修内容)様々な分野の秘書、その任務と求められる・知識・技能 (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)教科書の内容を読んで、興味分野の秘書について調べておく (事後)授業内容と問題の復習をする
第14回	企業で働くということ	(学修内容)今後求められる秘書像 (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)教科書の内容を読んで、今後求められる能力を考えておく (事後)授業内容と問題の復習をする
第15回	まとめ	(学修内容)発展させて自分のキャリアデザインを考える (事前事後学修課題の内容)(60分) (事前)今までの授業を振り返り、キャリアデザインを考えておく (事後)授業内容をまとめ、レポートの準備

授 業 名	ビジネス実務総論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CL2715
英 文 名	Outline of Practical Business Affairs			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	東野 國子			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>私たちの日々の生活は、衣食住の提供はもちろん、家庭を維持する礎である収入や保険まで、企業とのかかわりをなくしては考えられません。職業人として社会に出るまでにビジネス社会の仕組みや活動について、また一般的な常識を学修し、社会人としてまたワーカーとしての基礎能力を身につけていきます。テキストの巻末の振り返りシートを利用し少しづつ一般常識の定着を図っていきます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>ビジネス社会を理解できる。 職業人として求められる基本的な知識を理解できる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	『新版 ビジネス実務総論』 水原道子・大島武編著 樹村房								
参 考 書	講義中に指示します。								
課題に対する フィードバック の方法	提出された課題に対しては確認をして返却をします								
留 意 事 項	社会人になるまでに社会に対して興味を持ち、新聞などで自分が目指す業界の情報を積極的に収集してください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	何かあれば授業の後に聞いてください。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	ビジネス実務総論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ビジネス実務概論を学ぶ意義	(学修内容)オリエンテーション (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスをよく読んでくること
第2回	ビジネス社会と経営資源について	(学修内容)ビジネス社会においては働く人も経営資源のひとつであることを学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自が興味のある業界についてのビジネス活動について考えてみる
第3回	企業とは	(学修内容)社会人になったときに必要な企業についての基礎を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自が興味のある企業の理念や社会貢献について調べる 振り返りシート
第4回	代表的な会社	(学修内容)日本における代表的な会社の種類と組織を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 新聞を使って会社を調べる 振り返りシート
第5回	企業の組織と会計	(学修内容)業種や職種、企業会計について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 新聞を使って会社を調べる 振り返りシート
第6回	身の回りの経済	(学修内容)日常生活と経済についての関係を知る (事前事後学修課題の内容)(30分) 身の周りのものの値段について調べてみる 振り返りシート
第7回	日本経済の流れ	(学修内容)戦後から現代までの経済の流れを確認する (事前事後学修課題の内容)(30分) 授業の中で興味のある時期の経済の動きについて調べる 振り返りシート
第8回	グローバル社会とビジネス	(学修内容)グローバル社会がビジネスにもたらす影響について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) インバウンドと観光について調べてみる 振り返りシート
第9回	様々な働き方	(学修内容)働く意義や働き方の変化について学修する (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自が自分の働き方について考える 振り返りシート
第10回	税と社会保険	(学修内容)税金の種類と社会保険について学修する (事前事後学修課題の内容)(30分) 支払った税金がどのように使われているか調べてみる 振り返りシート
第11回	労働と法律	(学修内容)労働者を守る法律について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 振り返りシート
第12回	地域連携	(学修内容)大学と地域連携の在り方について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 振り返りシート
第13回	ボランティア	(学修内容)社会人基礎力とボランティアについて学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 振り返りシート
第14回	情報管理の重要性	(学修内容)情報化社会の中で情報を管理することの重要性について学修する (事前事後学修課題の内容)(30分) 振り返りシート
第15回	インターネットとビジネス	(学修内容)インターネットとビジネスのかかわり方について学修する (事前事後学修課題の内容)(30分) 振り返りシート

授 業 名	応用ビジネス実務論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CL2721
英 文 名	Theory of Business Practice			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	湯浅 俊郎			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>変化の激しい現代社会の中にあつて、社会人として必要な資質や役割を理解し、ビジネス実務に存在する意義とは何か、ビジネス行動の最適化を図るにはどのように考えて行動すべきなのかなど理論的に考察していく。「ビジネス実務総論」で学んだことをベースに、ビジネスコミュニケーション、アクティブラーニング、ビジネスプレゼンテーション、KT法による意思決定・問題解決、メンタルヘルス、ビジネス法律などを学習する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 創造的なビジネス実務を行うための知識・技能について理解を深めることができる。 2) 対話の能力、課題発見・課題解決能力を培うことができる。 3) 論理的に学ぶことによって、ビジネス実務能力を発揮できるような考え方を学修することができる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	全国大学実務教育協会編『ビジネス実務総論 付加価値創造のための基礎実務論』紀伊国屋書店								
参 考 書	適宜授業内に紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出された課題に関して、評価基準を授業内あるいはメールにて解説する。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する								
実 践 的 教 育									

授業名	応用ビジネス実務論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業計画・内容・注意事項等。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを一読しておく。
第2回	ビジネスを考える	(学修内容) ビジネスは何を目指しているのか、説明します。 (事前事後学修課題の内容) (69分) テキストP10-23を読んでおく。
第3回	ビジネス環境をとらえる --グローバル化、情報化について	(学修内容) 経済のグローバル化、高度情報化について解説します。 (事前事後学修課題の内容) (69分) テキストP25-36を読んでおく。
第4回	ビジネス環境をとらえる --環境問題、少子高齢化について	(学修内容) 地球環境問題、少子高齢化の問題について解説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP36-49を読んでおく。
第5回	ビジネス現場をとらえる	(学修内容) 日本の雇用のありかたやワークスタイルについて解説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP51-68を読んでおく。
第6回	ビジネス実務について	(学修内容) ビジネス実務とは何かについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP71-83を読んでおく。
第7回	ビジネス実務の基本について --仕事の進め方	(学修内容) 仕事の進め方などビジネス実務の基本について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP85-111を読んでおく。
第8回	ビジネス実務の基本について --情報活用	(学修内容) 情報活用などビジネス実務の基本について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP112-136を読んでおく。
第9回	ビジネス実務の活動をとらえる --オペレーションとマーケティング	(学修内容) オペレーション活動とマーケティング活動について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP137-152を読んでおく。
第10回	ビジネス実務の活動をとらえる --キャリア形成とコストパフォーマンス	(学修内容) キャリア形成とコストパフォーマンスについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP152-174を読んでおく。
第11回	ビジネス実務の創造	(学修内容) これからのビジネス実務について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP175-195を読んでおく。
第12回	業界研究	(学修内容) グループワークで、関心のある業界から始まり、それに関連する業種を整理していく (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の興味・関心のある企業を調べる。
第13回	業界研究	(学修内容) 前講から引き続き、グループワークで、業種から企業を絞り、歴史など調べてみる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 新聞記事など企業に関連する記事を収集してみる。
第14回	自分のキャリア形成の方向性について考える	(学修内容) 「生き方・働き方・休み方・楽しみ方」それぞれの選択肢をどのように組み合わせしていくのか考察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分のキャリア形成について考え、整理する。
第15回	まとめ	(学修内容) 自己啓発について考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) レポートに向けた質問事項を整理する。

授 業 名	ビジネス実務実践演習			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CL2722
英 文 名	Practical Business Affairs			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	湯浅 俊郎			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	IT革命はビジネスの進め方を根底から変えつつある。それによりオフィスでの仕事の進め方も様変わりしてきている。このようなビジネス社会で活躍するには、さまざまな実務能力や法的な知識を身につける必要がある。「ビジネス実務演習」で学んだことをベースに、まず、仕事の管理や問題解決の方法について概説し、それらに関する演習を行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 社会人として必要な「ビジネス」や「仕事」の基本的視点を体得することができる。 2) 組織の課題やニーズから、問題発見・問題解決に向けて論理的思考ができる。 3) 目的に応じて情報収集ができ、統計的手法により分析ができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (チームワークカ	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	適宜、資料を配布する。								
参 考 書	『2020年版ビジネス能力検定ジョブパス2級公式テキスト』日本能率協会マネジメントセンター								
課題に対する フィードバック の方法	提出された課題に対して、授業内あるいはメールにて、評価基準の具体的な内容など解説します。								
留 意 事 項	受講者の状況によって、進度・内容を随時調整することがあります								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する								
実 践 的 教 育									

授 業 名	ビジネス実務実践演習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、仕事のマネジメントとは	(学修内容) 授業計画・内容・注意事項等。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを一読しておく。
第2回	キャリアと仕事へのアプローチ	(学修内容) IT時代におけるキャリアと仕事へのアプローチについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) IT関連の新聞記事を収集してみる。
第3回	会社活動の基本	(学修内容) 会社のしくみについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 企業紹介などの新聞記事を収集してみる。
第4回	話し方と聞き方について	(学修内容) 話し方と聞き方のポイントについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「話し方と聞き方のポイント」を読んでおく。
第5回	接客と営業について	(学修内容) 接客と営業の進め方について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「接客と営業の進め方」を読んでおく。
第6回	統計・データの読み方、整理の仕方	(学修内容) 統計・データに関する基本的な知識を理解し、データのとらえ方を検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「データ整理法」を読んでおく。
第7回	情報収集とメディアの活用	(学修内容) 各メディアの特徴と信頼性について考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 日常生活において、どこから情報を収集しているのか、整理してみる。
第8回	データ分析と将来の予測	(学修内容) グラフのデータから問題点を探る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) グラフなどを用いている新聞記事を収集してみる。
第9回	クレーム対応について	(学修内容) 不満を信頼に変えるクレーム対応について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「不満を信頼に変えるクレーム対応」を読んでおく。
第10回	産業と経済の基礎知識 --会社の数字の読み方	(学修内容) 会社の財務指標などに出てくる数字について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「会社数字の読み方」を読んでおく。
第11回	産業と経済の基礎知識 --法律・税金	(学修内容) ビジネスにおける法律・税金について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「ビジネスと法律・税金知識」を読んでおく。
第12回	P D C Aサイクルについて	(学修内容) P D C Aサイクルのプロセスについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「P D C Aサイクルのプロセス」を理解しておく。
第13回	ビジネスの応用事例 --会社を選定する	(学修内容) グループに別れて事例研究を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料収集と整理 (グループワークに向けて)
第14回	ビジネスの応用事例 --選定した会社の内容を分析する	(学修内容) グループに別れて事例研究を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料収集と整理 (グループワークに向けて)
第15回	まとめ	(学修内容) これまでの内容を整理する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの内容を整理してみる (整理するポイントは授業時に説明する)。

授 業 名	観光実務			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CL2723
英 文 名	Practical Business in Tourism			開 講 時 期	春・秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	湯川 宗紀			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>旅行業務取扱管理者試験の科目である「国内旅行実務」の中の「観光地理」を取り上げ、北海道から沖縄までの自然景観、世界遺産、温泉、祭、社寺など様々な視点から広範囲にわたる知識の取得をめざす。 最終的な目的は、旅行業務取扱管理者試験に合格することなので、国内旅行業務取扱管理者試験に向け、演習問題を取り入れ合格をめざす。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1.日本の各地域の観光資源の特徴を把握できる 2.日本の各地域の観光資源の位置関係を把握できる 3.日本の各地域の観光資源の特徴、位置関係を把握することにより観光ルートの習得ができる 								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	随時必要な資料を配付する								
参 考 書									
課題に対するフィードバックの方法	テストの回答を解説する								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	講義の前後に対応する								
実践的教育									

授 業 名		観光実務
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 講義概要 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバス内容を確認する
第2回	日本の観光資源 北海道	(学修内容) 北海道のカテゴリー別観光資源を説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う
第3回	日本の観光資源 東北	(学修内容) 東北のカテゴリー別観光資源を説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う
第4回	日本の観光資源 関東1	(学修内容) 関東のカテゴリー別観光資源を説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う
第5回	日本の観光資源 関東2	(学修内容) 関東のカテゴリー別観光資源を説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う
第6回	日本の観光資源 中部	(学修内容) 中部のカテゴリー別観光資源を説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う
第7回	日本の観光資源 近畿1	(学修内容) 近畿のカテゴリー別観光資源を説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う
第8回	日本の観光資源 近畿2	(学修内容) 近畿のカテゴリー別観光資源を説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う
第9回	日本の観光資源 近畿3	(学修内容) 近畿のカテゴリー別観光資源を説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う
第10回	日本の観光資源 中四国1	(学修内容) 中四国のカテゴリー別観光資源を説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う
第11回	日本の観光資源 中四国2	(学修内容) 中四国のカテゴリー別観光資源を説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う
第12回	日本の観光資源 九州・沖縄1	(学修内容) 九州・沖縄のカテゴリー別観光資源を説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う
第13回	日本の観光資源 九州・沖縄2	(学修内容) 九州・沖縄のカテゴリー別観光資源を説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う
第14回	日本の観光資源 九州・沖縄3	(学修内容) 九州・沖縄のカテゴリー別観光資源を説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う
第15回	日本の観光資源 まとめ	(学修内容) これまでのカテゴリー別観光資源を説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでのまとめを行う

授業名	図書館情報技術論			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	CL2718
英文名	Theory of Library Information Technology			開講時期	秋学期		必修選択	必修	
担当者	岡 紀子			対象学生	総合文化2回生				
授業の概要	今日の図書館司書の業務は、コンピュータを中心とする情報機器に関する基礎知識と的確な情報処理を遂行するための実務の習得が不可欠である。本科目では、図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、コンピュータシステム、データベース、検索エンジン、図書館システム、電子資料等について学習する。授業では、ほぼ毎回授業内容に関する課題を行う。数回はグループディスカッションを行う。実践学習として、音声翻訳システムを体験する。								
学修成果到達目標	1) 図書館の現場で必要となる基礎的な情報技術の知識を習得する。 2) 知識を活用して図書館が直面する今日的な課題に対応することができる。 3) インターネット上の情報源や電子出版の動向などを理解し、それらと連携した図書館サービスを企画・立案できる。 4) 情報サービス演習・情報サービス論とあわせて履修することにより、「検索技術者検定3級」に合格できる実力を身に着ける。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点		知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (課題遂行能力)	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テキスト	改訂 図書館と情報技改訂術(樹村房)2018 4月発刊								
参考書	・メディアリテラシ(上田裕子・増永良文、Computer ScienceLibrary15) 植田裕子・増永良文(サイエンス社) ・最新 情報リテラシー第4版-インターネットと情報機器を上手に利用するために-(監修:久野靖他)大串 夏身(青弓社) ・デジタルアーカイブ 基点・手法・課題(文化とまちづくり叢書) 笠羽 晴夫(水曜社)								
課題に対するフィードバックの方法	・提出されたレポートは、発表の際に都度コメントします。 ・制作物などについては、その実習中に個別に対応します。								
留意事項	・授業で学ぶことは基本的なことだけです。この分野についてより広く深く知りたい場合は、活用場所を図書館に限定せずに各専門書を参照してください。現代の社会の情報技術の進歩は目覚ましいので、常に最新の情報を入手するよう心がけましょう。新しい技術を図書館でどのように活用できるかを考えるのが、これからの司書の重要な使命だと思いますので、既成概念にとらわれない自由な発想ができるように期待しています。 ・自ら図書館に足を運び、図書館における業務を把握し、情報技術がどのように活用・応用されているか確かめておく。								
オフィスアワー	担当授業後に質問を受け付ける								
実践的教育									

授 業 名	図書館情報技術論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	図書館情報技術論の概要とねらい	(学修内容) IT技術が重要な基盤となっている現代の図書館情報技術の重要性、および学習の概要とねらいについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習
第2回	コンピュータの基礎	(学修内容) コンピュータの基本、仕組みについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習
第3回	ネットワークの基礎	(学修内容) ネットワーク、インターネット、WWWについて基礎を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習
第4回	情報技術と社会・法律	(学修内容) 情報化社会の特徴をふまえ情報技術との深い関わりを理解する。情報技術の法的保護の観点から、知的財産権、特に著作権について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習
第5回	データベースの仕組み	(学修内容) データベースの定義、種類、データベースシステムなど。データ・情報・知識について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習
第6回	サーチエンジン(検索エンジン)の仕組み	(学修内容) ウェブ検索の歴史と検索エンジン、種類。ロボット型検索エンジンの特徴。新しい情報アクセス技術(RDF)について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習
第7回	コンピュータシステムの管理とセキュリティ	(学修内容) コンピュータシステムが安全確実に運用されるためのセキュリティシステムとその技術について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習0
第8回	図書館の新たなITの活用 その1	(学修内容) 図書館の管理システムにつて、技術面から学習する。図書管理システムの概要、ICタグ、自動化技術などを活用したシステムについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習
第9回	図書館の新たなITの活用 その2	(学修内容) デジタルレファレンスサービス、レファレンス協同データベース、および学術機関リポジトリ、ディスカバリーサービスについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習
第10回	図書館と電子資料	(学修内容) 図書館で扱う電子資料と、その管理技術を学習する。電子ジャーナル、電子ブック、文献デリバリーおよび資料のデジタル化について。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習
第11回	デジタルアーカイブ ・最終レポート課題設定: 提出期限は13回目 ・図書館における障がい者支援のとりくみ DAISYの作成の概要: アカウントとPWを配布	(学修内容) デジタルアーカイブの定義、歴史、さらにその動向と意義、応用分野と特長、作成技術などについて。ウェブサイト例を紹介する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習
第12回	マルチメディアDAISY作成の演習(1)	(学修内容) 障がい者支援機能の一つである、マルチメディアDAISYについて学ぶ。音声支援システムソフトを用いてmDAISY形式資料の編集を実践をする。 (事前事後学修課題の内容) (10分) アカウント・PWでアクセスの確認
第13回	最終レポート提出 プレゼンテーション(1) マルチメディアDAISY作成の演習(2)	(学修内容) レポート提出期限 課題レポートの発表(1) (事前事後学修課題の内容) (60分) mDAISY編集作業を継続
第14回	最終レポートのプレゼンテーション(2) プレゼンの状況に応じて、 マルチメディアDAISY作成の演習(3)継続	(学修内容) 課題レポートの発表(2) (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自mDAISY編集作業を継続
第15回	最終レポートのプレゼンテーション(2) マルチメディアDAISY完成・提出(4)	(学修内容) 課題レポートの発表(3) mDAISY編集完成版の提出 (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自mDAISY編集作業完成

授業名	図書館サービス概論			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	CL2711
英文名	Introduction to Library Services			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	川瀬 綾子			対象学生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>図書館サービスにかかる理念、構造、活動内容、規範について公共図書館を基本として解説し、学びを深めていく。図書館サービスとネットワーク化の必要性など、現代の図書館における様々なサービスについて、その意味や意義を理解する。また近年の情報社会において図書館で扱う資料や情報提供サービスの基本と展開についても学んでいく。授業では、図書館に関する映像を見たり、ディスカッションやレポートの作成、プレゼンテーションにも取り組む。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 現代の図書館サービスについて、その基本と意義、理念を把握することができる。 2) 図書館における様々なサービスを学び、その多様な在り方について理解し、考察を深める。 3) 今後の図書館サービスの在り方を考えることができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 () ()			
テキスト	高山正也・村上篤太郎編『改訂 図書館サービス概論』樹村房、2019年								
参考書	授業にて指示する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートは、コメントを付けて返却します。								
留意事項	公共図書館等を積極的に訪れてその図書館でどのようなサービスが行われているかなどを注意深く観察してください。授業の予習・復習は欠かさずに行い、わからない点などがあれば次の授業までに調べるなど自ら学習を深める努力を行うようにしてください。出席日数が3分の2に満たない者には、原則として単位は与えません。								
オフィスアワー	担当授業終了時に実施する。また毎授業時にコメント等を書く用紙を配布するので、質問などがあればその用紙を活用すること。								
実践的教育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：図書館司書として児童図書館、学校図書館、病院図書室に勤務。実務経験も踏まえて図書館サービスについて話をします。</p>								

授業名	図書館サービス概論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業の概要説明、公共図書館における図書館サービスについて	(学修内容) 授業の概要(授業計画、内容、評価方法、本講義の進め方等についての説明)、図書館のサービスとはどのようなものであるのかを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 今まで自分が図書館で体験した、もしくは見聞きしたことのある図書館サービスについて考えておく。
第2回	図書館サービスの意義と理念1 - 図書館サービスの概要 -	(学修内容) 様々な図書館サービスについての解説、その意義や理念などを概説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書第1章1・2項を読んでおくこと。
第3回	図書館サービスの意義と理念2 - 図書館業務の概要 -	(学修内容) 図書館で行われている業務について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書第1章3 - 5項を読んでおくこと。
第4回	公共図書館サービスの変遷	(学修内容) 公共図書館サービスの基盤整備から市民の図書館への流れと今日の公共図書館サービスの確立についてを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第2章を読んでおくこと。
第5回	図書館サービスとコンプライアンス	(学修内容) 知識のデジタル化・オープンアクセス化についてを中心に学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第3章を読んでおくこと。
第6回	資料提供サービス	(学修内容) 資料提供サービスについて理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第4章を読んでおくこと。
第7回	情報提供サービス	(学修内容) レファレンスサービスを中心に解説する。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 教科書第5章を読んでおくこと。レファレンスサービスに関する課題を課す。
第8回	図書館サービスの協力と連携	(学修内容) 図書館や関係機関との協力・連携について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 教科書第6章を読んでおくこと。
第9回	課題解決支援サービス	(学修内容) 各種課題解決支援サービスを事例映像を観ながら確認及び解説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第7章を読んでおくこと。
第10回	利用者対象別サービス - 多文化サービス、障害者サービス、高齢者サービスについて -	(学修内容) 外国の方への図書館サービスや、障害者、高齢者の方への図書館サービスについてを解説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第8・9章を読んでおくこと。
第11回	図書館サービスとコミュニケーション	(学修内容) 利用者に対する接遇・広報について理解する。第7回の授業で課した課題の発表とディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 公共図書館のHPや広報物等を確認しておくこと。
第12回	図書館サービスと著作権1 - 著作権の概要 -	(学修内容) 著作権の意義と概要について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第3章3項を読んでおくこと。
第13回	図書館サービスと著作権2 - 図書館における著作権 -	(学修内容) 図書館で行われている複写サービスを中心に解説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第3章3項を読んでおくこと。
第14回	図書館サービスの課題と展望	(学修内容) これまで学んできた内容を振り返り、現代の図書館サービスについての理解を深め、これからの課題、問題点などを考える。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 今まで学んできたことを振り返って復習し、図書館に必要なサービスとは何かを考えてくる。教科書第11章を読んでおくこと。
第15回	図書館サービスの未来：授業まとめ	(学修内容) これからの図書館の在り方について考える。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 教科書を再度通読すること。

授 業 名	児童サービス論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CL2712
英 文 名	Theory of Child Services			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	坂下 直子			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>公共図書館の児童サービスは、すべての子どもにとっての読書活動を、「言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていくうえで欠くことのできないもの」(子どもの読書活動の推進に関する法律第2条)と位置づけて推進されている。今日、読書は広義に解釈される傾向にあり、そこに情報への公平で平等なアクセスが含まれていることも重要である。</p> <p>本授業では、まず様々な研究成果に基づいた児童サービスの理論を概説し、その理念を具体的な形にして実現するための方法をレジュメ・実物・スライドなどで例示する。また、時には実演も交えながら具体的に解説し、受講生も実技の一部を体験したあとに、再び理論を確認する。(「なぜ、それをするのか」の意識化)</p> <p>本授業は、国家資格である司書資格取得を前提としているという側面もあるため、理論と実践を意識的に結びつけることが重要となることから、講義とともに実習課題(プレゼンテーション・PBL)にも取り組み、双方を関連づけているかどうか重要となる。</p> <p>出席票と一体化したコメントシートを課し、講義の理解度を確認する。シート上の質問・提案などをもとに、次回以降に意見交換をはかり、グループワークを含めた双方向型の授業をめざす。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1. 公共図書館における生涯学習のはじめの一步である児童サービスの意義と目的を、歴史的変遷や研究成果に基づく理論をふまえて、理念を理解することができる。</p> <p>2. 児童サービスを担当する司書として、「子ども(乳幼児からヤングアダルト)の発達」と「児童資料」について知り、「子どもと児童資料を結ぶための技術」を実践的に習得することができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解				汎用的技能				
	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力 (課題発見・解決能力 (
テキスト	使用しない(適宜プリントを配布)。								
参考書	<p>堀川照代編著、『児童サービス論』, 日本図書館協会, 2014, ISBN9784820413158</p> <p>日本図書館協会児童青少年委員会児童図書館サービス編集委員会編、『児童図書館サービス1: 運営・サービス論』, 日本図書館協会, 2011, ISBN9784820411062</p> <p>日本図書館協会児童青少年委員会児童図書館サービス編集委員会編、『児童図書館サービス2: 児童資料・資料組織論』, 日本図書館協会, 2011, ISBN9784820411079</p>								
課題に対するフィードバックの方法	<p>提出物については、ポータルにて講評及びコメントする。</p> <p>コメントシートに記載内容については、授業内で適宜フィードバックする。</p>								
留意事項	<p>自分自身の子ども時代も含めて、「子どもの心」と「子どもの本」と「子どもの本がある図書館」について注目してください。(現代では「本」を広義にとらえ、あらゆる情報資源と解釈してください。)</p> <p>また、子どもに関するニュースなどにアンテナをはっておってください。</p> <p>自分が、図書館で児童サービスに携わったと想定して、すべきことを想像してみてください。逆に利用者としてサービスを受ける立場になったら、どのようなことを思うのかを考えてみてください。</p>								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育	<p>実践的教育 教員の實務経験など: 公共図書館で司書、小学校で学校司書、小中学校で教員の實務経験をもとに、具体的な事例を紹介しながら解説する。</p>								

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	ガイダンス 授業の概要説明 児童の発達における図書館活用の意義		(学修内容) 本授業の目的やねらい、取り組み内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) シラバスを読んで授業内容や到達目標と評価方法を確認しておく。 公共図書館における自身のこれまでの体験を想起しておく。
第2回	児童サービスの歴史と意義		(学修内容) 欧米における児童サービスの歴史及び、日本における児童サービスの始まりと展開について理解を深めることができる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 児童サービスの歴史について、国内外の展開を時系列で説明できるよう、まとめておく。
第3回	児童資料の種類と特色1 (絵本・児童文学・ノンフィクション他)		(学修内容) 児童資料について、絵本・児童文学・ノンフィクションなどの種類や特徴、活用場面について学び、理解を深めることができる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 大学図書館や各自の近隣の公共図書館、書店などで、当該資料をじっくりと閲覧する。web上でもリサーチする。
第4回	児童資料の種類と特色2 (知識の本・レファレンスブック・図書以外の資料他)		(学修内容) 児童資料について、知識の本・レファレンスブックなどの種類や特徴、活用場面について学び、理解を深めることができる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 大学図書館や各自の近隣の公共図書館、書店などで、当該資料をじっくりと閲覧する。web上でもリサーチする。
第5回	児童資料の種類と特色3 (逐次刊行物・視聴覚資料・電子書籍他)		(学修内容) 児童資料について、逐次刊行物・視聴覚資料・電子資料などの種類や特徴、活用場面について学び、理解を深めることができる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 大学図書館や各自の近隣の公共図書館、書店などで、当該資料をじっくりと閲覧する。web上でもリサーチする。
第6回	児童資料の選択・収集・整理・管理方法		(学修内容) 児童資料の収集方針と選定基準について学び、コレクション構築の要点と流れを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 様々な児童図書館の選定基準を比較する。選書のための書評の特徴をつかみ、自身でも記述できるよう準備する。
第7回	児童サービスの企画・立案・広報・運営		(学修内容) 児童サービスを推進するためのイベント企画から運営までの要点の流れを理解し、PBLとして意識する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自の近隣の公共図書館などで行われているイベントを、現地やHPからリサーチし、自身が構築する企画(PBL)のために示唆を得る。
第8回	子どもと本をつなぐ技法 カウンターワーク・フロアワーク・アウトリーチサービス		(学修内容) 公共図書館内外で行われているサービスの諸相を知り、それぞれの意義について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自の近隣の公共図書館などを訪問したり、HPを拝見したりして、実際のサービスがどのように展開されているのかをリサーチする。
第9回	子どもと本をつなぐ技法 読み語り・ストーリーテリング他		(学修内容) 読み語りやストーリーテリングなどの技法の実演を見て、特徴を学ぶ。実技(プレゼンテーション)を行うにあたっての留意点を確認する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 留意点をふまえて実技(プレゼンテーション)の練習を行う。
第10回	子どもと本をつなぐ技法 ブックトーク・アニメーション他		(学修内容) ブックトーク・アニメーションなどの技法の実演を見て、特徴を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 留意点をふまえて実技の練習を行う。
第11回	子どもと本をつなぐ技法 学習(調べ学習・探究学習・課題解決型学習)支援		(学修内容) 調べ学習・探究学習・課題解決型学習といった学校教育に関連する場面での学習支援について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 国立国会図書館レファレンス協同データベースを検索し、児童に向けて公共図書館が行ったレファレンスサービスの特徴をつかむ。
第12回	乳幼児サービス		(学修内容) 児童サービスにおける前期の年齢層である乳幼児とその保護者に対するサービスの特徴と留意点をグループワークで学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 京都市図書館の平成31年版のブックリスト『本のもり』(赤ちゃん・幼児編)を拝見し、その中の本を実際に取ってみる。
第13回	ヤングアダルトサービス		(学修内容) 児童サービスにおける後期の年齢層であるヤングアダルトに対するサービスの特徴と留意点をグループワークで学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 京都市図書館の平成31年版のブックリスト『本のもり』(中学生編)を拝見し、その中の本を実際に取ってみる。
第14回	学校図書館への支援と家庭・地域・ボランティア・関係機関との連携協力		(学修内容) 関連機関との連携や支援について、意義と実践を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 学校連携・家庭文庫・地域連携・ボランティア団体などの実例を、実地及びweb上でリサーチする。
第15回	児童サービスの展望と課題		(学修内容) 全回のまとめを行い、これからの児童サービスの展望と課題について考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業で取り上げてきたことを振り返り、自分なりの理想の児童図書館像と目指す図書館員像を考えておく。

授業名	子どもの人権 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	CS1112
英文名	Children's Rights a・b			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	向出 佳司			対象学生	幼児教育1AB・1CD				
授業の概要	<p>人権は、歴史的にみればわかるように、固定的なものではない。人権の主張があり、それが支持を得て社会的に承認され、法的に認められること等を通して、人権として定着してくる。このように人権は人々の努力によって拡大、伸張するものであることを把握する。授業では、具体的にいくつかの問題を取りあげ、人権と人権問題、その改善と解決の方法を考えていく（授業の進展度合いにより予定の変更もあります）。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 「グローバル化」とともに少子高齢社会が進行している日本社会において、子ども・高齢者の世代間交流、障害者との共生・共育についてどのような問題があるのかについて理解できる。 2) 「グローバル化」とともに少子高齢社会が進行している日本社会において、男女共同参画社会の実現についてどのような問題があるのかについて理解できる。 3) 「グローバル化」とともに人口減少が進行し労働力が弱体化していく日本社会において、女性の社会進出は重要なものとなる。女性労働において、どのような問題があるのかについて理解できる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	授業時に資料を配布する								
参考書	適宜紹介する								
課題に対するフィードバックの方法	授業始め又終盤にて実施する								
留意事項	積極的・主体的な学習参加を期待する								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育									

授業名	子どもの人権 a・b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 人間の概念	(学修内容)本講義の概要について説明する。人間について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 指定した予習・復習
第2回	人権の概念	(学修内容)社会権・平等権・自由権について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 日本国憲法の人権条項を準備する。
第3回	人権侵害の概念	(学修内容)尊厳・平等・自由が否定される事例について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 世界人権宣言を準備する。
第4回	障害者問題	(学修内容)障害者との共生・共育の3つの理念について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 関連報道記事を準備する。
第5回	高齢者問題	(学修内容)高齢社会下における高齢者の人権について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 関連報道記事を準備する。
第6回	子ども・家族の問題	(学修内容)少子社会における子ども・家族の人権について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 関連報道記事を準備する。
第7回	性の問題	(学修内容)男女共同参画社会への道のりについて理解する。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 関連報道記事を準備する。
第8回	男女の行動の違いについて --性差の刷り込みの影響	(学修内容)性差の刷り込みの影響について考察します。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 前講の復習。
第9回	男女の行動の違いについて --社会環境が性差を生む?	(学修内容)社会環境により性差を生む側面について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 前講の復習
第10回	男女の行動の違いについて --女性は交渉を避ける傾向あり?	(学修内容)女性らしさというジェンダー規範の問題について考査する。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 前講の復習。
第11回	性差を超えた取り組み	(学修内容)人との関わりかたの差について考察し、性差を超えた取り組みについて考える。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 前講の復習。
第12回	女性労働の問題 --女性の社会進出の現状	(学修内容)国際比較をまじえて女性の社会進出の現状について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 前講の復習。
第13回	女性労働の問題 --女性労働の壁について	(学修内容)女性労働の制度的な壁となっている問題について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 前講の復習。
第14回	女性労働の問題について --社会保障のありかた	(学修内容)女性労働における社会保障のありかたについて考察する。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 前講の復習。
第15回	まとめ	(学修内容)本講義のポイント整理。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 定期試験にむけた質問事項。

授業名	現代子ども学 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	CS1103
英文名	Study of Modern Children a・b			開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	流石 智子			対象学生	幼児教育1AB・1CD				
授業の概要	<p>私たちは子どものことを十分知っているのか。子どもには、成長発達する権利があり、どのような状況でも守られる権利がある。そのことは社会で理解されているのであるが、近年子どもに関係した問題や課題、理解が不十分であるためにおこる子どもの生活不安等、もっと子どもへの理解を深める必要がある。この授業では、子どもに関係するさまざまな事柄を、理解するために多面的な視点で、学びを深める。グループに分かれて討議したり、自分の意見を相手に伝えることができよう、発表等をすることもある。</p>								
学修成果到達目標	<p>1, 子どもとは、どのような存在かを理解できる。 2, 生活をする子どもの姿を知り、子どもの成長発達について理解できる。 3, 子どもを取り巻く環境を理解できる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	なし。適宜、資料を配付する。								
参考書	授業内で、提示する。								
課題に対するフィードバックの方法	レポートの返却時に、説明、解説をする。								
留意事項	レポート課題の提出は2回あり。授業内で、小レポートの提出あり。								
オフィスアワー	研究室に掲示、演習室にも掲示あり。在室時、時間があれば対応する。								
実践的教育									

授業名		現代子ども学 a・b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	子どもってなに	(学修内容) 子どもの理解をする (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 子どもについて調べ、ノートに整理する。	
第2回	子どもの発達	(学修内容) 発達するとは (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 発達とはどういうことか、ノートに整理する。	
第3回	健康と子ども	(学修内容) 健康ってどういうことかな。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 「あなたは、健康ですか。」について、400字程度でノートに整理する。	
第4回	養育環境と子ども	(学修内容) 養育について考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 養育について、ノートにまとめておく。800字程度。	
第5回	自然と子ども	(学修内容) 自然を子どもはどのように受け取っているのか。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 木登りや虫取りについて、自分の体験を800字程度にノートにまとめておく。	
第6回	妊娠と出産と子ども	(学修内容) 妊娠・出産について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後: 「妊娠・出産について」この授業から学んだことを800字程度にまとめ提出。	
第7回	子どもの社会的スキル・仲間関係	(学修内容) コミュニケーションと社会的スキル (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前: コミュニケーションについて調べる。前回のレポート提出あり。	
第8回	子どもを取り巻く遊びなど	(学修内容) 今どき・・・の子どもについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 子どものあそびについて調べる。ノートに整理する。	
第9回	子どもの服装	(学修内容) 子どもはどのような服装を着る。装いについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 子どものおしゃれについて調べる。ノートに整理する。	
第10回	子どもと文化	(学修内容) 文化と子どもの発達について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 子どもにとって文化とはなにかをノートに整理する。	
第11回	子どもの貧困・社会的排除	(学修内容) 子どもの生活事態を知る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後: 「子どもの貧困について」レポートにまとめて提出800字程度。	
第12回	教育を受ける権利と子ども	(学修内容) 教育を受ける権利とは (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前: 教育を受ける権利について、ノートに整理する。前回のレポート提出あり。	
第13回	わらべうたと子ども	(学修内容) わらべうたを知ってる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: わらべうたにどのようなものがあるか調べる。ノートに整理する。	
第14回	子育て支援と子ども	(学修内容) 子育て支援とは (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 子育て支援策を5つ調べ、ノートに整理する。	
第15回	外国籍の子どもたち	(学修内容) 多文化教育・保育 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 外国籍の子どもは、どれくら日本にいるのか調べ、ノートに整理する。	

授 業 名	子どもの理解と援助 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CS1111
英 文 名	Understanding and Supporting Children a・b			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	西川 由紀子			対 象 学 生	幼児教育1AB・1CD				
授業の概要	保育において、ひとりひとりの発達を把握して実践を展開することの意義を理解し、具体的な保育場面からそのイメージを具体的にもつことを目的とする。授業においては、発達の状況を把握する意義を押さえた後、各年齢の発達の特徴があらわれている保育実践を紹介し、保育の展開を理解できるようにする。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 生後6年間の子どもの発達を理解する。 2) 保育のなかでどのように子どもたちを援助しているかを理解する。 3) 集団保育の中で気になる子どもへの支援をどのようにしているかを理解する。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	西川由紀子『子どもの思いにこころをよせて』(かもがわ出版) 西川由紀子『かかわりあって育つ子どもたち』(かもがわ出版)								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	授業への感想や質問について、翌週の授業冒頭で解説する。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業時に伝える								
実 践 的 教 育									

授業名	子どもの理解と援助 a・b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	子どもの発達を学ぶ意義	(学修内容) 子どもを理解するために発達を学ぶことにどんな意義があるかを解説する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 1章を読んで、たいせつなポイントにラインを引いてくる
第2回	0歳児の発達	(学修内容) 0歳児の発達を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 2章、3章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる
第3回	0歳児の保育の実際	(学修内容) 0歳児クラスの保育場面のビデオをみて、保育の解説を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 2章3章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる
第4回	1歳児の発達	(学修内容) 1歳児の発達を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 4章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる
第5回	1歳児の保育	(学修内容) 1歳児クラスの保育場面のビデオをみて、保育の解説を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 4章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる
第6回	2歳児の発達	(学修内容) 2歳児の発達を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 5章、テキスト 2章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる
第7回	2歳児の保育	(学修内容) 2歳児の保育場面のビデオをみて、保育の解説を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 5章、テキスト 2章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる
第8回	3歳児の発達	(学修内容) 3歳児の発達を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 3章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる
第9回	3歳児の保育	(学修内容) 3歳児の保育場面のビデオをみて、保育の解説を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 3章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる
第10回	4歳児の発達	(学修内容) 4歳児の発達を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 4章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる
第11回	4歳児の保育	(学修内容) 4歳児の保育場面のビデオをみて、保育の解説を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 4章を読んでくる
第12回	5歳児の発達	(学修内容) 5歳児の発達を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 5章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる
第13回	5歳児の保育	(学修内容) 5歳児の保育場面のビデオをみて、保育の解説を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 5章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる
第14回	気になる子への対応 (乳児クラス)	(学修内容) 乳児クラスの気になる子どもへの対応を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 4章、5章、2章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる
第15回	気になる子への対応 (幼児クラス)	(学修内容) 幼児クラスの気になる子どもへの対応を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 3, 4, 5章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる

授 業 名	ことばと表現a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CS1104
英 文 名	Words and Expressions			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	水谷 隆			対 象 学 生	幼児教育1AB・1CD				
授業の概要	この授業は、保育の学びの基盤となる、ことばと表現に関する知識や考え方を身につけることを目的としています。この目的を果たすために、ことばと思考の関係、社会人として求められるコミュニケーションの基本、保育の学びに必要な言葉など、様々な観点から講義形式の解説を行い、次いで、解説に基づいた、プレゼンテーションや作文等の作業を行います。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 保育の学びに必要な基本的用語を知り、今後の学修に活かすことができる。 1) 社会人として求められる的確な言語コミュニケーションができる。 2) 言葉を使うことの楽しさを伝えることができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	プリントを配布します。								
参 考 書	谷田貝公昭『新版 保育用語事典』一芸社 2016年								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートは、コメントとともに返却します。								
留 意 事 項	国語辞典、あるいはそれに類するもの(スマホのアプリ等)を持参してください。 授業の進行や受講生の興味・関心に応じて各回の内容を変更する可能性があります。なお、その際には事前事後学習課題と併せて、前もって連絡します。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付するので、確認してください。								
実践的教育									

授 業 名	ことばと表現a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス / 人間にとっての言葉の意味	(学修内容) 授業の目的と運営方針の解説 言葉ともの捉え方の関係について (事前事後学修課題の内容) (20分) 予習として、シラバスを読んでおく。
第2回	保育に関わることば 一般的用語について	(学修内容) 保育現場で必要となる一般的な用語についての解説 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、授業中扱った言葉の意味・用法を再確認しておく
第3回	保育に関わることば 専門用語について	(学修内容) 保育と密接に関連する用語について検討する (事前事後学修課題の内容) (90分) 予習として、『保育用語事典』を通覧しておく
第4回	保育に関わることば 専門用語と概念について	(学修内容) 保育と密接に関連する用語と背後にある概念について検討する (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、『保育用語事典』の興味のある部分を熟読しておく
第5回	保育に関わることば 挨拶に関わる諸問題	(学修内容) 様々な職場における挨拶が意味するものについての考察(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、挨拶のもつ機能について自分なりに考えておく
第6回	保育に関わることば 待遇表現(敬語)	(学修内容) 敬語の仕組みの概説と、基本的な用法の練習 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、敬語の使い方について自分なりに考えておく
第7回	保育に関わることば まとめ	(学修内容) 2～6回目授業内容に関する小テストおよび解説 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、これまでの授業内容を再確認しておく
第8回	保育に必要なコミュニケーションスキル 書簡文の練習	(学修内容) 書簡文の基本の説明および作成実習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、授業内容を再確認する
第9回	保育に必要なコミュニケーションスキル 書簡文の完成	(学修内容) 相互添削による確認作業(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、前回授業の内容を再確認する
第10回	保育に必要なコミュニケーションスキル 報告文	(学修内容) 報告文の基礎説明と実習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、「5W1H」を踏まえた作文について再確認しておく
第11回	ことばともの見方の関係 リフレーミング	(学修内容) リフレーミングについての解説。「ネガボ」変換の実習(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、「リフレーミング」について自分なりに調べておく
第12回	ことばともの見方の関係 多様な視点	(学修内容) 視点を転換した昔話についての解説。創作とプレゼンテーション (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、日本の昔話(任意のもの3つ以上)のあらすじを確認しておく
第13回	ことばともの見方の関係 弁証法的な思考	(学修内容) 弁証法の概説と実習 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、「弁証法」について自分なりに調べておく
第14回	ことばともの見方の関係 人を説得する文章	(学修内容) 小論文のテーマに関する意見交換および論文執筆 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、原稿用紙の使い方や日本語表記の基本について再確認しておく
第15回	まとめ	(学修内容) 授業の振り返りと自己評価。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、授業全体を振り返り、自己の課題と今後の学修について考えておく。

授 業 名	現代社会の教育問題			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CS2123
英 文 名	Educational Issues of Modern Society			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	鈴木 えり子			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>少子高齢化がすすむ中で子どもを取り巻く生活環境及び教育環境は大きく変化している。このような現実を踏まえ、現代社会の教育の変化に気づきその問題について、その課題解決のために何が出来るかを考え、自分の考えを構築していくことを目指す。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>(1) 現在における教育 (保育) 問題を理解する。 (2) 現在における教育 (保育) 問題を理解し、多様な視点から検討できる。 (3) 現在における教育 (保育) 問題について自分の考えを述べるができる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用 (双方向型授業)		グループワーク I C T活用 (自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	必要に応じて資料等を配布します。								
参 考 書	月刊切り抜き速報「保育と幼児教育版」KKニホン・ミック								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたコメントシートについて授業内でコメントを返します。								
留 意 事 項	子どもや教育問題について書かれているインターネットのニュースや新聞などの情報を検索して情報収集しておきましょう。受講生の主体的な取り組みを活かしていきたいと思います。受講生の興味のある幼児教育・保育に関してのテーマを取り上げていきます。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業時に伝えます。								
実践的教育									

授業名	現代社会の教育問題	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業概要の説明。現在社会の「教育問題」のキーワードから連想することばをリストアップする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 「教育問題」のキーワードで思いつく言葉を考えてくる。
第2回	いじめ・不登校・引きこもり	(学修内容) いじめ・不登校・引きこもりについて話し合う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) いじめ・不登校・引きこもりに対する自分の考えをまとめてくる。
第3回	早期教育	(学修内容) 早期教育の実態を理解する。早期教育の是非を話し合う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の習い事の体験を書き出し、現在の自分にとってどのような影響があるかをレポートにまとめて提出する。
第4回	習い事	(学修内容) 習い事の実態調査を行い、その結果について話し合う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 友達に習い事について聞き取り調査を行い、自分の考えをまとめてくる。
第5回	実体験不足	(学修内容) 幼稚園において実体験不足をどのように補うことができるのかを話し合う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実体験不足のことばの意味を具体的に考えてくる。
第6回	メディアと幼児教育	(学修内容) テレビやビデオを活用した幼児教育について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習先でのビデオやテレビの活用事例を思い出しておく。
第7回	学びの貧困・教育の格差問題	(学修内容) 教育の格差問題について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分が現在までかかった教育資金を計算してくる。
第8回	幼児産業	(学修内容) 幼児産業と言われるキッズマーケットの高級化について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) スタジオアリス、キッズファッション、玩具などキッズマーケットについて考えてくる。
第9回	規範意識	(学修内容) 道徳教育が教科化された背景を理解する。幼児期に必要な道徳性や規範意識について話し合う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 実習での体験を踏まえて幼児期に必要な道徳・規範意識の内容をレポートにまとめて提出する。
第10回	家庭教育におけるしつけ ～鬼から電話～	(学修内容) 家庭教育で行うべきしつけについて話し合う。よいしつけ、悪いしつけはどのように異なるのかを考えてみる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ネットで「鬼から電話」を検索し内容を知る。
第11回	学校教育におけるしつけ ～納得できないルール～	(学修内容) 集団生活におけるしつけ教育の必要性について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習先の集団生活におけるルールを書き出してくる。
第12回	保護者支援 ～毒親～	(学修内容) 毒親について話し合う。従来の過保護・過干渉とはどのように違うのか、同じなのか。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 毒親の意味を調べてくる。
第13回	自己肯定感	(学修内容) 自己肯定感を育てる保育活動を考えてみよう。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分自身の自己肯定感についてチェック表を記入し振り返りを行う。
第14回	次世代の学校教育 ～これからの幼稚園～	(学修内容) グローバル化や人工知能を取り入れた教育方法について理解する。幼児教育において必要な視点を明確にする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 時代の進歩ともなう子どもを取り巻く課題について自分の考えをまとめてくる。
第15回	まとめ	(学修内容) 今後の教育の幼児教育の在り方と保育者としての視点を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業内で取り上げた教育問題の以外の身近な教育問題のテーマの一つを考えてくる。

授業名	現代の児童文化			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	CS2118
英文名	Contemporary Children's Culture			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	柿本 真代			対象学生	幼児教育2回生				
授業の概要	児童文化財の役割や保育現場や家庭での活用を学ぶとともに、現代の児童文化についての調査および発表や児童文化財の制作および発表を通して具体的な指導場面を想定して保育を構想する技術・方法を身に付ける。								
学修成果到達目標	1)現代の子どもたちを取り巻くメディア環境の特徴について説明できる。 2)様々な児童文化財の特徴とその活用方法について説明できる。 3)児童文化財を制作し、それを活用した指導計画を立案・実践することができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 () ()			
テキスト	浅木尚美編著『絵本から学ぶ子どもの文化』同文書院、2015年								
参考書	授業中に適宜紹介します。								
課題に対するフィードバックの方法	発表についてはその都度コメントをします。								
留意事項									
オフィスアワー	初回の授業の際に説明します。								
実践的教育									

授業名	現代の児童文化	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の内容や目的、内容に関するアンケート (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) シラバスを読んでおく (事後) 教科書の内容を確認しておく
第2回	絵本の構造	(学修内容) 絵本の構造やことばと絵の関係について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 教科書の該当箇所を予習しておく (事後) 教科書の該当箇所を復習しておく
第3回	図書館の活用	(学修内容) 様々な図書館の活用方法やデータベースの使い方を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 自身のアクセスしやすい図書館について調べておく (事後) 近隣の図書館に訪れ資料を探す
第4回	現代のメディア環境と子ども	(学修内容) グループディスカッションを通して子どもとメディアの関係について考えをまとめる (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) データベース等の使い方を確認しておく (事後) 教科書の該当箇所を復習しておく
第5回	現代のメディア環境と子ども	(学修内容) 子どもとメディアの関係についてグループごとに発表をする (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) グループに分かれて発表の準備をする (事後) 教科書の該当箇所を復習しておく
第6回	児童文化財と情報機器の活用	(学修内容) 保育現場での児童文化財と情報機器の活用について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 教科書の該当箇所を予習しておく (事後) 教科書の該当箇所を復習しておく
第7回	手づくり絵本	(学修内容) 手づくり絵本の制作方法を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 教科書の該当箇所を予習しておく (事後) 教科書の該当箇所を復習しておく
第8回	紙芝居	(学修内容) 紙芝居の実演と制作について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 教科書の該当箇所を予習しておく (事後) 教科書の該当箇所を復習しておく
第9回	シアタースタイルの児童文化財	(学修内容) シアタースタイルの児童文化財の実演と制作について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 教科書の該当箇所を予習しておく (事後) 教科書の該当箇所を復習しておく
第10回	文化財の制作	(学修内容) 選択した文化財の制作を行う (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 選択した文化財の制作方法を復習する (事後) 制作をすすめる
第11回	文化財の制作	(学修内容) 選択した文化財の制作を行う (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 選択した文化財の制作方法を復習する (事後) 制作をすすめる
第12回	文化財の制作	(学修内容) 選択した文化財の制作を行う (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 選択した文化財の制作方法を復習する (事後) 制作をすすめる
第13回	文化財の発表	(学修内容) 制作した文化財を用いた指導計画を立案・発表する (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 指導計画を立案する (事後) コメントシートをもとに今後の課題をまとめる
第14回	文化財の発表	(学修内容) 制作した文化財を用いた指導計画を立案・発表する (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 指導計画を立案する (事後) コメントシートをもとに今後の課題をまとめる
第15回	まとめ	(学修内容) 文化財の制作・模擬保育についての講評を行う (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 教科書の内容を復習しておく (事後) これまでの学びをもとにレポートにまとめる

授 業 名	子どもの遊びと生活			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CS2125
英 文 名	Children's Play and Living			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	平尾 隆史・高岡 理恵			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	「生活科」の設置目的や内容を理解する。幼児の遊びや生活経験をかせね身についた学びを小学校以降の生活や学習の芽生えとして伸ばしていくことの重要性を学ぶ。幼児にふさわしい生活展開ができるよう、幼稚園教員としての専門性を高め、資質の向上を図る。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 生活科の目標や概要を理解し説明することができる。 2) 自然教材を用いた保育について、保育者としての視点を説明することができる。 3) 子どもの非認知的能力を育てるためのかわりについて説明することができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力 (課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	文部科学省編『幼稚園教育要領』平成29年3月、『小学校学習指導要領解説 総則編』平成29年7月 内閣府・文部科学省・厚生労働省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』平成29年3月								
参 考 書	文部科学省編『幼稚園教育要領解説』平成30年3月、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(平成30年3月)、 文部科学省編『小学校学習指導要領解説 生活編』平成29年とその他は適宜紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物については点検し、コメントをつけて返却する。または、授業内にてフィードバックを行う。								
留 意 事 項	出席を重視する。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	1回目の授業で発表する								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：京都市立六原小学校 教諭、京都市立桃山南小学校 教諭、京都市立明親小学校 教諭 京都市立石田小学校 教頭、京都市立羽束師小学校 教頭 京都市教育委員会 指導主事、京都市立石田小学校 校長、京都市図画工作教育研究会 会長								

授 業 名		子どもの遊びと生活	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の進め方・流れ・評価の仕方を確認する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読み、内容をまとめておく。	
第2回	「生活科」について理解する ～ 幼児教育と小学校教育の連続性～	(学修内容) 「生活科」の目標・内容・改訂の要点などを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読み、内容をまとめておく。	
第3回	幼児の「遊び」と小学校教育以降の「学習」の連続性について理解する	(学修内容) 幼児の「遊び」と小学校教育以降の「学習」の連続性について理解し、教材を考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読み、内容をまとめておく。	
第4回	幼児理解に基づいた教材づくり 遊び名人になろう (1) 飛ぶおもちゃをつくって遊ぼう	(学修内容) 素材の特性を生かし、飛ぶおもちゃをつくって遊ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の作品のアイデアや遊び方を考えておく。	
第5回	幼児理解に基づいた教材づくり 遊び名人になろう (2) 飛ぶおもちゃをもっと工夫してつくって遊ぼう	(学修内容) 素材の特性を生かし、飛ぶおもちゃを工夫してつくって遊ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の作品のアイデアや遊び方を考えておく。	
第6回	幼児理解に基づいた教材づくり 遊び名人になろう (3) がりがりプロペラをつくって遊ぼう	(学修内容) 身近な材料を使って、がりがりプロペラをつくって遊ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の作品のアイデアや遊び方を考えておく。	
第7回	幼児理解に基づいた教材づくり 季節と遊ぼう (1) 秋を見つけよう	(学修内容) グループに分かれて秋の自然を諸感覚で感じながら観察を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 秋の自然を観察し撮った写真や観察した資料をまとめておく。	
第8回	幼児理解に基づいた教材づくり 秋と遊ぼう (2) 秋のもので森の生き物たちをつくって遊ぼう	(学修内容) 秋のものとの身の回りにある材料を組み合わせでつくって遊ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 秋のものとの身の回りにある材料を準備し、つくるものを考えておく。	
第9回	幼児理解に基づいた教材づくり 秋と遊ぼう (3) 見つけた秋を伝え合おう	(学修内容) 秋の自然観察をまとめ、発表する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表の準備をしておく。	
第10回	生活科の「趣旨やねらい」につなげる幼児の遊びを考える	(学修内容) 3つの資質とアプローチのポイントについて知る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 子どもの10の姿について復習しておく。 配布プリントを読みわからないところを調べる。	
第11回	アプローチカリキュラムの理解と作成 (1) 月間指導計画に必要なねらいについて考える	(学修内容) 遠足行事をもとにアプローチのポイントを考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読みわからないところを調べる。	
第12回	アプローチカリキュラムの理解と作成 (2) 日案指導計画をたてる	(学修内容) グループに分かれ日案の作成を行う (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読みわからないところを調べる。 実践に必要な準備を行う	
第13回	アプローチカリキュラムの理解と実施 フィールドワークの実施	(学修内容) 遠足にでかけねらいに沿った実践を行う (事前事後学修課題の内容) (60分) 実践に必要な準備を行う。 ポスターセッションの方法を理解しておく。	
第14回	アプローチカリキュラムの理解と発表 (1) 実施したことを発表しよう	(学修内容) ポスターセッションの準備。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ポスターセッションの方法を理解しておく。 発表準備を行う。	
第15回	アプローチカリキュラムの理解と発表 (2) ポスターセッション	(学修内容) ポスターセッションを行い各班の発表。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表準備を行う。 行ったことへの振り返りをする。	

授 業 名	保幼小連携の実際			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CS2126
英 文 名	Actual Conditions of Nursery school-kindergarten-elementary school Cooperation			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	高岡 理恵			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	近年、小1プロブレムと呼ばれる現象が問題となっており、状況を改善するために教育現場では、様々な取り組みが行われています。さらに、幼稚園教育要領や小学校学習指導要領が改訂され、保幼小の円滑な接続が重要な課題として取り上げられました。本授業では、幼児教育から小学校教育へ移行する際、どのような問題が生じているのかを明らかにし、連携や接続の方法や工夫について考えていきます。この授業では、反転授業を行いますので、必ず調べ学習をする必要があります。								
学 修 成 果 達 成 目 標	1. 幼小接続期における課題を調べ発表することができる。 2. 幼小連携の取り組み内容を考え発表することができる。 3. 実習の取り組みと本授業を関連づけ考えることができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	随時、プリントを配布する								
参 考 書	文部科学省中央審議会答申 第1章「こどもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の方向性」 文部科学省中央審議会答申 「幼稚園と小学校教育との連携・接続について」								
課題に対するフィードバックの方法	授業内で提出する制作物や感想文についてコメントをいれて返却する。								
留 意 事 項	自身の実習で出会った子どもや、保育所、幼稚園の取り組みをしっかりとまとめてもらっておくと具体的な事例が出しやすいです。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	初めの授業において提示する。 質問等があるときにはGメールを使って連絡してもらおうとよい。								
実践的教育									

授 業 名	保幼小連携の実際	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 幼小連携を学ぶ意義	(学修内容) 授業の進め方や評価の方法についてガイダンスを行う。この授業を行う意義について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 シラバスを読んでくること。 事後 実習で出会った「ちょっと気になる子」の保育実践をまとめる。
第2回	こども理解1 保育実習事例作成	(学修内容) 保育実習で出会った気になる子の保育実践を深めるため事例そのものを深める。図書館で行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 実習で出会った「ちょっと気になる子」の保育実践をまとめる。 事後 調べた内容を追加しまとめてくる。
第3回	こども理解2 保育実践事例作成	(学修内容) 保育実習で出会った気になる子の保育実践を深めるため事例そのものを深め発表準備を行う。図書館で行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 調べた内容を追加しまとめてくる。 事後 発表準備を行う。
第4回	こども理解3 保育実践発表	(学修内容) 保育実習で出会った気になる子の保育実践を深めるため事例そのものを深め発表を行う。他の学生の発表を聞きディベートを行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 発表準備を行う。 事後 幼小連携で課題となっている事柄を調べてくる。(修学前)
第5回	幼小連携の課題と政策の流れ1 修学前の課題	(学修内容) 幼稚園、保育所それぞれの教育目標、生活目標を理解し、グループワークを通して現在の課題について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 幼小連携で課題となっている事柄を調べてくる。(修学前) 事後 幼小連携で課題となっている事柄を調べてくる。(小学校)
第6回	幼小連携の課題と政策の流れ2 小学校の課題	(学修内容) 小学校の教育目標を理解し、グループワークを通して現在の課題について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 幼小連携で課題となっている事柄を調べてくる。(小学校) 事後 アプローチカリキュラムについて調べてくる。
第7回	アプローチカリキュラムの理解	(学修内容) アプローチカリキュラムとは何か、保育所や幼稚園で行われているアプローチカリキュラムを探る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 アプローチカリキュラムについて調べてくる。 事後 実習で出会ったアプローチカリキュラムをまとめてくる。
第8回	アプローチカリキュラムの実際	(学修内容) 保育所や幼稚園で行われているアプローチカリキュラムを具体的に知り、小学校の教科への接続について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 実習で出会ったアプローチカリキュラムをまとめてくる。 事後 スタートカリキュラムとして考えられる教科と内容を考える
第9回	スタートカリキュラムの理解	(学修内容) スタートカリキュラムの意味を理解し、具体的な教科でどんなことが行われているのかを知る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 スタートカリキュラムとして考えられる教科と内容を考える。 事後 今日の学びをまとめてくる。
第10回	スタートカリキュラムの実際	(学修内容) 実践者からの事例を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 先週の学びをまとめてくる。 事後 今日の話聞いて感想を書き提出する。
第11回	様々なアプローチカリキュラム1 アプローチカリキュラムを構築する	(学修内容) 気になる子を対象とした、アプローチカリキュラム及びスタートカリキュラムについてグループで具体的な内容を考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 様々なカリキュラム実践を見つけてくる。 事後 発表原稿を完成に近づける。
第12回	様々なアプローチカリキュラム2 アプローチカリキュラムを構築する	(学修内容) 気になる子を対象とした、アプローチカリキュラム及びスタートカリキュラムについてグループで具体的な内容を考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 発表原稿を完成に近づける。 事後 発表原稿を完成させる。
第13回	様々なスタートカリキュラム1 スタートカリキュラムを構築する	(学修内容) 気になる子を対象とした、アプローチカリキュラム及びスタートカリキュラムについてグループで具体的な内容を考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 様々なカリキュラム実践を見つけてくる。 事後 発表原稿を完成に近づける。
第14回	様々なスタートカリキュラム2 スタートカリキュラムを構築する	(学修内容) 気になる子を対象とした、アプローチカリキュラム及びスタートカリキュラムについてグループで具体的な内容を考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 発表原稿を完成に近づける。 事後 発表原稿を完成させる。
第15回	具体的なカリキュラム作成 発表	(学修内容) 気になる子を対象にした幼稚園、保育所のカリキュラム及び小学校のカリキュラムと連携方法について発表を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 発表準備を行う。 事後 発表した内容をレポートにまとめる。

授 業 名	家庭と子育て支援a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CS2117
英 文 名	Family and Child Care Support			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	斧出 節子			対 象 学 生	幼児教育2AB・CD				
授業の概要	現在子育てに関する多くの問題があらわれており、家族のあり方や、私たちの家族に対するイメージが問題解決を阻む要因となる場合も少なくない。本講義では、家族は「近代社会」で新しく作られたものであるという認識をもち、何が問題なのかということを広く社会環境の中で考え、それとともに何が家族の支援になるのかを国際比較も用いながら考えていく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 現代家族の「見方」を習得することができる。 2) 現代家族がかかえる子育て問題を理解することができる。 3) 保育場面での親の問題を理解することができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	配布プリント使用								
参 考 書	『男の育児・女の育児』大和礼子ほか編著（昭和堂）、『よくわかる現代家族』神原文子ほか編著（ミネルヴァ書房）ほか適宜紹介する								
課題に対する フィードバック の方法	リアクションペーパーに対してコメントする								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。具体的な日時は研究室に張り出します。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください								
実 践 的 教 育									

授業名	家庭と子育て支援a・b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション：家族・家庭のイメージについて	(学修内容)現在の私たちの家族・家庭のイメージはどのようなものが理解する(グループワーク、ディスカッションを含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスをよみ、授業の全体像を把握しておく
第2回	近代家族の誕生	(学修内容)近代化によって誕生した家族について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 近代化とは何か調べておく
第3回	子育て家族のかたち	(学修内容)子育てをしている家族形態について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 現在の家族形態はどのようになっているかを身近なところで調べておく
第4回	育児ストレス	(学修内容)育児ストレスや育児不安について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 育児ストレスにはどのようなものがあるか考えておく
第5回	母親の育児の実態	(学修内容)母親の育児の実態について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のまとめをしておく
第6回	母親の育児ストレス：事例研究	(学修内容)母親の育児ストレスの実態を理解し、具体的な事例を映像を通してみる(ディスカッションを含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のまとめをしておく
第7回	母親の育児ストレス：事例研究のまとめと課題	(学修内容)事例を分析し、課題を検討する(グループワーク含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のまとめをしておく
第8回	父親の育児の実態	(学修内容)父親の育児の実態について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 父親の育児について情報を集めてくる
第9回	父親の育児ストレス：事例研究	(学修内容)父親の育児ストレスについて理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のまとめをしておく
第10回	父親の育児ストレス：事例研究のまとめと課題	(学修内容)事例を分析し、課題を検討する(グループワーク含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のまとめをしておく
第11回	日本の育児支援制度：育児休業	(学修内容)育児休業制度について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 育児休業制度にはどのようなものがあるか調べておく
第12回	北欧の育児支援制度	(学修内容)スウェーデンなどの子育て支援制度について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 外国の育児支援制度にはどのようなものがあるか調べておく
第13回	北欧の育児支援の実態	(学修内容)スウェーデンの子育て支援の実態について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のまとめをしておく
第14回	日本の育児支援の課題	(学修内容)北欧と日本の子育て支援を比較し、日本の課題を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のまとめをしておく
第15回	まとめ	(学修内容)春学期の振り返りをする (事前事後学修課題の内容)(30分) 春学期のノートをみしておく

授 業 名	保育と情報メディア			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CS2124
英 文 名	Child Care and Information and Media			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	浅田 瞳			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>子どもたちを取り巻く環境はこの20年で大きく様変わりしました。たとえば、運動会や生活発表会を保存するメディアとして、ひと昔前はビデオカメラが主流でしたが、最近はスマートフォンで手軽に動画撮影が可能になり、インターネット上で子どもたちの様子をいつでも見ることが可能になっています。また、子どもたちがメディアに触れる年齢も下がってきており、わずか0歳児でもタッチパネルを扱っている事例を目にする機会も増えているでしょう。この授業ではそうした情報メディアが子どもたちの生活にどのような変化をもたらしているのか、さまざまな事例をもとに考えていきたいと思います。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもたちがどんなところでメディアの影響を受けているのか、説明することができる 2. 保護者が気を付けなければならない子どもの個人情報を守るポイントについて説明できる 3. 情報社会の進展が保育にどのような影響を与えたのか、説明することができる 								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	特に指定なし								
参 考 書	授業内で適宜プリントを配布します								
課題に対する フィードバック の方法	小レポートについては、次の授業で口頭にてフィードバックを行います								
留 意 事 項	授業内ではあるテーマをもとにディスカッションを行います。 積極的な姿勢を求めます。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	第1回目の授業で告知します								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実際経験など：神戸親和女子大学 情報処理教育センター 勤務								

授業名	保育と情報メディア	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	イントロダクション	(学修内容) この授業の方針や小レポートについて説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) コンピュータとスマートフォンの違いについて発表できるようにする
第2回	Society 5.0 について考える	(学修内容) 狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会の違いを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 上記の社会の特徴について発表できるようにする
第3回	SNSの光と影	(学修内容) SNSの特徴、長所、短所について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) LINE、Instagram、twitterの使い分けについて発表できるようにする
第4回	ハードウェアとソフトウェア	(学修内容) ハードウェアとソフトウェアの違いを考える (事前事後学修課題の内容) (60分) なぜスマートフォンやタブレットが普及したのか考え、レポート提出する
第5回	インターネット	(学修内容) WWWの仕組みについて考える (事前事後学修課題の内容) (60分) インターネットの歴史をまとめる
第6回	保育で見られる多様なメディア(1) 教育動画	(学修内容) 幼児向け通信教育の教材を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 幼児向け通信教育の教材を探しておく
第7回	保育で見られる多様なメディア(2) 子ども向けTV番組	(学修内容) 子ども向けTV番組の歴史を振り返る (事前事後学修課題の内容) (60分) 子ども向けTV番組はどのような点が変化してきたのか、考え、レポート提出する
第8回	保育で見られる多様なメディア(3) youtube	(学修内容) 子ども向けyoutubeを考える (事前事後学修課題の内容) (60分) TVやビデオ等との違いについてまとめる
第9回	保育で見られる多様なメディア(4) 保護者対応	(学修内容) 保護者への情報モラル教育を考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 幼稚園や保育所で見られる情報に関する事例を探しておく
第10回	情報セキュリティ	(学修内容) ウイルス、個人情報保護、暗号化について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) なぜウイルスソフトをインストールしなければならないのか、理由をこたえられるようにする
第11回	インターネットリテラシー	(学修内容) 情報の真偽、著作権、肖像権について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) SNSのメリットとデメリットを発表できるようにする
第12回	IoTの実際	(学修内容) IoT活用について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (120分) IoT活用されているものを調べ、パワーポイントで資料を作成し、発表できるようにする
第13回	IoTの実際(2) どのような分野でIoTが進められているのか	(学修内容) IoTについての発表を行い、受講生同志の情報共有を図る (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表を聞いて一番印象に残った発表とその理由をレポートにまとめる
第14回	高度情報社会の進展	(学修内容) ビッグデータの活用、自動運転システム、スマート家電について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 今後の社会の情報化はどんな方向に進むのかレポートにまとめる
第15回	まとめにかえて これからの情報社会のゆくえ	(学修内容) 身の回りの情報機器や保育業界の変化について考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分のもっている情報機器でもっとも進化したものを紹介する

授 業 名	健康と生涯スポーツ a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CE1404
英 文 名	Health and Lifelong Sports Ia・b			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	吉永 有佳			対 象 学 生	幼児教育1A・1B				
授業の概要	受講者全員に体力測定を実施する。講義では健康、体力、トレーニングについて理解を深める。実技では各種スポーツのルールを理解し、基本的な技術の習得により、生涯にわたり日常的にスポーツを行う態度と能力を養う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 運動の実践により生涯スポーツの基礎となる知識・技能を習得し、生涯スポーツにつなげる事できる 2) 健康の維持・増進を目的とした運動・栄養・休養の見識を高め自己管理することができる 3) スポーツを通してコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップなどを育み、積極的に参加できる								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (健康への理解)	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	使用しない								
参 考 書	『健康・スポーツ科学講義』出村慎一監修 (杏林書院)								
課題に対する フィードバック の方法	授業後に質問を受け付け、次回の授業で解説を行う。また、必要に応じて個別に対応をする。実技テスト及び授業後に小レポートを行う。								
留 意 事 項	必要に応じてプリントを配布する。体操服と体育館シューズを必ず持参すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後体育準備室で実施する。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	健康と生涯スポーツ a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに	(学修内容)本講に関するオリエンテーション (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと
第2回	アイスブレイキング	(学修内容)コミュニケーションを目的としたレクリエーション (事前事後学修課題の内容)(60分) アイスブレイキングについて具体的に調べてまとめる
第3回	ソフトバレーボール1	(学修内容)基本技術の習得・ルールの理解・ソフトバレーボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) ソフトバレーボールの特徴を具体的に調べてまとめる
第4回	ソフトバレーボール2	(学修内容)基本技術の習得・ソフトバレーボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行う (事前事後学修課題の内容)(30分) ソフトバレーボールのルールの復習
第5回	ソフトバレーボール3	(学修内容)ソフトバレーボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行う (事前事後学修課題の内容)(30分) ソフトバレーボールの戦術について具体的に調べてまとめる
第6回	ソフトバレーボール4	(学修内容)ソフトバレーボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行う (事前事後学修課題の内容)(60分) ソフトバレーボールの戦術について具体的に調べてまとめる
第7回	講義1	(学修内容)健康と体力について (事前事後学修課題の内容)(60分) 健康について自分の考えをまとめておく
第8回	体力測定1	(学修内容)文部科学省新体力テスト (事前事後学修課題の内容)(60分) 体力テストについて具体的に調べてまとめる
第9回	体力測定2	(学修内容)文部科学省新体力テスト (事前事後学修課題の内容)(30分) 体力テストについて具体的に調べてまとめる
第10回	講義2	(学修内容)体力評価 (事前事後学修課題の内容)(60分) 体力測定について振り返りをしておく
第11回	バドミントン1	(学修内容)基本技術の習得・バドミンントンの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミンントンのルールを具体的に調べてまとめる
第12回	バドミントン2	(学修内容)バドミンントンの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミンントンの戦術について具体的に調べてまとめる
第13回	卓球1	(学修内容)基本技術の習得・卓球の試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) 卓球のルールを具体的に調べてまとめる
第14回	卓球2	(学修内容)卓球の試合 (事前事後学修課題の内容)(30分) 卓球の戦術について具体的に調べてまとめる
第15回	まとめ	(学修内容)レポート作成、提出 (事前事後学修課題の内容)(80分) 講義内容を振り返り、レポートにまとめて提出

授 業 名	健康と生涯スポーツ c・d			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CE1404
英 文 名	Health and Lifelong Sports Ic・d			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	眞崎 雅子			対 象 学 生	幼児教育1C・1D				
授業の概要	講義では健康、体力、トレーニングについて理解を深め、実技では各種スポーツのルールを理解し、基本的な技術の習得により、生涯に亘り日常的にスポーツを行う態度と能力を養う。また、体力測定を実施し自己の体力の現状を認識する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 健康の維持・増進を目的とした運動・栄養・休養の見識を高め自己管理能力を習得することができる。 2) 運動の実践により生涯スポーツの基礎となる知識と技能を習得することができる。 3) スポーツを通してコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップなどを身につけることができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)	グループワーク I C T活用(自主学習支援)	プレゼンテーション				
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (協調性)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	使用しない。								
参 考 書	「健康・スポーツ科学講義」 出村 慎一 監修 (杏林書院)								
課題に対する フィードバック の方法	口頭で講評する。								
留 意 事 項	必要に応じてプリントを配付する。実技を行う際は、運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後体育準備室で実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：ダンスインストラクターとして、子どもから大人を対象に活動。活動実績として、 ・コミュニティーセンター及び幼稚園での保護者を対象にズンバ指導 ・小学校での土曜教育プログラムにおける「リズム遊び・からだの遊び」等の講師 ・教育委員会主催体育研究会の講師、親子体操の講師								

授 業 名	健康と生涯スポーツ c・d	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに	(学修内容)本講に関するオリエンテーション (事前事後学修課題の内容)(30分) 筆記用具、顔写真(3cm×3cm)、プリントを配布する
第2回	ストレッチと有酸素運動	(学修内容)ストレッチ・有酸素運動の理論や脂肪燃焼効果について、運動強度・脈拍・有酸素運動の関係を理解し、実践的に学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) ストレッチ・有酸素運動について調べ、毎日の生活に運動を取り入れるための工夫や方法について考える
第3回	バドミントン1	(学修内容)バドミントンの基本技術(フォア・バックハンド、サーブ、スマッシュ)の習得 (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミントンのルールを調べ理解する
第4回	バドミントン2	(学修内容)バドミントン・ダブルスの基本技術の習得、簡易ゲームを行う (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミントンの簡易ゲームを通して技術を習得する
第5回	バドミントン3	(学修内容)バドミントン・ダブルスの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミントンの戦術を調べる
第6回	バドミントン4	(学修内容)バドミントン・ダブルスの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミントンの戦術について理解する
第7回	講義1	(学修内容)健康と体力、運動とトレーニング (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布したプリントを要約する
第8回	体力測定1	(学修内容)文部科学省新体力テスト (事前事後学修課題の内容)(30分) 体調管理
第9回	体力測定2	(学修内容)文部科学省新体力テスト (事前事後学修課題の内容)(30分) 体調管理
第10回	ソフトバレーボール1	(学修内容)ソフトバレーボールの基本技術(パス、レシーブ)の習得 (事前事後学修課題の内容)(60分) ソフトバレーボールの基本技術を調べ理解する
第11回	ソフトバレーボール2	(学修内容)基本技術の習得、ソフトバレーボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) ソフトバレーボールのルールを調べ理解する
第12回	ソフトバレーボール3	(学修内容)ソフトバレーボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) ソフトバレーボールの戦術を調べ理解する
第13回	ソフトバレーボール4	(学修内容)ソフトバレーボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) ソフトバレーボールの戦術を理解する
第14回	講義2	(学修内容)体力測定の結果を検討、評価し、自身の課題や改善点について認識する (事前事後学修課題の内容)(60分) 生活習慣を振り返り、自身の課題や改善点などについて考えておく
第15回	まとめ	(学修内容)レポート作成、提出 (事前事後学修課題の内容)(60分) 体力測定の結果を検討・今後についての課題や抱負について考察する

授 業 名	健康と生涯スポーツ a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CE1411
英 文 名	Health and Lifelong Sports a・b			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	吉永 有佳			対 象 学 生	幼児教育1A・1B				
授業の概要	本講では、運動が身体にどのような影響を及ぼすかを学習し、学生個人の健康についての理解を各種スポーツの実践を通して深める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 運動の実践により生涯スポーツの基礎となる知識・技能を高めることができる 2) 健康の維持・増進を目的とした運動・栄養・休養の見識を高め自己管理することができる 3) スポーツを通してコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップを育み、積極的に参加できる								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (健康への理解)	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	使用しない								
参 考 書	『健康・スポーツ科学講義』出村慎一監修 (杏林書院)								
課題に対する フィードバック の方法	授業後に質問を受け、次回の授業で解説を行う。また、必要に応じて個別対応を行う。								
留 意 事 項	必要に応じてプリントを配布する。体操服と体育館シューズを必ず持参すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後体育準備室で実施する。								
実 践 的 教 育									

授業名	健康と生涯スポーツ a・b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに	(学修内容)本講に関するオリエンテーション (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスを確認しておく
第2回	講義1	(学修内容)スポーツを楽しむ為に必要な基本的な生活習慣を見直し、健康維持について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 健康づくりにはどのようなものがあるか、考えておく
第3回	講義2	(学修内容)スポーツを行う上での安全配慮について。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 安全配慮にはどのようなものがあるか、考えておく
第4回	バレーボール1	(学修内容)基本技術の習得・ルールの理解・バレーボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バレーボールのルールを具体的に調べてまとめる
第5回	バレーボール2	(学修内容)基本技術の習得・バレーボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行う (事前事後学修課題の内容)(60分) バレーボールのルールの復習
第6回	バレーボール3	(学修内容)バレーボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行う (事前事後学修課題の内容)(30分) バレーボールの戦術について具体的に調べ、まとめる
第7回	バレーボール4	(学修内容)バレーボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行う (事前事後学修課題の内容)(30分) バレーボールの戦術について具体的に調べてまとめる
第8回	バドミントン1	(学修内容)基本技術の習得・バドミンントンの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミンントンのルールを具体的に調べてまとめる
第9回	バドミントン2	(学修内容)バドミンントンの試合 (事前事後学修課題の内容)(30分) バドミンントンの戦術について具体的に調べてまとめる
第10回	バドミントン3	(学修内容)バドミンントンの試合 (事前事後学修課題の内容)(30分) バドミンントンの戦術について具体的に調べてまとめる
第11回	バスケットボール1	(学修内容)基本技術の習得・ルールの理解・バスケットボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バスケットボールのルールを具体的に調べてまとめる
第12回	バスケットボール2	(学修内容)基本技術の習得・バスケットボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行う (事前事後学修課題の内容)(30分) バスケットボールのルールの復習
第13回	バスケットボール3	(学修内容)バスケットボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行う (事前事後学修課題の内容)(30分) バスケットボールの戦術について具体的に調べてまとめる
第14回	バスケットボール4	(学修内容)バスケットボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行う (事前事後学修課題の内容)(30分) バスケットボールの戦術について具体的に調べてまとめる
第15回	まとめ	(学修内容)レポート作成、提出 (事前事後学修課題の内容)(80分) 授業内容を振り返り、レポートにまとめて提出する

授 業 名	健康と生涯スポーツ c・d			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CE1411
英 文 名	Health and Lifelong Sports c・d			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	眞崎 雅子			対 象 学 生	幼児教育1C・1D				
授業の概要	運動時にハートレートモニターを装着し、心拍数を測定する。測定結果から各運動の強度を調べ、運動の内容について検討を加えレポートにまとめる。各種運動の実践を通して日常的に運動を行う態度と能力を養う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 運動実践時の心拍数、継続時間を測定して運動強度を判定し、実践した運動内容について検討することができる。</p> <p>2) 健康の保持増進を目的としたスポーツの実践を通して、適切な強度による運動を生涯に亘り実践する意義について理解することができる。</p> <p>3) スポーツを通してコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップなどを身につけることができる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (協調性)	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	使用しない。								
参 考 書	「健康・スポーツ科学講義」 出村 慎一 監修 (杏林書院)								
課題に対する フィードバック の方法	口頭で講評する。								
留 意 事 項	必要に応じてプリントを配付する。実技を行う際は、運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。ウォーキング時は運動靴を使用すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後体育準備室で実施する。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：ダンスインストラクターとして、子どもから大人を対象に活動。活動実績として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティーセンター及び幼稚園での保護者を対象にズンバ指導 ・小学校での土曜教育プログラムにおける「リズム遊び・からだの遊び」等の講師 ・教育委員会主催体育研究会の講師、親子体操の講師 								

授 業 名	健康と生涯スポーツ c・d	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに	(学修内容)本講に関するオリエンテーション (事前事後学修課題の内容)(30分) 筆記用具
第2回	講義 1	(学修内容)健康を維持増進するための運動 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布したプリントを読んで身体運動について理解する
第3回	有酸素運動時の心拍数の測定 1	(学修内容)有酸素運動時の(ウォーキング)心拍数測定 (事前事後学修課題の内容)(60分) 正しい歩き方、姿勢、適正運動強度を調べ理解する
第4回	有酸素運動時の心拍数の測定 2	(学修内容)有酸素運動時(エアロビックダンス)の心拍数測定 (事前事後学修課題の内容)(60分) 適正運動強度を理解する
第5回	有酸素運動時の心拍数の測定 3	(学修内容)有酸素運動時(エアロビックダンス)の心拍数測定 (事前事後学修課題の内容)(60分) 適正運動強度を理解する
第6回	有酸素運動時の心拍数の測定 4	(学修内容)有酸素運動時(フィットネスダンス)の心拍数測定 (事前事後学修課題の内容)(60分) 適正運動強度を理解する
第7回	各種スポーツの実践 1	(学修内容)大縄跳び (事前事後学修課題の内容)(60分) 大縄跳びのポイントや遊び方等について調べる
第8回	各種スポーツの実践 2	(学修内容)綱引きの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) 綱引きの戦術について調べ理解する
第9回	各種スポーツの実践 3	(学修内容)ドッジボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) ドッジボールのルールを調べ理解する
第10回	バスケットボール 1	(学修内容)バスケットボールの基本技術(ドリブル、パス、シュート)の習得 (事前事後学修課題の内容)(60分) バスケットボールの基本技術を調べ理解する
第11回	バスケットボール 2	(学修内容)バスケットボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バスケットボールのルールを理解する
第12回	バスケットボール 3	(学修内容)バスケットボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バスケットボールの戦術を調べ理解する
第13回	バスケットボール 4	(学修内容)バスケットボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バスケットボールの戦術を理解する
第14回	講義 2	(学修内容)心拍数測定資料の整理、検討、考察 (事前事後学修課題の内容)(60分) 筆記用具、測定資料の整理、検討、考察
第15回	まとめ	(学修内容)レポート作成、提出 (事前事後学修課題の内容)(60分) 筆記用具、測定資料の検討、考察

授業名	保育英語コミュニケーション a・b			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	CE1405
英文名	Child Care English Ia・b			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	山本 典子			対象学生	幼児教育1A・1B				
授業の概要	演習形式の授業を通して、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4領域において総合的な英語力の基礎をバランスよく習得します。予習をしていることを前提にしてテキストを進めます。保育英語に特化した授業になりますが、また、専門領域に関する教材や異文化理解にもつながる多読も授業に取り入れます。さらに毎回の授業でグループワークを取り入れます。								
学修成果到達目標	1) 英語基本5文型を中心とした基本的知識を身につけることができる。 2) 自身のことについて英語で伝えることができる。 3) 平易な英語絵本を訳すことなく英語のまま理解することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テキスト	Children's Garden 赤松直子著 成美堂								
参考書	保育英語ワークブック (保育英語検定3級問題集) 社団法人国際子育て支援機構著 保育英語ワークブック (保育英語検定2級問題集)								
課題に対するフィードバックの方法	提出された宿題や課題は採点しコメントとともに返却します。								
留意事項	テキストは毎回使用するので、必ず購入し持参してください。このテキストは秋学期も使用します。宿題は期日に提出すること。予習・復習はしっかりと行うこと。評価方法は上記にあります。テキストを持ってきていない、寝ている、スマホを見ているなど、授業態度によってはそのとおりではありません。欠席5回で定期試験受験資格がなくなります。出欠、遅刻に関しては初講日にくわしく説明します。授業の進み具合によっては授業計画は前後することがあります。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：NHK文化センター京都支社								

授 業 名		保育英語コミュニケーション a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション 5文型の問題 / ABC song Chapter 1 Children's Garden P.6	(学修内容) 読書記録シート、出欠・遅刻の扱いについて テキストp.6 ABCの歌を歌う (事前事後学修課題の内容)(30分) p.6目を通しておく	
第2回	be動詞・一般動詞の理解 Chapter 1 Children's Garden p.7,8,9	(学修内容) be動詞・一般動詞の演習 テキストp.7,8,9 p.9はリスニングの後ペアワークで音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト p. 7-9の予習 特にp.8	
第3回	be動詞・一般動詞の疑問文1 Chapter 1 Children' Garden p.10,11	(学修内容) be動詞・一般動詞の疑問文の演習 p.9の復習としてリスニングの後音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にbe動詞・一般動詞の復習しておくこと テキストp.10,11の予習	
第4回	be動詞・一般動詞の疑問文2 Chapter 2 The First Day of the Internship p.12,13,14	(学修内容) be動詞・一般動詞の疑問文の演習 (事前事後学修課題の内容)(60分) be動詞・一般動詞の疑問文の復習しておくこと テキストp.14,15を予習	
第5回	5文型の問題 Chapter 2 The Frist Day of the Internship p.15,16,17	(学修内容) be動詞・一般動詞,5文型 p.15リスニングと音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にp.16を準備しておく	
第6回	現在進行形の理解 Chapter 3 Out We Go! p.18,19,20	(学修内容) 復習としてp.15会話リスニングの後音読 現在進行形の演習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 笑顔で場面を楽しめるよう会話音読	
第7回	現在進行形の演習 Chapter 3 Out We Go! p.21,22,23	(学修内容) 現在進行形の復習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 現在進行形の復習 p.22の準備	
第8回	動詞過去形の演習 Chapter 1 ~ 3の復習	(学修内容) 動詞過去形の演習 復習としてp.9,15,21会話のリスニングの後音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) 動詞時制復習	
第9回	Chapter 4 Splash,splash p.24,25,26	(学修内容) 外の遊びの単語 (事前事後学修課題の内容)(60分) p.26の準備	
第10回	Chapter 4 Splash,splash p,27,28,29 感情を表す形容詞	(学修内容) 感情を表す形容詞の理解、演習 p.27会話のリスニングの後ペアワークで音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) p.28の準備	
第11回	Chapter 5 Pancake Day p.30,31,32 感情を表す形容詞	(学修内容) 感情を表す形容詞の復習・演習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 感情を表す形容詞の復習	
第12回	動詞未来形の演習 Chapter 5 Pancake Day p.33,34,35	(学修内容) p.33会話リスニングの後グループで音読 動詞未来形の演習 (事前事後学修課題の内容)(60分) p.34の予習	
第13回	Chapter 6 Read Me, Tell Me Stories p.36,37,38 / Urashima Taro	(学修内容) Urashima Taroの音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) p.38の準備	
第14回	Chapter 6 read me, Tell me p. 39,40,41 / Urashima Taro	(学修内容) Urashima Taroの音読 p.39会話リスニングの後ペアワークで音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) p.39,40の準備	
第15回	動詞時制のまとめ 春学期の総復習	(学修内容) 文法事項も含めて復習 定期試験の説明 (事前事後学修課題の内容)(60分) p.27,33,39の会話がスムーズに音読できるように練習	

授 業 名	保育英語コミュニケーション c・d			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CE1405
英 文 名	Child Care English 1c・d			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	早瀬 和栄			対 象 学 生	幼児教育1C・1D				
授業の概要	演習形式の授業を通して、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4領域において総合的な英語力の基礎をバランスよく習得します。予習をしていることを前提にテキストを進めます。また、専門領域に関連する教材や、異文化理解にもつながる多読も授業に取り入れます。保育英語に特化した授業を行います。毎回の授業で、グループワークをとりいれます。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 英語基本5文型を中心とした基本的知識を身につけることができる。 2) 自身のことについて伝えることができる。 3) 平易な英語絵本を訳すことなく、英語のまま理解することができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	『保育英語』 赤松直子 (成美堂)								
参 考 書	保育英語検定受験予定の者は各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し、学習に取り組むことが望ましい。 『保育英語検定3級テキスト(改訂版)』 社団法人保育英語検定協会著(本の泉社)、2000円 『保育英語検定2級テキスト(改訂版)』 社団法人保育英語検定協会著(本の泉社)、2000円 『保育英語ワークブック (保育英語検定3級問題集)』 社団法人 国際子育て支援機構著、1400円 『保育英語ワークブック (保育英語検定2級問題集)』 社団法人 国際子育て支援機構著、1400円								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたりレポートについては、コメントを付けて返却します。								
留 意 事 項	本授業では定期試験を実施する。 5回以上の欠席は認めないが、正当な理由がある場合は考慮しますので、必ず報告すること。 授業には辞書を必ず持参すること。 授業の進み具合によって授業計画は前後することがあります。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	保育英語コミュニケーション c・d	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 到達目標の確認、進め方の説明、自己紹介 (事前事後学修課題の内容) (15分) 本授業のシラバスを読む
第2回	英語でエッセイを読む	(学修内容) 多読のすすめ 英語でエッセイを読む (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 6-8の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第3回	Chapter 1 こどもの園保育園	(学修内容) 保育で使う英語表現、リスニング問題 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 9-11の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第4回	Chapter 1 来月、実習が始まります	(学修内容) 登園時に使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 12-14の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第5回	Chapter 2 実習初日	(学修内容) 教室内で使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 15-17の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第6回	Chapter 2 実習生の加藤えみ です。	(学修内容) 挨拶で使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 18-20の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第7回	Chapter 3 さあ、出かけましょう！	(学修内容) 園庭で使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 21-23の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第8回	Chapter 3 いいお天気ね	(学修内容) 言葉遊び・アナグラム (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 24-26 の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第9回	Chapter 4 バシャバシャ水しぶき	(学修内容) 水泳の時間に使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 27-29の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第10回	Chapter 4 オリンピック選手みたい	(学修内容) 着替えの時に使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 30-32の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第11回	Chapter 5 ホットケーキの日	(学修内容) 料理のときに使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 33-35の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第12回	Chapter 5 おいしい、おいしい、おいしいよ	(学修内容) 食事の時に使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 36-38の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第13回	Chapter 6 本を読んで、お話を聞かせて	(学修内容) 読み聞かせのときに使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 39-41の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第14回	Chapter 6 今日は何のお話？	(学修内容) こども絵本について (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 42-44の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第15回	テキストの総復習	(学修内容) 日常表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの見直し

授業名	保育英語コミュニケーション a・b			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	CE1412
英文名	Child Care English a・b			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	山本 典子			対象学生	幼児教育1A・1B				
授業の概要	演習形式の授業を通して、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4領域において総合的な英語力の基礎をバランスよく習得します。予習していることを前提にテキストを進めます。春学期から引き続き保育英語に特化した授業になります。毎回の授業でグループワークを取り入れます。また異文化理解にもつながる多読も続けます。								
学修成果到達目標	1) 英語基本5文型を中心とした基本的知識を実につけることができる。 2) 過去形や現在完了形を用いて自身のことを伝えることができる。 3) 平易な英語絵本を訳すことなく、英語のまま理解することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テキスト	Children's Garden 赤松直子著 成美堂 春学期のテキストの続きをします。								
参考書	保育英語ワークブック (保育英語検定3級問題集) 保育英語ワークブック (保育英語検定2級問題集) 国際子育て支援機構著								
課題に対するフィードバックの方法	提出された宿題、課題はコメントをつけて返却します。								
留意事項	後期もテキスト中心に授業を進めますが、音読や発表の機会が増えます。予習、復習、宿題はしっかりとやっておいてください。提出物は期日を守ること。評価方法は上記のとおりですが、前期同様、授業態度によってはそのとおりではありません。進み具合によっては授業計画は前後することがあります。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：NHK文化センター京都支社								

授 業 名		保育英語コミュニケーション a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	Chapter 7 Activities with Watermelons p.42,43,44 月の名前	(学修内容) 動詞時制の復習 月の名前の歌 (事前事後学修課題の内容)(60分) 動詞の時制の復習	
第2回	Chapter 7 Activities with Watermelons p.45,46,47 月の名前のテスト	(学修内容) 月の名前のテスト p.45会話のペアワーク音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) p.46の準備 単語を覚える	
第3回	動詞・現在完了形の演習 Chapter 8 Happy Birthday! p.48,49,50	(学修内容) 現在完了形の演習 (事前事後学修課題の内容)(60分) p.50の準備	
第4回	動詞・現在完了形の演習 Chapter 8 Happy Birthday! p.51,52,53	(学修内容) 現在完了形の演習 p.51の会話のペアワーク音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) 現在完了形の復習 p.52の準備	
第5回	助動詞の演習 Chapter 9 Children at Play p.54,55,56 遊びの名前	(学修内容) 助動詞の意味と使い方 遊びの名前を覚える (事前事後学修課題の内容)(60分) p.56の準備	
第6回	助動詞の演習 Chapter 9 Children at Play p.57,58,59	(学修内容) 助動詞を使って文を作る p.57会話を音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) 助動詞の復習 p.58の準備	
第7回	Chapter 7~9の復習 動詞時制の復習	(学修内容) 動詞時制の復習 p.45,51,57会話復習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 動詞時制の復習をしておく。	
第8回	形容詞対語 Chapter 10 Baby News p.60,61,62	(学修内容) 形容詞の対語を覚える 赤ちゃんに関する単語 (事前事後学修課題の内容)(60分) p.62の準備	
第9回	形容詞対語のテスト Chapter 10 Baby News p.63,64,65	(学修内容) 形容詞のテスト p.63会話リスニングとペアワーク音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) p.64の準備	
第10回	Chapter 11 The Tooth Family p.66,67,68 歯に関する単語 / Kasajizou	(学修内容) 歯に関する単語を覚える Kasajizouの音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) p.68の準備	
第11回	Chapter 11 The Tooth Family p.69,70,71 Kasajizou	(学修内容) p.69会話の音読 Kasajizouの音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) p.70を準備	
第12回	体の部分の単語 Chapter 12 The Green-eyed Witch p.72,73,74	(学修内容) 体の部分の単語を覚える (事前事後学修課題の内容)(60分) p.74の準備	
第13回	体の部分の単語のテスト Chapter 12 The Green-eyed Witch p.75	(学修内容) p.74会話音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) p.74の会話がスムーズに読めるように予習 体の部分の単語を覚える	
第14回	Chapter 12 p.76,77 The Mouse's Marriage	(学修内容) The Mouse's Marriageを読む (事前事後学修課題の内容)(60分) p.76の準備	
第15回	Chapter 7~12 秋学期の復習	(学修内容) 秋学期復習 定期試験の準備 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストやプリントのわからないところを探しておく	

授 業 名	保育英語コミュニケーション c・d			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CE1412
英 文 名	Child Care English c・d			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	早瀬 和栄			対 象 学 生	幼児教育1C・D				
授業の概要	英語・コミュニケーション に続き、演習形式の授業を通して、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4領域において総合的な英語力の基礎をバランスよく習得します。予習をしていることを前提にテキストを進めます。また、専門領域に関連する教材や、異文化理解にもつながる多読も授業に取り入れます。グループワークやプレゼンテーションを実践します。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 会話や多読に必要な文法の基礎を身につけることができる。 2) 身近なトピックについて、簡単な単語を用いて意見を伝えることができる。 3) 平易な英語本を訳すことなく、英語のまま理解することができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	『保育英語』 赤松直子(成美堂)								
参 考 書	保育英語検定受験予定の者は、各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し、学習に取り組むことが望ましい。 『保育英語検定テキスト3級(改訂版)』社団法人保育英語検定協会著(本の泉社)、2000円 『保育英語検定テキスト2級(改訂版)』社団法人保育英語検定協会著(本の泉社)、2000円 『保育英語ワークブック(保育英語検定3級問題集)』社団法人 国際子育て支援機構著 1400円 『保育英語ワークブック(保育英語検定2級問題集)』社団法人 国際子育て支援機構著 1400円								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたりレポートについては、コメントを付けて返却します。								
留 意 事 項	本授業では定期試験を実施する。 5回以上の欠席は認めないが、正当な理由がある場合は考慮しますので、必ず報告すること。 授業には辞書を必ず持参すること。 授業の進み具合によっては、授業計画は前後することがあります。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		保育英語コミュニケーション c・d
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 保育英語について考える (事前事後学修課題の内容) (15分) シラバスを読む pp.42-44の予習、英作文の練習問題をしておく。
第2回	Chapter 7 すいかで遊ぼう	(学修内容) 行事で使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.45-47の予習、英作文の練習問題をしておく。
第3回	Chapter 7 おなかですいかが大きくなるよ	(学修内容) グループワークの実践 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.48-50の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第4回	Chapter 8 お誕生日おめでとう	(学修内容) お誕生日会で使う英語表現、グループワークの実践。 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.51-53の予習、英作文の練習問題をしておく。
第5回	Chapter 8 スターが生まれました	(学修内容) 招待状を作成するときに使う英語表現、グループワークの実践。 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.54-56の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第6回	Chapter 9 子どもと遊び	(学修内容) 子どもと遊ぶ時に使う英語表現、プレゼンテーションの実践。 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.57-59の予習、英作文の練習問題をしておく。
第7回	Chapter 9 マーク君、やった!	(学修内容) 感情をあらわす英語表現、ペアワークの実践。 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.60-62の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第8回	Chapter 10 赤ちゃんニュース	(学修内容) 赤ちゃんを保育するときに使う英語表現、グループワークの実践。 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.63-65の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第9回	Chapter 10 おむつ交換をしてもよろしいですか?	(学修内容) 赤ちゃんへの語りかけに使う英語表現とグループワークの実践。 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.66-68の予習、英作文の練習問題をしておく。
第10回	Chapter 11 歯の妖精	(学修内容) 歯磨きを指導するときに使う英語表現とプレゼンテーションの実践。 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.69-71の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第11回	Chapter 11 妖精の物語	(学修内容) 乳児室で使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.72-74の予習、英作文の練習問題をしておく。
第12回	Chapter 12 緑の目の魔女	(学修内容) 演劇会での英語表現、プレゼンテーションの実践。 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.75-77の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第13回	Chapter 12 どの魔女がどの時計を見たの?	(学修内容) お楽しみ会での英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.78-80の文法説明を読んでおく。
第14回	テキスト総復習 (1)	(学修内容) テキストの文法問題の復習 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト文法問題の見直し
第15回	テキスト総復習 (2)	(学修内容) 日常で使える英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト英作文の見直し

授 業 名	教育原理a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CE1208
英 文 名	Principles of Education			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	堀出 雅人			対 象 学 生	幼児教育1AB・1CD				
授業の概要	洋の東西を問わず、教育に求められる役割はますます肥大化し、教師の役割も同様になりつつある。本講義では、教育の基本的な考え方やしくみを社会や歴史との関係をふまえながら学習する。とりわけ幼児教育に大きな影響を与えた思想家を中心に、幼児教育に求められる基本概念について理解する。また、今後の幼児教育のあり方を予測するとともに、人間の発達や現代社会と教育との関係をもとに、幼児教育で大切なことは何か、さまざまな資料や記事をもとに自らの意見を述べるのが授業の目的である。なお、資料の共有やレポート作成・提出のためにICT機器を活用する予定である。								
学 修 成 果 達 成 目 標	1) 諸外国における教育の変遷や原理の違いについて説明できる。 2) 幼児教育の発展過程について、専門的な知識をもとに説明できる。 3) 乳幼児に対する教育観・保育観について、説明できる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (授業に対する興味・関心)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	竹内聖子・内山絵美子編著『生活事例からはじめる教育原理』 青踏社 2020年								
参 考 書	文部科学省『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 2018年 その他、適宜指示します。								
課題に対するフィードバックの方法	提出を求めるレポートなどは後日授業中にチェックしたものを返却します。優れているレポート等は授業中に紹介し、他の受講生の見本としてどこが優れていたのか説明を行います。								
留 意 事 項	主として講義により授業を進めます。テキストを読みその内容から幼児教育の基本的な知識を習得するとともに自らの考えを書き出すこと、また、伝え合うことが授業の中心となります。そのため、必ずテキストは購入してください。また、配慮事項がある場合は、早めに相談してください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業実施期間中の毎週水曜日のお昼休み								
実践的教育									

授業名	教育原理a・b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	教育とは何か	(学修内容)教育という言葉の語源を学び、教育の目的を説明できる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:「教育」から連想されるイメージや単語を書き出してくる 後:テキスト第1章を再読し、キーワードを復習する
第2回	教育と福祉	(学修内容)教育と保育、教育と福祉、それぞれの機能と関係を説明できる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:「幼稚園」と「保育園」の違いを書き出してくる 後:テキスト第2章を再読し、キーワードを復習する
第3回	教育の目的、機能	(学修内容)教育の今日的課題と法律上の教育の位置づけや役割を説明できる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:テレビや新聞から教育現場の課題を1つ調べてくる 後:テキスト第3章を再読し、キーワードを復習する
第4回	生涯学習	(学修内容)生涯学習の意味と我が国のその現状について説明できる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:「生涯学習」から連想されるイメージや単語を書き出してくる 後:テキスト第4章を再読し、キーワードを復習する
第5回	乳幼児期の発達と教育の特性	(学修内容)乳幼児期の発達を踏まえ教育実践を転換する意義を説明できる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:見学等で触れた幼児教育実践の内容とねらいを書き出してくる 後:テキスト第5章を再読し、キーワードを復習する
第6回	就学前教育の制度	(学修内容)幼児教育・保育の無償化をはじめ我が国と諸外国の就学前教育の制度を説明できる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:幼児教育・保育の無償化について調べてくる 後:テキスト第6章を再読し、キーワードを復習する
第7回	乳幼児教育期における教育実践の基礎	(学修内容)子ども理解に基づく保育の計画、実践、省察を説明できる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:各幼稚園のホームページからその教育目標を調べてくる 後:テキスト第7章を再読し、キーワードを復習する
第8回	乳幼児期における遊びの意義と教育実践	(学修内容)乳幼児期における「遊び」の意味とその特徴を説明できる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:乳幼児期の具体的な「遊び」をイメージして書き出す 後:テキスト第8章を再読し、キーワードを復習する
第9回	就学前教育と小学校教育の違い	(学修内容)就学前教育と小学校教育との差異と連携の在り方を説明できる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:幼稚園、保育園、こども園と小学校との連携について調べてくる 後:テキスト第9章を再読し、キーワードを復習する
第10回	保育者の専門性	(学修内容)保育者の専門性と現場での同僚性について説明できる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:保育者の専門性について考え書き出してくる 後:テキスト第10章を再読し、キーワードを復習する
第11回	日本の子ども観の変遷	(学修内容)我が国の近代以前・以降の子ども観について説明できる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:「子ども」から連想されるイメージや単語を書き出してくる 後:テキスト第11章を再読し、キーワードを復習する
第12回	日本の教育の歴史	(学修内容)我が国の幼児教育・保育の歴史を説明できる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:「寺子屋」について調べてくる 後:テキスト第12章を再読し、キーワードを復習する
第13回	世界の子ども観の変遷	(学修内容)世界の近代以前・以降の子ども観について説明できる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:シュタイナー教育の特徴について調べ書き出してくる 後:テキスト第13章を再読し、キーワードを復習する
第14回	世界の教育の歴史	(学修内容)世界の教育の歴史の概要を説明できる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:コメニウスが著した『世界図絵』の特徴を調べ書き出してくる 後:テキスト第14章を再読し、キーワードを復習する
第15回	「遊びを通して学ぶ」とは	(学修内容)乳幼児期教育における「遊び」の重要性とそれらを促す保育者の役割を説明できる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:これまでの授業中で印象に残った箇所を書き出してくる 後:テキスト第15章を再読し、キーワードを復習する

授 業 名	保育原理 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CE1201
英 文 名	Principles of Child Care			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	鈴木 えり子			対 象 学 生	幼児教育1AB・1CD				
授業の概要	保育の意義や目的について理解し、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育保育要領を中心とした保育に関する法令や制度を学ぶ。また、保育の基本、保育思想や歴史の変遷について学び、保育の現状と課題を学びから深めていく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 保育の意義及び目的が理解できる。 2) 保育所、幼稚園、認定こども園における保育の基本が理解できる。 3) 保育に関する法令や制度、保育の思想や歴史の変遷について理解できる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	『哲学する 保育原理』伊藤潔志編著 教育情報出版 『新版 保育用語辞典』一藝社								
参 考 書	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・厚生労働省・文部科学省 フレーベル館								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートは授業内でコメント返します。 小テストは添削をして返却し解答の解説を行います。								
留 意 事 項	講義を中心とするが、理解を深めるために視聴覚資料も取り入れる。教科書をしっかり読んでおく。途中で理解度を把握するため、小テストを実施する。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に掲示しますので確認してください								
実践的教育									

授 業 名		保育原理 a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	ガイダンス	(学修内容) 講義の目的や授業の進め方を理解する。 到達目標について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の幼少期を振り返る。	
第2回	保育に関する法令や制度	(学修内容) 保育所、幼稚園、認定こども園に関する法令や制度を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト第1章-1を読んでワークシートを見直す。	
第3回	保育・教育課程の現在	(学修内容) 保育所・幼稚園・認定こども園における保育・教育課程の意義を理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト第1章-2を読んで配布資料を見直しておく。	
第4回	日本の保育の現状	(学修内容) 待機児童問題 子どもの貧困 潜在保育士 小1プロブレム 保育士不足問題など日本の保育の現状を把握する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 保育用語辞典で授業で学習した保育用語を調べておく。	
第5回	保育を基礎から考える	(学修内容) 保育の意味を理解する。子どもの最善の利益について理解する。保育の原理を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト第4章を見直しておく。	
第6回	子どもの発達理解と援助	(学修内容) DVDの視聴を通して子どもの内面についてディスカッションをする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ディスカッションを通して何を学んだのかをレポートにまとめてみる。	
第7回	小テスト 保育者の援助について	(学修内容) 小テストを実施する。小テストの解説を行う。前回のDVDを再度視聴し、保育者の援助・役割について考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 小テストの準備をする。ディスカッションや発表についての気づきをレポートにまとめておく。	
第8回	諸外国の保育の思想と歴史変遷	(学修内容) 諸外国の保育思想と歴史を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト第2章-1,2や保育用語辞典を参考にして配布プリントを仕上げておく。	
第9回	日本の保育の思想と歴史変遷	(学修内容) 日本の保育思想と歴史を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト第2章-3,4,5と保育用語辞典を参考にして配布プリントを仕上げ提出する。	
第10回	幼稚園・保育所・認定こども園での生活と遊び	(学修内容) 保育所、幼稚園、認定こども園の生活を理解し、子どもの遊びについて理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) (30分) インターネットのHPで実習園の保育目標、保育方針、目指す子ども像、年間行事、生活の流れなど実態を把握しておく。	
第11回	養護と教育の違い	(学修内容) 教育と養護の目的について理解する。教育と養護の違いを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育所保育指針・幼稚園教育要領・認定こども園保育教育要領の第1章総則の部分を読みワークシートを仕上げ提出する	
第12回	子ども理解の視点	(学修内容) 事例を通して子ども理解を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として提示した事例について気づきをレポートにまとめて提出する。	
第13回	保育における集団と個人	(学修内容) 集団と個人の関係、保育の形態について保育実践との関係を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 多様な保育形態について保育用語辞典を参照に関連する箇所を読んでまとめる。	
第14回	教育としつけ	(学修内容) 教育現場における事例を通して子どもへの支援を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第5章を読んでよい教育とはどのようなものかを自分の意見をまとめる。	
第15回	保育者の役割	(学修内容) 指導計画・評価の必要性を理解し保育者の役割を具体的に学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 返却した小テストや配布プリントを見直し不十分な部分を書き出す。	

授 業 名	子どもの保健 a・b・c・d			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CE1210
英 文 名	Infant Health			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	福井 百合子			対 象 学 生	幼児教育2A・B・C・D				
授業の概要	保育の現場では、適切に養育する力量が求められる。専門家としての養育に必要な健康管理、安全管理について、演習、実技を交えて学ぶ。「子どもの保健」で学んだ知識と融合し、疾病予防、感染予防、応急・救急処置の基本的知識と技術を理解する。また安全の確保、事故予防等の基礎知識を学ぶ。								
学 修 成 果 到 達 目 標	子どもの健康および安全にかかわる保健活動の計画、評価について学ぶ。 子どもの成長、発達についての観察、判断について学ぶ。 子どもの健康増進、心身の発育、発達を促す保健活動や保育環境を考え、保育環境での安全と衛生管理を学ぶ。 子どもの病気やケガの看護や処置、予防対策が理解できる。 疾病や障害を有す乳幼児の保育について学ぶ。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 授業態度・参加意欲 () ()			課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	中根淳子 / 佐藤直子編著、北川好郎 / 濱口典子 / 森本恵美子著 「子どもの健康と安全」 ななみ書房								
参 考 書	中根淳子 / 佐藤直子編著、北川好郎 / 濱口典子著 「子どもの保健」ななみ書房、 兼松百合子・荒野 暁? 室俊? 編著、? 泉志保美・前? はる? 由美? 須藤佐知? 榎芳江・本間美知? 著 「子どもの保健・実習 - すこやかな育ちをサポートするために - 」同文書院、 大澤真木子監修、小國美也子編著 「子どもの保健～健康と安全～」 日本小児医事出版社、 遠藤郁夫、三宅捷太編著、伊澤昭治、稲坂恵、太田由紀枝、甲斐純夫、勝又すみれ著 「子どもの健康と安全」学建書院、 加藤忠明、岩田力編「図表で学ぶ 子どもの保健」（建帛社）								
課題に対するフィードバックの方法	レポート課題についてはコメントをつけて返します。								
留 意 事 項	小児の病気等保育における環境として衛生管理並びに安全の実施体制について、学びを深めることが大切である。また自分自身や子どもの健康について関心を持つこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：産科病棟にて助産師として、救急病棟、小児科外来にて看護師としての勤務経験。								

授 業 名		子どもの保健 a・b・c・d	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	科目ガイダンス 子どもの保健と環境	(学修内容) 保育における保健活動、個の健康と集団保健、健康支援について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P9～14を読んでおく。	
第2回	保育における健康と安全管理 環境の調整と衛生管理	(学修内容) 保育における環境の調整(快適性)、衛生管理について理解する。 衛生的手洗いについて理解し習得する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P15～25、142～144、144～152、153～154を読んでおく。	
第3回	保育における健康と安全管理 事故防止、災害の備え	(学修内容) 保育における安全、事故防止、災害の備えについて理解する。 保育場面での危険予知、事故防止についてグループワークにて考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P25～36、142～144、153～154を読んでおく。	
第4回	保育場面での養護と保健的対応 乳幼児の世話	(学修内容) 保育場面での保健的対応と養護の実際、健康管理における観察について学ぶ。乳児の抱き方、寝かせ方、オムツ交換の方法を理解し実践する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P89～111、142～144を読んでおく。	
第5回	保育場面での養護と保健的対応 乳幼児の健康と発育の評価	(学修内容) 健康、発育状態の評価について学ぶ。乳児の計測(体温、呼吸、脈拍)、身体計測(身長、体重、頭頂、胸囲)の方法を理解し実践する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 「子どもの保健」P64～68を復習しておく。 教科書P130～133を読んでおく。	
第6回	保育場面での養護と保健的対応 清潔：衣類の交換と沐浴	(学修内容) 身体の清潔の必要性を知り、乳児の衣類の交換(着脱)と沐浴の方法を理解し実践する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P105～111を読み、沐浴の目的、準備物品、手順を知っておく。	
第7回	保育場面での養護と保健的対応 個別的配慮を要する子どもへの対応	(学修内容) てんかん、アレルギー、気管支喘息、心疾患、腎疾患、内分泌疾患をもつ子どもへの対応、障害のある子どもへの対応について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P112～120を読んでおく。	
第8回	子どもの体調不良に対する適切な対応	(学修内容) 発熱(けいれん)、咳、腹痛、便秘、発疹、頭痛時の対処(観察、看護)について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P37～40、45～53を読んでおく。	
第9回	子どもの体調不良に対する適切な対応	(学修内容) 嘔吐、下痢時の対処(観察、看護)について理解し、吐物、下痢便の処理方法を学び実践する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P37～53を読んでおく。	
第10回	子どものケガの応急処置	(学修内容) ショック、出血、外傷、熱傷、打撲、突き指、捻挫、骨折、鼻血時の観察と応急処置について学び、患部の処置、止血、固定法を実施する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P54～58、64～66を読んでおく。	
第11回	子どもの救急処置	(学修内容) 熱中症、異物の誤飲、目・耳・鼻の異物混入時の応急処置と、乳幼児の心肺蘇生法について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P58～64、67～78を読んでおく。	
第12回	子どもの感染症対策	(学修内容) 感染症の予防(予防接種)、発症時の対応について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P79～88を読んでおく。 感染対策ガイドライン、学校保健安全法を調べておく。	
第13回	子どもの健康と安全のための管理体制と保健活動の連携、協働	(学修内容) 保健活動の実際と職員間、他職種との連携、共働について学ぶ。保育における保健活動の計画作成、活用、記録、評価について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P121～127、142～144、144～152を読んでおく。	
第14回	母子保健と地域での保健活動	(学修内容) 母子保健対策、子ども子育て支援、虐待防止対策をはじめとした子どもの保健活動における家庭、専門機関、地域の連携について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P127～139、141、154～156を読んでおく。健やか親子21について調べておく。	
第15回	保育者の健康管理 授業のまとめと試験について	(学修内容) 保育者自身の健康管理と生活習慣について考える。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 授業全体の復習とまとめをしておく。	

授 業 名	子どもの保健 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CE1203
英 文 名	Infant Health			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	福井 百合子			対 象 学 生	幼児教育1AB・1CD				
授業の概要	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義、そして子どもの身体発育や生理機能、運動機能、精神機能の発達と保健、子どもの疾病と保育について理解する。さらに、子どもの精神保健、保育における環境及び衛生管理、安全管理、子どもの心身の健康管理の実施体制について理解する。								
学 修 成 果 達 成 目 標	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 子どもの身体発育や生理機能の発達、運動機能、精神機能の発達と保健について理解する。 子どもの疾病と、その予防および適切な対応について理解する。 子どもの精神保健とその課題などについて理解する。 保育における環境および衛生管理、安全管理について理解する。 施設などにおける子どもの心身の健康、安全体制について理解する。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ()			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	中根淳子/佐藤直子編著、北川好郎/濱口典子著 「子どもの保健」 ななみ書房								
参 考 書	大澤眞木子監修、小國美也子編著 「子どもの保健～健康と安全～」 日本小児医事出版社 兼松百合?・荒? 暁? ・? 室俊? 編著、? 泉志保美・前? はる? ・? ? 由美? ・ 須藤佐知? ・? 檀芳江・本間美知? 著 「子どもの保健・実習 -すこやかな育ちをサポートするために-」 同文書院								
課題に対するフィードバックの方法	小テストを実施し、次回に回答の解説する。								
留 意 事 項	子どもの健康については小児医学や保健知識が重要になるので、事前に教科書等読んでおくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：産科病棟にて助産師、小児科外来にて看護師としての勤務経験。								

授 業 名	子どもの保健 a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス 子どもの健康と保健の意義	(学修内容) 授業の目的・内容・評価等についてのガイダンス 健康の概念と健康指標、地域保健(虐待について)を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) シラバス、教科書P9～18、103を読んでおく。 「健やか親子21」について調べておく。
第2回	子どもの発育・発達と保健	(学修内容) ヒトの成り立ちと身体発育の経過、身体計測、身体発育の評価について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P19～29を読んでおく。 体格指標、発育曲線について調べておく。
第3回	子どもの生理機能の発達と保健 形態と特徴	(学修内容) 乳幼児の生理機能(呼吸、循環、血液、免疫、消化機能、排泄機能)について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P30～34を読んでおく。 胎児、乳幼児の生理機能について大人との違いを考えておく。
第4回	子どもの生理機能の発達と保健 恒常性	(学修内容) 水分代謝、体温調節、内分泌機能、睡眠について理解する。乳児の特徴から保育時に注意(配慮)すべき点をグループワークで出し合う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P34～36を読んでおく。
第5回	子どもの運動機能、感覚機能の発達	(学修内容) 乳幼児の運動機能、感覚機能、神経機能の発達について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P27～29、P36～40を読んでおく。 年齢毎の運動機能の発達段階と乳幼児の原始反射について調べておく
第6回	子どもの生活習慣	(学修内容) 子どもの成長過程に合わせた生活リズム、食習慣、排泄、清潔習慣について、乳汁栄養の種類と特徴、離乳食について学び理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P41～58、102～104を読んでおく。 食事バランスガイドについて調べておく。
第7回	子どもの精神機能の発達	(学修内容) 子どもの心の健康と精神機能、言語の発達、情緒の発達について生活環境、精神保健、児童虐待、発達障害について学び理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 乳幼児の精神機能の発達について調べておく。
第8回	子どもの健康状態の把握	(学修内容) 子どもの健康状態の把握(観察)、健康診断などについて学び知識を得る。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P59～71を読んでおく。 カウプ指数、ローレル指数、BMIについて調べておく。
第9回	子どもの疾病 感染症とアレルギー、先天異常	(学修内容) 感染症(予防接種)、免疫(アレルギー)、先天異常とスクリーニングについて学び知識を得る。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P73～89を読んでおく。 保育所における感染対策ガイドライン、学校保健安全法を読んでおく。
第10回	子どもの疾病 消化器、呼吸器、循環器の疾病	(学修内容) 消化器、呼吸器、循環器の疾病について学び理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P89～91を読んでおく。
第11回	子どもの疾病 血液、神経、腎泌尿器、内分泌の疾患	(学修内容) 血液、腎・泌尿器、腎泌尿器の疾病について学び理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P91～94を読んでおく。
第12回	子どもの疾病 感覚器(皮膚、目、耳、口)の疾病と子どものケガ	(学修内容) 感覚器(皮膚、目、耳、口)、整形外科、内分泌の疾病について外傷、骨折について学び理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P94～99を読んでおく。
第13回	子どもの心の健康と精神保健	(学修内容) 心の健康とその課題(家族関係、社会)、発達障害、児童虐待、いじめについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 第7回の授業内容の復習をしておく。 教科書P114～116を読んでおく。
第14回	保育環境と衛生管理	(学修内容) 保育環境と衛生管理、乳幼児突然死やベットの感染について法規や指針、基準などを参照しながら学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P36、99、102～114を読んでおく。子どもに多い事故について調べておく。学校保健安全法を読み出席停止の感染症をまとめておく。
第15回	子どもを取り巻く環境と保健活動 母子保健の役割、母子保健対策 授業のまとめと筆記試験について	(学修内容) ネットワーク(職員間の連携、家族との連携、地域連携、児童相談所)について、母子保健対策と保育について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P101～116を読んでおく。 授業全体の教科書・配布資料の全ての確認・見直しをしておく。

授 業 名	子ども家庭福祉 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CE1204
英 文 名	Child Welfare			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	山川 宏和			対 象 学 生	幼児教育1AB・1CD				
授業の概要	保育士は、保育所のみならず、児童福祉施設全般で働く社会福祉専門職である。そのため、保育士には、少子化・保育・虐待など児童問題について 現代の子どもの生活について 諸外国の児童福祉について 児童福祉の法制度について学ぶことが必須となる。教科書を用いて統計的に理解し、配布プリントで重要点を整理し、映像素材を視聴して、実践の様子を理解する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 社会問題のひとつである児童問題と児童福祉の関係が理解できる。 2) 保育士に求められる福祉援助職としての働きが理解できる。 3) 児童福祉の制度が、日本と諸外国ではどのように相違があるか理解できる。 4) 児童福祉の法制度の対象とサービス内容が理解できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (64 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (36 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	芝野松次郎 宮野安治 新川泰弘 山川宏和 編著 「子ども家庭福祉入門」[ミネルヴァ書房]								
参 考 書	随時指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートは、採点してコメントを書いて返却する。								
留 意 事 項	出席とレポートを重視する。テストの参照資料が成績に大きく関係する。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	子ども家庭福祉 a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	超少子高齢化社会における子ども家庭福祉	(学修内容)人口減少社会、丙午、少子化対策 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第1章を参照しておく
第2回	子どもの権利擁護	(学修内容)コルチャック、子どもの権利条約について (事前事後学修課題の内容)(30分) 第4章を参照しておく
第3回	子ども家庭福祉の歴史	(学修内容)日本・欧米の子ども家庭福祉史 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第3章を参照しておく
第4回	子ども家庭福祉の実施機関	(学修内容)児童福祉六法、行政機関について (事前事後学修課題の内容)(30分) 第7章を参照しておく
第5回	児童福祉法について 1997、2001年の改正	(学修内容)児童福祉法改正について (事前事後学修課題の内容)(30分) 第5章を参照しておく
第6回	児童福祉法について 2004～2008年の改正	(学修内容)児童福祉法と児童虐待防止法について (事前事後学修課題の内容)(30分) 第5章を参照しておく
第7回	児童福祉法について 2012～2019年の改正	(学修内容)近年の児童福祉法改正について (事前事後学修課題の内容)(60分) 第5章を参照しておく
第8回	児童虐待について 身体的虐待・ネグレクト	(学修内容)児童虐待の定義と対策 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第10章を参照しておく
第9回	児童虐待について 心理的・性的虐待	(学修内容)児童虐待の定義と対策 (事前事後学修課題の内容)(60分) 第10章を参照しておく
第10回	児童福祉の専門職について	(学修内容)児童福祉に従事する専門職について (事前事後学修課題の内容)(60分) 第2章を参照しておく
第11回	保育支援と福祉について	(学修内容)日本と諸外国の保育政策・サービスについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 第6章を参照しておく
第12回	母子保健について	(学修内容)妊産婦死亡率や保健所、未熟児医療について (事前事後学修課題の内容)(30分) 第9章を参照しておく
第13回	社会的養護について	(学修内容)乳児院の実際について (事前事後学修課題の内容)(30分) 第8・10章を参照しておく
第14回	障がい児の福祉について	(学修内容)障がい児の現状と福祉サービスについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 第8・10章を参照しておく
第15回	ひとり親家庭の支援について	(学修内容)ひとり親家庭への福祉サービスについて (事前事後学修課題の内容)(30分) 第8・10章を参照しておく

授 業 名	社会福祉a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CE1205
英 文 名	Introduction to Social Welfare			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	野田 隆生			対 象 学 生	幼児教育1AB・CD				
授業の概要	<p>わたしたちが住んでいる地域では、乳幼児・子ども・青年・高齢者・障害者等さまざまな人が生活をしています。すべての人が「幸せだ」と実感できる社会であれば何も言うことはないのですが、ある日突然、当たり前を送ることができない現実に直面することがあります。そうなったら、どうすればいいのでしょうか？</p> <p>本講では、わたしたちの生活をおびやかすような「あっ、どうしよう!？」に対して、どのような支援体制が準備されているのかを理解し、そこから保育士を目指す専門職として必要な知識や価値観を見出していくことを目的としています。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1) 保育士が社会福祉専門職であることを理解できる。 2) 社会福祉の法的基盤や行政の仕組みについて説明することができる。 3) 社会問題を理解し、それに対して必要な社会資源を結びつけることができる。 4) 保育士としての資格を生かすことのできる社会福祉事業を知ることができる。 5) 生存権(生きる権利)について説明することができる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解						汎用的技能	
		態度・志向性						総合的な学習経験と創造的思考力	
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク	ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)	グループワーク I C T活用(自主学習支援)	プレゼンテーション					
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	橋本好市・宮田徹 編集『学ぶ・わかる・みえる 保育と社会福祉【第3版】』みらい 2019年4月1日 第3版第1刷発行								
参 考 書	流石智子著『日本の母子福祉 これからの母子家庭の幸せを考えるための本』あいり出版 2016年、糸井佐知子著『えっ7人の子ども?』女子パウロ会 2008年、曾和信一著『障がい者・児共生とは何か 「自立と共生」の福祉・教育・保育』ミネルヴァ書房 2007年、宮野誠保著『昔話にみる福祉 ひとつの試み』朝日新聞出版サービス 2001年、小倉襄二・浅野仁編『新版老後保障を学ぶ人のために』世界思想社 2006年								
課題に対するフィードバックの方法	視聴覚教材(ビデオ、DVD等)を使用した場合のリアクションペーパーの内容を踏まえ、次の授業冒頭にてコメントを行います。								
留 意 事 項	1) テキスト履修となるので、毎回の講義時には必ずテキストを持参するように。 2) ノートについては取り外しができるようルーズリーフが望ましい。 3) 視聴覚教材(ビデオ、DVD等)を使用する場合には、必ず小レポートを課すことになるので指定された様式にて期限までに提出すること。 4) 定期試験(筆記試験)については、予め出題の内容や持込みできる物について説明する。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	講義初回時に連絡をします。 基本的に研究室(1R-404)に在室していれば対応をします。また、急な質問等については学内g-mailを利用して下さい。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	社会福祉a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに ～なぜ「社会福祉」を学ぶのか?～	(学修内容) 1) 講義の進め方と成績評価の方法について 2) 「社会福祉」を学ぶ意味 (事前事後学修課題の内容)(15分) テキストを必ず購入すること。 ノートはルーズリーフが望ましい。
第2回	保育と社会福祉	(学修内容) 1) 少子・高齢社会について 2) 生活課題と社会福祉 3) 社会福祉の概念 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第1章ならびに第2章(pp.15-39)を読んでおくこと。
第3回	社会福祉のあゆみ	(学修内容) 1) 欧米の社会福祉 2) 日本の社会福祉 3) 戦後の社会福祉 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第3章(pp.41-54)を読んでおくこと。
第4回	生活を守る社会保障制度	(学修内容) 1) 社会保障とは 2) 個人の尊厳と生存権 3) 年金と医療と福祉 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第4章(pp.55-70)ならびに第15章(pp.205-220)を読んでおくこと。
第5回	社会福祉の法制度と行財政	(学修内容) 1) 福祉三法から福祉六法へ 2) 福祉行政の実施機関 3) 福祉計画と財源 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第5章ならびに第6章(pp.71-95)を読んでおくこと。
第6回	子どもと児童家庭福祉 ～子どもを取り巻く環境と諸問題～	(学修内容) 1) 子どもの権利保障 2) 子ども・子育てに関する制度の変遷 3) 子どもを取り巻く環境と諸問題 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第8章(pp.105-119)を読んでおくこと。
第7回	子どもと児童家庭福祉 ～子ども虐待の現状と課題～	(学修内容) 1) 子ども虐待の現状 2) 対応する行政機関 3) 社会的養護と家庭的養護 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容を復習し、テキスト第6章ならびに第8章を再度読んでおくこと。
第8回	障害と社会福祉 ～障害者・児福祉の変遷過程～	(学修内容) 1) 日本人の障害観 2) 障害者の権利とノーマライゼーション 3) 障害に関する制度の変遷過程 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第9章(pp.121-132)を読んでおくこと。
第9回	障害と社会福祉 ～障害のある子どもへの援助～	(学修内容) 1) 障害児の現状 2) 専門施設での援助 3) 関連する課題 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容を復習し、テキスト第8章ならびに第9章を読んでおくこと。
第10回	高齢者と社会福祉 ～高齢社会が抱える課題～	(学修内容) 1) 高齢者保健福祉の変遷過程とその課題 2) 介護保険制度の誕生 3) 地域包括ケアシステムの構築 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第10章(pp.133-144)を読んでおくこと。
第11回	高齢者と社会福祉 ～認知症の特性とその介護～	(学修内容) 1) 高齢者の疾病と障害 2) 認知症の特性と理解 3) 介護の現場では (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容を復習し、テキスト第6章ならびに第7章(pp.97-103)、 第10章を読んでおくこと。
第12回	社会福祉の専門職と倫理	(学修内容) 1) 社会福祉の専門職 2) 社会福祉に関連する専門職 3) 社会福祉専門職の倫理 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第12章(pp.157-174)を読んでおくこと。
第13回	地域で生きるということ ～介護と保育の連携～	(学修内容) 1) タテ割り行政からの脱却 2) 介護と保育の融合 3) 地域共生社会の実現に向けて (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第11章(pp.145-156)を読んでおくこと。
第14回	地域で生きるということ ～小規模施設と地域社会～	(学修内容) 1) 地域密着型施設の誕生 2) 世代間交流 3) ある施設の挑戦 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容を復習し、テキスト第11章を再度読んでおくこと。
第15回	まとめにかえて ～「生きる権利」と「社会福祉」～	(学修内容) 1) 全体のふりかえり 2) なぜ「社会福祉」を学ぶのか 3) 保育士と介護福祉士のこれから (事前事後学修課題の内容)(60分) ノートの整理とテキスト第16章(pp.221-226)を読んでおくこと。

授業名	日本国憲法 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	CE1206
英文名	The Constitution of Japan			開講時期	春・秋学期		必修選択	選択	
担当者	小松 郁夫			対象学生	幼児教育1AB・1CD				
授業の概要	<p>憲法とは如何なる法か、憲法に基づいて国家の組織はどのようなつくりで運用されているのか、また、国民にはどのような権利が保障され、義務があるのか。さらに、現行憲法には如何なる問題があるのか、などの諸点について、中学・高校以来の学習の深化を図る。また、選挙権を有する存在としての自覚を高め、現在、高まっている憲法の改正論議に着目をして、主体的に論点を理解し、深められるようにする。最近注目されている様々なテーマを取り上げ、授業中に仲間との議論を活用するなど、主体的で対話的な学びを取り入れていく。所属学科の特性を踏まえ、特に、教育との関連を重視した講義とする。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 憲法学(政治学)上の基本的な用語が理解できる。 2) 憲法が存在とその適切な運用が、私たちの生活の基盤をなしていることに気付く。 3) さまざまな憲法学説を学ぶことを通して、物事を多面的に捉えることができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点		知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (論理的思考力と根拠を提示しての判断力)	プレゼンテーション能力 (国語表現力)	課題発見・解決能力			
テキスト	『スタート憲法〔第3版〕』、吉田 仁美編(成文堂、2020年)。具体的な使用方法などは、参考文献も含めて初回に説明します。								
参考書	『憲法〔第六版〕』[岩波書店]、『憲法判例百選・〔第6版〕』[有斐閣]、『教養憲法 11章』[嵯峨野書院]、『憲法という希望』[講談社現代新書]、『憲法学読本〔第2版〕』[有斐閣]、『憲法論点教室』[日本評論社]、『憲法ガール』[法律文化社]、『憲法主義』[PHP研究所]、『マンガでわかる日本国憲法』[池田書店]ほか、授業中に適宜紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	毎回、予習した内容、その日の講義で学んだことなどに関連する小テストやコメントを求め、既習事項の確認と更なる興味・関心を持つように学習意欲の喚起を促す。その後のより深い学びへとつながるような振り返りを行う。								
留意事項	基本的には授業計画通りすすめるので、教科書の該当箇所を精読した後、授業に臨むことが必須である。ただし、受講生の理解の程度やテーマの難易度によっては、順番や時間配分を変更したり、学び直し等を行うことがある。								
オフィスアワー	質問・相談等は、担当授業終了後にも受け付けます。								
実践的教育									

授業名	日本国憲法 a・b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	法学入門(法とは何か、そして憲法とは?)	(学修内容) イントロダクション(講義の概要、評価などについて)。社会規範としての法、法の体系、憲法の意味などについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 本授業計画(シラバス)とテキストの目次、プロローグに目を通しておくこと。(30分)。
第2回	日本国憲法の成立過程を振り返る	(学修内容) 日本国憲法の成立過程を振り返りながら、最高法規としての憲法、憲法の意義及び目的について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 「憲法とは何か」を高等学校時代までの学びを思い出し、「日本国憲法の成立」を精読しておく。(30分)。
第3回	人権とは何かを考える	(学修内容) 人権の観念、私人間効力をめぐる問題、公共の福祉などについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト「基本的人権総論」を精読しておく。基本的人権の重要性を考え、その概要を考える。(30分)。
第4回	人権は誰のもの?	(学修内容) 誰に人権は保障されるのか、外国人の人権、子どもの人権など人権の享有主体について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第2章を精読しておく。(30分)。
第5回	人権保障の現在(1) 包括的基本権、自己決定権、プライバシー	(学修内容) 憲法13条(包括的基本権)、新しい人権の観念(プライバシー、環境権など)、個人情報の保護などについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第3章を精読しておく。特に自己決定権やプライバシー保護の重要性を学ぶ。(30分)。
第6回	人権保障の現在(2) 法の下での平等	(学修内容) 男女平等などをめぐる問題を中心に、私たちの社会の中の「自由と平等」に関するテーマ、さまざまな差別などの現状と課題を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第4章を精読しておく。身近な出来事で、平等の視点から課題がないかを考えてみる。(30分)。
第7回	人権保障の現在(3) 精神的自由、思想・良心の自由、表現の自由、信教の自由	(学修内容) 表現の自由などの現代的意義について学ぶ。特に、インターネット社会における表現のあり方を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第5章から第7章を精読しておく。これらの章の「考えてみよう」の部分について自分なりの考えをまとめる。(30分)。
第8回	人権保障の現在(4) 経済的自由、財産権	(学修内容) 経済的自由と様々な規制のあり方について学ぶ。財産権の保障について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第8章を精読しておく。身近な場面で経済的な規制などを探してみ、その意義や課題を考えてくる。(30分)。
第9回	人権保障の現在(5) 社会権、特に教育を受ける権利	(学修内容) 教育を受ける権利を中心に社会権の保障について学ぶ。福祉国家と社会権の保障について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト第9章、第10章を精読しておく。特に受教育権、学習権概念の内容を学ぶ。(30分)。
第10回	憲法と教育関係法令	(学修内容) 教育基本法、学校教育法、地教行法、教育公務員特例法、その他、教育に関連する主要な法令と憲法上の規定について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に主要な法律を指示するので、法令集などで事前学習をしておくこと。(1時間)。
第11回	人権保障と権力分立	(学修内容) 人権保障とそのため制度的基盤や政党の役割について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト「統治機構総論」を精読しておく。政治的動向に興味・関心を持って、憲法との関連などを考える。(30分)。
第12回	民主政治のしくみ(1) 国会	(学修内容) 国会の地位や構成、国会の権能などについて学ぶ。国会の審議、特に予算編成と国家財政について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト第11章、第12章を精読しておく。コラム4の財政と租税について予習する。(30分)。
第13回	民主政治のしくみ(2) 内閣、行政、地方自治	(学修内容) 議院内閣制、行政の民主的統制、官僚制度、地方自治の概念、地方公共団体の機関と権能、住民自治の制度などについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト第13章を精読しておく。地方自治や地方分権の重要性を考え、コラム1の地方自治を予習する。(30分)。
第14回	民主政治のしくみ(3) 裁判所	(学修内容) 裁判所の役割、裁判員制度について学ぶ。違憲立法審査権を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第14章を精読しておく。判例を考察し、検事、弁護士、裁判官の立場から多面的な意見を構想してみる。(30分)。
第15回	授業のまとめ ~ 憲法改正論議と私たち ~	(学修内容) 15回の授業のまとめ。昨今の憲法改正論議の主要な論点を学び、改めて日本国憲法を学ぶ意味について考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「エピローグ」を精読する。憲法改正の是非、論点整理を行い、講義の内容を振り返りながらまとめる。(1時間)。

授 業 名	音楽の基礎理論			開 講 学 年	1回生	単 位 数		科 目 コ ー ド	CE1207
英 文 名	Basic Theory of Music			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	小川 隆昭			対 象 学 生	幼児教育1回生				
授業の概要	<p>保育現場で必要な音楽理論の基礎学習と並行しながら、初歩的なピアノ技術を身につける。 理論（楽典）については、グループに分かれ、問題を考察し合い、解決するまで互いに話し合う。また、ピアノについては、音楽の補助的役割を担っている。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 保育現場で使う音楽理論の基礎が理解できる。 2) グループワークによる理論の習得及び、発表によって自身の習得が確認できる。 3) 音楽理論を理解した上で、ピアノを弾くことによって正しく楽譜が読めるようになる。 4) 一人で新しい曲を弾くことが出来るための基礎的な能力を身につける。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (基本的な音楽技術)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	『ジュニアクラスの楽典問題集』（ドレミ楽譜出版社）森本琢朗・池田恭子 共著 『バイエルピアノ教則本』（音楽之友社）他 経験者は進度に応じた曲								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	音楽理論の課題について、毎回解答の解説を行う。								
留 意 事 項	音楽理論について、理解できるまで担当者に質問すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	週1回、曜日と時間は研究室前に掲示。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：・私立音楽院助手 ・おてつぎ子供奉仕団指導員歌唱指導</p>								

授業名	音楽の基礎理論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	音楽理論 ピアノ	(学修内容)線と間 ト音記号 音名 ヘ音記号 バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第2回	音楽理論 ピアノ	(学修内容)音符と休符 小節と縦線 拍子記号 バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第3回	音楽理論 ピアノ	(学修内容)譜表 オクターブ バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第4回	音楽理論 ピアノ	(学修内容)音符と休符 拍子とリズム バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第5回	音楽理論 ピアノ	(学修内容)強起と弱起 奏法を指示する記号 バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第6回	音楽理論 ピアノ	(学修内容)強弱を表す記号 シンコペーション バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第7回	音楽理論 ピアノ	(学修内容)複縦線と反復記号 連符 バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第8回	音楽理論 ピアノ	(学修内容)速度記号 装飾音符と装飾記号 バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第9回	音楽理論 ピアノ	(学修内容)奏法を指示する用語と記号 変化記号 バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く。 今回習ったピアノの復習。
第10回	音楽理論 ピアノ	(学修内容)幹音と派生音 バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第11回	音楽理論 ピアノ	(学修内容)音程(完全音と長音程、短音程) バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第12回	音楽理論 ピアノ	(学修内容)音程(幹音どうしの音程の数え方、派生音を含んだ音程の数え方) バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第13回	音楽理論 ピアノ	(学修内容)音階(長音階) バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(120分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第14回	音楽理論 ピアノ	(学修内容)音階(短音階) バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(120分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第15回	音楽理論 ピアノ	(学修内容)和音 バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(120分) 今回習ったピアノの復習

授 業 名	乳児保育 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CE1303
英 文 名	Infant Care			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	日比野 桂子			対 象 学 生	幼児教育1AB・1CD				
授業の概要	<p>保育所や認定こども園における乳児3歳未満児(0、1、2歳児)の保育に関する基礎的な理念や知識を理解、習得し、実際の保育場面で活用・探究できる実践力を身につける。</p> <p>1)乳児保育の概念と意義、乳児保育の基本や援助方法を理解する。</p> <p>2)発達段階の特徴を踏まえ、いのちを守る保育者の立場から、乳児を理解する視点を身につける。生活や遊び心の育ちの援助・方法の実際を学ぶ。</p> <p>3)保護者との連携により乳児を育てる保育者として、地域における子育て支援の実際を学ぶ。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1)乳児期(0、1、2歳児)の理論や基礎的な知識・技術を理解し実践できる。</p> <p>2)乳児期の発育・発達について理解し、年齢に応じた援助、健康管理、事故防止などの視点を説明できる。</p> <p>3)保護者支援の重要性を理解し、その対応や配慮事項について簡潔に説明できる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テ キ ス ト	厚生労働省編『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』平成29年3月								
参 考 書	授業中、適宜、紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	受講生は、毎回、「振り返り用紙」を提出する。担当者が点検し、各自の「学びの履歴」を確認する。担当者は、適宜、添削・助言等をする。								
留 意 事 項	日常生活の中で、「乳児」を観察する積極的な意識を持つておくこと。乳児の理解を助けるためにDVDを視聴することにより、保育者としての資質や実践力を深めてほしい。なお、シラバスの順番については、受講者への十分な説明の上、受講者の興味・関心・理解等により、柔軟に対応することがある。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：西七条保育園 保育士として勤務 南山城学園 小規模保育園3園 園長として勤務</p>								

授業名	乳児保育 a・b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	乳児および乳児保育の概念	(学修内容) 乳児の概念について理解することができる。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 予習として、シラバスを読んで内容、評価方法を確認しておく。
第2回	乳児保育の基本、保育制度改革の動向	(学修内容) 乳児期の法的制度および乳児保育の歴史、基本について理解する。 「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 (事前事後学修課題の内容)(60分) あらかじめ「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を読んで、「養護」の要点をまとめておく。
第3回	乳児の発達と保育の方法 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」の要点(0歳児)	(学修内容) 保育者として発達段階、発達過程を理解して、受容的・応答的・共感的なかわりの重要性を自覚できる。0歳児の発達について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」を読んでおく *0歳児の発達についての事前配布のプリントを読み込む
第4回	乳児の発達と保育の方法 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」の要点(1歳児)	(学修内容) 応答的・共感的なかわりの重要性を自覚できる。1歳児の発達の要点を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) *1歳児の発達についての事前配布プリントを読み込み年齢別の特徴を捉え書き出す。
第5回	乳児の発達と保育の方法 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」の要点(2歳児)(3歳未満児から3歳児への移行)	(学修内容) 乳児の発達についての道すじを理解し見通しを持った保育援助を理解する。DVD視聴しながら、乳児の実際について映像を通して理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、乳児保育について三つの資質・能力について、「生きる力」の基礎との関連性を自分の言葉でまとめる。
第6回	乳児の発達と保育の方法 乳児の心の発達(自我の誕生と拡大)	(学修内容) 「探索・探究要求」と「同調・共感要求」・「三項関係の成立」心の育ち自我の拡大と第二の自我の誕生の筋みちを理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 乳児保育の中で自我の拡大と、第二の自我の誕生への保育の大切なかわりを具体例をもとにグループワークで理解を深める。
第7回	乳児保育の方法 五感を育む遊びやおもちゃ 乳児の年齢に合った絵本の読み聞かせワーク	(学修内容) 乳児の年齢に合った絵本について理解する。ねらい(テーマ)を明確にし読み聞かせのポイントを見つけることができる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に実際に個々が絵本を選び、読み聞かせを行いグループ内でプレゼンテーションする。
第8回	乳児保育の方法 五感を育む遊びやおもちゃ おもちゃづくりワーク	(学修内容) 乳児にとっての生活や遊びについて理解する。安全・安心・快適なおもちゃを考案する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) あらかじめ、五感を育成するおもちゃづくりの準備物を持参する。
第9回	中間まとめ(小テスト)	(学修内容) 発達の諸相を理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、これまでのプリントを読んで要点をまとめておく。
第10回	乳児期の保育の実際 プレゼンテーション	(学修内容) 乳児期の保育の実際を知り、テーマを決めてグループでプレゼンテーションをする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、課題プリントを完成して来る。
第11回	乳児期の保育の実際 指導計画の書き方を学ぶワーク	(学修内容) 乳児期の保育課程・指導計画の必要性と考え方を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 【第1回レポート提出】 乳児保育について「発達」の視点でとらえる際の要点をまとめる。
第12回	乳児期の保育の実際 認定こども園・保育所での保育における「教育的意図」	(学修内容) 教育者として「教育的意図」を自覚し、専門性の資質向上の視点を身につける。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」の子育て支援の部分を読んでまとめておく。
第13回	乳児期の保育の実際 乳児の健康管理と安全への配慮	(学修内容) 保育室の安全管理、健康管理(SIDSの理解)などリスクマネジメントについての理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、配布プリントを読んで要点をまとめておく。
第14回	まとめ(小テスト) プレゼンテーション	(学修内容) 乳児期の保育の実際と配慮すべき事項を理解し、3分間のプレゼンテーションができる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) これまでの配布物を振り返り、乳児期の発達の課題をまとめ、プレゼンテーションの練習をする。
第15回	これまでの授業をふりかえり、次につながる保育者としての課題を明確にする。	(学修内容) いのちを守る保育者として、安心・安全・快適にかかわるための課題を明確にする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) これまでの配布プリントを読み、キーワードを中心に要点を確認する。

授 業 名	音楽 (ピアノと歌) a・b・c・d			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	CE1401
英 文 名	Music			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	坂口 みゆき・小川 隆昭・加藤 雅子・阿久津 啓・小鍛治 弘美・権田 志帆子・北村 陽子・水谷 佳代子・今井 順子・永峯 翠子・千田 浩美・永松 圭子・高科 絵美代・松村 佳奈・内藤 規子・後藤 由美子			対 象 学 生	幼児教育1A・1B・1C・1D				
授業の概要	幼稚園教諭及び保育士に求められる音楽の基礎力を身につけるため、ピアノ及び子どものうたの弾き歌いレッスン(個別指導)と、子どもの歌等の歌唱指導(音楽専門教員による集団指導)を行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 楽譜を正確に読むことができる 2) 基礎的なピアノ演奏技術を習得し、『バイエルピアノ教則本』96番以上の曲を弾くことができる 3) 基本的な歌唱法を習得し、『子どものうた』を大きな声で正確に歌うことができる								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (音楽的基礎能力)	プレゼンテーション能力 (演奏能力)	課題発見・解決能力				
テ キ ス ト	『バイエルピアノ教則本』(音楽之友社)他、個々の経験や進度に応じて随時指定する。 『子どものうた』(京都華頂大学・華頂短期大学音楽研究室発行)								
参 考 書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	毎回練習してきた曲について個別指導を行い、口頭で助言・指導を行う。								
留 意 事 項	『バイエルピアノ教則本』と『子どものうた』の弾き歌いは、レッスンのステップ表(1回目の授業で配布)に従ってレッスンを進める。授業期間内にステップ9(全15ステップ)まで終了しなければ、定期試験を受けることができない。授業に出席するだけでなく、毎日のピアノの練習が必須である。 音楽療法士(2種)資格の取得を目指す学生は、1回生終了時に音楽 を必ず修了する必要がありますので留意してください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	坂口(週1回 曜日と時間は研究室前に掲示)小川(週1回 曜日と時間は研究室前に掲示) 坂口・小川以外の教員(担当授業終了後に実施) *坂口・小川以外の教員のレッスンを受ける学生は、坂口・小川のオフィスアワーも利用してください。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など: おてつぎ子供奉仕団指導員歌唱指導、英国における児童及び家庭支援を行う公的施設等で音楽療法士、音楽教室、ピアノ講師、小学校・中学校・高等学校音楽科非常勤講師、ピアニストとして国内・海外のコンサートに出演等の経歴を持つ教員が担当								

授 業 名	音楽（ピアノと歌）a・b・c・d	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）レッスンの進め方と注意事項等の説明・担当教員の紹介・各自のピアノレッスン曲の決定 （事前事後学修課題の内容）（60分） 小中高等学校の音楽の授業で学んだ基本的な音楽理論を復習しておく（各レッスン担当者が口頭で理解度を確認する）。
第2回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]腹式呼吸と発声法・手遊び歌	（学修内容）[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]腹式呼吸の習得と発声法・手遊び歌「キャベツ」遊び歌「大きな栗の木の下で」 （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける曲を練習する（1日20分～30分以上）
第3回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]腹式呼吸と発声法・手遊び歌と季節の歌	（学修内容）[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]腹式呼吸と発声法・手遊び歌「パンダ・うさぎ・コアラ」季節の歌「こいのぼり」 （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける曲を練習する（1日20分～30分以上） 宿題：音楽理論のプリント 音の高さ
第4回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]腹式呼吸と発声法・輪唱	（学修内容）[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]腹式呼吸の習得と発声法・輪唱「かえるの合唱」「一年中のうた」 （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける曲を練習する（1日20分～30分以上） 宿題：音楽理論のプリント 大譜表
第5回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]輪唱（小グループ活動）	（学修内容）[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]輪唱「一年中のうた」（小グループ活動） （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける曲を練習する（1日20分～30分以上） 宿題：音楽理論のプリント 音名と変化記号
第6回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]輪唱のグループ発表（小テスト）	（学修内容）[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]輪唱「一年中のうた」のグループ発表 （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける曲を練習する（1日20分～30分以上）
第7回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]仏教聖歌・付点とシンコペーションのリズムの練習	（学修内容）[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]仏教聖歌・付点とシンコペーションのリズム「おべんとう」「おつかいありさん」 （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける曲を練習する（1日20分～30分以上） 宿題：音楽理論のプリント 変化記号
第8回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]仏教聖歌・付点とシンコペーションのリズムの練習	（学修内容）[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]仏教聖歌・付点とシンコペーションのリズム「こぶためきつねこ」「かたつむり」 （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける曲を練習する（1日20分～30分以上） 宿題：音楽理論のプリント 音符と休符
第9回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]仏教聖歌・付点とシンコペーションのリズムの練習	（学修内容）[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]仏教聖歌・付点とシンコペーションのリズム「いぬのおまわりさん」「アイアイ」 （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける曲を練習する（1日20分～30分以上） 宿題：音楽理論のプリント 音符
第10回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]仏教聖歌・付点とシンコペーションのリズムの練習	（学修内容）[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]仏教聖歌・付点とシンコペーションのリズム「いぬのおまわりさん」「アイアイ」 （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける曲を練習する（1日20分～30分以上）
第11回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]仏教聖歌・付点とシンコペーションのリズムの練習	（学修内容）[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]仏教聖歌・付点とシンコペーションのリズム「アンパンマンたいそう」 （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける曲を練習する（1日20分～30分以上）
第12回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]仏教聖歌・試験曲の発表と個人ボイスチェック	（学修内容）[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]仏教聖歌・試験曲の発表と個人ボイスチェック （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける曲を練習する（1日20分～30分以上）
第13回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]仏教聖歌・試験曲（個人ボイスチェック）	（学修内容）[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]仏教聖歌・試験曲の練習（個人ボイスチェック） （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける曲を練習する（1日20分～30分以上）
第14回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]仏教聖歌・試験曲（個人ボイスチェック）	（学修内容）[ピアノ]各自指定された試験曲の個別指導/[声楽]仏教聖歌・試験曲の練習（個人ボイスチェック） （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける試験曲を練習する（1日20分～30分以上）
第15回	声楽のまとめ	（学修内容）「子どものうた」歌唱指導の総括と声楽小試験 （事前事後学修課題の内容）（140分） 声楽の試験曲を練習する（30分以上） ピアノの試験曲を練習する（1日20分～30分以上）

授 業 名	音楽 (ピアノと歌) a・b・c・d			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	CE1408
英 文 名	Music			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	坂口 みゆき・小川 隆昭・永峯 翠子・松村 佳奈・内藤 規子・小瀬治 弘美・権田 志帆子・後藤 由美子・服部 さやか・今井 順子・千田 浩美・高科 絵美代・加藤 雅子・北村 陽子・永松 圭子			対 象 学 生	幼児教育1A・1B・1C・1D				
授業の概要	音楽 で修得した音楽的感性と知識・技能を更に発展させ、幼稚園教諭及び保育士に求められる音楽の基礎力を高める。音楽 に引き続き、 ピアノ及び子どものうたの弾き歌いレッスン(個別指導)と、 子どもの歌の歌唱指導(声楽専門教員による集団指導)を行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 『ブルグミュラー25の練習曲』1番以上の曲を弾くことができる(『バイエルピアノ教則本』は終了する)。 2) 子どものうた・生活のうたの弾き歌いができる。 3) 保育実習・教育実習に必要な、基本的な歌唱法を身につけ、『子どものうた』を大きな声で表情豊かに歌うことができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲		プレゼンテーション能力 (音楽的能力)	課題発見・解決能力 (演奏能力)				
テ キ ス ト	『バイエルピアノ教則本』バイエル著(音楽之友社)他、個々の経験や進度に応じて随時指定する。 『子どものうた』(京都華頂大学・華頂短期大学発行)								
参 考 書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	毎回練習してきた曲について個別指導を行う。								
留 意 事 項	『バイエルピアノ教則本』と『子どものうた』は、レッスンのステップ表(音楽 で配布)に従ってレッスンを進める。授業期間内にステップをすべて(全15ステップ)終了しなければ、定期試験を受けることができない。授業に出席するだけでなく、毎日のピアノの練習が必須である。 音楽療法士(2種)資格の取得を希望する学生は、必ず1回生のうちに音楽 を修了しなくてはならないので留意してください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	坂口(週1回 曜日と時間は研究室前に掲示)小川(週1回 曜日と時間は研究室前に掲示) 坂口・小川以外の教員(担当授業終了後に実施) *坂口・小川以外の教員のレッスンを受ける学生は、坂口・小川のオフィスアワーも利用してください。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など: おてつぎ子供奉仕団指導員歌唱指導、英国における児童及び家庭支援を行う公的施設等で音楽療法士、音楽教室、ピアノ講師、小学校・中学校・高等学校音楽科非常勤講師、ピアニストとして国内・海外のコンサートに出演等の経歴を持つ教員が担当								

授業名	音楽（ピアノと歌）a・b・c・d	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]仏教聖歌・発声の発展・秋の歌	(学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]仏教聖歌・『コンコーネ50番』よりNo.8・秋の歌「こおろぎ」「きくのはな」 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上)
第2回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]仏教聖歌・発声の発展・秋の歌	(学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]仏教聖歌・『コンコーネ50番』よりNo.8・秋の歌「きのこ」 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上)
第3回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]発声の発展・秋の歌	(学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]「コンコーネ50番」よりNo.11・秋の歌「まっかな秋」 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上)
第4回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]発声の発展・秋の歌	(学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]「コンコーネ50番」よりNo.11・秋の歌「やきいもグーチーパー」 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上) 宿題:音楽理論のプリント 拍子
第5回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]リズムの発展	(学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]リズムの発展「となりのトトロ」「小さな世界」 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上) 宿題:音楽理論のプリント シンコーペーション・アフタクト
第6回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]リズムの発展	(学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]リズムの発展「さんぽ」「小さな世界」 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上) 宿題:音楽理論のプリント 奏法
第7回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]リズムの発展	(学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]リズムの発展「うたえパンパン」「思い出のアルバム」 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上) 宿題:音楽理論のプリント 繰り返し記号
第8回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]リズム打ち	(学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]リズム打ち「思い出のアルバム」「ぞうさん」 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上)
第9回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]リズム打ち(小テスト)	(学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]リズム打ち「ぞうさん」(小テスト) (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上)
第10回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]リズム遊び(小グループ活動)	(学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]リズム遊び(カスタネット・鈴・タンバリン)「あわてんぼうのサンタクロース」 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上)
第11回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]リズム遊び(小グループ活動・発表)	(学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]リズム遊び(カスタネット・鈴・タンバリン)「あわてんぼうのサンタクロース」発表 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上)
第12回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]試験曲の発表と個人ボイスチェック	(学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]試験曲の発表と個人ボイスチェック (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上)
第13回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]試験曲(個人ボイスチェック)	(学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]試験曲の練習(個人ボイスチェック) (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上)
第14回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]試験曲(個人ボイスチェック)	(学修内容)[ピアノ]各自指定された試験曲の個別指導/[声楽]試験曲の練習(個人ボイスチェック) (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける試験曲を練習する(1日20分～30分以上)
第15回	声楽のまとめ	(学修内容)「子どものうた」歌唱指導の総括と声楽小試験 (事前事後学修課題の内容)(140分) 声楽の試験曲を練習する(30分以上) ピアノの試験曲を練習する(1日20分～30分以上)

授 業 名	形象音楽 a・b・c・d			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CE1402
英 文 名	Figurative Music			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	明山 娟美			対 象 学 生	幼児教育1A・1B・1C・1D				
授業の概要	<p>形象音楽とは音楽を形に表す意味で、インドのラーガ思想を参考に命名した科目である。1回生で履修する音楽の基礎技能の上に立って子どものうたの歌唱を中心に、その内容の具象化即ち、折り紙・手あそび・壁面飾り・あやとり等をもって、歌の内容のイメージを具体的に表現させ、創意工夫させ、歌の心をより深く浸透させ、イメージを形作る能力の養成を目指す。又、グループワークを取り入れながら授業を進める。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 子どものうたを正確に歌えることが出来る。 2) 手遊びのレパートリーや、折り紙の折り方を多く覚えることが出来る。 3) 子ども達に指導するスキルを高めることが出来る。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (イメージを形作る能力)	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	「子どものうた」華頂短大音楽研究室編 プリント カスタネット(リズム楽器)を使用する								
参 考 書	使用しない。								
課題に対する フィードバック の方法	提出された制作物はその都度コメントを返します。								
留 意 事 項	課題に積極的に取り組み、折り紙・手遊びのレパートリーを増やせるように努力すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後								
実践的教育									

授業名	形象音楽 a・b・c・d	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 歌唱・手遊び	(学修内容) 授業についての説明 子どものうた・手あそび (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを確認しておくこと
第2回	歌唱・手遊び・折り紙 チューリップ	(学修内容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回の復習をしておくこと
第3回	歌唱・手遊び・折り紙 こいのぼり	(学修内容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (事前事後学修課題の内容) (60分) 課題を仕上げる
第4回	歌唱・手遊び・折り紙 カーネーション	(学修内容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (事前事後学修課題の内容) (60分) 課題を仕上げる
第5回	歌唱・手遊び・折り紙 ユリ	(学修内容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (事前事後学修課題の内容) (60分) 課題を仕上げる
第6回	歌唱・手遊び・合奏	(学修内容) 基本的な楽器の使い方及び合奏 (事前事後学修課題の内容) (60分) 幼・保でよく使われる楽器について調べておく
第7回	歌唱・手遊び・製作 紙ひこうき	(学修内容) 子どものうたを中心に紙ひこうきを作る (事前事後学修課題の内容) (30分) 次回の授業の準備をする
第8回	歌唱・手遊び・折り紙 ネクタイ・シャツ	(学修内容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (事前事後学修課題の内容) (60分) 課題を仕上げる
第9回	歌唱・手遊び・グループワーク	(学修内容) 手遊びを作る (事前事後学修課題の内容) (60分) 子どものうたを一曲選び、理解を深めておく
第10回	歌唱・手遊び・グループワーク	(学修内容) 手遊びを作る (事前事後学修課題の内容) (60分) ディスカッションの内容をまとめておく
第11回	グループ発表・ディスカッション	(学修内容) グループで発表する (事前事後学修課題の内容) (60分) 練習をしておく
第12回	歌唱・手遊び・折り紙 あじさい	(学修内容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (事前事後学修課題の内容) (60分) 制作内容を考えておく
第13回	歌唱・手遊び・折り紙 あじさい	(学修内容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (事前事後学修課題の内容) (60分) 課題を仕上げる
第14回	歌唱・手遊び	(学修内容) 子どものうたを中心に手あそびをする (事前事後学修課題の内容) (60分) 課題を仕上げる
第15回	歌唱・手遊び・折り紙 あさがお	(学修内容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (事前事後学修課題の内容) (60分) 制作内容を考えておく

授業名	図画工作 a・b・c・d			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	CE1403
英文名	Arts and Crafts			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	山部 泰司・藤本 裕紀・服部 正志			対象学生	幼児教育1A・1B・1C・1D				
授業の概要	子どもの発達にとって大切な絵を描いたり、物をつくったりする子どもの造形表現を指導・支援するための図画工作の基礎的な技能や知識について学ぶとともに、制作を楽しみ、自分の中にある柔軟な発想や感性、造形力に気付くことのできる創作活動を実施する。また、制作について振り返り記録する技法作品集を各自が作成する。								
学修成果到達目標	1) 様々な表現の方法を、描いたり作ったりする体験を通して学ぶ。 2) 表現方法に自分の工夫を加えて自分らしい作品にする。 3) 制作した作品やその表現技法、作品の考察を、美しく分かりやすくまとめることができる。 4) 秋学期の「新装開店 子どもデパート」についての導入を行う。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (造形力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テキスト	「幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形材料」樋口一成編 萌文書林								
参考書	保育所保育指針、幼稚園教育要領の改訂についてのプリントを授業時に配布する。								
課題に対するフィードバックの方法	各課題の提出時、また、制作物をまとめたワークブックについて指導を行う。								
留意事項	制作活動に適した服装・持ち物等に留意すること。授業には筆記用具を持参すること。必携の画材、スケッチブックを購入すること。								
オフィスアワー	登録学生の時間割により決定し研究室前に掲示する。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：幼児の絵画教室などでの指導、造形ワークショップ、自らの造形活動での経験をもとに、子どもの造形について話をします。								

授 業 名		図画工作 a・b・c・d
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の概要説明、受講のための諸注意 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスに目を通してまとめておく 必携教材を持参すること
第2回	水彩絵の具による表現 にじみ絵など	(学修内容) 水彩絵の具の使い方や技法にじみ絵などの技法遊び (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の関連箇所114, 120, 121頁を読んでまとめておく
第3回	水彩絵の具による表現 ドリッピングほか	(学修内容) 水彩絵の具の技法 ドリッピング、デカルコマニーなどの技法遊び (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の関連箇所50, 51, 122, 123頁などを読んでまとめておく
第4回	水彩絵の具による表現・作品のまとめ	(学修内容) 制作した作品をスケッチブックにまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 学習した技法について調べてまとめておく
第5回	水彩絵の具による表現 スパッタリングなど	(学修内容) 水彩絵の具の技法 スパッタリング、スタンピングなどの技法遊び (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の関連箇所23頁などを読んでまとめておく
第6回	水彩絵の具・パスによる表現	(学修内容) 水彩絵の具・パスによる技法 パチックなど (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の関連箇所54, 55, 56, 57頁などを読んでまとめておく
第7回	水彩絵の具・パスによる表現・作品のまとめ	(学修内容) 制作した作品をスケッチブックにまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の関連箇所に目を通してまとめておく
第8回	パスによる表現	(学修内容) パスによる技法 フロッタージュ、スクラッチなど (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の関連箇所124, 125, 128, 129頁などを読んでまとめておく
第9回	パスによる表現・作品のまとめ	(学修内容) 制作した作品をスケッチブックにまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 学習した技法について調べてまとめておく
第10回	フロッタージュ(表面の凹凸を写す) カラーージュ(フロッタージュからの展開)	(学修内容) カラーージュの技法による個人の表現 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書130, 131頁を読んでまとめておく
第11回	いろいろな版画表現	(学修内容) 表現方法・活用・展開などについてまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の関連箇所150, 151頁などを読んでまとめておく
第12回	「新装開店 子どもデパート」の導入	(学修内容) 課題についての説明とグループ作り (事前事後学修課題の内容) (30分) 子どもの造形活動について考えながら、教科書を読んでまとめておく 前回までの作品をまとめてスケッチブックを提出する
第13回	「新装開店 子どもデパート」のアイデアづくり	(学修内容) 課題についてのグループ、ディスカッション。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の作品のアイデアを考えてまとめておく
第14回	「新装開店 子どもデパート」の製作計画	(学修内容) 「新装開店 子どもデパート」で必要な材料や技法について調べる (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の関連箇所を読んでまとめておく
第15回	まとめ・レポート	(学修内容) 授業全体の振り返り、造形表現の意味と大切さについて学ぶ。 作品、および、ワークブックの返却 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業で学んだ事を振り返ってまとめておく

授業名	図画工作 a・b・c・d			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	CE1409
英文名	Arts and Crafts			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	山部 泰司・藤本 裕紀・服部 正志			対象学生	幼児教育1A・1B・1C・1D				
授業の概要	この授業では、「子どもデパート」にむけてさまざまな材料による造形体験を持ち幼児期の造形活動の意味について理解を深める。又、子どもの生活環境や経験、発達に応じた素材や課題の選択、意欲をひき出す動機付けや声かけ、用具の扱い方や環境の整備などについての理解を深める。「子どもデパート」の取り組みでは、グループワーク、ディスカッションを通して表現、発表の方法を工夫し、教員と学生、学生同士、また、子どもの視点による多方向の学びと主体的な学修を生み出す。また、後半の授業では工作、立体的表現、また、保育の場でよく使われる造形材料などについて学ぶ。								
学修成果到達目標	1) 子どもの表現に関心を持ちながら、図画工作についての知識と技術を学習する。 2) 子どもが造形表現によって伝えたい内容を理解できる柔軟な感性を養う。 3) 子どもの発達と造形表現について理解して活動の方法や題材を計画する力を身につける。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (造形力)	プレゼンテーション能力 (表現力)		課題発見・解決能力 (表現力)		
テキスト	「幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形材料」樋口一成編 萌文書林(1回生春学期購入のものを使用)								
参考書	プリント等で配布する								
課題に対するフィードバックの方法	「子どもデパート」についてのまとめレポート、自己評価チェック票による学修内容の到達度を知る								
留意事項	第1回から7回の授業は、チームによるグループワーク、創作活動になります。 子どもとの関わりや造形活動にふさわしい服装や態度、言葉遣いを心がけること。 「子どもデパート」の発表において子どもとの関わりの機会を持ちます。								
オフィスアワー	登録学生の時間割により決定し研究室前に掲示する。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：幼児の絵画教室などでの指導、造形ワークショップ、自らの造形活動での経験をもとに、子どもの造形について話をします。								

授業名	図画工作 a・b・c・d	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	子どもデパート	(学修内容) 子どもデパートのための課題の説明 春学期のディスカッションの内容を振り返り、グループにより計画する (事前事後学修課題の内容)(30分) 春学期のさまざまな技法の学習を復習してまとめておく 教科書24～29頁を読んでまとめておく。
第2回	子どもデパート	(学修内容) 課題についてのグループでの相談する 具体的な制作物やプランについて話し、工夫する (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントを読んでまとめておく 教科書30～41頁を読んでまとめておく。
第3回	子どもデパート	(学修内容) 材料について理解し、制作の分担や行程について把握し、話し合う (事前事後学修課題の内容)(30分) さまざまな素材を探してまとめておく 教科書42～47頁を読んでまとめておく。
第4回	子どもデパート	(学修内容) 子どもを想定して展示の環境構成について工夫する (事前事後学修課題の内容)(30分) 子どもの動きと活動について考えてまとめておく
第5回	子どもデパート	(学修内容) 華頂祭での作品の準備と展示の素材を完成させる (事前事後学修課題の内容)(30分) 展示作業などの予定を立てまとめておく
第6回	子どもデパートの発表	(学修内容) グループでの制作をもとに子どもと関わり、子どもを理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 子どもの発達について調べまとめておく 教科書106～107頁を読んでまとめておく。
第7回	子どもデパートのまとめと考察	(学修内容) 課題が達成できたか。レポートと考察をおこなう (事前事後学修課題の内容)(30分) 自らの取り組みについて考えてまとめておく
第8回	指絵の具をつくる	(学修内容) 指絵の具について学び、指絵の具をつかって表現する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト112,151頁を読んでまとめておく
第9回	小麦粉粘土をつくる	(学修内容) 小麦粉粘土の制作と遊び 子どもと粘土の出会いについて考えて話し合う (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト158～163頁を読んでまとめておく
第10回	張り子の制作 1	(学修内容) かたちをつくり、和紙を貼り込む (事前事後学修課題の内容)(30分) つくりたい作品のアイデアを考えてまとめておく
第11回	張り子の制作 2	(学修内容) 彩色とニス塗り はりこを完成させる (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の内容を完成させておく
第12回	マーブリング紙の制作	(学修内容) マーブリング紙をつくる 色彩の美しさや偶然にできるかたちの面白さに気づく (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト126,127頁を読んでまとめておく
第13回	マーブリング紙の活用	(学修内容) 制作したマーブリング紙で何かをつくる 作品を記録して提出する (事前事後学修課題の内容)(30分) アイデアを考えてまとめておく
第14回	スライムをつくる	(学修内容) スライムの制作と遊びへの展開 スライムと子どもの活動について考える (事前事後学修課題の内容)(30分) スライムについて調べその技法をまとめておく
第15回	まとめ	(学修内容) 秋学期の授業を振り返り、レポートと講評において、自ら到達した内容について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 自らの活動について考えてまとめておく 教科書207～213頁を読んでまとめておく。

授 業 名	子どもと運動 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	CE1410
英 文 名	Infant Physical Education			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	佐東 恒子			対 象 学 生	幼児教育1A・1B				
授業の概要	<p>幼児期は生涯にわたる健康の基礎をつくる時期であり、子どもの発達に適した運動経験を積んでいく必要がある。運動遊びの実践を通して、遊びの中で体を動かす楽しさを体験しながら、それらの遊びの特性について理解を深める。子どもの発育・発達を視野に入れながら、多様な運動遊びの指導方法や援助について学び、運動遊びの重要性を理解する。保育の現場で、子どもたちにどのように声をかければ、子どもたちのやる気を引き出せるかを考える授業でもある。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1) 保育の現場で運動遊びを実践する時に、理解しておかなければならない理論と実践を学ぶことで、運動遊びの指導ができる。 2) 子どもが楽しいと思う運動遊びの指導や、仲間と一緒に体を動かすことの楽しさを教えることができる。 3) 子どもの発育・発達を理解し集団遊びの指導ができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テ キ ス ト	『新・体育あそびアラカルト』 西村誠・山口孝治・榎岡義明編著								
参 考 書	『幼児体育 基礎理論と指導の方法』 前橋明編著 樹村房 『幼児の運動遊び』 菊池秀範・石井美晴編著(相川書房) 『0～5歳児の運動遊び指導百科』 前橋明著(ひかりにくに株式会社)								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートは、コメントを付けて返却する。 実技については、その都度コメントをする。								
留 意 事 項	保育者として現場に立つ時の事を考えて、積極的に運動遊びに取り組んでもらいたい。 毎回の学習内容・課題で提示される内容について、事前に調べておくこと。								
オ フ ィ ス ア フ ァ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：復活幼稚園・向陽幼稚園・ひかり幼稚園・篠村幼稚園(運動遊びの指導講師) 奈良教育大学附属小学校(非常勤講師)								

授 業 名	子どもと運動 a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の目的や、授業の進め方について説明。 子どもの運動遊びの必要性について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業内容を、レポートにまとめる。
第2回	基本の運動	(学修内容) 歩く・走るの違いについて知る。歩く・走る・ 跳ぶの動きから、いろいろな遊びに発展させる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 基本の運動にはどのような運動があるかを調べ、ノートにまとめる。
第3回	リズム運動	(学修内容) いろいろなリズムに反応して動いてみる。(反応遊び) 2拍子～4拍子の リズム遊び。 (事前事後学修課題の内容) (60分) どんなリズムが有るのか考え、ノートにまとめる。
第4回	リズムダンス	(学修内容) 楽しくリズムに合わせて体を動かし、表現力を身につける。子どもが楽 しめるリズムダンス。 (事前事後学修課題の内容) (80分) 幼児の好きな曲を選曲し、簡単な動きを考え、ノートにまとめて提出す る。
第5回	ボール遊び	(学修内容) ボールの特性を知る。つく・蹴る・ころがす・投げる・受ける・など の遊びを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 少人数で行うボール遊びを考え、ノートにまとめる。
第6回	ボールでゲーム遊び	(学修内容) 多人数でのボール遊び。いろいろなゲーム遊びを体験し、子ども達に楽し いゲーム遊びを提供出来るようにする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 子どものころに遊んだゲーム遊びを思い出し、ノートにまとめる。
第7回	フープ遊び	(学修内容) フープの特性を知り、まわす・転がす・くぐる・投げる・跳ぶ遊びを行 う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 色々なフープ遊びを考え、ノートにまとめて提出する。
第8回	フープでゲーム遊び	(学修内容) グループでのフープ遊びを行う。グループで競争ゲームを行う。協力す る事を経験する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) いろいろなゲーム遊びを考え、ノートにまとめる。
第9回	マット遊び	(学修内容) 床を利用しているような動きを行う。(床となかよし這い這いで進む、動 物遊び) (事前事後学修課題の内容) (60分) いろいろな動物のうごきを考え、ノートにまとめる。
第10回	マット遊びの補助	(学修内容) マット遊びの注意点について説明。前転・後転側転遊びの補助の方法を 学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 補助で大事な事は何かを考え、ノートにまとめる。
第11回	体操をつくる	(学修内容) 体操の基本的な考え方を学び、グループで体操をつくる。幼児の年齢に 合った体操を考える。グループディスカッション。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 子どもの年齢に合った体操を考え、レポートにまとめて提出する。
第12回	体操をつくる 曲を選択する	(学修内容) 体操の動きを見直し、より良い体操に仕上げる。グループディスカッ ション。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 体操の動きを変えた部分を書き、ノートにまとめる。
第13回	体操の発表	(学修内容) 発表した体操の評価をする。評価表を配付する。各自責任を持って評価 をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 体操のグループの評価をノートにまとめる。
第14回	パラバルーン遊び	(学修内容) パラバルーンの扱い方を知る。みんなと協力して行う遊びである事を知 る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) パラバルーンの遊びを調べて、ノートにまとめる。
第15回	まとめ	(学修内容) 授業全体の振り返りを行い、学びや課題について話し合う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 運動遊びの重要性を、レポートにまとめて提出する。

授 業 名	子どもと運動 c・d			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CE1410
英 文 名	Infant Physical Education			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	眞崎 雅子			対 象 学 生	幼児教育1C・1D				
授業の概要	<p>幼児期は生涯にわたる健康の基礎をつくる時期であり、子どもの発達に適した運動経験を積む必要がある。運動遊びの実践を通して、遊びの中で体を動かす楽しさを体験し、それらの遊びの特性について理解を深める。子どもの発育・発達を視野に入れながら、多様な運動遊びの指導や援助について学習する。理解を深めるために、適宜グループワークを実施する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 保育現場で運動遊びを実践する時、理解しておかなければならない理論と実践を学び指導できるようにする。 2) 子どもが楽しいと思う、運動遊びの指導ができる保育者になることを目標とする。 3) 子どもの発育・発達を理解し集団遊びの指導が出来るようになることを目標とする。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	必要に応じてプリントを配布する								
参 考 書	<p>幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 保育内容「表現」からだで感じる・表す・伝える 株式会社杏林書院 元気な子どもを育てる幼児体育 保育出版社</p>								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートは、返却し解説します								
留 意 事 項	<p>積極的な受講姿勢を尊重する。自身の健康維持、安全管理に留意し、室内シューズ、運動着を着用すること。 次々と新しい教材を学ぶので、毎回各自で予習・復習をしっかりとすること。授業の進行具合により、学習項目が変更になる場合もある。</p>								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：ダンスインストラクターとして、子どもから大人を対象に活動。活動実績として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティーセンター及び幼稚園での保護者を対象にズンバ指導 ・小学校での土曜教育プログラムにおける「リズム遊び・からだの遊び」等の講師 ・教育委員会主催体育研究会の講師、親子体操の講師 								

授 業 名		子どもと運動 c・d	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の目的や、授業の進め方について説明。 子どもの運動遊びの必要性について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業内容を、ノートにまとめる。	
第2回	基本の運動	(学修内容) 幼児期に身に付けておきたい動き(歩く・走る・跳ぶなど)の動きから、いろいろな遊びに発展させる。 (事前事後学修課題の内容) (15分) 基本の運動にはどのような運動があるか考える。	
第3回	リズム運動	(学修内容) いろいろなリズムに反応して動いてみる。(反応遊び) 2拍子~4拍子のリズム遊びや、リズムを体で表現する (事前事後学修課題の内容) (15分) どんなリズムがあるのか考えておく。	
第4回	リズム遊び	(学修内容) リズムに合わせた様々な動きを通して身体機能を高める方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (15分) どんなリズムがあるのか考えておく。	
第5回	リズムダンス	(学修内容) 楽しくリズムに合わせて体を動かし、表現力を身につける。子供が楽しめるリズムダンスをつくる。 (事前事後学修課題の内容) (15分) 幼児の好きな曲を選曲しておく。発達年齢に応じた動きについて調べておく。	
第6回	ボール遊び	(学修内容) ボールの特性を知る。つく・ける・転がす・投げる・受けるなどの遊びを行う。 (事前事後学修課題の内容) (15分) 少人数のボール遊びを考えておく。	
第7回	ボールでゲーム遊び	(学修内容) 多人数でのボール遊び。いろいろなゲーム遊びを体験し、子どもたちに楽しいゲーム遊びを提供できるようにする。 (事前事後学修課題の内容) (15分) 子どもところに遊んだゲーム遊びを思い出しておく。	
第8回	フープ遊び	(学修内容) フープの特性を知り、まわす・転がす・くぐる・投げる・飛ばす遊びを行う。 (事前事後学修課題の内容) (15分) 色々なフープ遊びを考えておく。	
第9回	フープでゲーム遊び	(学修内容) グループでのフープ遊びを行う。グループで競争し、協力することの楽しさや意義を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (15分) 色々なゲーム遊びを考えておく。	
第10回	マット遊び	(学修内容) マットを利用した遊びを通して、いろいろな動きを行う。 (事前事後学修課題の内容) (15分) いろいろな動物の動きを考える。	
第11回	マット遊びの補助	(学修内容) マット遊びの注意点を学ぶ。前転・後転・側転遊びの補助の方法を身に付ける。 (事前事後学修課題の内容) (15分) 補助のポイントについて考える。	
第12回	子どもの体操を創作する(発達年齢に応じた動きの選択)	(学修内容) 体操の基本的な考え方を学び、グループで体操を創作する。幼児の発達年齢に合った体操を考える。 (事前事後学修課題の内容) (15分) 何歳児対象の体操を作るのかを決めて、曲や主な動き(モチーフ)を選んでおく。	
第13回	子どもの体操を創作する(曲に合った動きの選択)	(学修内容) 体操の動きを見直し、様々な動きを取り入れたリズムカルで効果的な体操に仕上げる。 (事前事後学修課題の内容) (15分) 子ども達が楽しめる効果的な体操の流れについて確認し、修正を加える	
第14回	創作体操の発表会(自己評価と他者評価)	(学修内容) 発表した体操の自己・他者評価をする。 (事前事後学修課題の内容) (15分) 創作した体操をお互いに評価し、グループ・個人で改善点などについてまとめる。	
第15回	まとめ	(学修内容) 授業全体の振り返りを行う。 (事前事後学修課題の内容) (15分) 幼児の運動遊びで大切なことをまとめておく。	

授 業 名	教育実習事前・事後指導 a			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CE1413
英 文 名	Pre and Post Guidance on Student Teaching (Kindergarten)			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	鈴木 えり子・浅田 瞳・名賀 亨・大野 照美・渋谷 郁子・小川 隆昭・東野 洋子			対 象 学 生	幼児教育1回生				
授業の概要	幼稚園教諭として責任ある行動がとれるように、教育実習の意義・目標・実際の計画や内容を学習し、望ましい教師になるための実践を積む。実習では講義や演習・実技で学んだ授業を総合的に実践することを確認する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 幼稚園現場で実際に保育し幼児理解を学び身に付けたことが実践できるように、総合的な力を身につけることができる。 2) 幼稚園見学・保育の観察記録・指導計画案の理解などを通して、幼稚園教育実習への意識と責任をもつことができる。 3) 幼稚園現場研修に参加して現場体験から学ぶことができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	「幼稚園教育要領解説」文部科学省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省 「教育課程・指導計画」京都教育大学附属幼稚園編								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	授業中に提出されたレポートに対して、コメントをつけて返却し授業内で解説を行う。								
留 意 事 項	教育実習に関する内容であるので無断欠席は認めない。 免許取得にかかわる関係科目の履修状況、出席態度によって実習開始できないこともある。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	各教員が授業内に伝えます。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		教育実習事前・事後指導 a	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	ガイダンス 幼稚園実習の意義と目的	(学修内容) 授業の進め方、受講の心構えを理解する。幼稚園教育の意義、目的、方法について理解する。幼児の歌から3曲程度、指導と解説をする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでくる。幼児の歌の弾き歌いを練習をする。	
第2回	幼稚園とは	(学修内容) 幼稚園教育の目的を理解する。幼児の歌から3曲程度、指導と解説をする。 (事前事後学修課題の内容) (50分) 幼稚園教育要領の総則を読み、幼稚園教育の目的を考える。幼児の歌の弾き歌いを練習をする。	
第3回	幼稚園教育の実際 2回生から体験を聴く会	(学修内容) 実習の体験を聴き自分たちの実習に見通しをもつ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 実習体験を聞いてまとめるとともに、各自の課題を明確にする。幼児の歌の弾き歌いを練習をする。	
第4回	自己紹介の実践	(学修内容) 実習を想定した自己紹介を実践し省察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自己紹介の発表準備を行う。幼児の歌の弾き歌いを練習をする。	
第5回	実技・教材研究 (制作と遊び)	(学修内容) 季節の行事に関連した制作と制作物を使った遊びを体験する。幼児の歌から3曲程度、指導と解説をする。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 制作に必要なものを確認して準備しておく。幼児の歌の弾き歌いを練習をする。	
第6回	幼稚園教諭の役割	(学修内容) 幼稚園の教師の役割について学ぶ。幼児の歌から3曲程度、指導と解説をする。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿をワークシートに書いておく。幼児の歌の弾き歌いを練習をする。	
第7回	実技・教材研究 (運動あそび)	(学修内容) 運動あそびの実践を通して、活動の導入・展開・まとめの指導計画の流れを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 保育活動において教師が活動前にしなければならない具体的なことをまとめてレポート提出する。幼児の歌の弾き歌いを練習をする。	
第8回	実習記録の書き方	(学修内容) 幼稚園実習記録の書き方について理解する。幼児の歌から3曲程度、指導と解説をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 実習記録の書き方を見直しておく。前半に取り上げた幼児の歌の弾き歌が2曲以上弾き歌いができるように練習する。	
第9回	幼稚園の見学について	(学修内容) 華頂幼稚園の概要 見学の注意事項の確認をする。幼児の歌から3曲程度、指導と解説をする。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 幼稚園の見学の目的、注意事項を確認する。幼児の歌の弾き歌いを練習をする。	
第10回	華頂短期大学附属幼稚園見学	(学修内容) 幼稚園へ見学に行き子どもを観察する。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 華頂幼稚園のしおりを読む。見学に必要なものを準備する。見学後に観察実習記録をまとめて提出する。幼児の歌の弾き歌いを練習をする。	
第11回	華頂幼稚園見学の振り返り	(学修内容) 幼稚園見学を振り返る。各クラスの保育の内容を知り理解を図る。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 見学・観察実習の内容を振り返り、華頂幼稚園の指導案を見直しておく。幼児の歌の弾き歌いを練習をする。	
第12回	実技・教材研究 (行事と保育)	(学修内容) 季節感を取り入れた制作を主とした保育の流れを体験する。幼児の歌から3曲程度、指導と解説をする。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 幼児が興味をもつ教材について調べる。幼児の歌の弾き歌いを練習をする。	
第13回	指導案とは(指導案を立てる際のポイント)	(学修内容) 指導案の構成、指導案を立てる際のポイントを理解する。幼児の歌から3曲程度、指導と解説をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業内の実践活動を振り返り、実践を振り返って指導計画を立案し提出する。幼児の歌の弾き歌いを練習をする。	
第14回	歌唱指導の方法	(学修内容) 実習での歌唱指導の方法について実践を通して理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業内で取り上げた幼児の歌の弾き歌いをできるように練習しておく。実習場で歌う歌や現場で弾く歌を想定しておく。	
第15回	幼稚園現場研修のまとめ 履修カルテの記入	(学修内容) 各現場研修の状況と体験について共通理解し、2回生の教育実習に向けて各自の課題を考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 1年間を振り返り、配布プリントをファイルを綴じて内容を見直しておく。	

授 業 名	保育の心理学 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CE1202
英 文 名	Child Care Psychology			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渋谷 郁子			対 象 学 生	幼児教育1AB・1CD				
授業の概要	<p>幼児期を中心とした子どもの諸領域における発達および学習の様相を知り、人との相互的にかかわりの重要性を理解して、教育実践に応用する力を身につけることを目的とする。授業の中では、人間の生涯にわたる発達のメカニズムと変化のプロセスについて学ぶ。また、その基盤となる乳幼児期の重要性を理解する。身体、知覚、感情、思考、社会性などの諸領域の発達とその連関について学び、子どもたちの発達を支える保育・教育実践について考察を行う。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 幼児期を中心とした子どもの発達および学習の過程について説明することができる。 2) 人との相互的関わりの重要性を理解し、保育・教育の実践に応用することができる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	教科書は指定しない。授業内で適宜資料を配布する。								
参 考 書	藤崎亜由子・羽野ゆつ子・渋谷郁子・網谷綾香(編著)「あなたと生きる発達心理学 子どもの世界を発見する保育のおもしろさを求めて」(2019年)ナカニシヤ出版								
課題に対するフィードバックの方法	講義内で実施する筆記試験や提出物を回収後、添削して返却するとともに解答を解説します。								
留 意 事 項	復習をしっかりと行い、基本的な心理用語や理論を覚えること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回授業時に伝える。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の業務経験など：教育、福祉機関でカウンセラーとして勤務								

授業名	保育の心理学 a・b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス：保育における発達心理学の意義と役割	(学修内容) 子ども理解のために発達心理学の知識が必要であることを知る。生涯発達の観点、発達の原理について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 自分自身の幼少期の保育経験や子どもとかわった経験について思い出す。
第2回	発達の規定因	(学修内容) 遺伝と環境が発達に及ぼす影響を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 自分の成長・発達過程を振り返り、特徴的なエピソードなどを家族から聞き取る。
第3回	身体的機能と運動機能の発達	(学修内容) 新生児期～幼児期における発達のメカニズム(法則性・順序性)や、身体の成長、粗大・微細運動の発達過程を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 自分の成長・発達過程を振り返り、特徴的なエピソードなどを家族から聞き取る。
第4回	知覚・認知の発達	(学修内容) 乳幼児期の感覚・知覚機能の発達および感覚・知覚機能と認知過程の関連を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 人間の思考の原点となる感覚・知覚機能について考えを整理する。
第5回	思考の発達	(学修内容) ピアジェの発達理論について学び、発達とともに思考が深まる過程を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 同化と調節について、具体例を考える。
第6回	言葉の発達	(学修内容) 人間の言葉の機能や特徴を理解し、言葉の発達過程を概観する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 自分の言葉の発達はどうか、家族から聞き取る。
第7回	社会情動的な発達	(学修内容) 社会情動的発達を理解し、情動を制御する力について感情の発達と合わせて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 自分の情動を制御する力はいつ頃から育ってきたか、自分の成長を振り返る。
第8回	仲間関係の発達	(学修内容) 仲間関係の変化を、遊びの形態の変化と共に理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 仲間関係を支える保育者の役割について考える。
第9回	他者理解と自己理解	(学修内容) 仲間関係の中で他者理解や自己理解が深まっていく過程を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 自分の友達との付き合い方を振り返る。
第10回	道徳性の発達	(学修内容) 善悪の理解や道徳的判断の発達を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 思いやりのある子どもを育てるにはどうすればよいか、保育者の関わり方を考える。
第11回	社会性の発達	(学修内容) 生涯にわたる人間の心理・社会的発達を概観する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 自分の家族について年表を作成する。
第12回	学習と発達	(学修内容) 条件づけや観察学習など、「学び」の基本的な原理を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) さまざまな学習の具体例を考える。
第13回	動機づけと子どもの学び	(学修内容) 学びの原動力になる「やる気」について、動機づけのメカニズムを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) やる気の出るとき、出ないときについて、自分自身の行動を振り返る。
第14回	子どもの主体性と学び	(学修内容) 子どもの主体的な学びを引き出す関わりについて考える。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 保育における足場作りの具体例を考える。
第15回	子どもの学びと評価	(学修内容) 発達の評価の目的と方法について知る。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 15回の授業を振り返り、自分の学びを評価する。

授 業 名	保育者論 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CE1209
英 文 名	Theory of Child Care Worker			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	林 静香			対 象 学 生	幼児教育1AB・1CD				
授業の概要	子どもを取り巻く環境が多様化するなかで、これからの時代に求められる保育者の役割や責務、保育者として守るべき倫理や制度的位置づけについて解説する。保育者の職務内容を具体的に理解することで、そのために必要な専門性を意識し、主体的に学ぶ姿勢を育む。インシデントやエピソード（事例）なども取り入れながら、授業をすすめる。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 保育者の役割を理解することができる。 2) 保育者の職務の全体像を理解することができる。 3) 保育者は専門性の向上が必要であることを理解することができる。 4) 事例検討などを通じて自主的に学ぶことができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	矢藤誠慈郎・天野珠路著 『新・保育基本シリーズ7 保育者論』中央法規出版 2019年 『幼稚園教育要領』 『保育所保育指針』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』								
参 考 書	授業中に随時紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	授業内で筆記試験（数回実施）、提出課題回収後、採点して返却します。その際に解答の解説もします。								
留 意 事 項	子どもに関する時事問題や保育に関する動きなど新聞や保育雑誌などから常に理解しておく。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に対応する（変更の場合は、研究室に日時を貼付する。）								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：大津市職員 保育士として勤務								

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	保育者の役割 子どもにとっての保育者の存在	(学修内容) 保育者の役割 子どもにとっての保育者の存在の重要性 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第1講を読んでくる	
第2回	保育者の倫理	(学修内容) 全国保育士会倫理綱領 保育者に必要な倫理(専門的倫理) (事前事後学修課題の内容) (30分) 第2講を読んでくる	
第3回	保育者の資格と責務	(学修内容) 保育士の職務 幼稚園教諭の職務 保育教諭の要件 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第3講を読んでくる	
第4回	養護と教育の関係	(学修内容) 保育における養護 保育における教育 養護と教育が一体となった保育 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第4講を読んでくる	
第5回	保育者の資質と能力	(学修内容) 保育者として求められる資質と能力 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第5講を読んでくる	
第6回	専門的な知識・技術と判断	(学修内容) 必要とされる専門的な知識や技術 事例から考える保育者の判断 (ディスカッション・プレゼンテーション) (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育士のキャリアアップ制度について調べてくる(30分) PCにて作成	
第7回	保育者の省察と保育の評価	(学修内容) 保育記録の意味 保育におけるPDCAサイクル 保育者の自己評価と園の自己評価 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第7講、第9講を読んでくる(30分)	
第8回	保育課程と保育の実際	(学修内容) 全体的な計画、指導計画の編成 子どもの実態に即した保育 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第8講を読んでくる(30分)	
第9回	指導計画の立案	(学修内容) 子どもの実態に即した指導計画の立案 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に配布した指導計画案を見ておく。	
第10回	保育者同士の連携・協働	(学修内容) 保育者連携、情報の共有、協働の実際 組織の理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第10講を読んでくる	
第11回	専門機関との連携	(学修内容) 医療・保健・福祉・療育・教育機関など専門機関との連携 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第11講を読んでくる	
第12回	保護者との連携 (ポスター作成)	(学修内容) 子育て支援の必要性 地域社会との連携 保幼小の連携・接続 (事前事後学修課題の内容) (30分) 保護者の現況を把握し、まとめてくる(800字程度) PCにて作成	
第13回	家庭的保育	(学修内容) 家庭的保育の特徴 家庭的保育の現状 安全対策と連携 教材研究(保育者の視点をもって) (事前事後学修課題の内容) (30分) 第13講を読んでくる	
第14回	保育者の専門性の向上	(学修内容) 保育者の成長発達 保育者の専門性 保育者の研修 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第14講、第15講を読んでくる	
第15回	まとめ	(学修内容) 授業の振り返り 保育者観の形成 (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの授業で学んだことを振り返っておく	

授 業 名	保育実習指導 a			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CE1406
英 文 名	Guidance on Child Care Training			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	高岡 理恵・林 静香・武田 康晴・日比野 桂子・安藤 正彦・野田 隆生・日永 よし子・友本 喜代子			対 象 学 生	幼児教育1回生				
授業の概要	この授業は、保育を担う豊かな感性をもつ保育士資格を取得するための必修科目であるため、保育士に必要な知識、技術、態度、職業倫理を学ぶ。 具体的には、実習事前準備として、実習目標や記録の意義の理解、保育実習の意義・目的の理解、実習施設の概要、実習施設における子どもの人権とプライバシーへの配慮、援助職に求められるコミュニケーション等について学ぶ。 実習施設の生活の流れや保育士の職務について理解や、援助職に求められるコミュニケーションが必要とされることから、講義だけでなく視覚教材の使用、グループワークやディスカッションも取り入れる内容とする。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 保育実習の意義・目的・内容を理解できる。 2) 実習生としての心構えが身についている。 3) 学生間、教員とのコミュニケーションがとれる。 4) 約束事を守ることができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ()			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	「保育実習」阿部和子、増田まゆみ他、ミネルヴァ書房								
参 考 書	『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館 『保育所保育指針解説書』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説書』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 必要です								
課題に対する フィードバック の方法	ワークを行ったあとに課されるレポートについては、確認後返却を行う。 授業後の振り返りシートも同様。								
留 意 事 項	保育実習に関わる内容であるので、無断欠席及び遅刻は認めない。やむを得ず欠席せざるを得ないときには、修学支援課及び教員に連絡を行う必要がある。 学科の保育関係科目の状況及び出席状況、受講態度や理解度によっては実習開始できないこともある。レポートや書類等の提出遅れや未提出の場合も同様である。(要注意)								
オ フ ィ ス ア ウ ー	専任教員は各研究室に日時を掲示しますので確認してください。 非常勤教員は授業終了後に実施します。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	保育実習指導 a	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 保育実習指導を学ぶにあたっての諸注意	(学修内容) 授業内容や受講に關しての諸注意 シラバスを用いて、本授業における流れと留意事項の確認 (事前事後学修課題の内容) (20分) 事前 シラバスを読んでくる 事後 テキストp3~4、わからない語句について調べる
第2回	保育士資格取得の位置付け 福祉職としての保育士	(学修内容) 福祉職としての保育士が理解しておくべき職務内容や背景にある理念について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストp3~4、わからない語句について調べる 事後 テキストp5~6、わからない語句について調べる
第3回	保育実習の意義・目的 保育実習の概要	(学修内容) 保育実習の意義・目的・内容を理解する (事前事後学修課題の内容) (20分) 事前 テキストp5~6、わからない語句について調べる 事後 保育士の法的根拠を調べておく
第4回	保育士の職務理解と 目指すべき保育士の明確化	(学修内容) 社会で求められる保育士について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 保育士の法的根拠を調べておく 事後 目指すべき保育士像を考え言語化できるようにする
第5回	実習に必要な基礎的な知識と技術1 自己覚知をする	(学修内容) 第一印象に与える影響について学び、グループワークを通して自己覚知を行う (事前事後学修課題の内容) (20分) 事前 目指すべき保育士像を考え言語化できるようにする 事後 自分の強みを言語化できるようにする
第6回	実習に必要な基礎的な知識と技術2 コミュニケーション方法	(学修内容) 保育実習に必要なコミュニケーションの方法を演習しながら学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 自分の強みを言語化できるようにする 事後 非言語コミュニケーションについて調べる
第7回	実習に必要な基礎的な知識と技術3 目標と目的の設定	(学修内容) 保育実習に必要な目標と目的について、実際に自身の目標を明確にし、グループワークを通して学ぶ (事前事後学修課題の内容) (20分) 事前 非言語コミュニケーションについて調べる 事後 保育実習目標についてノートに書いてくる
第8回	実習に必要な基礎的な知識と技術4 記録の書き方	(学修内容) 授業で課題とされるレポート提出に必要な書き方の基本を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 保育実習目標についてノートに書いてくる 事後 テキストp17「保育所」を読みわからない語句を調べてくる
第9回	実習施設を理解する1 保育所の役割と子どもの理解	(学修内容) 保育所の一日についてビデオ視聴し保育所実習とは何をするのかを考え、保育内容や、保育所のデイリープログラムを理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストp17「保育所」を読みわからない語句を調べてくる 事後 テキストp27「乳児院」「児童養護施設を読む
第10回	実習施設を理解する2 児童養護施設・乳児院の役割と子どもの理解	(学修内容) 児童養護施設の一日についてビデオ視聴し保育所実習とは何をするのかを考え、内容や、施設のデイリープログラムを理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストp27「乳児院」「児童養護施設を読む 事後 実習生カードに書かなければならない情報をもってくる
第11回	保育実習の心構えと準備1 実習に関する事務手続き	(学修内容) 実習方法、実習園の選択についての説明を受け、自分の実習園を選定する。実習報告書の書類提出である実習生カードの下書きをする。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 事前 実習生カードに書かなければならない情報をもってくる 事後 テキストp155第1節を読みわからない語句を調べてくる
第12回	保育実習の心構えと準備2 実習施設に求められるマナー	(学修内容) 実習生としての心得と留意事項についてグループワークを通して学ぶ(態度、アポイントの取り方等) (事前事後学修課題の内容) (20分) 事前 テキストp155第1節を読みわからない語句を調べてくる 事後 テキストp158第2節を読みわからない語句を調べてくる
第13回	保育実習の心構えと準備3 健康管理	(学修内容) 保育実習を最後までやり切れるよう、自身の健康管理及び感染についての知識を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 事前 テキストp158第2節を読みわからない語句を調べてくる 事後 全国保育士会倫理綱領を調べ、質問に答えられるようにしておく
第14回	保育実習の心構えと準備4 保育士の倫理	(学修内容) 国家資格である保育士の守るべき倫理綱領について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 全国保育士会倫理綱領を調べ、質問に答えられるようにしておく 事後 春学期授業到達目標を確認してくる
第15回	春学期のまとめ(学びの振り返り) 秋学期に向けての課題	(学修内容) 保育実習依頼時の電話のかけ方やマナーを学ぶ。 春学期の学びの振り返りと夏期休暇中の課題の説明を聞く。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 春学期授業到達目標を確認してくる 事後 資料をファイルをまとめる

授 業 名	保育実習指導 a			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CE1406
英 文 名	Guidance on Child Care Training			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	高岡 理恵・林 静香・武田 康晴・日比野 桂子・安藤 正彦・野田 隆生・日永 よし子・友本 喜代子			対 象 学 生	幼児教育1回生				
授業の概要	<p>本授業は、春学期「保育実習指導」の引き続きの授業です。 保育現場で、保育を担う豊かな感性、人間性を有することのできるよう、保育所実習・施設実習におけるそれぞれの目的意識を高め、学生自身が実習目標を明確にもって自立的に取り組めるように準備を行います。 実習を円滑にするための記録の記入方法、指導計画の考え方と立案、指導案の立案を行うとともに、保育施設実習がイメージできるようにグループワークや演習を通して授業を進めます。 なお、華頂幼稚園での見学実習がありますので、見学の視点をもち積極的に臨んでください。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 自分自身の実習先の施設の概要、機能について理解ができる 2) 保育所実習と施設実習の違いが理解でき、実習課題に取り組むことができる 3) 実習生としての心構えが体得できる。 4) 実習の事前準備を行うことができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解						汎用的技能	
		態度・志向性						総合的な学習経験と創造的思考力	
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク	ディスカッション・ディベート	I C T活用(双方向型授業)	グループワーク	I C T活用(自主学習支援)			プレゼンテーション	
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技		平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	阿部和子、増田まゆみ他「保育実習」ミネルヴァ書房								
参 考 書	『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館 『保育所保育指針解説書』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説書』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 必要です								
課題に対する フィードバック の方法	ワークを行った後に課せられるレポートや課題物については、確認後返却を行う。 授業後の振り返りシートも同様								
留 意 事 項	保育実習の事前・事後にあたる通年の学内実習指導であるため、春学期からの通年で必ず履修すること。実習に関する重要事項を学ぶ場であるので、無断欠席は認めない。また、学科の保育関係科目の修得状況及び出席状況、受講態度や理解度によっては実習開始できないこともある。レポートや書類等の提出遅れや未提出の場合も同様である。(要注意)								
オ フ ィ ス ア ウ ー	専任教員は各研究室に日時を掲示しますので確認してください。 非常勤教員は授業終了後に実施します。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		保育実習指導 a
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	秋学期授業ガイダンス	(学修内容) 秋学期に向けての心構え、予定、実習期間の確定、夏期休暇の課題の点検を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 シラバスを読み理解しておく 事後 テキストp768節、9節を読みわからない語句について調べる
第2回	実習施設を理解する1 児童発達支援センターの役割や働く人を理解する	(学修内容) 児童発達支援センターの役割と機能を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 テキストp76、8節、9節を読みわからない語句について調べる 事後 テキストp58 6節、7節を読みわからない語句について調べる
第3回	実習施設を理解する2 障がい児(者)施設の役割や働く人を理解する	(学修内容) 障がい児(者)施設の役割と機能を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 テキストp58 6節、7節を読みわからない語句について調べる 事後 テキストp51 5節を読みわからない語句について調べる
第4回	実習施設を理解する3 母子生活支援施設の役割や働く人を理解する	(学修内容) 母子生活支援施設の役割と機能を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 テキストp51 5節を読みわからない語句について調べる 事後 保育所の目標を考えてくる
第5回	実習課題を理解する1 実習目標の設定(保育所)	(学修内容) 実習目標のたてかたを学び、保育実習を行うための自己の実習目標をグループワークを行いながら設定する (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 保育所の目標を考えてくる 事後 自身が行く実習施設の概要を調べてくる
第6回	実習課題を理解する2 実習目標の設定(施設)	(学修内容) 実習目標のたてかたを学び、施設実習を行うための自己の実習目標をグループワークを行いながら、設定する (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 自身が行く実習施設の概要を調べてくる 事後 テキスト123を読み、わからない語句を調べてくる
第7回	実習課題を理解する3 保育計画と指導案	(学修内容) 保育計画と指導案について理解し、指導計画を立案方法を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキスト123を読み、わからない語句を調べてくる 事後 テキストp162を読みわからない語句を調べてくる
第8回	実習課題を理解する4 実習記録を書く	(学修内容) 実習記録の意義・記録方法についてグループワークを行いながら学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストp162を読みわからない語句を調べてくる 事後 1日の一部を記録にする
第9回	実習課題の指導1 実習目標の指導	(学修内容) 設定した実習目標の指導を受け、実習目標と到達するための具体的方法を明確化する (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 1日の一部を記録にする 事後 指導された箇所を直し再提出する
第10回	実習課題の指導2 保育計画と指導案の指導	(学修内容) 自身の考えた保育計画と指導案について指導を受ける (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 指導された箇所を直し再提出する 事後 実習に必要なものを準備する
第11回	実習事前準備 オリエンテーション報告書 守秘義務誓約書等の理解	(学修内容) 実習に必要な書類等への記載や方法について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 実習に必要なものを準備する 事後 指導された箇所を直し再提出する
第12回	実践をイメージする	(学修内容) 卒業生から話を聞く機会をもち、実習へのイメージを膨らませる (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 卒業生へ聞きたいことや質問を考えまとめておく 事後 テキストp105第1節を読みわからない語句を調べてくる
第13回	事前オリエンテーションへの臨み方や留意点について学ぶ	(学修内容) 実習の心得、実習中の注意事項、実習園とのオリエンテーション、実習の具体的な内容を確認する。手続きの説明と書類提出を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 検査に伴う証紙、切手代を購入しておく 事後 実習先をイメージしてお礼状を書く
第14回	実習直前指導	(学修内容) 実習課題の個別添削を返却し指導及び実習記録への記載をし、実習準備を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 秋学期の内容を見直し疑問点を明確にしておく 事後 秋学期の到達目標を確認する
第15回	学内オリエンテーション及び訪問担当者との個別面談	(学修内容) 実習訪問担当者との個別面談を実施し、相互連絡の確認と質疑応答を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 秋学期の到達目標を確認する 事後 実習園とのオリエンテーション報告書を作成しておく

授 業 名	社会的養護 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CE1211
英 文 名	Principles of Corporate Parenting			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	芹澤 出			対 象 学 生	幼児教育1AB・1CD				
授業の概要	<p>子どもは家庭で養育されることが望ましいが、事情により家庭だけで子育てを行うことが出来ない場合があり、家庭を離れて施設で生活をしたり、家庭から通園して養護を受けることがある。本科目では、社会的養護施設の目的と機能を理解し、児童の正常な成長・発達を保证するために必要な知識、技術について学ぶと共に、問題発生の予防的側面や家族の再統合的機能についても学習する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>社会的養護において、一人ひとりの児童の権利が守られ、その正常な成長・発達を保証し、援助することのできる知識、技術の理解と児童観、施設養護観の醸成を図るとともに、児童福祉施設の運営・管理、児童養護における今後の課題について理解する。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	<p>テキスト 新 保育士養成講座 第5巻 社会的養護と障害児 新 保育士養成講座編纂委員会 / 編 全国社会福祉協議会 プリントを配布して授業を行う</p>								
参 考 書	<p>社会的養護の課題と将来像の実現に向けて http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/syakai/teki_yougo/dl/yougo_genjou_02.pdf 新しい社会的養育ビジョン http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11901000-KoyoukintoujidoKateikyoku-Soumuka/0000173206.pdf 児童福祉法、児童虐待防止法</p>								
課題に対するフィードバックの方法	<p>授業内で実施する練習問題は解答と解説を実施する。</p>								
留 意 事 項	<p>授業で話す事例や視聴するDVD素材の内容も試験の範囲となる。</p>								
オ フ ィ ス ア ワ ー	<p>担当授業終了後に実施する。</p>								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：社会的養護施設である母子生活支援施設に30年以上勤務する現役施設長</p>								

授業名	社会的養護 a・b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業概要の理解	(学修内容) 授業概要とシラバスの理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前にシラバスを読んでおくこと
第2回	第1章 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷	(学修内容) 社会の変化と社会的養護の関係の理解 社会的養護の基本原則の理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 子ども関連のニュースなどを関心をもって見る 教科書P9～P20
第3回	第2章 社会的養護の基本	(学修内容) 子どもの権利と社会的養護の基本原則の理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 子どもの権利条約を確認しておく 教科書P23～P37
第4回	第3章 社会的養護の基本原則 1. 社会的養護の制度と法体系	(学修内容) 児童福祉法と児童虐待防止法の理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 児童福祉法と児童虐待防止法を確認しておく 教科書P41～P44
第5回	第3章 社会的養護の基本原則 2. 社会的養護の仕組みと実施体系	(学修内容) 児童相談所や福祉事務所等の理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 児童相談所や福祉事務所機能について確認しておく 教科書P46～P50
第6回	第3章 社会的養護の基本原則 3. 社会的養護の対象 4. 家庭養護と施設養護	(学修内容) 児童虐待やDVが発生する背景と子どもへの影響の理解 家庭養護と施設養護(家庭的養護)の理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 児童虐待やDVと家庭養護と家庭的養護について調べておく 教科書P54～P64
第7回	第3章 社会的養護の基本原則 4. 家庭養護と施設養護 (里親制度、乳児院、母子生活支援施設)	(学修内容) 里親制度と乳児院、母子生活支援施設の理解 教科書P54～P64 (事前事後学修課題の内容) (30分) 里親制度と乳児院、母子生活支援施設について調べておく 教科書P54～P64
第8回	第3章 社会的養護の基本原則 4. 家庭養護と施設養護 (児童養護施設)	(学修内容) 児童養護施設の理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 児童養護施設についてしらべておく 教科書P54～P64
第9回	第3章 社会的養護の基本原則 4. 家庭養護と施設養護 (地域小規模児童養護施設)	(学修内容) 地域小規模児童養護施設(家庭的養護)の理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 地域小規模児童養護施設(家庭的養護)について調べておく 教科書P54～P64
第10回	第3章 社会的養護の基本原則 4. 家庭養護と施設養護 (児童自立支援施設、自立援助ホーム)	(学修内容) 児童自立支援施設と自立援助ホームの理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 児童自立支援施設と自立援助ホームについて調べておく 教科書P54～P64
第11回	第3章 社会的養護の基本原則 4. 家庭養護と施設養護 (児童心理治療施設)	(学修内容) 児童心理治療施設の理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 児童心理治療施設について調べておく 教科書P54～P64
第12回	第4章 社会的養護の内容 社会的養護における子どもの理解	(学修内容) 様々な課題を抱えた子どもと支援の理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常生活支援、治療的支援、自立支援について調べておく 教科書P67～P82
第13回	第5章 社会的養護の実際 社会的養護の子どもの理解	(学修内容) アセスメントと自立支援計画についての理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 支援記録、アセスメント、支援計画について調べておく 教科書P89～P116
第14回	第6章 社会的養護の現状と課題 障害児保育の基本的内容	(学修内容) 新しい社会的養育ビジョンの理解 障害のあることへの理解と支援の基本的理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 新しい社会的養育ビジョンについて調べておく 教科書P119～
第15回	授業の振り返り	(学修内容) 練習問題を解ながら復習する (事前事後学修課題の内容) (30分) これまで授業内容を復習する

授 業 名	教育心理学 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CE2212
英 文 名	Educational Psychology			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渋谷 郁子			対 象 学 生	幼児教育2AB・2CD				
授業の概要	<p>幼児教育における学びとは、生活や遊びを通じた学びである。本講義では、心理学的側面から教育に関わる問題について学ぶことで、生活や遊びを通して、子どもたちの個々の発達を把握する観察力を培うことを目的とする。また、個別の教育的支援を必要とする幼児への理解を深める。テーマによってグループ討議等も行うので実践力を養ってほしい。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育心理学の基礎的知識を習得し、教育現場で応用できる力を養う。 2. 乳幼児期から青年期の各時期における精神活動の発達過程と発達特性について理解する。 3. 子どもの発達や保育の中での人間関係などを心理学的に理解し、気持ちに沿った援助を考えることができる。 4. 学習を支える教師の役割や意義を理解する。 								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	教科書は指定しない。適宜資料を配布する。								
参 考 書	藤崎亜由子・羽野ゆつ子・渋谷郁子・網谷綾香(編著)「あなたと生きる発達心理学 子どもの世界を発見する保育のおもしろさを求めて」(2019年)ナカニシヤ出版								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートはコメントをつけて返却する。								
留 意 事 項	講義を中心とするがテーマによってはグループ討議も取り入れる。積極的に取り組んでほしい。私語は禁止する。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回授業時に伝える。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：教育・福祉機関でカウンセラーとして勤務、教員や保育者研修の講師								

授業名	教育心理学 a・b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 教育心理学の意義、目的、方法	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 教育心理学の内容や研究領域について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ノートやファイルを準備する。
第2回	発達(1)発達の規定因、発達と教育	(学修内容)発達とはどのような現象を指すのか、代表的な理論を学ぶ。教育との関係性を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 自分のこれまでの育ちについて振り返る。
第3回	発達(2)エリクソンの生涯発達理論	(学修内容)各時期の発達課題について学ぶ。人間の一生についておおよその見通しをもつ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 家族など、自分の周囲にいる人たちの発達課題をまとめる。
第4回	発達(3)ピアジェの発達理論	(学修内容)代表的な認知発達理論を学ぶ。発達段階の考え方を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 同化、調節の具体例を考えて書く。
第5回	発達(4)ヴィゴツキーの発達理論	(学修内容)代表的な認知発達理論を学ぶ。発達の最近接領域の考え方を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 足場かけの具体例を考えて書く。
第6回	学習(1)古典的条件づけ、オペラント条件づけ	(学修内容)学習理論に基づく人間観を学ぶ。また、条件づけの基本的な考え方を知る。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 日常的な条件づけの例を考えて書く。
第7回	学習(2)観察学習、学習性無力感、学習理論の教育への応用	(学修内容)学習理論の教育への応用を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 学習理論を教育活動に取り入れる方法を自分なりに考えて書く。
第8回	学習(3)動機づけ、原因帰属	(学修内容)動機づけや原因帰属について学び、人間の行動の生じる背景を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) やる気を引き出す方法について具体的に考えて書く。
第9回	思考と知能	(学修内容)知能の構造、記憶、メタ認知について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 知能検査について調べる。
第10回	パーソナリティ(1)類型論、特性論、フロイトのパーソナリティ論	(学修内容)パーソナリティについての代表的な理論を学ぶ。自我の防衛機制とその働き、適応と不適応について学びを深める。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントを読んでまとめる。
第11回	パーソナリティ(2)性格検査法、質問紙法、投影法、作業検査法	(学修内容)教育現場で用いられる心理検査、知能検査について基本的知識を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントを読んでまとめる。
第12回	子ども集団と仲間の発達	(学修内容)仲間関係や自己主張と自己抑制の発達について理解する。また、仲間関係を育む環境整備や保育的関わりについて考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 仲間とはどんな存在か、これまでの経験を振り返って考える。
第13回	特別な配慮の必要な子ども理解と支援	(学修内容)個別の配慮を必要とする子どもについて理解し、特別支援教育の意義と方法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 特別支援教育について調べる。
第14回	教育相談	(学修内容)問題行動の理解と支援・指導を学ぶ。子どもの気持ちを受容的に受け止める態度を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントを読み、まとめる。
第15回	組織の体制づくり、関係機関との協働、講義全体のまとめ	(学修内容)組織内の協力、関係機関の役割と連携や協働の方法について学ぶ。総復習を行い各自の学習をふりかえる。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ノートや資料の点検を事前に行い、不足分の有無を確認する。

授 業 名	子育て支援の心理学a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CE2213
英 文 名	Psychology of Child Rearing Support			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	藤井 裕子			対 象 学 生	幼児教育2AB・2CD				
授業の概要	子育て家庭をとりまく社会的変化や多様な価値観を把握し、子どもの育ちへの新しい支援の視点を養う。乳幼児期から高齢期までの生涯発達に関する心理学の基本的な知識を学び各時期の発達課題について理解する。家庭での子育てを支援し健やかな親子関係の構築に寄与できるように、子どもと家族への多面的な理解を深める。保育者・教員として子育て家庭の心理的な健康が向上するような援助が実践できるように知識と実践力を身につける。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1、生涯発達の視点から乳幼児期から高齢期までの心理的発達と発達課題について基本的知識を学んでいる。 2、家庭の意義や機能を理解し、子育て家庭の現状や課題について理解している。 3、特別な配慮を必要とする家庭について理解し、保育者・教員として適切な支援を行うことができる。 4、子どもの心の健康について学び、精神保健が向上するように成長を支援する。								
学位授与の方針との関連		知識・理解							汎用的技能
		態度・志向性							総合的な学習経験と創造的思考力
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク	ディスカッション・ディベート	I C T活用（双方向型授業）	グループワーク	I C T活用（自主学习支援）				プレゼンテーション
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	「子ども家庭福祉専門職のための子育て支援入門」才村純ほか編著。ミネルヴァ書房 必要なプリントや新聞記事なども配布する								
参 考 書	「よくわかる臨床発達心理学」麻生武・浜田寿美男編著、ミネルヴァ書房 「子育ての発達心理学」藤永保編著、大修館書店								
課題に対するフィードバックの方法	理解度の確認の後、解説を行う。								
留 意 事 項	事前・事後学習を行い知識を自分のものにする事。 私語や迷惑行為はしないこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業の後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：教育委員会のスクールカウンセラー・スーパーバイザー。学校教職員研修の講師。								

授 業 名	子育て支援の心理学a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容)本講義を受講する目的、到達目標、方法を知り、学習計画を立てる (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスの確認、ファイルやノートの準備
第2回	生涯発達に関する心理学の基本的知識、発達課題 (1)乳幼児期・学童期	(学修内容)乳幼児期・学童期における心理的発達と発達の特徴および発達課題について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 資料の該当部分を読み学習内容をまとめる
第3回	生涯発達に関する心理学の基本的知識、発達課題 (2)思春期・青年期	(学修内容)思春期・青年期における心理的発達と発達の特徴および発達課題について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 資料の該当部分を読み学習内容をまとめる
第4回	生涯発達に関する心理学の基本的知識、発達課題 (3)成人期・高齢期	(学修内容)成人期・高齢期における心理的発達と発達の特徴および発達課題について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 資料の該当部分を読み学習内容をまとめる
第5回	家族・家庭の意義と機能	(学修内容)家族の意義、機能、構造について学び、ライフサイクルの中で子どもを育てることの意味および親としての成長について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 資料の該当部分を読み学習内容をまとめる
第6回	家族関係、親子関係への理解	(学修内容)親子関係、家族関係について理解し、子どもと家族を社会的状況の中で包括的にとらえる視点を養う (事前事後学修課題の内容)(30分) 資料の該当部分を読み学習内容をまとめる
第7回	子育て家庭の現状と課題(1)社会の変化と子育て家庭をめぐる問題	(学修内容)現代社会の変化や多様性の中で子どもに関する問題とその支援、成長を促す在り方について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 資料の該当部分を読み学習内容をまとめる
第8回	子育て家庭の現状と課題(2)多様な家庭とその理解	(学修内容)さまざまな家庭や家族に対する理解を深め、具体的な支援について実践的に学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 資料の該当部分を読み学習内容をまとめる
第9回	子育て家庭の現状と課題(3)特別な配慮を必要とする家庭	(学修内容)孤立しがちな家庭、個別の配慮を必要とする家庭を把握し、保育者・教員として適切な支援を実施する方法を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 資料の該当部分を読み学習内容をまとめる
第10回	子育て家庭の現状と課題(4)子どもの心の健康に関する問題	(学修内容)子どもの心理や行動上の問題を把握し、早期に支援や指導を実施する方法を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 資料の該当部分を読み学習内容をまとめる
第11回	子育て家庭への支援(1)おもな法律や制度	(学修内容)子ども・子育て家庭に関する法的整備、制度、事業について基本的な知識を習得し、実施体制や仕組みについて理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 資料の該当部分を読み学習内容をまとめる
第12回	子育て家庭への支援(2)保育者・教員が行う支援の意義、目的、方法	(学修内容)子どもや子育て家庭に適切な支援が行うことができるように面接の計画や方法、展開、評価について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 資料の該当部分を読み学習内容をまとめる
第13回	子育て家庭への支援(3)保育者・教員が行う支援の実際	(学修内容)子どもや子育て家庭への心理学的支援について実際の事例を通して学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 資料の該当部分を読み学習内容をまとめる
第14回	子育て家庭への支援(4)家族の精神的健康を支える	(学修内容)家族の精神的健康が阻害される要因について学び、レジリエンスを高め心の健康が向上するために大事なことについて理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 資料の該当部分を読み学習内容をまとめる
第15回	子ども家庭支援の心理学のまとめ、学習の確認	(学修内容)講義全体を通して学んだことを見直し不十分なところを補う。積極的に質問をして家庭支援の心理学の理論と実践が身についたことを確認する (事前事後学修課題の内容)(30分) 資料が整っているか確認する

授業名	レクリエーション理論			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	CE2214
英文名	Recreation Theory			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	名賀 亨			対象学生	幼児教育2回生				
授業の概要	レクリエーションという言葉の趣旨を理解し、手段であるレクリエーション活動を有効に活用するための理論と方法を理解する。そのためレクリエーションの概論、楽しさと心の元気づくりの理論、レクリエーション支援の理論などさまざまな角度から総合的にレクリエーション理論を理解する。								
学修成果到達目標	1) レクリエーションの意味やレクリエーションインストラクターの役割について理解し説明することができる。 2) 達成感や良好なコミュニケーションなど楽しさを感じる心の仕組みとレクリエーション支援について理解する。 3) 対象者のライフステージに即した心の元気づくりの課題を理解し、適切な実践につなぐことができる。 4) レクリエーション活動を用いることで良好な集団が形成されること、信頼関係が構築される人の心の仕組みに基づいて対象者と関わることを理解し実践に結び付けることができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テキスト	「楽しさをとおした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法」 公益財団法人 日本レクリエーション協会								
参考書									
課題に対するフィードバックの方法	課題レポートや適宜行う発表に関してその内容を評価するとともに、関連事項を加味してその解説を行いそれぞれの学びを促す。								
留意事項	レクリエーション実習での実践を意識しながら理論の理解に努める。あわせて、この授業で学んだレクリエーション理論や実践方法などを整理して、実習で活かせるようにする。								
オフィスアワー	水曜日 12:20～13:00								
実践的教育	実践的教育 教員の實務経験など：1988年～18年間、ボランティア・市民活動支援組織において、その後2008年から13年間青少年を対象にしたボランティア学習プログラムを通じたレクリエーションプログラムを実践するとともに、ファシリテーターとしてのインストラクターの在り方について実践と研究を進めてきた。								

授業名	レクリエーション理論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の枠組みや授業評価など全体像の説明 (事前事後学修課題の内容) (60分) シラバスを確認するとともに、自分が考えるレクリエーション像を整理しまとめておく
第2回	レクリエーション支援の目的と方法	(学修内容) レクリエーションという言葉の主旨、目的、インストラクターの役割などについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP10～を読みレクリエーションの意味を整理してまとめておく
第3回	楽しさをとおした心の元気づくりと対象者のこころの元気の理解 1	(学修内容) レクリエーション活動の楽しさやその楽しさを感じる心の仕組みなどを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP20～を読み「楽しさと楽しさを感じる仕組み」を整理してまとめておく
第4回	楽しさをとおした心の元気づくりと対象者のこころの元気の理解 2	(学修内容) 活動を心の元気づくりに生かす2つの視点、ライフステージに応じた心の元気づくりなどについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP26～を読み「心の元気づくり」について整理してまとめておく
第5回	楽しさをとおした心の元気づくりと対象者のこころの元気の理解 3	(学修内容) こころの元気と地域のきずなづくりとレクリエーションについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP33～を読み「地域でのきずなづくり」について整理してまとめておく
第6回	レクリエーション支援の理論 1	(学修内容) コミュニケーションと信頼関係づくりの理論について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP38～を読んで「コミュニケーションや信頼関係」について整理してまとめておく
第7回	レクリエーション支援の理論 2	(学修内容) 良好な集団づくりの理論について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP44～を読んで「集団づくりやコミュニケーション」について整理してまとめておく
第8回	レクリエーション支援の理論 3	(学修内容) 自主的、主体的に楽しむ力を育む理論について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP50～を読んで「主体的にレクリエーション活動を楽しむ力」について整理してまとめておく
第9回	レクリエーション支援の理論 4	(学修内容) やる気の変化とやる気が生じる心の仕組みや対象者の関りについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP54～を読み「変化するやる気」や「自己効力感」について整理してまとめておく
第10回	レクリエーション支援の方法 1	(学修内容) 信頼関係づくりの方法・ホスピタリティについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP58～を読み「もてなす意識と配慮」について整理してまとめておく
第11回	レクリエーション支援の方法 2	(学修内容) 良好な集団づくりの方法について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP66～を読み「アイスブレイクの支援技術など」について整理してまとめておく
第12回	レクリエーション支援の方法 3	(学修内容) 自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開方法について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP70～を読み「楽しむ力を高める目標設定の方法や目標設定の原則」について整理してまとめておく
第13回	レクリエーション支援の方法 4	(学修内容) レクリエーション活動のアレンジについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP74～を読み「基本のアレンジや段階的なアレンジの応用」について整理してまとめておく
第14回	レクリエーション支援のプログラム	(学修内容) レクリエーション活動におけるリスクマネジメントの方法やプログラム立案方法について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) レクリエーション活動にあるリスクについて整理してまとめておく
第15回	まとめ	(学修内容) これまでの学びを整理するとともにプログラムの実施と評価及び改善について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) ここまでの学びを整理しておく

授 業 名	教育の方法と技術a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CE2305
英 文 名	Educational Methods and Technique			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	浅田 瞳			対 象 学 生	幼児教育2AB・2CD				
授業の概要	<p>保育は先生方の思い付きでされるものではありません。子どもたちの発達の様子や、クラスでの生活、まわりの子どもや先生との関係を踏まえながら、1年間の計画をもとに日々の保育が計画されています。そこには「子どもたちにこんなことを知ってほしい」「お友達と協力する楽しさを味わってほしい」という保育者の願いや思いが込められているのです。この授業では、保育に関する教育の方法と技術について、実際の活動を想定しながら講義を行います。実際に指導案を作成し、子どもの環境を想定しながら、どのように保育を進めるのか、グループワークなどを通して実践的に学ぶことを目的としています。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年齢や時期を考慮した指導案を作成できる 2. 作成した指導案をもとに模擬活動を発表することができる 3. グループで協力して指導案を作成することができる 								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (保育を計画・実践する力)	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	戸江茂博監修『幼児教育方法論』学文社								
参 考 書	稲垣忠編著『教育の方法と技術』北大路書房								
課題に対するフィードバックの方法	授業ごとの小レポートについては、次の授業に口頭にてフィードバックを行う								
留 意 事 項	授業後半はグループワークを行いますので、出席していない・グループワークに参加していない人は評価の対象となりません。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	第1回目の授業で告知します								
実践的教育									

授 業 名		教育の方法と技術a・b
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	イントロダクション	(学修内容) 授業の方針・出席や事前事後学習について説明を聞く (事前事後学修課題の内容)(30分) 保育実習でやった設定保育について発表できるようにしておく (実施者のみ)
第2回	保育の基本と保育内容・方法	(学修内容) 保育の基本である遊びや生活との関連について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 遊びが子どもに与える影響についてまとめる
第3回	我が国における保育の歴史(1)戦前	(学修内容) 戦前の保育の状況について考える (事前事後学修課題の内容)(60分) 戦前の幼稚園や保育所のエピソードを検索し、まとめる
第4回	我が国における保育の歴史(2)戦後	(学修内容) 戦後の保育の状況について考える (事前事後学修課題の内容)(60分) 2017年の幼稚園教育要領や保育所保育指針で養成すべき力についてまとめる
第5回	3法から教育・保育方法を考える	(学修内容) 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領から保育方法を考える (事前事後学修課題の内容)(60分) 3法の違いについてまとめる
第6回	幼児理解と発達	(学修内容) 年齢による子どもたちの発達の違いについて考える (事前事後学修課題の内容)(60分) 2歳児の子どもの指導案を考える(60分程度)
第7回	環境を通して行う保育	(学修内容) 子どもたちにふさわしい環境について考える (事前事後学修課題の内容)(60分) 保育室を環境構成として、どのようなものがあげられるかまとめる
第8回	保育計画について考える	(学修内容) 保育計画の必要性や種類、考え方を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 保育計画でもっとも大切なことは何かまとめる
第9回	指導案の作成(1)グループ作成、年齢と時期	(学修内容) 発表に向けて、グループを作成し、対象年齢と時期を考える (事前事後学修課題の内容)(30分) グループでの役割分担を考える
第10回	指導案の作成(2)活動内容与方法	(学修内容) 発表に向け、指導案の内容と方法を考える (事前事後学修課題の内容)(30分) 指導案の計画を各自で考えておく
第11回	教材作成(1)	(学修内容) グループで作成した指導案をもとに教材を作成する (事前事後学修課題の内容)(30分) グループの役割で担当する仕事を行う
第12回	教材作成(2)	(学修内容) グループで作成した指導案をもとに教材を作成する (事前事後学修課題の内容)(30分) グループの役割で担当する仕事を行う
第13回	グループ発表(1)	(学修内容) グループで作成した指導案をもとに模擬保育を行う (事前事後学修課題の内容)(30分) 発表した班のなかでもっともよかった班のいいところをまとめる
第14回	グループ発表(2)	(学修内容) グループで作成した指導案をもとに模擬保育を行う (事前事後学修課題の内容)(30分) 発表した班のなかでもっともよかった班のいいところをまとめる
第15回	まとめ 保育計画をおこなうために	(学修内容) 保育計画を行うためには何が必要か考える (事前事後学修課題の内容)(60分) グループ活動を振り返り、自分ががんばったことと課題をまとめる

授 業 名	特別支援教育a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CE2306
英 文 名	Special Needs Education			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	林 静香			対 象 学 生	幼児教育2AB・2CD				
授業の概要	・特別支援の必要な子どもの基礎理解・援助・指導方法を学ぶとともに、教育・療育現場での事例をもとに、支援方法および配慮すべき留意点などを学ぶ。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1)インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の特性および仕組みを理解する 2)発達障害（疑いを含む）や、知的障害をはじめとする様々な障害や発達の遅れなど、支援を必要とする子どもの特性および心身の発達を理解する 3)現状と課題に理解を深め、支援の必要な子どもたちをとりまく環境（家族。きょうだい）への支援や関係機関との深まりを学ぶ。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	前田泰弘編著『実践に生かす 障害児保育・特別支援教育』萌文書林 2019年								
参 考 書	適宜紹介していきます								
課題に対する フィードバック の方法	提出した課題を添削して返却する。 なお、全体的に気になった部分や再度確認が必要な部分については講義内で解説する。								
留 意 事 項	授業内で出される課題は、必ず授業終了後までに提出すること（未提出の場合欠席となります）。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	木曜日 講義終了後 金曜日 講義終了後 に受け付けます								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：障害児通園施設にて勤務（保育士）								

授 業 名		特別支援教育a・b
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	特別支援教育についての理念、教育的ニーズ	(学修内容) 保育現場で求められている特別支援の理念について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (20分) 障害のイメージについて発表してもらいますので事前に考えておく
第2回	発達の法則(発達段階)	(学修内容) 発達の法則(発達段階)について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (20分) テキスト第1部を読んでおく
第3回	支援の必要な子どもへの保育形態	(学修内容) 支援の必要な子どもたちにどのような支援方法(保育形態、加配制度)があるかを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (20分) テキスト第 部を読んでおく
第4回	知的障害児への理解と援助、配慮すべき留意点	(学修内容) 知的障害児の特性を理解するとともに、どのような援助がのぞましいかを考え、学ぶ (事前事後学修課題の内容) (20分) テキスト第 部第3章を読んでおく
第5回	多様な支援を必要とする子どもたちへの理解、援助、配慮すべき留意点	(学修内容) 気になる子、情緒障害、発達障害の違いを理解するとともにどのような特性を持っているのかを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (20分) テキスト第 部第5章を読んでおく
第6回	自閉症スペクトラム障害児への理解と援助、配慮すべき留意点	(学修内容) 自閉症スペクトラム障害の特性を理解するとともに、どのような援助がのぞましいかを考え、学ぶ (事前事後学修課題の内容) (20分) テキスト第 部第6章を読んでおく
第7回	学習障害(LD)児、注意欠如・多動性障害児への理解と援助、配慮すべき留意点	(学修内容) 学習障害、注意・欠如多動性障害の特性を理解するとともに、どのような援助がのぞましいかを考え、学ぶ (事前事後学修課題の内容) (20分) テキスト第 部第6章を読んでおく
第8回	小テスト	(学修内容) 講義内容をどれだけ理解できているかの確認 (事前事後学修課題の内容) (30分) 今までの講義内容を復習しておく テスト終了後、解答の困難だった部分についてしっかり復習しておく
第9回	肢体不自由児・医療ケア児への理解と援助、配慮すべき留意点	(学修内容) 身体障害はどのようなものがあるのかを理解するとともに、どのような援助がのぞましいかを考え、学ぶ (事前事後学修課題の内容) (20分) テキスト第 部第4章-1を読んでおく
第10回	視覚障害児・聴覚障害児・言語障害児への理解と援助、配慮すべき留意点	(学修内容) 視覚障害・聴覚障害の特性を理解するとともに、どのような援助がのぞましいかを考え、学ぶ (事前事後学修課題の内容) (20分) テキスト第 部第4章-2.3.4を読んでおく
第11回	ポスターセッションにむけて ・グループワーク	(学修内容) ポスターセッションに向けてグループで話し合い 障害種別の特性およびのぞましい援助を発表するための準備をする (事前事後学修課題の内容) (20分) 事前に発表された自身のグループでの発表内容(障害種別)についてしっかりと復習しておく
第12回	ポスターセッション ・知的障害/発達障害	(学修内容) グループで作成した障害種別の特性およびのぞましいと考える援助についてポスター発表をする。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 発表にあたっては相手には伝わりやすいようにどのように説明するのがのぞましいかを考えておく。
第13回	ポスターセッション ・身体障害	(学修内容) グループで作成した障害種別の特性およびのぞましいと考える援助についてポスター発表をする。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 発表にあたっては相手には伝わりやすいようにどのように説明するのがのぞましいかを考えておく。
第14回	特別に支援の必要な子どもたちをとりまく環境の理解(家庭との協力、関係機関との連携)	(学修内容) 支援の必要な子どもたちをとりまく環境について理解を深め、個別の指導計画について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (20分) テキスト第 部第8章を読んでおく
第15回	まとめ	(学修内容) 今までの講義内容での要点のまとめと特別支援教育の現状と課題について理解を深める (事前事後学修課題の内容) (20分) テキスト第 部を読んでおく

授 業 名	国語教育a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CE2314
英 文 名	Japanese Language Education			開 講 時 期	春・秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	水谷 隆			対 象 学 生	幼児教育2AB・2CD				
授業の概要	<p>国語とは、日常生活を円滑に送るための道具であると同時に、私たちが暮らしている社会の文化そのものをかたちづくるものでもあります。この授業では、子どもの育ちにおける国語教育の意義について確認した上で、重要な国語教材でもある児童文学と社会・文化との関わりについて理解することを目指して、解説をします。しかるのちに、具体的な作品読解作業をすることで、理解力と説明力を高めていきます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 教育と国語の関係について基本的な説明ができる。 2) 児童文学の歴史と現状・意義について概略を把握し、わかりやすく説明できる。 3) さまざまな児童文学作品についての的確な読解を提示できる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	プリントを配布します。								
参 考 書	授業中、適宜紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	理解度確認小テストの実施後に解説を行います。								
留 意 事 項	国語辞典(スマホの辞書アプリ等でもよるしい)を携帯してください。 授業の進行状況により、各回の内容を変更することがあります。なおその際には随時お知らせします								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付するので、確認してください。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：帝塚山学院高等学校非常勤講師 公益財団法人日本漢字能力検定協会アドバイザー</p>								

授業名	国語教育a・b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション / 「国語」とは何か	(学修内容) 授業の目的と内容等についての解説 / 教育における「国語」の位置づけについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、幼稚園教育要領に目を通しておく
第2回	児童文学の歴史 / 児童文学の誕生と産業革命	(学修内容) 児童文学誕生の経緯の概説 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、産業革命を中心とする世界史を振り返っておく
第3回	児童文学の歴史 / 日本における児童文学の導入	(学修内容) 明治社会と学校制度の整備および児童文学の導入について (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、明治維新を中心とする日本史を振り返っておく
第4回	児童文学の歴史 / 「童心主義」の時代	(学修内容) 鈴木三重吉と雑誌「赤い鳥」についての解説 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、大正デモクラシーを中心とする日本史を振り返っておく
第5回	児童文学の歴史 / 軍国主義の時代と「復興現象」	(学修内容) プロレタリア児童文学とリアリズム・「赤い鳥」の復刊についての解説 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、昭和初期の日本史について振り返っておく
第6回	児童文学の歴史 / 戦後の思潮と児童文学	(学修内容) 戦争への反省と児童文学の変化、児童文学を取り巻く現代の状況についての解説 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、戦後の日本史について振り返っておく
第7回	児童文学の歴史 / まとめ	(学修内容) 児童文学史に関する確認小テスト および児童文学を取り巻く現代的課題の解説 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、2～6回目の授業内容を振り返っておく
第8回	児童文学作品の読解 / 子どもの歌の探求	(学修内容) 子どもの歌の歌詞を読解する グループディスカッション作業 (事前事後学修課題の内容) (30分) 指定された曲の歌詞について自分なりに調べておく
第9回	児童文学作品の読解 / 成果発表	(学修内容) 読解作業の結果をグループごとに発表する(前半) (事前事後学修課題の内容) (60分) 指定された曲の発表ができるように準備する
第10回	児童文学作品の読解 / 成果発表	(学修内容) 読解作業の結果をグループごとに発表する(後半) (事前事後学修課題の内容) (60分) 指定された曲の発表ができるように準備する
第11回	児童文学の読解 / 『おおきなかぶ』	(学修内容) 2種類の『おおきなかぶ』を比較しながら精読する (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、2種類の『おおきなかぶ』を読んで、両者の違いを考える
第12回	児童文学の読解 / 『スイミー』	(学修内容) 『スイミー』の主題について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、『スイミー』を読んで、自分なりの感想を抱いておく
第13回	児童文学の読解 / 『モチモチの木』	(学修内容) 『モチモチの木』を立場を変えて読んでみる (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、『モチモチの木』を読んで、自分なりの感想を抱いておく
第14回	児童文学の読解 / 『ごんぎつね』	(学修内容) 『ごんぎつね』の享受と教育の影響についての概説 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、『ごんぎつね』を読んで、自分なりの感想を抱いておく
第15回	まとめ	(学修内容) 多様化する社会における国語教育の役割についての考察 (事前事後学修課題の内容) (90分) 予習として、授業全体をふり返し、疑問点がないかどうか確認しておく

授 業 名	保育の計画と評価a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CE2307
英 文 名	Child Care Planning and Assessment			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	林 静香			対 象 学 生	幼児教育2AB・2CD				
授業の概要	1) 保育所・幼稚園・認定こども園における保育課程・教育課程について理解する 2) 各々の指針、要領に基づいて保育の計画を作成する上での留意点を踏まえ、子どもの発達過程に即した指導計画が作成できるよう主体的に取り組む内容とする 3) 幼児教育現場で求められる保育の質の向上に必要なスキル（PDCAサイクルを用いた指導計画）を学び、保育の実践力の基礎を学ぶ								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 保育所・幼稚園・認定こども園における保育の目的と目標、計画と評価の意義を理解することができる 2) カリキュラムマネジメントについて学び、子どもたちの発達、成長に即した指導計画の立て方を理解する 3) 乳児、3歳未満児、3歳以上児の長期的・短期的指導計画について学び、見通しをもって指導案を作成することができる								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 授業態度・参加意欲 () () ()			課題発見・解決能力				
テ キ ス ト	松本峰雄監修 『よくわかる保育士エクスサイズ6 保育の計画と評価演習ブック』ミネルヴァ書房 2019年								
参 考 書	『保育所保育指針』（最新版） 『幼稚園教育要領』（最新版） 『認定こども園 保育教育要領』（最新版）								
課題に対するフィードバックの方法	定期的に指導案や指導計画を作成します。 その都度、添削します。 また全体的に共通な助言が必要な場合、講義内で説明します。								
留 意 事 項	課題については期日を厳守すること 毎回、講義終了時に振り返りを実施するので必ず毎回の学びを振り返ることができるよう主体的に受講すること								
オ フ ィ ス ア ウ ー	木曜日 講義終了後 金曜日 講義終了後 に受け付けます								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：公立保育士として勤務								

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画	保育の計画と評価a・b		
第1回	保育の目標と計画の考え方	(学修内容)「保育所保育指針」・「幼稚園教育要領」・「認定こども園 保育教育要領」の概要を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第1章1コマ目を読んでおく。	
第2回	保育におけるカリキュラムについて	(学修内容)保育におけるカリキュラムの考え方を理解し、全体的な計画と指導計画について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第1章2コマ目を読んでおく。	
第3回	保育の計画	(学修内容)保育所の指導計画と幼稚園の教育課程の共通性と違いを学び、全体的な計画と指導計画について理解を深める。さまざまな計画内容を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第2章4コマ目を読んでおく。	
第4回	長期的な指導計画の作成(3歳以上児)	(学修内容)3,4,5歳児の長期的な指導計画について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第2章6コマ目を読んでおく。	
第5回	短期的な指導計画の作成(3歳以上児)	(学修内容)3,4,5歳児の短期的な指導計画について学ぶ。 (週案、日案、部分指導計画などに) (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第2章8コマ目を読んでおく。	
第6回	指導計画作成上の留意事項(3歳以上児)	(学修内容)3,4,5歳児の指導計画の作成の留意点をおさえながら計画を作成する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第2章10コマ目を読んでおく。	
第7回	指導作成上の留意事項(異年齢)	(学修内容)異年齢保育(縦割り保育)について理解を深め、指導計画の作成の留意点を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第2章11コマ目を読んでおく。	
第8回	子ども理解に基づくPDCAサイクルについて	(学修内容)保育の計画の際に必要なPDCAサイクルについて理解を深め、個別の支援計画にどのように活用していくのかを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第1章3コマ目を読んでおく。	
第9回	長期的な指導計画の作成(0.1.2歳児)	(学修内容)0,1,2歳児の長期的な指導計画について学ぶ 乳児保育に必要な指導計画(保健・食育など)について理解する (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第2章5コマ目を読んでおく。	
第10回	短期的な指導計画の作成(0.1.2歳児)	(学修内容)0,1,2歳児の短期的な指導計画について学ぶ。 (個別の指導計画・週案・日案・部分指導計画など) (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第2章7コマ目を読んでおく。	
第11回	指導作成上の留意事項(0.1.2歳児)	(学修内容)3歳未満児の指導計画の作成の留意点を学ぶ。 ・個人差の理解 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第2章9コマ目を読んでおく。	
第12回	指導計画に基づく保育の柔軟な展開の必要性	(学修内容)指導計画作成時に保育を柔軟に展開できるために見通しをもつ必要性などを視聴覚教材から学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第2章12コマ目を読んでおく。	
第13回	保育の記録と省察	(学修内容)保育におけるさまざまな記録について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第3章13コマ目を読んでおく。	
第14回	保育所児童保育要録	(学修内容)小学校との円滑な引継ぎに必要な保育所児童保育要録について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第3章15コマ目を読んでおく。	
第15回	保育の評価と改善	(学修内容)保育内容に加えて、保育所など施設全体における評価について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第3章14コマ目を読んでおく。	

授 業 名	乳児保育 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CE2309
英 文 名	Infant Care			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	安藤 正彦			対 象 学 生	幼児教育2AB・2CD				
授業の概要	<p>保育所における乳児（0～2歳児）の保育に関する基礎的な理念や知識を理解、習得し、実際の保育場面で活用（実践）、探究（応用）できる力を身につける。</p> <p>1）保育所で乳児（0～2歳児）が気持ちよく生活するとはどういうことか、理論と実際（写真や動画）を照らし合わせながらイメージし、保育園、保育士のあり方を学ぶ。</p> <p>2）保育所での乳児のあそびの重要性を理解し、受講生同士で主体的に意見交流しながら、あそび（手あそび、歌あそびなど）づくりにつなげていく。（プレゼンテーション）</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1）乳児期（0～2歳児）の理論、知識、技術を理解し実践できる。</p> <p>2）各年令（0～2歳児）の保育での生活とあそびについて理解している。</p> <p>3）実際の保育場面で活かせる、乳児との関わりに適応したあそびを習得する。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	乳児保育研究会編『改訂5版 資料でわかる乳児保育の保育新時代』								
参考書	授業中に紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	受講生は「ふり返り用紙」を提出する。担当者が点検し、各自の「学びの履歴」を確認する。担当者は適宜、助言等をする。								
留意事項	シラバスの順番については、受講者への十分な説明の上、受講者の興味関心、理解等により柔軟に対応することがある。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：西七条保育園 保育士として勤務								

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画	乳児保育 a・b		
第1回	乳児保育の基本	(学修内容) 子どもと保育士の関係とあり方を理解する。子どもの主体性を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 第6章を読んでくる。	
第2回	乳児保育の基本	(学修内容) 乳児の発達の特徴と大切にしたいことを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第1章を読んでくる。	
第3回	乳児保育の内容と方法(生活)	(学修内容) 乳児保育の目標とねらいを理解する。保育園での子どもの姿を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第2章1, 2を読んでくる。	
第4回	乳児保育の内容と方法(生活)	(学修内容) 保育園での生活環境を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第2章3を読んでくる。	
第5回	乳児保育における配慮の実際	(学修内容) 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 乳児のかかりやすい病気、ケガなどを事前に調べてみる。	
第6回	乳児保育における配慮の実際	(学修内容) 集団での生活において、環境の変化や移行に対する配慮等を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 乳児の生活環境で大切なことをまとめておく。	
第7回	乳児保育の内容と方法(あそび)	(学修内容) 乳児のあそびのあり方と実践を学ぶ。(大人とあそび) (事前事後学修課題の内容) (60分) 第3章1の を読んでおく。対大人とあそびあそびをいくつか調べておく。	
第8回	乳児保育の内容と方法(あそび)	(学修内容) 乳児のあそびのあり方と実践を学ぶ。(物とあそび) (事前事後学修課題の内容) (60分) 第3章1の を読んでおく。物を使ったあそびをいくつか調べておく。	
第9回	乳児保育の内容と方法(あそび)	(学修内容) 乳児のあそびのあり方と実践を学ぶ。(友だちとあそび) (事前事後学修課題の内容) (60分) 第3章1の を読んでおく。友だち同士でするごっこあそびを調べておく。	
第10回	乳児保育の内容と方法(あそび)	(学修内容) あそびとその環境を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第3章2を読んでおく。	
第11回	乳児保育の内容と方法(あそび)	(学修内容) あそびにおける保育士の役割とあそび文化(絵本・紙芝居等)を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第3章3, 4を読んでおく。	
第12回	乳児のあそびの実際	(学修内容) 実践的なあそびを学び、乳児の気持ちを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ふれあいあそびの大切さを調べておく。	
第13回	乳児のあそびの実際	(学修内容) 年令の発達を踏まえた上で、あそび(ふれあい、歌、手あそび等)をグループで考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のあそびを復習し、自分であそびを考えてみる。	
第14回	プレゼンテーション(グループ)	(学修内容) 各グループで考えたあそびを発表し、意見を交換し合う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 子どもにも(理解)大人にも(説明)伝わるように所定用紙に記入する。	
第15回	乳児保育における計画の実際	(学修内容) 乳児保育における指導計画、記録と評価について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第4章を読んでくる。	

授業名	社会的養護 a・b			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	CE2310
英文名	Social Corporate Parenting II			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	箱田 成司			対象学生	幼児教育2AB・2CD				
授業の概要	社会的養護 では、児童の環境についてを中心に勉強を行い、児童虐待の親の心理、また、児童養護施設の入所児童の4割が何かしらの障がいがあると言われていた時代に突入している。そういった、障がいについての理解も含めながら、社会的養護の理解を深めていきたい。また、授業は、毎回レポート方式として行う予定である。								
学修成果到達目標	児童を取り巻く、環境の理解や、障がいのある子どもの理解から、里親や自立援助ホームなど社会的養護の今の現状を理解し、社会的養護が必要な児童の理解を深めることを目標とする。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (80%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	社会的養護演習								
参考書	適宜紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	講義の時にその都度、対応する。								
留意事項	視聴する映像素材などもすべて試験の範囲となる。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育									

授業名	社会的養護 a・b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 社会的養護の課題	(学修内容) 社会的養護の課題と施設実習を振り返る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 施設実習を振り返っておく
第2回	社会的養護を必要とする子どもの理解	(学修内容) 社会的養護が必要な子どもが存在する理由について考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 施設実習を振り返ったり、また、児童養護施設や乳児院に行っていない方は、入った人に聞く。
第3回	児童養護施設の入所理由について1	(学修内容) 虐待が起こる原因を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 虐待について学んでおく
第4回	社会的養護の入所理由について2	(学修内容) 親の精神疾患について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 精神疾患について学んでおく。
第5回	家庭支援のソーシャルワーク	(学修内容) 親子関係のプログラムについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の第12章を読んでおく。
第6回	障がいがある児童の社会的養護	(学修内容) 障がい児福祉サービスについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 障がい児の福祉サービスについて学んでおく
第7回	障がいがある児童の特徴と対応について1	(学修内容) 知的障がいについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 知的障がいについて調べておく
第8回	障がいがある児童の特徴と対応について2	(学修内容) 発達障がいについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 発達障がいについて調べておく。
第9回	障がいがある児童の特徴と対応について3	(学修内容) 身体障がいについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 身体障がいについて理解する。
第10回	障がい児の個別支援計画について	(学修内容) 個別支援計画の作成について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書5章を読んでおく。
第11回	児童の生活に支援について	(学修内容) 入所児童のライフサイクルについて考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の生活について考えておく。
第12回	児童の自立支援について	(学修内容) 自立に向けた支援について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 高校生の時のライフサイクルを考える。
第13回	児童養護施設以外の社会的養護について	(学修内容) 里親や自立援助ホームについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 里親制度について理解しておく。
第14回	児童相談所について	(学修内容) 児童相談所の業務の理解をする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 児童相談所について学んでおく
第15回	これからの社会と児童について	(学修内容) 子どもに関わる社会問題について理解をする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 関心を持っているニュースを見る。

授業名	保育内容・言葉 a・b・c・d				開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	CE2310
英文名	Child Care : Language				開講時期	春・秋学期		必修選択	選択	
担当者	水谷 隆・柿本 真代				対象学生	幼児教育2A・2B・2C・2D				
授業の概要	<p>「保育内容・言葉」とは、子どもの教育に関わる内容を5つの側面からとらえた「5領域」のひとつであり、子どもたちが豊かな言葉を獲得していくための援助のありかたについて考えるものです。</p> <p>この授業では、「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」等に示された乳児保育の3つの視点、および領域「言葉」のねらい・内容について学びます。また、子どもの言葉の発達や学びの過程を理解した上で、具体的な指導場面を想定した保育が構想できるよう、事例研究や子どもとのコミュニケーションを意識した模擬保育的プレゼンテーションを行ってまいります。</p>									
学修成果到達目標	<p>1) 乳児保育の3つの視点、および領域「言葉」のねらいおよび内容について分かりやすく説明することができる。</p> <p>2) 子どもの言葉の発達の過程と、発達に応じた援助の基本を把握し、説明できる。</p> <p>3) 子どもとの言語コミュニケーションの基本を知り、保育の実践に活かすことができる。</p>									
学位授与の方針との関連	知識・理解				汎用的技能					
	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション			
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技		
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()			
テキスト	プリントを配布します。									
参考書	<p>『幼稚園教育要領』（平成29年3月公示、文部科学省）</p> <p>『保育所保育指針』（平成29年3月公示、厚生労働省）</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月公示、内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p>									
課題に対するフィードバックの方法	理解度確認テストの実施後に解説を行います。 口述については、その都度コメントをします。									
留意事項	受講生全員に個人でのプレゼンテーションをしてもらいます。 授業の進度、受講生の興味関心、社会情勢の変化等に応じて各回の授業内容を変更することがあります。なお、その場合は随時お知らせします。									
オフィスアワー	研究室に日時を貼付するので、確認してください。									
実践的教育										

授 業 名	保育内容・言葉 a・b・c・d	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 「保育内容・言葉」とは何か	(学修内容) 授業の目的と内容等の確認。 「要領」「指針」および小学校教育との接続についての解説。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 予習として、シラバスの内容を確認しておく。
第2回	言葉の役割	(学修内容) 言葉と人格の形成、文化について。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 予習として、言葉をどのような場面で用いているか考えておく。
第3回	言葉の発達と援助の基本 新生児の言語獲得能力	(学修内容) 新生児期の言語獲得過程と援助の基本についての解説。 学生によるプレゼンテーション (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、実習時等で経験した0歳児の言葉と保育者の対応について 振り返っておく。
第4回	言葉の発達と援助の基本 初語の発現まで	(学修内容) 乳児の言語獲得過程と援助の基本についての解説。 学生によるプレゼンテーション (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、実習時等で経験した1歳児の言葉と保育者の対応について 振り返っておく。
第5回	言葉の発達と援助の基本 語彙増加の過程	(学修内容) 乳児の語彙獲得の過程と援助の基本についての解説。 学生によるプレゼンテーション (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、実習時等で経験した2～3歳児の言葉と保育者の対応につ いて振り返っておく。
第6回	言葉の発達と援助の基本 文法の獲得	(学修内容) 統語の獲得過程と援助の基本についての解説。 学生によるプレゼンテーション (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、実習時等で経験した3歳児の言葉のありようについてふり 返っておく。
第7回	言葉の発達と援助の基本 発話の先行	(学修内容) 発話の先行する発達段階と援助の基本についての解説。 学生によるプレゼンテーション (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、実習時等で経験した3歳児の言動と保育者の対応について 振り返っておく。
第8回	言葉の発達と援助の基本 統語およびコミュニケーションの高度化	(学修内容) 統語の高度化と援助の基本についての解説。 学生によるプレゼンテーション (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、実習時等で経験した4～5歳児の言葉と保育者の対応につ いて振り返っておく。
第9回	言葉の発達と援助の基本 コミュニケーションの高度化	(学修内容) 統語およびコミュニケーションの高度化と援助の基本についての解説。 学生によるプレゼンテーション (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、実習時等で経験した5～6歳児の言葉と保育者の対応につ いて振り返っておく。
第10回	言葉の発達に関わる現代的課題 言葉を育む文化財	(学修内容) 情報機器および児童文化財の活用について。 学生によるプレゼンテーション (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、実習時等で経験した児童文化財についてふりかえっておく 。
第11回	指導案から保育実践へ	(学修内容) 言葉を育む児童文化財を用いた指導案を作成、模擬保育を行い評価をす る。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、実習時等で書いた指導案を見直し、改善した指導案を準備 しておく。
第12回	言葉の発達に関わる現代的課題 ジェンダーを中心に	(学修内容) 位相語とジェンダーの問題等についての解説。 学生によるプレゼンテーション (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、ジェンダーに関する最近の話題について調べておく。
第13回	言葉の発達に関わる現代的課題 障害とノーマライゼーションを中心に	(学修内容) 障害と社会のありかたに関わる問題についての解説。 学生によるプレゼンテーション (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、ノーマライゼーションについて調べておく。
第14回	言葉の発達に関わる現代的課題 グローバル化と多文化共生を中心に	(学修内容) 多文化共生に関わる問題についての解説。 学生によるプレゼンテーション (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、グローバル化に関する最近の話題について調べておく。
第15回	まとめ	(学修内容) 授業全体の振り返り、重要事項の再確認など。 (事前事後学修課題の内容)(90分) 予習として、授業全体を振り返り、疑問点がないかどうか確認しておく 。

授 業 名	保育内容・表現（造形）a・b・c・d			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	CE2313
英 文 名	Child Care: Formative Art			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	山部 泰司・平尾 隆史			対 象 学 生	幼児教育2A・2B・2C・2D				
授業の概要	感性と創造力を育てる領域「表現」の理解を深めるための演習。さまざまな演習で仲間と表現を伝えあうことの大切さを学ぶ。毎回、テーマを設定し、さまざまな表現活動を行うとともに、その表現体験のレポートによって記録し考察する力を養う。学習項目は、学生の個性や進度によって変更することがある								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 子どもの表現を理解し、表現の意欲を育てる指導法について理解できる。2) 自ら表現する楽しさ、お互いの「表現」から学ぶことの楽しさを感じ、その豊かさを実感できる。3) お互いの個性を理解し、協力して活動できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	花篤實・岡田敬吾編『新造形表現 実技編』（三見書房）（1回生春学期購入のものを使います）								
参 考 書	参考プリントを配布								
課題に対するフィードバックの方法	課題の発表、プレゼンテーションについて改善点など指導し、学生同士で評価し合う機会を持つ。								
留 意 事 項	普段からさまざまな表現活動に対する関心を持つこと。造形表現にふさわしい服装に留意すること。他者に対する優しい態度や気持ちを忘れないこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	学生の時間割により判断し、研究室前に掲示する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など： 実践的教育教員の实務経験などについて、子どもの絵画教室、幼児教育、小学校、美術館等での指導や表現ワークショップの指導経験をもとに表現領域について話します。								

授 業 名	保育内容・表現（造形）a・b・c・d	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	導入	（学修内容）（学修内容）「表現」領域について概要を知る （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト110から118頁を読んで考えをまとめておく
第2回	教室全体を使って落書きする	（学修内容）身体スケールを超えた空間を感じ表現する活動を行う 自らの活動についてレポートをまとめる （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト137頁を読んで考えをまとめておく
第3回	手のフォルムからの見立てによる表現	（学修内容）手に描く活動からイメージを豊かにする 自らの活動についてレポートをまとめる （事前事後学修課題の内容）（30分） 手の動きや形を観察してアイデア、考えをまとめておく
第4回	大きなこいのぼりをつくる	（学修内容）身近な素材（新聞紙等）による集団での造形、季節の行事に関心を持つ クラスで制作するこいのぼりをつかって遊ぶ （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト137から138頁を読んで考えをまとめておく
第5回	クモの巣をつくる	（学修内容）身近な素材（ロープ、紐等）による空間造形 生活の空間を表現の場に活用する工夫 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト119から120頁を読んで考えをまとめておく
第6回	ケント紙で高さ比べ	（学修内容）チームでアイデアを出し合い紙を使った背の高いものをつくる （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト76から77頁を読んで考えをまとめておく
第7回	個性的な帽子をつくる	（学修内容）身近な素材で帽子などを制作し変身して遊ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト135頁を読んで考えをまとめておく
第8回	リレー童話をつくる	（学修内容）グループで創作童話を作る遊び （事前事後学修課題の内容）（30分） 創作童話について調べてまとめておく
第9回	リレー童話の音読	（学修内容）チームでつくった創作童話をチームで発表する （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト98から99頁を読んで考えをまとめておく
第10回	新聞紙で造形する	（学修内容）クラスを二つのチームに分けて新聞紙で大きなものを作る （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト48から49頁を読んで考えをまとめておく
第11回	折りたたみシアターをつくる	（学修内容）一枚の紙でつくるかんたんシアターの制作 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト92から93頁を読んで考えをまとめておく
第12回	折りたたみシアターの発表	（学修内容）折りたたみシアターを発表する 保育者が子どもたちに読み聞かせる工夫について （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト94から95頁を読んで考えをまとめておく
第13回	遊ぶ子どもの絵1	（学修内容）子どもの活動や遊びを描く （事前事後学修課題の内容）（30分） 保育実習、教育実習での子どものあそびについてふりかえってまとめておく
第14回	遊ぶ子どもの絵2	（学修内容）子どもが遊ぶ環境や季節感を考えて絵を完成させる。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 園の環境や季節について調べてまとめておく
第15回	まとめ	（学修内容）表現活動の意味について振り返りまとめる （事前事後学修課題の内容）（30分） いままでの活動をふりかえり、教科書の該当ページを読んでおく

授 業 名	保育内容・表現（リズム・ダンス）C・D			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CE2317
英 文 名	Child Care: Rhythm and Dance			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	山本 満佐子			対 象 学 生	幼児教育2C・2D				
授業の概要	保育現場で行われる器楽合奏において幼児に使用される打楽器の奏法を習得する。また、歌やリズムに合わせて動く楽しさや、イメージをふくらませて創造的に表現することの楽しさをグループワークやプレゼンテーションを通して学ぶ。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 子どもの発育・発達に応じた身体表現あそび・音楽表現活動の指導・援助および活動の展開ができる。 2) 保育の現場で自分にできることを明確にすることができる。 3) 基本的な知識を習得することにより、保育現場で起こりうる様々な問題に柔軟な対応力を身につける。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	乳幼児の音楽表現 小西行郎、志村洋子、今川恭子、坂井康子 = 編著 中央法規出版								
参 考 書	『幼児の音楽教育』 森田百合子 他 教育芸術社								
課題に対する フィードバック の方法	それぞれの課題に対しその都度、コメント・次へのアドバイスをする。								
留 意 事 項	それぞれの課題に対し配布プリントの項目にそって、課題達成にむけて内容を確認しておく。特に合奏や小編成のアンサンブルなど練習を要する時は、担当のパート練習をしておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：京都府立鴨沂高等学校、宇治市立宇治小学校、宇治市立横島小学校、宇治市立南部小学校、宇治市立菟道第二小学校、幼児教室こどもの城、京都やましの学園 などで、音楽教育、音楽療法、マーチングバンド、合奏、合唱などの指導に携わる。								

授 業 名	保育内容・表現（リズム・ダンス）C・D	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	今期の授業説明・幼児教育の基本と領域「表現」のねらい及び内容について	（学修内容）授業の進め方・評価の方法などを説明 幼児教育の基本と領域「表現」のねらい及び内容 （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト領域「表現」を読む
第2回	歌を使つての身体表現活動（1）幼児と歌あそび	（学修内容）手あそび 指あそび （事前事後学修課題の内容）（20分） 知っている手遊びが正確にできるようにする
第3回	歌を使つての身体表現活動（2）手あそび歌の創作	（学修内容）子どもの歌の本の中から曲を選択する 手あそび 指あそびの動きを考えよう （事前事後学修課題の内容）（30分） シートの記入
第4回	歌を使つての身体表現活動（3）オリジナル手あそび歌の発表	（学修内容）保育現場を想定して模擬保育の形式で発表し、評価 （事前事後学修課題の内容）（30分） シートの仕上げ、提出、発表
第5回	保育現場における器楽合奏についての教材研究	（学修内容）幼児向けの打楽器の奏法を知ろう （事前事後学修課題の内容）（20分） 打楽器の正しい持ち方・演奏の仕方・名称を覚える
第6回	器楽合奏（1）保育現場で使われる楽器について	（学修内容）担当する楽器を決める。その打楽器の奏法の確認 （事前事後学修課題の内容）（20分） 打楽器の名称を正確に覚え、奏法を習得する
第7回	器楽合奏（2）スコア楽譜とパート譜	（学修内容）スコア楽譜とパート譜の見方 他の楽器の音を聞いてリズムに合わせよう （事前事後学修課題の内容）（30分） 自分のパートを練習する
第8回	器楽合奏（3）音のバランスと曲想の表現	（学修内容）音楽の構成を考えて表現しよう （事前事後学修課題の内容）（20分） 表情記号に気をつけて楽譜を読んでおく アーティキュレーションを正確に演奏できるように練習する
第9回	小編成アンサンブル（1）奏法、リズムなど体得のための手順	（学修内容）小グループによる選曲 （事前事後学修課題の内容）（20分） 自分のパートを理解する
第10回	小編成アンサンブル（2）曲の構成・アーティキュレーションとピッチ	（学修内容）奏法の確認 （事前事後学修課題の内容）（30分） スコア楽譜を正しく読み取る
第11回	小編成アンサンブル（3）グループでの取り組み	（学修内容）発表に向けての練習 （事前事後学修課題の内容）（30分） 正確に演奏できるように練習する
第12回	小編成アンサンブル（4）各グループの発表会	（学修内容）保育現場での発表会形式で発表し評価 （事前事後学修課題の内容）（30分） 発表のための練習と発表後の評価
第13回	遊びを活用した身体表現活動（1）幼児の年齢別に体験	（学修内容）幼児の発達段階に応じた遊びをする （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト（第1章第6節）を読む
第14回	遊びを活用した身体表現活動（2）表現（動き）の工夫をし保育指導案を作成	（学修内容）楽しさを伴う表現活動の指導案について考える （事前事後学修課題の内容）（40分） テキスト（第2章）を参考にする
第15回	領域「表現」とは：まとめ	（学修内容）領域「表現」のねらいに立ち返り幼児教育全体の構造を理解する （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト(p.135)を読む

授 業 名	音楽（弾き歌い）a・b・c・d・e・f			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	CE2415
英 文 名	Music（singing while playing）			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	千田 浩美・後藤 由美子・水谷 佳代子			対 象 学 生	幼児教育2AB・2CD				
授業の概要	幼稚園・保育所の実習・就職試験、更には将来保育現場で役立つ実践的な能力を身に付けると同時に「子どものうた」を通して豊かな感性や表現力、及び音楽の楽しさ・喜びを身に付け、それらを伝える方法を学ぶ。また、人前での弾き歌いが緊張せずに行えるように弾く機会を増やし、最後まで止まらずに弾くことを習得する。								
学 修 成 果 達 成 目 標	1) 「子どものうた」のレパートリーを拡げるけることができる。 2) 初見・伴奏付けの力をつけることができる。 3) 人前で弾き歌うことに慣れることで、実習や幼・保就職試験、更には就職後の保育現場で即、役立つ技術を身に付けることができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (音楽的演奏能力)	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 (初見力)		
テキスト	子どものうた」華頂短大音楽研究室 編								
参考書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	練習してきた曲は授業の中でレッスンします。（幼児の曲に限る）								
留意事項	積極的に練習し、実習や幼・保の就職試験を目指して、弾き歌いのできる曲を増やすことが大事。								
オフィスアワー	小川以外は担当授業後に実施。小川は後日研究室前に掲示。小川以外の教員のクラスも小川のオフィスアワーの可。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：教員の実務経験など：おてつぎ子供奉仕団指導員歌唱指導、音楽・ピアノ講師等の経歴を持つ教員が担当。								

授業名	音楽（弾き歌い）a・b・c・d・e・f	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス、初見・歌唱	（学修内容）春学期授業計画・注意事項・初見・歌唱？ （事前事後学修課題の内容）（20分） 「子どものうた」を数曲練習する
第2回	教育実習（幼稚園実習）準備、初見・歌唱 コードネーム・伴奏付け	（学修内容）多くの幼稚園で歌われている「こどものうた」などの伴奏 初見・歌唱、コードネーム説明 伴奏付け基本練習 （事前事後学修課題の内容）（90分） 「子どものうた」を練習し、指示した曲、直しておく箇所を弾けるようにする
第3回	教育実習（幼稚園実習）準備、初見・歌唱 コードネーム・伴奏付け	（学修内容）（幼稚園実習準備）継続、初見・歌唱、伴奏付け基本練習 （事前事後学修課題の内容）（90分） 「子どものうた」を練習し、指示した曲、直しておく箇所を弾けるようにする
第4回	教育実習（幼稚園実習）準備、初見・歌唱 コードネーム・伴奏付け	（学修内容）（幼稚園実習準備）継続、初見・歌唱、伴奏付け基本練習 （事前事後学修課題の内容）（120分） 「子どものうた」を練習し、指示した曲、直しておく箇所を弾けるようにする
第5回	春学期前半まとめ、初見・歌唱	（学修内容）初見・歌唱、個人チェック曲練習 （事前事後学修課題の内容）（120分） 「子どものうた」の練習をしておく
第6回	第1回個人チェック 歌唱指導	（学修内容）グループ別に課題曲を一人ずつチェック、歌唱指導の模範 （事前事後学修課題の内容）（120分） 「子どものうた」の練習をしておく
第7回	歌唱指導	（学修内容）歌唱指導を一人ずつ行う （事前事後学修課題の内容）（120分） 「子どものうた」の練習をしておく ペープサート等準備、指導案を作成しておく
第8回	歌唱指導	（学修内容）歌唱指導を一人ずつ行う （事前事後学修課題の内容）（120分） 「子どものうた」の練習をしておく ペープサート等準備、指導案を作成しておく
第9回	初見。伴奏付け補充練習	（学修内容）幼・保の就職試験に向けての実践練習 （事前事後学修課題の内容）（60分） 「子どものうた」の練習をしておく
第10回	初見。伴奏付け補充練習	（学修内容）幼・保の就職試験に向けての実践練習 （事前事後学修課題の内容）（60分） 「子どものうた」の練習をしておく
第11回	初見。伴奏付け補充練習	（学修内容）幼・保の就職試験に向けての実践練習 （事前事後学修課題の内容）（60分） 「子どものうた」の練習をしておく
第12回	初見。伴奏付け補充練習	（学修内容）幼・保の就職試験に向けての実践練習 （事前事後学修課題の内容）（60分） 「子どものうた」の練習をしておく
第13回	春学期後半まとめ	（学修内容）初見・歌唱、伴奏付け （事前事後学修課題の内容）（60分） 「子どものうた」を練習し、指示した曲、直しておく箇所を弾けるようにする
第14回	初見・伴奏付けテスト	（学修内容）幼・保就職で出題される曲を中心に （事前事後学修課題の内容）（60分） 伴奏付けの練習をしておく
第15回	第2回個人チェック	（学修内容）グループ別に課題曲を一人ずつチェック （事前事後学修課題の内容）（120分） 個人チェックの課題曲を練習しておく

授 業 名	音楽 (弾き歌い・合奏) a・b・c			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	CE2423
英 文 名	Music IV (singing whild playing・ensemble)			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	千田 浩美・後藤 由美子・水谷 佳代子			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	幼稚園・保育所の実習及び就職試験に即、対応する能力と、幼稚園・保育園に就職した場合は、現場で役立つ実践的な能力を養う。また、同時に「子どもの歌」や合奏を通して豊かな感性や表現力及び音楽の楽しさ・喜びを身に付ける。								
学 修 成 果 達 成 目 標	1) 幼・保就職試験に対応できるピアノの技術力を身に付け、演奏できる。 2) 現場で役立つピアノの実践的な能力を身に付けることができる。 3) ピアノ弾き歌いで表現力豊かに演奏できる。 4) 初見で簡単な楽譜に編曲でき、演奏できる。 5) 「子どものうた」のレパートリーを増やすことができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (音楽的演奏能力)	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 (初見力)		
テ キ ス ト	「子どものうた」華頂短大音楽研究室 編								
参 考 書	使用しない								
課題に対するフィードバックの方法	練習してきた曲は授業の中でレッスンします。								
留 意 事 項	幼・保の就職試験に対応するため、個人指導を増やし、時間外にもレッスンをします。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業後に実施。 小川のオフィシアワーも可。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：教員の実務経験など：おてつぎ子供奉仕団指導員歌唱指導、音楽・ピアノ講師等の経歴を持つ教員が担当								

授 業 名		音楽 (弾き歌い・合奏) a・b・c
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業内容の説明、歌唱、初見 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「子どものうた」を数曲練習しておく
第2回	初見・伴奏付けテスト	(学修内容) 就職試験のリハーサル (事前事後学修課題の内容) (60分) 初見、伴奏の練習をしておく
第3回	初見・伴奏付け補充練習	(学修内容) 歌唱・初見伴奏付け (事前事後学修課題の内容) (60分) 初見、伴奏の練習をしておく
第4回	初見・伴奏付け補充練習	(学修内容) 歌唱・初見伴奏付け (事前事後学修課題の内容) (60分) 初見、伴奏の練習をしておく
第5回	第1回個人チェック	(学修内容) 前半課題曲の小テスト (事前事後学修課題の内容) (120分) 個人チェック曲練習しておく
第6回	リズム変奏	(学修内容) マーチ・スキップ・かけ足・ワルツに変奏 (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノの練習しておく
第7回	初見・伴奏付け補充練習	(学修内容) 歌唱・初見伴奏付け (事前事後学修課題の内容) (60分) 初見、伴奏の練習しておく
第8回	初見・伴奏付け補充練習	(学修内容) 歌唱・初見伴奏付け (事前事後学修課題の内容) (60分) 初見、伴奏の練習しておく
第9回	初見・伴奏付け補充練習	(学修内容) 歌唱・初見伴奏付け (事前事後学修課題の内容) (60分) 初見、伴奏の練習しておく
第10回	合奏	(学修内容) クリスマス曲合奏 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分のパートの楽譜を読んでおく
第11回	合奏	(学修内容) クリスマス曲合奏 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分のパートの楽譜を読んでおく
第12回	合奏	(学修内容) クリスマス曲合奏 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分のパートの楽譜を読み練習しておく
第13回	合奏	(学修内容) クリスマス曲合奏 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分のパートの楽譜を読み練習しておく
第14回	合奏	(学修内容) 合奏指導法 (事前事後学修課題の内容) (15分) 指揮の練習をしておく
第15回	第2回個人チェック	(学修内容) 後半課題曲の小テスト (事前事後学修課題の内容) (120分) 個人チェック曲の練習をしておく

授 業 名	教育実習事前・事後指導 b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CE1413
英 文 名	Pre and Post Guidance on Student Teaching (Kindergarten)			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	鈴木 えり子・浅田 瞳・渋谷 郁子・大野 照美・水谷 隆・小川 隆昭・東野 洋子			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	教育実習を行うために必要な事前の事項について具体的に学ぶ。 幼稚園教育の概要を学び現場の教育の全体が理解できるようにする。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 実習の意義、目的を理解することができる。 2) 実習に臨むための心構えや教員の倫理観が理解できる。 3) 日常の態度や言動を振り返り、幼児のモデルとなるよう見直すことができる。 4) 実習直前の準備として、幼児とのかかわり(指導)、指導計画案の理解、実習ノート記入などの重要な意義を確認することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)	グループワーク I C T活用(自主学習支援)	プレゼンテーション				
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	文部科学省編『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 内閣府・厚生労働省・文部科学省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 京都教育大学附属幼稚園編「教育課程・指導計画」								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	授業中に提出したレポートに対して授業内で解説を行う。								
留 意 事 項	教育実習に関する内容であるので無断欠席は認めない。 免許取得にかかる関係科目の履修状況、出席態度によって実習を実施できないこともある。 授業時間外で評価面談を行う。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	各教員が授業内で伝えます。								
実践的教育									

授 業 名		教育実習事前・事後指導 b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	ガイダンス 教育実習事前・事後指導の授業について	(学修内容) 実習関係調査表を記入し意識を確定する。 授業の進め方や内容、目的を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 1回生の授業ファイルを見直しておく。	
第2回	幼稚園実習に向けての準備(6月教育実習)	(学修内容) 教師としての意識をたかめる。2週間の実習内容を想定する。 実習生カードを記入する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習生カードへの記入内容を事前に把握してくる。 配布した書類等は不備がないように完成させて提出する。	
第3回	幼稚園の生活の流れ 6月実習目標の設定	(学修内容) 幼稚園の一日の流れを理解する。 6月の実習目標の設定する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 6月の実習目標を作成し提出する。	
第4回	幼稚園指導計画書の作成? 教材研究を通して 6月の指導計画を立案する	(学修内容) 指導計画の目的と書き方を理解する。6月の活動を実践する。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 授業で実践した活動を主として、指導計画を作成し提出する。	
第5回	実習の心構え 個人情報保護誓約書の説明 実習目標の下書き 返却	(学修内容) 実習の心構えの確認。教育実習記録の必要性を理解し、記録の記入方法を把握する。個人情報保護の重要性と社会人としての責任を確認する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布された6月実習記録の概要部分、目標、実習予定表を記入しておく。 実習目標の下書き添削を見直し記入しておく。	
第6回	実習園とのオリエンテーションの説明 実習の振り返り報告書について説明	(学修内容) 諸届けの記入の仕方と必要性を理解する。実習の振り返りの必要性を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布された実習ノートを見直し授業内で指示した項目を記入し提出する	
第7回	実習評価の観点について	(学修内容) 実習評価項目について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 幼児の姿と保育の記録を作成し提出する	
第8回	実習ノート記入の実際 幼稚園指導計画 返却・アドバイス	(学修内容) 実習記録の書き方を理解する。作成提出した指導案を見直し、指導計画作成について理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習ノートの実習園の概要、教育方針など必要事項を記入する。返却された指導案を見なおす。	
第9回	9月の実習オリエンテーションについて 実習訪問担当教員との顔合わせ	(学修内容) 9月実習の諸手続きを理解する。実習訪問担当者と面談し、実習に向けての意欲を高める。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 返却された指導案を見直し、修正する。	
第10回	幼稚園教育実習期間	(学修内容) 実習 (事前事後学修課題の内容) (180分) 各自の実習に応じて、設定保育・部分実習の計画や準備、ピアノ練習などを行う	
第11回	幼稚園教育実習期間	(学修内容) 実習 (事前事後学修課題の内容) (180分) 各自の実習に応じて、設定保育・部分実習の計画や準備、ピアノ練習などを行う	
第12回	6月実習の振り返り 9月実習の目標設定	(学修内容) 振り返りシートを記入し提出する(6月実習の振り返り、自己課題を明確する) (事前事後学修課題の内容) (60分) 実習振り返りシートの項目について考えまとめてくる。9月の実習目標(下書き)を作成する。七夕の行事について調べる。	
第13回	「幼稚園指導計画案」の作成 9月の指導計画(一日実習を想定して作成する)	(学修内容) 9月の幼児の遊び・生活を予想して計画を立案作成する (事前事後学修課題の内容) (30分) 「教育課程・指導計画」の各学年9月の内容を予習する	
第14回	相互添削の方法について説明する 9月の幼稚園指導計画案	(学修内容) 指導案の添削方法について理解する。 自分の作成した指導案を学生相互に交換し、添削し合う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 指導計画の考え方、記入方法を復習しておく。	
第15回	9月実習に向けての心構えと準備 9月実習記録の点検・確認 定期試験について 実習評価面談について	(学修内容) 9月実習ノートの配布。9月実習に向けて心構えや準備の再確認をする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 9月の保育を予想して心構えややるべきことを確認する。9月の実習記録の必要な部分を記入しておく。	

実 習 名	保育実習 a	対 象 学 生	幼児教育1回生
担 当 者	高岡 理恵・武田 康晴・名賀 亨・野田 隆生・鈴木 えり子・水谷 隆・山本 明美・山部 泰司・林 静香・浅田 瞳・小川 隆昭・坂口 みゆき・福井 百合子・渋谷 郁子・安藤 正彦・友本 喜代子・日永 よし子・日比野 桂子		
実習の概要	<p>「保育実習」は「保育所実習」と「施設実習」があり、どちらの実習も実施しなければならない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習目標・目的 実習では、授業で習得した基礎知識や技能を実際の職務に応用しながらその経験を通して乳幼児（利用者）に対する理解を深めること、保育士の職務内容を理解し保育・養護技術を習得すること、保育士としての自覚を高めることを目標にします。 2. 実習内容及び実習形態 <ul style="list-style-type: none"> 保育所実習 公立・私立の認可保育所（幼保連携型認定こども園を含む）で行う。 実習時期は1回生の2～3月、実習日数は原則1日8時間以上、80時間以上（10日間以上） 通勤による実習 実習先は近畿2府4県と福井県内とし、その選定方法は「保育実習指導」において説明します。 施設実習 児童福祉法に定められる児童福祉施設等で保育所以外の居住型福祉施設で行う。 実習時期は1回生の2～3月、実習日数は原則1日8時間以上、80時間以上（10日間以上） 原則宿泊による（一部のみ通勤）による実習 実習先の種別：乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設・知的障害者支援施設等 実習先は学校で割り振り配属します。（個人的な事情等については事前に申し出ること配慮します） 3. 実習生に対する指導法 実習中は、実習担当職員からの指導・助言を受けながら実習を行います。教員は、原則的に実習中に1回訪問し、指導を行う。 4. 事前事後指導等の内容について 実習先で事前にオリエンテーションを受け、事前オリエンテーション報告に記入します。 その際、実習先で指導された内容について詳細に記載するとともに、教員に伝える必要性のある事項については、必ず連絡すること。指導は個別に行うこともあるため、Gメールを利用し、教員としっかり連絡をとるように心がけてください。 5. 実習受講条件 「保育実習指導」を受講していること 6. 実習態度等 実習先の方針や守秘義務を遵守しなければなりません。社会とのかかわりの第一歩であるため、積極的に実習に臨んでください。 また、子どもとかわることを意識した、表情や態度を示してください。 		
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・この科目の単位認定されるには、「保育実習指導」を履修する必要があります。「保育実習」と「保育実習指導」は個別に単位認定されますがそれぞれが有機的に連動している科目のため単独で単位認定されることはありません。 ・保育実習指導（1回生春学期・秋学期）を必ず履修していること。 ・出席状況および各レポート等が未提出の場合は実習できないこともあるので気をつけること。 ・実習記録は毎日提出すること。 		

授 業 名	保育実習指導 a			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CE2421
英 文 名	Guidance on Child Care Training			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	野田 隆生・高岡 理恵・林 静香・名賀 亨・友本 喜代子・安藤 正彦・日永 よし子			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	「保育実習（保育所）」の事前・事後に行う学内指導となる。「保育実習（保育所・施設）」の保育所実習の経験を踏まえて、ふりかえり、学んだことを深化、発展させ、「保育実習（保育所）」に向けての実習課題を明確にする。「保育実習」の実習の意義や目的を認識するとともに、現代社会における子どもや保護者を取り巻く保育環境や問題点を理解し、保育士として必要とされる資質や能力を養うことを目的とす。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 保育実習 の意義や目的を理解できる。 2) 保育士の職業倫理・守秘義務を理解できる。 3) 指導計画を理解し立案できる。 4) 実習課題を明確にできる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	随時資料を配布します。								
参 考 書	下記の冊子は毎時携行することが望ましい。（出版社はフレーベル館） 1) 『保育所保育指針』厚生労働省 2) 『保育所保育指針解説』厚生労働省 3) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省 4) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省								
課題に対する フィードバック の方法	個別面談を通じて、各課題に対するコメントを行います。								
留 意 事 項	「保育実習」の実施に向けて、実習の重要な事項を学ぶ授業となるため無断欠席は認めない。 学科の保育関係科目の履修状況及び出席状況によっては、実習を開始できないので注意すること。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	専任教員は各研究室に日時を掲示しますので確認してください。 非常勤教員は授業終了後に実施します。（事前に予約を入れることが望ましい。）								
実 践 的 教 育									

授 業 名		授 業 計 画
保育実習指導 a		学修項目
		学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 保育実習 についての実習概要・講義の進め方等について説明する。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 保育実習 (保育所・施設) に関する実習ノート等を準備し、記載事項の不備がないことを確認しておく。
第2回	保育実習 の目的・意義	(学修内容) 保育実習 との相違点や段階性を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 保育実習 (保育所) の内容について整理し、良くできたこととこれからの課題についてまとめておく。
第3回	保育実習 のふりかえりレポートの作成	(学修内容) 保育実習 (保育所・施設) の内容について整理する。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 保育実習 (施設) の内容について整理し、良くできたこととこれからの課題についてまとめておく。
第4回	保育実習 のふりかえり	(学修内容) 保育実習 (保育所実習) のふりかえりをプレゼンテーションすることで、保育実習 の目的意識を高める。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 保育実習記録ならびに指導案を読み返し、ワークシートに記入しておく。
第5回	保育実習 の評価面談	(学修内容) 保育実習 (保育所実習) の個別評価面談を通して、保育実習 の目的意識を高める。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 評価面談終了後、これからの課題についてまとめておくこと。
第6回	保育実習 のふりかえりと評価面談	(学修内容) 保育実習 (保育所実習) ふりかえりや個別評価面談を通して、保育実習 に向けた課題を明確にする。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回までのふりかえりと個別評価面談の内容についてまとめておくこと。
第7回	実習生カードの作成・提出	(学修内容) 実習生カードの作成 (事前事後学修課題の内容) (45分) 実習生カード作成に必要なものを用意し、保育実習 に向けた動機を整理しておくこと。
第8回	保育士の倫理綱領について理解する	(学修内容) 保育士の倫理綱領を解説しながら、保育士として、実習生としての倫理観について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 保育専門職としての倫理について、ワークシートにまとめておくこと。
第9回	保育実習 実習目標・課題の作成	(学修内容) 保育実習 の新たな目標・課題を設定する (事前事後学修課題の内容) (45分) 実習目標を3つ考え、それぞれに課題を設定し、説明ができるようにしておくこと。
第10回	実習目標・課題の添削・指導	(学修内容) 実習課題の添削指導を個別相談にて行う。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 実習目標と課題を清書用シートに記入しておくこと。
第11回	実習記録ノートの配布と書き方の説明	(学修内容) 保育実習 の実習記録ノートの配布、記録の書き方について説明 (事前事後学修課題の内容) (45分) 保育実習 の記録ノートを読み返し、書きにくかったことをまとめておくこと。
第12回	8月の保育内容 ～水遊びの指導・注意事項・指導計画の立案～	(学修内容) 保育実践を学ぶとともに、指導案作成の留意点の理解、指導計画を立案し実践に向けての準備をする。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 夏の保育活動をイメージし、指導案の内容について考えておくこと。
第13回	実習事前指導 ～実習の心得などの説明ならびに個別面談～	(学修内容) 実習の心得、実習園とのオリエンテーション、質疑応答 (事前事後学修課題の内容) (45分) 配布プリントをよく読み、実習園の特徴や保育内容に関する情報を収集しておくこと。
第14回	実習事前指導 ～必要書類の説明ならびに個別面談～	(学修内容) 実習に伴う書類等準備についての説明 検便等 (事前事後学修課題の内容) (45分) 配布プリントをよく読み、目標と課題について理解した上で、個別面談に臨めるようにしておくこと。
第15回	実習訪問担当者との面談	(学修内容) 実習訪問担当者との面談にて個別指導 (事前事後学修課題の内容) (45分) 報告書等に必要事項を記入し、面談時に提出すること。

実 習 名	保育実習 a	対 象 学 生	幼児教育学科2回生
担 当 者	野田 隆生・鈴木 えり子・名賀 亨・高岡 理恵・山本 明美・水谷 隆・山部 泰司・林 静香・浅田 瞳 ・小川 隆昭・坂口 みゆき・渋谷 郁子・福井 百合子・安藤 正彦・日永 よし子・友本 喜代子・日比野 桂子		
実習の概要	<p>1. 目標・目的 「保育実習（保育所・施設）」の保育所実習で学んだ内容を発展的に深化させ、実践力や応用力をさらに高めることを目的とする。</p> <p>2. 保育実習（保育所）の内容 乳幼児の成長・発達を理解し、個々に応じた保育者の援助について学ぶ。 健康管理、安全対策、子どもの心身の状態に応じた環境づくりを学ぶ。 保育実習の内容（観察・参加・部分実習）に加えて、指導計画を立案し研究実習（部分、半日、全日のいずれか）を行う。 保育士の業務内容や職業倫理を学び、記録に基づく省察と自己評価を行う。</p> <p>3. 実習生に対する指導方法 原則的に実習中に1回以上、巡回指導を行い、保育所の実習指導担当者との連携のもとに実習生へのスーパービジョンを行う。</p> <p>4. 実習形態 公立・私立の認可保育所（幼保連携型認定こども園を含む）で行い、原則「保育実習」の保育所実習先と同様とする。 期間は、2回生の8月のうち10日間以上（休みを除く）であり、80時間以上の実習を行わなければならない。</p> <p>5. 事前事後指導等の内容等（必要性）について 「保育実習指導」で事前指導を受けた者が、実習を行うことができる。保育実習指導で提出物・レポート等の未提出並びに無断欠席した場合には、実習を行えないとすることがある。体調管理や衛生管理が求められる実習だけに、保育実習指導への積極的な参加が実習実施の可否の判断基準となる。また、実習後には、保育所の評価に基づいた評価面談を行って、実習の学びを振り返る。実習日誌や出勤簿の提出を義務付ける。</p>		
備 考	<p>1. 実習受講の条件など ・「保育実習」の実習を終了していること。 ・「保育実習」の単位を取得するには、「保育実習指導」の単位を取得することを条件とする。 「保育実習」と「保育実習指導」は形式上個別に単位認定されますが、それぞれが連動している科目のため個別に単位認定されることはありません。</p> <p>2. 実習態度、参加意欲など ・プライバシー保護に基づいて、実習中に知り得た情報を第三者等に漏らしてはならない。 ・子どもと保護者の権利擁護を最優先とし、安全な実習が行えるように、危険防止、体調管理をしっかりと行う。</p>		

授 業 名	保育実習指導 a			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	CE2421
英 文 名	Guidance of Child Care Training			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	武田 康晴			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>「保育実習（施設）」の事前・事後に行う学内指導となる。「保育実習（保育所・施設）」の施設実習の経験を踏まえて、振り返り、学んだことを深化、発展させ、「保育実習（施設）」に向けての実習課題を明確にする。「保育実習」の実習の意義や目的を認識するとともに、現代社会における子どもや保護者を取り巻く保育環境や問題点を理解し、保育士として必要とされる資質や能力を養うことを目的とす。実践力を身につけることを目的に学生同士の意見交換、グループ作業を取り入れて授業を進める。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1) 保育実習 の意義や目的を理解できる。 2) 保育士の職業倫理・守秘義務を理解できる。 3) 保育士としての社会的責任を説明することができる。 4) 実習課題を明確にできる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	必要に応じて資料を配布する。								
参 考 書	必要に応じて紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	個別面談を通じて口頭で行うほか、必要に応じて提出物にコメントを記入して返却する。								
留 意 事 項	<p>「保育実習」の実施に向けて、実習の重要な事項を学ぶ授業となるため無断欠席は認めない。 学科の保育関係科目の履修状況及び出席状況によっては、準備ができていないという理由で実習開始できないので注意すること。</p>								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に掲示し、口頭でも伝える。								
実践的教育									

授 業 名		授 業 計 画
保育実習指導 a		学修項目
		学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 保育実習指導、保育実習 について、実習概要、授業の進め方について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスに目を通しておく。保育実習指導 のノートを確認し、不備がないものを準備する。
第2回	保育実習 の目的・意義	(学修内容) 保育実習 との関連また相違点や段階的学習について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 保育実習 の実習ノートの該当箇所を復習し、課題を抽出しておく。
第3回	保育実習 の振り返りレポートの作成	(学修内容) 保育実習 の内容について振り返りを行い、個別面談を経て保育実習 へ向かう課題を明確にする。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 実習に関するファイル情報を作成し提出する。
第4回	保育実習 の振り返りと評価面談	(学修内容) 保育実習 の振り返りと個別面談を通じて保育実習 の目的、意義を理解する。個別面談以外の学生は課題を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に提示した課題に取り組み提出する。
第5回	保育実習 の振り返りと評価面談	(学修内容) 保育実習 の振り返りと個別面談を通じて保育実習 の目的、意義を理解する。個別面談以外の学生は課題を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に提示した課題に取り組み提出する。
第6回	保育実習 の振り返りと評価面談	(学修内容) 保育実習 の振り返りと個別面談を通じて保育実習 の目的、意義を理解する。個別面談以外の学生は課題を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に提示した課題に取り組み提出する。
第7回	実習生カードの作成と提出	(学修内容) 実習生カードその他、保育実習 に必要な書類について準備する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 写真等実習生カードその他の作成に必要なものを準備してくる。
第8回	保育士として持つべき価値観・倫理観	(学修内容) 全国保育士会の倫理綱領等を活用し、保育士として、また実習生としての倫理、義務、責任について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 倫理綱領に目を通しておく。また事後には、保育士の倫理についてレポートを作成する。
第9回	実習目標と課題の作成	(学修内容) 保育実習 の積み残し課題を踏まえ、保育実習 としての目標と課題を検討、所定の用紙を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 目標と課題の用紙を作成し、提出する。
第10回	実習目標と課題の添削指導	(学修内容) 前回の授業を通じて作成、提出した実習課題と目標の用紙を使い、グループ作業も取り入れながら相互添削、教員による添削を受ける。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業の内容を踏まえ、目標と課題の用紙を清書して提出する。
第11回	実習記録ノートの配布と書き方の解説	(学修内容) 実習記録の書き方を学ぶ。また、保育実習 (施設) の実習ノートを持参し、自己添削するワークショップも用いて記録について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 実習ノートを使って1日の記録を記入して提出する。
第12回	保育実習 に関するグループ指導	(学修内容) 保育実習 (施設) という枠内でテーマを設定し、ディスカッションを通じて課題と対応策について探求する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業内容に関するレポートを作成する。
第13回	保育実習 に関するグループ指導	(学修内容) 保育実習 (施設) という枠内でテーマを設定し、ディスカッションを通じて課題と対応策について探求する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業内容に関するレポートを作成する。
第14回	書類の作成指導	(学修内容) 保育実習 に必要な書類について、活用方法、必要性を十分に理解しながら作成する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 書類作成に必要なものを準備する。
第15回	保育実習 に向けた最終確認・指導と訪問教員との顔合わせ	(学修内容) 保育実習 に向けた最終的な諸注意事項を理解する。また、訪問担当教員と面談し、実習中の指導方法について確認する。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 実習に向けて総括的なレポートを作成する。

授 業 名	教育課程総論 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CE1302
英 文 名	Outline of Curriculum			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	浅田 暉			対 象 学 生	幼児教育1AB・1CD				
授業の概要	<p>幼稚園教育要領の改訂を迎え、保育内容やカリキュラムもいくつか変更されている。 本授業では、これまでの幼稚園教育要領および保育指針の変遷を概観しつつ、実際の幼稚園で使用されている教育要領を参考に、どの年齢期に、どのような活動が想定されているのか、子どもたちの発達段階を考慮しつつ、どのような環境を構成することが求められているのかについて理解を深め、年齢と時期を想定してカリキュラムを構築できることを目的としている。 また、対象年齢別にグループを分け、その年齢に必要な視点について議論し、グループで取りまとめた内容を発表する時間を設ける。</p>								
学 修 成 果 対 達 目 標	<p>1) 幼稚園、保育所における教育課程や保育課程について説明できる。 2) 年間計画を想定したうえで、月案や週案など、長期的な保育指導計画について理解できる。 3) 子どもたちの年齢や特性に配慮した指導案を作成できる</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (計画する力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	<p>京都教育大学大学附属幼稚園編『教育課程・指導計画』 文部科学省編「幼稚園教育要領」、厚生労働省編「保育所保育指針」</p>								
参 考 書	<p>内閣府・文部科学省・厚生労働省編「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」</p>								
課題に対する フィードバック の方法	<p>小レポートについてはICTを活用し、次の授業内で適宜コメントします。 発表についてはその場で助言・指導を行います。</p>								
留 意 事 項	<p>テキストにある事例をもとに授業を進めるため、3冊のテキストは毎回必ず持参すること。</p>								
オ フ ィ ス ア ワ ー	<p>第1回目の授業で告知</p>								
実践的教育									

授 業 名		教育課程総論 a・b
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション：子どもの現代的教育課題	(学修内容) 学校における教育課程を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 「カリキュラム」という用語について調べ、初回授業時にレポートとして提出すること(400字程度)
第2回	教育課程(1)：カリキュラムの基本的な考え方	(学修内容) 教育課程の編成原理 (事前事後学修課題の内容) (60分) 幼稚園と保育所の違いについて、カリキュラムの点からまとめておくこと
第3回	教育課程(2)：カリキュラムの構成	(学修内容) 経験主義と系統主義の違い (事前事後学修課題の内容) (60分) 幼稚園の特徴について、経験主義の立場からまとめる
第4回	幼稚園におけるカリキュラムの変遷(1) 幼稚園の目的・意義	(学修内容) 「幼稚園教育要領」の変遷を概観する (事前事後学修課題の内容) (30分) 「幼稚園教育要領」より幼稚園の目的・意義について重要箇所をマークする
第5回	幼稚園におけるカリキュラムの変遷(2) 幼稚園教育の特徴	(学修内容) 近年の幼稚園教育要領の特徴について考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 平成29年版「幼稚園教育要領」の総則のなかの重要箇所をマークする
第6回	保育所におけるカリキュラムの変遷(1) 保育所保育指針の変遷	(学修内容) 「保育所保育指針」の変遷を概観する (事前事後学修課題の内容) (60分) 「保育所保育指針」の変遷について重要箇所をマークする
第7回	保育所におけるカリキュラムの変遷(2) 幼稚園と保育所のカリキュラムの相違	(学修内容) 幼稚園と保育所のカリキュラム上の違いについて理解する (事前事後学修課題の内容) (120分) 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」を見比べて、表現の異なる部分をまとめる
第8回	課程編成と指導計画(1)：幼稚園の場合 3歳児	(学修内容) 3歳児におけるカリキュラム編成の留意点について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 3歳児の活動の特徴をテキストからまとめる
第9回	課程編成と指導計画(2)：幼稚園の場合 4歳児	(学修内容) 4歳児におけるカリキュラム編成の留意点について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 4歳児の活動の特徴をテキストからまとめる
第10回	課程編成と指導計画(3)：幼稚園の場合 5歳児	(学修内容) 5歳児におけるカリキュラム編成の留意点について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 5歳児の活動の特徴をテキストからまとめる
第11回	課程編成と指導計画(4)：保育所および認定こども園の場合	(学修内容) 乳幼児(0~2歳児)におけるカリキュラム編成の留意点について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 乳幼児の活動について、配慮事項をまとめる
第12回	指導計画の実際：幼稚園	(学修内容) 幼稚園の年間計画と指導案を照らし合わせ、その特徴について考える グループワーク (事前事後学修課題の内容) (60分) 幼稚園で実際に使用された指導案からその特徴をまとめる
第13回	指導計画の実際：保育所	(学修内容) 保育所の年間計画と指導案を照らし合わせ、その特徴について考える グループワーク (事前事後学修課題の内容) (60分) 保育所で実際に使用された指導案からその特徴をまとめる
第14回	指導計画と環境構成	(学修内容) 指導案を作成するときの留意点と環境構成について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分で考えた指導案を作成・提出する
第15回	まとめ これからのカリキュラム構築に必要な能力	(学修内容) 幼児教育におけるカリキュラム構築について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 子どもたちに「身につけてもらいたい力」を考え、それをもとに指導案を作成・提出する

授 業 名	保育内容総論 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CE1301
英 文 名	Outline of Child Care			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	鈴木 えり子			対 象 学 生	幼児教育1AB・1CD				
授業の概要	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育保育要領」を踏まえながら、保育内容について総合的に理解する。保育内容の5領域である「健康」「人間関係」「言葉」「環境」「表現」について、各年齢別の保育実践の背景となる理論を理解する。理解を深めるために保育実践を行い、体験を通して指導上の留意点や指導計画・方法・援助が理解できるようにする。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 保育内容5領域について理解できる。 2) 各年齢に応じた保育内容のねらいが理解できる。 3) 具体的な保育内容について実践と理論を関係づけることができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	『幼稚園教育要領』文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針』厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・厚生労働省・文部科学省 フレーベル館								
参 考 書	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・厚生労働省・文部科学省 フレーベル館								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートについては授業内でコメントをします。 グループ発表については授業内で評価コメントを行います。 小テストについては採点して返却します。								
留 意 事 項	保育内容を実践する。材料など指定されたものを忘れずに必ず各自で用意し持ってくること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に掲示しますので確認してください。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	保育内容総論 a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 保育の基本と保育内容	(学修内容)「保育内容」のことばの意味や意義を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 子どもの頃の生活や遊び活動を思い出しておく。
第2回	幼稚園・保育所・認定こども園の一日 DVD視聴	(学修内容)幼稚園・保育所・認定こども園の生活の流れを学ぶ。 日本における保育施設を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 自分自身の就学前までの生活環境や保育環境を振り返ってみる。
第3回	幼稚園教育要領と保育所保育指針における保育内容の比較検討	(学修内容)幼稚園教育要領と保育所保育指針における保育内容を比較しその相違を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 比較検討した内容を見直して配布プリントを完成させておく。
第4回	生活や遊びを通じた総合的な保育活動 1 ～グループの話し合い～	(学修内容)実践事例(生活・遊び)をもとにグループ活動を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) グループで発表準備を行う。
第5回	生活や遊びを通じた総合的な保育活動 2 ～グループ発表～	(学修内容)グループ発表を行う。活動としての遊びの重要性を理解する体験をする。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 5領域のねらいをワークシートを完成させて次回提出する。
第6回	保育内容 1 領域「環境」	(学修内容)領域「環境」のねらい・内容を理解する。領域「環境」と「環境構成」のことばの違いを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 身近なモノを使った保育実践事例をポスターにして提出する。
第7回	保育内容 2 領域「言葉」	(学修内容)保育内容「言葉」の領域と活動についてねらいを理解する。 絵本の読み聞かせをグループで実践する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 絵本の読み聞かせに適した絵本を選び素読をしてくる。読み聞かせ実践の後、気づきをレポートにまとめて提出する。
第8回	保育内容 3 領域「表現」	(学修内容)保育内容「表現」の領域と活動についてねらい・内容を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 小テストの準備をする(5領域/ねらい)。保育内容のねらい・内容について振り返りまとめておく。
第9回	子どもの発達に応じた保育の展開 ～牛乳パック制作～	(学修内容)牛乳パック制作を通して、保育活動のねらい・内容、活動展開、保育者のかかわりを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 牛乳パックなど廃材を使った保育教材を考えてみる。制作に必要なものを準備する。
第10回	保育内容の歴史の変遷 小テスト	(学修内容)日本の保育の戦前・戦後の保育内容の歴史の変遷を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 小テストの準備をする。
第11回	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と領域・活動とのつながり	(学修内容)幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と領域および活動とのつながりを事例を通して理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 授業内の事例をノートにまとめておく。
第12回	保育内容 4 領域「人間関係」	(学修内容)領域「人間関係」のねらい・内容を理解する。子どもの発達と保育内容について、触れ合い遊びの実践から理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 知っている手遊びを書き出してくる。
第13回	保育内容 5 領域「健康」	(学修内容)子どもの発達と領域「健康」について理解する。特に基本的な生活習慣、食育の重要性を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 「早寝早起きあさごはん」運動について調べておく。
第14回	環境構成と保育活動	(学修内容)子どもの活動において環境構成の果たす役割を事例を通して理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 「環境構成」「環境整備」「環境を通して」ということばの意味について調べてくる。
第15回	子どもを主体としたカリキュラム・デザイン	(学修内容)子どもの主体性に応じた指導計画の展開について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 保育記録・評価について意味を調べてくる。

授 業 名	子どもの食と栄養a・b・c・d			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CE2308
英 文 名	Children's Food and Nutrition			開 講 時 期	春・秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	山本 明美・佐藤 愛			対 象 学 生	幼児教育2A・B・C・D				
授業の概要	<p>成長・発達過程にある子どもにとっての食は、身体の成長や生活リズムの形成、健全な心を育み、さらに将来の健康の基礎を築くうえで大切である。この授業では、食生活に関する基本的な知識を学ぶとともに、特に子どもの食について必要な配慮などについて学ぶ。また、現代の子どもたちが抱える食に関する問題点について学び、子どもの食生活がどうあるべきかを理解する等の目標を達成するために、ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションを行う。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1) 子どもにおける食の重要性と特徴を理解する。 2) 正しい食を営むための基本的な知識を習得する。 3) 子どもを取り巻く食の問題点を把握しその改善のためにどうすべきかを考え行動できる力を習得する。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (積極的な調査の実施)	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テ キ ス ト	坂本裕子編 『子どもの食と栄養』 (シリーズ名 子どもと社会の未来を拓く) 青踏社 2020年								
参 考 書	資料を配布する。								
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	実際の保育における食の問題点を見つけ、現状分析ができるように、新聞等からの情報を調査、収集しておく。授業内で子どもと食に関しての問題点や解決策などについて発表する時間を設ける。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に日時を貼付するので、確認してください。								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	現代の子どもたちの健康と食生活	(学修内容) 子どもの食生活の現状と課題 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.1~10を読んでおく 朝食の重要性など子どもたちを取り巻く諸問題を調べておく	
第2回	食に関する基礎的な知識	(学修内容) 栄養素の種類と機能について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.11~14を読んでおく 糖質や脂質、たんぱく質、ビタミン、無機質の5大栄養素を調べておく	
第3回	体内での栄養素の代謝と役割	(学修内容) 栄養素の体内での消化と吸収の仕組み、代謝について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.15~18を読んでおく 栄養素の体内での働きを調べておく	
第4回	食品の基礎的な知識と献立作成について	(学修内容) 食品成分表や日本人の食事摂取基準等を用いてバランスの良い健康的な食事について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.19~25を読んでおく 日常使用する食品の栄養成分を調べ、自分の食生活を点検しておく	
第5回	小児期の発育・発達	(学修内容) 子どもの発育・発達の特徴と評価について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.26~33を読んでおく カウプ指数やローレル指数などの発育指数について調べておく	
第6回	子どもの食生活(演習を含む)	(学修内容) 食べる機能の発達、味覚の発達について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.33~40を読んでおく 子どもの味覚と偏食を防ぐ方法を調べておく	
第7回	胎児期(妊娠期)の栄養	(学修内容) 胎児期の栄養の意義と食生活 妊産婦のための食生活指針 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.41~50を読んでおく 妊娠期に必要な栄養について調べておく	
第8回	乳児期の栄養: 乳汁(実習を含む)	(学修内容) 乳汁栄養(母乳、人工乳、混合栄養)の特徴と意義 調製粉乳の種類と調乳 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.50~60を読んでおく 無菌操作法による調乳の手順を理解しておく	
第9回	乳児期の栄養: 離乳(実習を含む)	(学修内容) 離乳の意義と離乳食の進め方 授乳・離乳の支援ガイド (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.61~75を読んでおく スプーン、タオル(小)を持参すること	
第10回	幼児期の栄養(実習を含む)	(学修内容) 幼児期の食生活の特徴と食事の援助について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.76~88を読んでおく。 子どもの間食の重要性について調べておく	
第11回	学童期・思春期の栄養と食生活	(学修内容) 学童期・思春期の特徴、学校給食について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.89~99を読んでおく 学童期・思春期の食生活上の問題点を調べておく	
第12回	特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養 子どもの食物アレルギー	(学修内容) 保育所での食物アレルギー対応について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.100~111を読んでおく 子どもの食物アレルギーの原因となる食品を調べておく	
第13回	特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養 障害のある子どもや体調不良の子ども	(学修内容) 障害のある子どもやアトピー性皮膚炎、嘔吐や下痢などの子どもへの対応について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.111~120を読んでおく 脱水症の経口補給法について調べておく	
第14回	家庭や児童福祉施設の食事と栄養	(学修内容) 家庭での食事の重要性、児童福祉施設での栄養と食生活 保育所や幼稚園での給食 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.121~136を読んでおく。 保育所における和食給食の実践について調べておく	
第15回	子どもの食育 まとめ	(学修内容) 食育の必要性と進め方 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.137~157を読んでおく。食育計画を考えて発表する	

授 業 名	保育内容・健康 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CE2316
英 文 名	Child Care : Health			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	福井 百合子			対 象 学 生	幼児教育2AB・2CD				
授業の概要	心身の健康に関する領域「健康」の意義を理解する。子どもにとって健康は、健全な成長に必要なことでもある。子どもの心身の健康とは、どのような状態を指すのかを理解する。その上で、乳幼児の保育、教育の場面での健康教育の必要性、家庭や地域における子どもの現状、子どもにおける生活習慣の確立・自立と、発達の関係について学ぶ。子どもの健康を管理する具体的な方法や、運動遊びを通じた指導法について学ぶ。								
学 修 成 果 到 達 目 標	乳幼児の健康の概念と心身の健康に関する領域「健康」のねらいと内容を理解する。 発育、発達に関する基礎的な知識をふまえ、運動遊びや生活習慣の指導など子どもの健康を保障するための具体的な方法を学ぶ。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (積極的な調査の実施)	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	岸井勇雄、無藤隆、柴崎正行監修「保育・教育ネオシリーズ16 保育内容・健康」(同文書院)								
参 考 書	近藤幹生監修「生活事例からはじめる - 保育内容-健康」(青踏社) その他は授業中に指示する								
課題に対するフィードバックの方法	事例についての考えや学習課題について回収後、次回解答を行います。								
留 意 事 項	子どもの健康に関心を持ち。新聞等から情報収集しておく。子どもの健康に関する問題点とその原因と解決策を考える。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回オフィスアワーを設けます。								
実践的教育									

授業名	保育内容・健康 a・b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	健康の概念と定義	(学修内容)健康の定義 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書の該当部分を読んでおく。 健康な状態とはどのような状態か考えておく。
第2回	健康と環境	(学修内容)乳幼児の健康と発育、発達と疾病 心身の発育、発達と環境との関係、自律神経とのかかわりについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書の該当部分を読んでおく。 心とからだのつながりについて考えておく。
第3回	子どもの発育、発達 子どもの体力	(学修内容)乳幼児の心身の発育、発達の特徴 幼児期の体力と運動、生活習慣について (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書の該当部分を読んでおく。 体力の低下の原因と対策について考えておく。
第4回	乳幼児の健康管理	(学修内容)健康と日常行動の観察 疾病予防、健康診査、環境整備、家庭との連携について (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書の該当部分を読んでおく。
第5回	領域と保育指針	(学修内容)領域「健康」の目標、ねらい、内容について 保育所保育指針の保育の内容について (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書の該当部分と、保育所保育指針、幼稚園教育要領に関するページ を読んでおく。
第6回	指導内容	(学修内容)生活習慣、健康教育、安全指導、運動遊びの指導 具体的な指導計画を考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書の子どもの体の発達と保育の変化についての部分を読んでおく。 乳幼児の遊びの具体的な指導計画を立案する。
第7回	幼児の生活習慣と生活リズム	(学修内容)子どもの健康な生活リズムと生活習慣の自立 子どもの健康と自律神経との関係や肥満予防 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書の該当部分を読んでおく。 子どもが健康的な習慣を身につけていくための方法を調べておく。
第8回	子どもの健康への関心や病気の予防	(学修内容)子どもの健康への関心や病気の予防 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書の該当部分を読んでおく。
第9回	安全や災害	(学修内容)安全や防災への意識と行動、疾病予防 保育現場での事故への対応や避難訓練について (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書の該当部分を読んでおく。
第10回	食の安全	(学修内容)食の安全について 農薬や食品添加物について (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書の該当部分を読んでおく。 食品添加物の種類を調べておく。
第11回	食育の目標	(学修内容)食育の目標、有効性と手法について (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書の該当部分を読んでおく。 子どもの健康のための、子どもや保護者を対象とした食育活動について
第12回	健康支援と健康管理	(学修内容)子どものアレルギー疾患と対処法 ケガや病気から身を守る、衛生管理、安全管理について (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書の該当部分を読んでおく。 子どもの即時型アレルギーへの対応を調べておく。
第13回	子どもの家庭生活と健康	(学修内容)子どもの家庭生活における健康 衛生、生活リズム、食、運動、心の安定について (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書の該当部分を読んでおく。
第14回	子どもの地域社会における健康	(学修内容)遊び場の整備と利用、健康プロモーション、健康の維持増進 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書の該当部分を読んでおく。
第15回	授業のまとめ、試験の説明	(学修内容)保健内容「健康」について (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業全体の復習をしておく。

授 業 名	保育内容・人間関係 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CE1304
英 文 名	Child Care : Human Relations			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	鈴木 えり子			対 象 学 生	幼児教育1AB・CD				
授業の概要	乳幼児の心身は周囲の人との出会いやかかわりを基盤として発達していくことを理解する。子どもを取り巻く人々との相互関係のなかで「人とかかわる力」をどのように形成していくかを理解し、そのうえで、保育者がどのような役割を果たさなければならないかについて、具体的な事例を取り上げ検討していく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 保育内容「人間関係」のねらい・内容が理解できる。 2) 人とかかわる力の発達過程が理解できる。 3) 領域「人間関係」を主とした活動を通して保育者の援助が理解できる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テ キ ス ト	『保育内容人間関係』徳安敦監修 青踏社								
参 考 書	文部科学省編『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 厚生労働省編『保育所保育指針解説』 フレーベル館 内閣府・厚生労働省・文部科学省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 幼年教育研究所編著「遊びの指導 乳幼児編」 同文書院								
課題に対するフィードバックの方法	課題レポートやグループ発表に対しては授業内でコメントを返します。								
留 意 事 項	グループ発表があるので、自分自身が人とかかわる力を身につけることを意識して、積極的に授業に臨むこと								
オ フ ィ ス ア ワ ー	第1回目の授業時に連絡します。								
実践的教育									

授 業 名	保育内容・人間関係 a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 自分自身の人間関係を振り返る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 今までの人間関係の変遷を振り返っておく。
第2回	保育の基本と領域「人間関係」	(学修内容) 社会的環境の変化と子どもの育ちを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 子どもの頃のことを保護者に聞きとりレポートにまとめて提出する。
第3回	領域「人間関係」のねらいと内容	(学修内容) 領域「人間関係」の意義及びねらい・内容を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト第3章読み返しておく。授業時の配布ワークシートを仕上げしておく。
第4回	人とかかわる力の発達 (0歳児)	(学修内容) 0歳児の発達と人間関係の育ちを理解する。手作りおもちゃを作成する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 家庭にあった乳児おもちゃについて思い出しておく。手作りおもちゃに必要なものを準備しておく。
第5回	人とかかわる力の発達 (1歳以上3歳未満児)	(学修内容) 1歳以上3歳未満児の発達と人間関係の育ちを理解する。 手作りおもちゃを使った実践発表をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表の準備をし、発表を通して、人とモノとの関わりについてレポートをまとめて提出する。
第6回	人とかかわる力の発達 (3歳児)	(学修内容) 3歳児の発達と人間関係の育ちを理解する。 遊びの中での人とかかわりの事例について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト第5章を読み返して事例を自分の考えをまとめておく。復習として配布プリントを完成させておく。
第7回	人とかかわる力の発達 (4歳児)	(学修内容) 4歳児の発達と人間関係の育ちを理解する 遊びを通して、思いやりを育てることについて話し合いを通じて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト第6章を読み返しておく。事例について自分の考えをまとめておく。復習として配布プリントを完成させておく。
第8回	人とかかわる力の発達 (5歳児)	(学修内容) 5歳児の発達と人間関係の育ちを理解するルーター (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト第7章の事例に対して自分の考えをまとめておく。
第9回	個の育ちと集団の育ち、保育者の役割	(学修内容) 保育における個の育ちと集団の育ちを理解する。 遊びの意義と人とかかわる力を育てる保育者の役割について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業時に紹介した保育活動についてレポートにまとめて提出する。
第10回	昔遊び・なかよし遊び	(学修内容) 昔遊びを相互に話し合う。地域による違い、現在と昔の遊びの違い。遊びを伝承していくことの意義を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として話し合いでの気づきをレポートにまとめて提出する。
第11回	グループ発表(1班～4班)と実践	(学修内容) 人とかかわりを育てる遊びを受講生を対象に実践発表する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) グループで「人間関係」のねらいを主とした活動を考えレポートを作成し提出する。発表へのコメント・評価、振り返りをまとめて提出する。
第12回	グループ発表(5班～8班)と実践	(学修内容) 人とかかわりを育てる遊びを受講生を対象に実践発表する (事前事後学修課題の内容) (20分) グループで「人間関係」のねらいを主とした活動を考えレポートを作成し提出する。発表へのコメント・評価、振り返りをまとめて提出する。
第13回	グループ発表(9班～12班)と実践	(学修内容) 人とかかわりを育てる遊びを受講生を対象に実践発表する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) グループで「人間関係」のねらいを主とした活動を考えレポートを作成し提出する。発表へのコメント・評価、振り返りをまとめて提出する。
第14回	グループ発表(13班～16班)と実践	(学修内容) 人とかかわりを育てる遊びを受講生を対象に実践発表する (事前事後学修課題の内容) (20分) グループで「人間関係」のねらいを主とした活動を考えレポートを作成し提出する。発表へのコメント・評価、振り返りをまとめて提出する。
第15回	指導計画の実際 まとめ	(学修内容) 指導計画を立案する時の考え方や留意点を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業内で実践発表した活動内容を指導計画を想定してまとめておく。

授 業 名	保育内容・環境 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CE2311
英 文 名	Child Care : Environment			開 講 時 期	春・秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	緒方 恵子			対 象 学 生	幼児教育2AB・2CD				
授業の概要	<p>幼稚園教育要領「幼児期の終わりに育みたい10の力」を育てるための「環境」をどのように構成するのか、今問われているのは保育者一人ひとりの力量である。保育内容「環境」は5領域のひとつであり、日常生活にあるさまざまな物的環境と保育者や仲間である人的環境を子どもの生活につなげ、子どもたちの生活をよりよいものにするためにはどのような指導・援助が必要なのかを考える領域である。たとえば、幼児期にとっての「環境構成」の重要性とは何かを考え、子どもたちが十分に遊びに没頭できるために、保育者はどのような配慮が必要なのか、保育者に求められる資質能力は年々高くなっている。</p> <p>この授業では幼稚園および保育所・こども園で活動する上で、必要な保育内容「環境」のねらい及び内容を踏まえ、幼児の活動を支える上で必要な知識および技術を習得し、活動上の留意点などの理解の習得と併せ、他領域との総合的保育活動へ発展させていくことを視野に入れた指導ができることを目的としている。保育現場での「環境にかかわる力」である保育活動がその後の学齢期にどのように結びつくかを考えながら指導開発を行い、自ら卒後も研究が続けられる素地をつくっていききたい。授業内では、グループディスカッション、発表等を積極的に行い、グループワークでのレジュメ作成、プレゼンテーションとして保育実践活動を行い、理論と実践の融合の中に確かな学びにつなげていく。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」のねらいと内容について説明できる。 2) 1を踏まえ、子どもを取り巻く身近な環境とのかかわりについて調べ、それらのまとめを発表することができる。 3) 実践活動を取り上げた環境教育を考え、子どもにとって知的好奇心を育成できる援助・指導の習得を目指す。 4) 事例研究やレジュメ作成にもとづき、それらの保育活動を実践することができる。 								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	山本一成編著『領域「環境」の理論と実践』(七猫社)								
参 考 書	文部科学省『幼稚園教育要領』(フレーベル館)、厚生労働省『保育所保育指針』(フレーベル館)、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(フレーベル館)								
課題に対する フィードバック の方法	個別に提出された小レポートについては内容について授業の中で解説を行い、フィードバックをする。 グループで作成したレジュメについてはその都度個別に助言・指導する。								
留 意 事 項	『環境』に関する理論面は、講義を通し理解を深め、指導の実際面に関しては、学生自身による課題を発表形式で進める。保育における環境領域の保育実践をとりあげ、事例研究や保育実践活動を通し学生達自身で学びを深め、レジュメなどに簡潔にまとめ、発表する。 授業内では子どもにとっての環境をテーマにグループごとに保育現場を想定し、実践的研究発表をグループごとに5分～10分程度の活動をしてもらう。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業日の昼休み及び授業後								
実 践 的 教 育									

授 業 名	保育内容・環境 a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション・概要 保育における「環境」とは	(学修内容) 授業の目的・全体像・進め方の説明 環境を通して行う教育・保育の重要性について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 保育における環境の意味や重要性を他領域と併せて考えまとめておく
第2回	幼児教育において育みたい資質・能力として「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と領域「環境」	(学修内容) 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「環境」の意義から事例研究を取り上げる (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト10-19を熟読し、子どもの育ちにとって環境の意義について考えてみる
第3回	物的環境 主体的な遊びの展開とは	(学修内容) 子どもの好奇心から主体的な遊びに展開できるような保育環境について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 子どもの興味・関心を大切にされた保育活動とは何か考えながら、テキストテキスト40-49を熟読すること
第4回	「方法としての環境」「内容としての環境」 環境構成について	(学修内容) 子どもの発達プロセスに沿った環境構成と環境デザインについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト20-29を熟読し、子どもにとって環境との出会いが意味あるものとなるような環境構成とは何かについて考えておく
第5回	人的環境 環境・雰囲気の中で保育者・子どもたちのかかわり	(学修内容) 保育の場の雰囲気と保育者について考え、人的環境としての保育者の役割を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト30-39を熟読し、保育者のかかわりの重要性について自らの保育者像を考えてみる
第6回	子どもにとっての保育者の役割とは 保育実践活動から再考する	(学修内容) 子どもにとって重要な保育者について考え、保育実践活動から保育者としての在り方について学びを深める (事前事後学修課題の内容) (60分) グループごとにディスカッションを行い保育実践活動を考え、レジュメを作成し、発表準備を進める
第7回	保育実践活動の発表 自己他者評価からの学び	(学修内容) グループごとに保育実践活動を行い、自己他者評価を行うことで課題改善点について自らの気付きを深める (事前事後学修課題の内容) (60分) グループ発表として各自準備と協力の下、協同性を意識する機会とし、保育者としての取り組みを改めて再考すること
第8回	保育実践活動の発表 保育者として振り返る	(学修内容) 保育実践活動の自己の振り返りから、保育者としての人的環境の重要性を考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 課題点を今後に生かすために保育者としての自己の姿を見つめ直して考えること
第9回	自然環境・社会の事象 地域の文化や自然に触れる意義	(学修内容) 自然環境や動植物、地域の文化に触れる重要性について意見交換を行い、保育に取り入れる大切さを考える (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト50-69を熟読し、保育に自然環境を取り入れたら、地域とのつながりの大切さについて考えてみる
第10回	身近な環境から生じる興味や関心 実感を伴う見方・考え方	(学修内容) 子どもの気付きから育まれる環境の教育的価値について考え、意見交換しながら学びを深める (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト94-100を熟読し、子どもの生活の中で必要感に基づいた保育について考えてみる
第11回	環境を探究するプロジェクト保育 一多様なもの見方や好奇心・探求心を育む	(学修内容) 子どもの発見や感性を生かした環境探究プロジェクトについて考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 子どもの多様な感性を活かすための体験について自らの経験も踏まえ、テキスト70-79を熟読する
第12回	環境にかかわる体験 環境にかかわることからの学び	(学修内容) 子どもが主体的に環境にかかわる姿とそこにある学びを捉える重要性について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト80-86を熟読し、子どもの遊びが学びへとつながることを考えてみる
第13回	幼児期における環境学習・教育の充実に向けて	(学修内容) 幼児期からの環境学習・教育の取り組みの重要性と環境問題と教育の観点より具体策について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 環境学習・教育を通じて学ぶ大切さと実践的な取組みについて考え、加えてグループ発表としての資料作成を行う
第14回	環境学習・教育を想定した保育活動について発表	(学修内容) 環境学習・教育としての実践プログラムを発表する (事前事後学修課題の内容) (60分) グループ発表から保育現場での環境学習・教育活動はその後の学齢期へと結び付け重要性について再考し、卒後研究に活かすようにすること
第15回	環境を通して行う保育の重要性について考え、授業全体のまとめと振り返り レポート試験	(学修内容) 領域「環境」の観点から保育を見直す重要性と全体の振り返りを行う (事前事後学修課題の内容) (60分) 子どもにとって環境の重要性を理解し、保育現場で活かせるよう振り返る

授 業 名	保育教材の研究			開 講 学 年	2回生	単 位 数		科 目 コ ー ド	CE2417
英 文 名	Study of Child Care Teaching Materials			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	鈴木 えり子			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>幼児教育における保育活動において教材は幼児の興味や関心を引き出す有効な手段であること理解する。保育現場において必要な保育教材について理解を深め、その方法及び教育目的に適した技術に関する基礎的な考え方について学ぶ。様々な保育教材の特性を探求しながら、実際に製作や実演を通して、教材研究の重要性について理解を深める。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>教材の製作や実践を通して、その方法や技術を身につけることができる。 教材研究を通して様々な素材・用具の特性を理解する。 子どもの発達や興味に応じた活用方法を多角的に考えることができる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	必要に応じて資料等を配布します。								
参 考 書	必要に応じて紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	授業内で適宜コメントを返します。								
留 意 事 項	意欲的に取り組むことを期待します。受講人数によっては別途費用が派生する場合があります。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業内で伝えます。								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	オリエンテーション 幼児教育の方法・技術の意義と重要性	(学修内容) 教育方法の基礎的理論と教材研究の必要性について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 主体性・最善の利益のキーワードを調べてくる。	
第2回	教材研究 1 (身近な素材)	(学修内容) 幼児に適した素材について実践する。 例/新聞紙を使って遊ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 子どもの身近な素材をリストアップしてくる。授業での実践を振り返りをレポートにまとめて提出する。	
第3回	教材研究 2 (子どもに適した道具・用具)	(学修内容) 幼児に適した道具の特性、指導方法を理解する。 4回目以降の教材研究の内容を具体的に話し合う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習先での道具の扱い方や指導法を振り返っておく。	
第4回	季節に応じた保育教材の研究(春) ーペープサートで自己紹介ー	(学修内容) 春の季節に応じた保育教材の研究と実践を話し合いながら行う。 実践例/ ペープサート・カード作り (事前事後学修課題の内容) (30分) 春の季節に応じた保育教材について考えてくる。	
第5回	季節に応じた保育教材の研究(夏) ー染め紙・水遊び・シャボン玉ー	(学修内容) 夏の季節に応じた保育教材の研究と実践を話し合いながら行う。 実践例/ 染め紙・水遊び・シャボン玉 (事前事後学修課題の内容) (30分) 夏の季節に応じた保育教材について考えてくる。	
第6回	季節に応じた保育教材の研究(秋) ー双眼鏡・メガネー	(学修内容) 秋の季節に応じた保育教材の研究と実践を話し合いながら行う。 実践例/双眼鏡・メガネ (事前事後学修課題の内容) (30分) 秋の季節に応じた保育教材について考えてくる。	
第7回	季節に応じた保育教材の研究(冬) ー松ぼっくりのツリー制作ー	(学修内容) 冬の季節に応じた保育教材の研究と実践を話し合いながら行う。 実践例/松ぼっくりのクリスマスツリー (事前事後学修課題の内容) (30分) 冬の季節に応じた保育教材について考えてくる。	
第8回	パネルシアター 1 作り方・演じ方の説明	(学修内容) パネルシアターの作り方、活用法を説明する。 パネルシアターの製作に関する準備を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) パネルシアターについて調べておく。	
第9回	パネルシアター 2 下書き・色塗り	(学修内容) パネルシアターの下書き、色塗りをする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時間内でできなかった箇所を事後学修で行う。	
第10回	パネルシアター 3 切り取り・ふちどり	(学修内容) パネルシアターの着色、切り取り、ふちどりを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 次の発表に向けてパネルシアターの製作を完成させる。	
第11回	パネルシアター 4 実演発表・評価	(学修内容) パネルシアターの実演発表と評価を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) パネルシアターの実演発表の練習をする。発表後に自己評価を実施する。	
第12回	幼児理解に基づいた保育教材 1 ー学生の教材研究発表ー	(学修内容) 幼児理解に基づいた保育教材を考えて作り方を提示発表する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 保育教材の提示発表の準備を行う。	
第13回	幼児理解に基づいた保育教材の提示 2 ー学生の教材研究発表ー	(学修内容) 幼児理解に基づいた保育教材を考えて作り方を提示発表する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 保育教材の提示発表の準備を行う。	
第14回	人との関係をつなぐ保育教材 ーバペット・手袋シアターー	(学修内容) 子どもの興味関心を高める保育教材を話し合いを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教育目的に応じた保育教材を具体的に作成し準備してくる。	
第15回	まとめ 保育教材の評価	(学修内容) 教材研究を振り返りを通して、保育方法や技術等、保育教材の研究の役割について各自の考えを発表する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 育みたい資質能力に基づいた保育を具現化したものとしての授業の実践例(教材)を振り返ってみる。	

授業名	教職実践演習（幼稚園）			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	CE2425
英文名	Teaching Practice (Kindergarten)			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	鈴木 えり子・水谷 隆・浅田 瞳・東野 洋子・中道 昌宏			対象学生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>教職課程の各授業が実践と結びついていることを確認できる機会をもち、学生が自己の課題を自覚する。幼稚園教育の基本をしっかりと身につけ、「遊びを通しての総合的な指導」を行うための保育実践力を高め、専門性や資質の向上を図る。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 幼稚園教員として必要な資質について説明することができる。 2) 履修カルテを参照し、自らの課題が認識できる。 3) 領域を基盤とした生活発表会の行事をグループで企画、実践発表することができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	なし								
参考書	京都教育大学附属幼稚園編 『指導計画・教育課程』 文部科学省編 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 内閣府・厚生労働省・文部科学省編 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートについては授業内でコメントをします。 グループ発表についてはその都度コメントを返します。								
留意事項	教職課程を履修し確実に身につけることができたか確認すること。特にグループ発表は現場での「協働」を意識して積極的に参加、発言すること。								
オフィスアワー	研究室前に掲示して知らせます。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：元幼稚園園長 東野洋子 外部講師 現京都市指導主事 中西昌子（予定）								

授 業 名	教職実践演習（幼稚園）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	教育実習の振り返り 教職実践演習の授業について	（学修内容）教育実習について振り返り、学びの成果と課題について省察する。 教職実践演習の意義と内容について説明する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 9月実習振り返りシートを記入してくる。
第2回	幼児期の生活・環境について - 栽培を通して育むもの-	（学修内容）栽培を通して幼児の育む姿を理解する。実際にサフランの栽培方法を実践を通して理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 栽培など今までの自分の経験を思い出しておく。サフラン開花までの観察レポートを作成し提出する。（11月末）
第3回	行事を通して育むもの 1 - 運動会の行事について - 華頂幼稚園 主事 野間晴美先生	（学修内容）運動会の目的、幼児の発達に応じた内容、日頃の遊びや生活とのつながりを理解する。 （事前事後学修課題の内容）（180分） 実習先の運動会の日程を把握しておく。実習先の運動会行事に参加しレポートを作成提出する。
第4回	行事を通して育むもの 2 - 生活発表（劇発表）について -	（学修内容）劇発表（生活発表）会の取り組みの意義について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 幼児期に体験した生活発表会を振り返っておく。
第5回	グループ活動 1	（学修内容）グループで話し合い、保育活動（劇発表）の教材を共有し、計画書を作成する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 劇発表にとりあげる教材（絵本）を選んでもってくる。
第6回	グループ活動 2	（学修内容）発表に必要な役割分担、あらすじ、全体構成など準備を行う。各グループで準備を進める。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 復習としてグループ内で決まった各自の分担役割の内容を完成させておく。
第7回	グループ活動 3	（学修内容）各グループで話し合い準備をすすめる。（衣装・大道具・小道具を作成） （事前事後学修課題の内容）（90分） 発表のリハーサルをする。リハーサル後にはグループで話し合い最終調整をしておく。
第8回	栽培から食育の体験へ	（学修内容）サフランの開花後の保育活動を実践を通して学ぶ。サフランライスを試食してみる。 （事前事後学修課題の内容）（60分） サフランの観察レポートを仕上げ提出する。
第9回	幼小連携について - 小学校への滑らかな接続を考える - 外部講師 京都市指導主事 中西昌子先生	（学修内容）幼児教育と小学校教育の接続について学び、子どもが安心して小学校生活をおくるための保育者の役割について考察する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 復習として講義内容をまとめ、レポートを提出する。グループで話し合い発表準備を行う。
第10回	学生によるグループ発表 1	（学修内容）グループ発表をしたり、他のグループ発表を見たりして、教師の役割を考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予習としてグループ発表に向けて練習・準備を完了する。復習として各グループの発表評価とコメントをまとめ提出する。
第11回	学生によるグループ発表 2	（学修内容）グループ発表をしたり、他のグループ発表を見たりして、教師の役割を考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予習としてグループ発表に向けて練習・準備を完了する。復習として各グループの発表評価とコメントをまとめ提出する。
第12回	学生によるグループ発表 3	（学修内容）グループ発表をしたり、他のグループ発表を見たりして、教師の役割を考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予習としてグループ発表に向けて練習・準備を完了する 復習として各グループの発表評価とコメントをまとめ提出する。
第13回	学生によるグループ発表 4	（学修内容）グループ発表をしたり、他のグループ発表を見たりして、教師の役割を考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予習としてグループ発表に向けて練習・準備を完了する。復習として各グループの発表評価とコメントをレポートにまとめ提出する。
第14回	学生によるグループ発表 5	（学修内容）グループ発表をしたり、他のグループ発表を見たりして、教師の役割を考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予習としてグループ発表に向けて練習・準備を完了する。復習として各グループの発表評価とコメントをまとめ提出する。
第15回	学級経営の視点 「幼児と教師でつくる生活発表会」 華頂幼稚園 主任 勝谷結花先生 履修カルテをもとに自己課題を明確にする	（学修内容）幼児理解を大切にされた日常の保育から生活発表会へつなぐ保育の実践について学ぶ。履修カルテを提出する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 履修カルテの作成を通して自己課題についてレポートを作成する。

実 習 名	教育実習	対 象 学 生	幼児教育学科2回生
担 当 者	鈴木 えり子・武田 康晴・浅田 瞳・渋谷 郁子・名賀 亨・坂口 みゆき・福井 百合子・東野 洋子・高岡 理恵・野田 隆生・山本 明美・山部 泰司・林 静香・小川 隆昭・水谷 隆・大野 照美		
実習の概要	<p>幼稚園教諭二種免許状取得に必要な幼稚園教育実習を行う。</p> <p>実習では、幼稚園の保育の中で幼児や教師とかわり、一人一人の幼児を理解することが重要であり、教師の姿から保育に対する考え方や指導方法を学んでいく。さらに、幼児とのかかわりを通して子ども観、教育観を形成していくための幼児理解を積み重ねていくことが重要である。</p> <p>机上の勉強だけでは習得できない様々な体験を重ね、幼稚園の教育現場で教員として実際に保育していく上に必要なことを学び、学校で学んだ理論や学習内容を確認する。</p> <p>実習は教師として人間として成長する重要な学びの場であり、教師として幼児を育てる意義について深く考え自覚する貴重な機会である。</p> <p>華頂短期大学附属幼稚園や各都道府県市町村の公立・私立の幼稚園および認定こども園で、2年次に4週間、教育実習を行う。6月に2週間、9月に2週間の合計4週間の実習を行う。原則、同一園で実習を行うものとする。</p> <p>教育実習の期間中に実習園を訪問し巡回指導を実施する。但し、訪問による巡回指導が難しい場合は同等の手段を用いて実施する。教育実習は、限られた期間内で効果的な体験が得られるよう、次の段階を踏まえて実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前オリエンテーション 実習園でオリエンテーションを受け、実習園の沿革、人的・物的環境、学級編成、幼児の実態、教師の役割などを総合的に把握し、幼稚園の全体像を知る。 2. 参加実習 担任の助手的な立場で保育活動に参加し、幼児とのかかわりを実習体験し、幼児のすがた、教師の対応を体験しながら学ぶ。 3. 部分実習・指導実習（研究実習） 実習生が主体となって指導計画案を立案し、実際に指導を担当する。この指導実習を通して自ら反省し指導を振り返る。さらに、担当教員から講評・指導を受けて、次への指導の向上を図る。 		
備 考	<p>「教育実習事前事後指導」（1回生秋学期、2回生春学期）を必ず履修していること。</p> <p>「教育実習事前事後指導」の出席状況、受講態度および各種レポート等の提出がない場合には、実習を中止することがあるので気をつけること。教職課程関係の授業の履修状況においても同様である。</p> <p>実習に伴う各書類の提出に不備がある場合は実習開始できないこともあるので気をつけること。</p>		

授業名	保育内容・表現（リズム・ダンス）A・B			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	CE2317
英文名	Child Care: Rhythm and Dance			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	眞崎 雅子			対象学生	幼児教育2A・2B				
授業の概要	<p>本授業は、子どもの心と体の発育発達を支えるために、保育者に必要な専門知識・技能の習得を目的とする。授業内容は、子どもの年齢に応じたリズムあそび、表現あそび等のリズムダンスを中心とした教材の実践を通して、自ら保育者としてふさわしい「柔らかな体」の獲得を目指すとともに、子ども達の豊かな表現力を引き出し、リズム表現指導の方法論を身につける。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 乳幼児期の子どもの身体や体力・運動能力を深く理解し、家庭や地域の子育て環境づくりに貢献するために求められる知識を習得する。</p> <p>2) 子どもの発育・発達に応じたリズムカルな動きや表現を習得し、豊かな人間性に基づいた深い思考・判断・表現力および指導力を身に付ける。</p> <p>3) 子どもの身体活動を安全に行い、子どもの成長に寄与する職能人として、主体性や協調性を大切にした創造的且つ協働的に取組む態度を身に付ける。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解				汎用的技能				
	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	<p>テキストは使用しない 必要に応じてプリントを配布する</p>								
参考書	<p>「子ども・からだ・表現：豊かな保育内容のための理論と演習」 西洋子 市村出版 「豊かな感性を育む身体表現遊び」 青木理子・井上勝子 ぎょうせい</p>								
課題に対するフィードバックの方法	<p>提出されたレポートについてはコメントを付けて返却する 実技については、その都合コメントする</p>								
留意事項	<p>1) 保育者を目指す学生として何事にも楽しく積極的に取り組む態度で臨むこと 2) 準備運動は自ら積極的に実施して怪我防止に努め、安全管理に留意すること 3) 運動服やシューズを着用すること</p>								
オフィスアワー	<p>担当授業終了後に実施する</p>								
実践的教育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：ダンスインストラクターとして、子どもから大人を対象に活動。活動実績として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティーセンター及び幼稚園での保護者を対象にズンバ指導 ・小学校での土曜教育プログラムにおける「リズム遊び・からだの遊び」等の講師 ・教育委員会主催体育研究会の講師、親子体操の講師 								

授 業 名	保育内容・表現（リズム・ダンス）A・B	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）子どもの身体表現・リズムダンスについて理解を深め、保育者の役割や援助について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（60分） 保育の5領域の1つ「表現」の内容を読み理解しておく
第2回	リズムダンスと表現	（学修内容）リズムに合わせて動く楽しさを体感する （事前事後学修課題の内容）（60分） 多様なリズムパターンを刻めるように練習をしておく
第3回	リズムダンスと表現 歌のリズム	（学修内容）手遊びやわらべ唄に合わせてリズムカルに動く、アレンジする （事前事後学修課題の内容）（60分） 手遊びをいくつか覚えて発表できるようにしておく
第4回	リズムダンスと表現 言葉のリズム	（学修内容）オノマトベに合わせた動きを作り、体で表現する （事前事後学修課題の内容）（60分） いくつかのオノマトベを取り上げ、それに合う動きについて考えておく
第5回	リズムダンスと表現 ペアの即興ダンス	（学修内容）ペアダンスで体験する同調や共振など、身体を通じた交流を深める （事前事後学修課題の内容）（60分） リズムの同調や共振の意義や効果について調べる
第6回	リズムダンスと表現 グループの即興ダンス	（学修内容）グル ープで体験する同調や共振、ダイナミクスなど、身体を通じた交流を深める （事前事後学修課題の内容）（60分） 身体の動きを通じた同調や共振について、保育現場でこういったものがあるか考えておく
第7回	リズムダンスと表現 イメージと即興ダンス	（学修内容）絵本やスポーツなど、動きのイメージを基に即興ダンスを楽しむ （事前事後学修課題の内容）（60分） 動きのイメージが浮かびやすいテーマについて考えておく
第8回	リズムダンスと表現 モノを使った表現	（学修内容）紙やスカーフを使った動きの表現を通して多様な動きを体験する （事前事後学修課題の内容）（60分） 身近なモノを使ったダンスについて考えておく
第9回	リズムダンスと表現 名前を使ったダンス創作	（学修内容）名前のリズムと動きを付けて創作したり、身体の部位で名前を書いて多様な動きを体験する （事前事後学修課題の内容）（60分） 名前の文字の形や音に含まれるリズムについて考えておく
第10回	リズムダンスと表現 テーマを基にした即興	（学修内容）お題やテーマから思いつく動きを自由に即興で表現する （事前事後学修課題の内容）（60分） ジェスチャーゲームのように即興的に身体で表現する練習をしておく
第11回	テーマを基に作品創作 1	（学修内容）グループ、係担当を決め、作品のテーマについて決めて創作活動を開始する （事前事後学修課題の内容）（60分） 踊りたいテーマや使いたい曲について考えておく
第12回	テーマを基に作品創作 2（選曲・モチーフ）	（学修内容）選曲やモチーフを決めて創作活動を続ける （事前事後学修課題の内容）（60分） 踊りたいテーマや動き、使いたい曲について考えておく
第13回	テーマを基に作品創作 3（全体構成）	（学修内容）作品の全体構成について考え、創作活動を続ける （事前事後学修課題の内容）（60分） 作品の構成について考えて、メリハリのある作品について考えておく
第14回	テーマを基に作品創作 4（グループ練習）	（学修内容）作品を仕上げ、大きくキレのある動きができるように練習する （事前事後学修課題の内容）（60分） 良い動きについて考えておく
第15回	創作ダンス発表 自己・他者評価 まとめ	（学修内容）自分のグループの演技を振り返り、他者グループを鑑賞してそれぞれに評価する （事前事後学修課題の内容）（60分） 自己の課題を見付け自主練習をしておく

授 業 名	ピアノ実技 a・b・c・d			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	CE2423
英 文 名	Piano			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	坂口 みゆき・高科 絵美代・服部 さやか・永峯 翠 子			対 象 学 生	幼児教育2A・2B・2C・2D				
授業の概要	ブルグミュラーからソナチネ初級レベルの学生を対象に、1回生で修得した読譜力・ピアノ演奏能力を更に向上させる。幼稚園・保育所の就職試験及び卒業後の現場で役立つピアノの演奏力を身につける。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 『ブルグミュラー25の練習曲』・『ソナチネアルバム1』等の中の指定する曲を1曲でも多く弾くことができるようになる。 2) 楽譜を正確に読むことができる。 3) 楽譜通りに強弱をつけて弾くことができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (演奏技術)	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 (読譜力)				
テ キ ス ト	『ブルグミュラー25の練習曲』・『ソナチネアルバム1』等、受講生個々の進度に合わせて随時指定する。								
参 考 書	使用しない								
課題に対するフィードバックの方法	毎回、練習してきた曲ついて、個別指導を行う。								
留 意 事 項	1) 履修条件： 学外でレッスンを受けていない 幼稚園・保育所に就職希望している 音楽 を修了している 2) 音楽療法士(2種)資格の取得を希望する学生は資格必修のため、上記の の条件に関わらず必ず履修する。 3) 本科目では「子どものうた」の弾き歌いのレッスンは基本的にしない。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	坂口(週1回 曜日と時間は研究室前に掲示)高科・服部・永峯(担当授業終了後に実施) *高科・服部・永峯のレッスンを受ける学生は、坂口のオフィスアワーも利用してください。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：英国における児童及び家庭支援を行う公的施設等で音楽療法士、オルガニスト、ピアノ講師等の経歴を持つ教員が担当								

授 業 名	ピアノ実技 a・b・c・d	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) レッソンの進め方と注意事項等の説明・レッスン曲の決定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 基本的な音楽理論について復習をしておく(口頭で理解度を確認する)
第2回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ他)	(学修内容) 教員より指定された曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第3回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ他)	(学修内容) 教員より指定された曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第4回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ他)	(学修内容) 教員より指定された曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第5回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ他)	(学修内容) 教員より指定された曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第6回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ他)	(学修内容) 教員より指定された曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第7回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ他)	(学修内容) 教員より指定された曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第8回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ他)	(学修内容) 教員より指定された曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第9回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ他)	(学修内容) 教員より指定された曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第10回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ他)	(学修内容) 教員より指定された曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第11回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ他)	(学修内容) 教員より指定された曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第12回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ他)	(学修内容) 教員より指定された曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第13回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ他)	(学修内容) 教員より指定された曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第14回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ他)	(学修内容) 教員より指定された曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第15回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ他)	(学修内容) 教員より指定された試験曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定された試験曲を練習し(1日20分~30分以上), 完成させておく

授 業 名	ピアノ実技 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	CE2424
英 文 名	Piano			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	坂口 みゆき・高科 絵美代			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	幼稚園・保育所の就職試験に対応できるピアノ技術を身につける。ピアノ曲だけでなく、初見や弾き歌いなど、随時受験する園に応じた曲も練習する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 『ブルグミュラー25の練習曲』・『ソナチネアルバム1』・『ソナタアルバム1』など、個々の進度に応じた曲を1曲でも多く弾くことができるようになる。 2) 音符だけでなく記号等も含め、楽譜を正確に読むことができる。 3) 感情を込めた演奏をすることができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (演奏技術)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 (詳細な読譜力)				
テ キ ス ト	『ブルグミュラー25の練習曲』・『ソナチネアルバム1』・『ソナタアルバム1』等、受講生個々の進度に合わせて、随時指定する。								
参 考 書	使用しない								
課題に対するフィードバックの方法	毎回、練習してきた曲について個別指導を行う。								
留 意 事 項	音楽療法士(2種)資格の取得を目指す学生は必ず履修すること								
オフィスアワー	坂口(週1回 曜日と時間は研究室前に掲示) 高科(担当授業終了後に実施 坂口のオフィスパワーも利用してよい)								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：英国における児童及び家庭支援を行う公的施設等で音楽療法士、オルガニスト等の経歴を持つ教員が担当								

授 業 名	ピアノ実技 a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) レッソンの進め方と注意事項等の説明・レッスン進捗の確認・レッスン曲の決定 (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自最後にレッスンを受けた曲を弾けるように練習しておく
第2回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容) 教員より指定された曲, または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第3回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容) 教員より指定された曲, または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第4回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容) 教員より指定された曲, または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第5回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容) 教員より指定された曲, または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第6回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容) 教員より指定された曲, または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第7回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容) 教員より指定された曲, または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第8回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容) 教員より指定された曲, または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第9回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容) 教員より指定された曲, または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第10回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容) 教員より指定された曲, または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第11回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容) 教員より指定された曲, または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第12回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容) 教員より指定された曲, または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第13回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容) 教員より指定された曲, または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第14回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容) 教員より指定された曲, または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第15回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容) 教員より指定された試験曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定された試験曲を練習し(1日20分~30分以上), 完成させておく

授業名	教育相談（幼児理解を含む。）a・b			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	CE2315
英文名	Educational Counseling (Understanding Infanats)			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	武田 康晴			対象学生	幼児教育2AB・2CD				
授業の概要	<p>保育現場における「相談」の必要性は高まっている。この授業では、保育現場における保育相談の意義と理論、保育相談の前提となる幼児の特性（幼児理解）、保育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングや相談支援に関する基礎的知識も含む）を理解した上で、保育相談の具体的な進め方、ポイント、組織的な取り組みや地域の専門機関との連携について理解を深める。現場実践においては、理論を知っているだけでなく、実際に相談に応じることが求められるため、ワークシートの記入、考えの表明、ディスカッション等によって「自分自身の対応」を常に意識しながら授業を進める。</p>								
学修成果到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 幼児の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や発達課題を適切にとらえることができるようになる。 2) 保育現場における保育相談の意義と役割について理解できる。 3) 幼児の不適応や葛藤の意味および幼児に見られるさまざまな問題行動の兆候に気づき把握する方法を理解している。 4) 保育相談に関わる基礎的な理論・概念（カウンセリングや相談支援に関する基礎知識を含む）を理解している。 5) 保育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや地域の専門機関との連携の必要性を理解する。 								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	プリントを配布する。								
参考書	杉崎雅子『スギ先生と学ぶ 教育相談の基本』萌文書林,2018、その他にも必要に応じて紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	質問事項や全体に関連する事項は授業中に口頭で説明するほか、レポートについては必要に応じてコメントを記入して返却する。								
留意事項	事例検討については、自分の考えをワークシートに記入し、プレゼンテーションとディスカッションを行うので、聴講だけでなく積極的に授業に参加する。								
オフィスアワー	研究室前に掲示し、授業時にも口頭で伝える。								
実践的教育									

授 業 名		教育相談（幼児理解を含む。）a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	科目ガイダンス、保育相談の意義と役割、保育相談の目的	（学修内容）保育相談の意義や目的を理解する。相談に応じる際の基本的知識を習得する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。	
第2回	保育相談の基本的知識	（学修内容）保育所保育指針等を活用し、保育所保育の特徴、保育所における子育て支援、保育士の専門性について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 保育所保育指針を確認しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。	
第3回	カウンセリングと相談支援の基本的知識 （1）カウンセリングと相談支援の基礎	（学修内容）全国保育士会倫理綱領の内容を確認しながら、保育士の視点について学ぶ。カウンセリングと相談支援の基礎について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 全国保育士会倫理綱領について事前学習しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。	
第4回	カウンセリングと相談支援の基本的知識（事例の検討と発表を含む） （2）保護者との信頼関係の構築	（学修内容）保護者のまなざしを念頭に、子どもの成長を保護者と共有する視点、保護者との信頼関係の構築の方法について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。	
第5回	カウンセリングと相談支援の基本的知識（事例の検討と発表を含む） （3）傾聴・共感・受容	（学修内容）カウンセリングと相談支援の基礎として、傾聴、共感的理解、受容について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。	
第6回	保育相談の目標の立て方、進め方（事例の検討と発表を含む） （1）基本的生活習慣に関すること	（学修内容）基本的生活習慣の意義を学び適切な指導方法や保護者への助言の仕方を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。	
第7回	保育相談の目標の立て方、進め方（事例の検討と発表を含む） （2）言葉の遅れが見られる場合	（学修内容）言葉の遅れの原因や発達支援を学び保護者への助言や適切な保育知識の提供を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。	
第8回	保育相談の目標の立て方、進め方（事例の検討と発表を含む） （3）発達の偏りが見られる場合	（学修内容）発達障害や配慮が必要とされる子どもの保護者への支援を学び、必要に応じて専門家とのコンサルテーションや連携の方法について習得する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。	
第9回	保育相談の目標の立て方、進め方（事例の検討と発表を含む） （4）問題行動（登園しぶり、過度の乱暴）が見られる場合	（学修内容）子どもの気になる行動の種類や背景を学び、保護者への解決への助言や支援を学ぶ。必要に応じて専門機関との連携について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。	
第10回	保育相談の目標の立て方、進め方（事例の検討と発表を含む） （5）育児不安や育児ストレスの見られる保護者への支援	（学修内容）養育上の不安や自信喪失の保護者への対応、心身に不調のある保護者への理解と支援を学び子育て支援に理解を深める。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。	
第11回	保育相談の目標の立て方、進め方（事例の検討と発表を含む） （6）虐待や不適切な養育の見られる保護者への支援	（学修内容）虐待や放任、不適切な養育の見られる保護者の状況を理解し、適切な子どもとの関わりについて支援し、助言する方法を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。	
第12回	保育相談の評価、省察、PDCAサイクル（事例の検討と発表を含む）	（学修内容）保育相談におけるPDCAサイクルを理解し、計画的な保育相談が進められるように方法や技術を習得する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。	
第13回	保護相談に必要な組織的な取り組みと園内の体制整備（事例の検討と発表を含む）	（学修内容）保育相談を効果的に進めるための園内の体制の整備を図り、役割分担やチームワークの在り方について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。	
第14回	地域の関係機関、専門機関との連携や協働（事例の検討と発表を含む）	（学修内容）地域の関係機関、専門機関の役割や機能を学び、必要に応じて連携・協働が取れるように実践的に学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。	
第15回	全体の振り返り	（学修内容）これまでの授業内容を順に振り返り、質疑応答を通じて不明な部分を解消する。 （事前事後学修課題の内容）（90分） これまでのプリントやノートを確認し質問事項を考えてくる。全体を総括してレポートをまとめる。	

授 業 名	音楽療法の器楽			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CL2708
英 文 名	Instruments for Music Therapy			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	小川 隆昭			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>本授業では、音楽療法の実践の基礎となる音楽技術を身につけることを目的とする。授業では、ギター、リコーダー、木琴、鉄琴などの演奏を行う。具体的には、初心者でも、簡単な演奏ができるように次のように授業を進める。まず、ギター、リコーダーの、音階やコードの押さえ方を習得し、また、木琴、鉄琴など、鍵盤打楽器の練習も行う。授業後半は各パートごとに分かれて合奏を行う。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) ピアノ以外（ギター・リコーダー）の旋律楽器の音階、コードを弾くことができる。 2) 打楽器（木琴・鉄琴等）の基礎的な演奏ができる。 3) ピアノ以外の旋律楽器で合奏ができる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (音楽的演奏能力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	プリント								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	練習してきたパートは授業の中で個々に指導する。								
留 意 事 項	受講生は、授業以外でも、担当楽器を必ず練習することが必要。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	後日研究室前に掲示。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		音楽療法の器楽
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス ギター	(学修内容) 授業についての説明 ギターのチューニング、指の押さえ方、音階 (事前事後学修課題の内容) (30分) ギターのチューニングが一人でできるようにする
第2回	ギター リコーダー	(学修内容) ギターのチューニング、指の押さえ方、音階 リコーダー運指の練習 (事前事後学修課題の内容) (30分) ギターの練習 リコーダーの練習
第3回	ギター リコーダー	(学修内容) ギターのチューニング、指の押さえ方、音階 リコーダー運指の練習 (事前事後学修課題の内容) (60分) ギターの練習 リコーダーの練習
第4回	ギター リコーダー	(学修内容) ギターの音階、コード リコーダー演奏法 (事前事後学修課題の内容) (60分) ギターの練習 リコーダーの練習
第5回	ギター リコーダー	(学修内容) ギターの音階、コード リコーダー演奏法 (事前事後学修課題の内容) (60分) ギターの練習 リコーダーの練習
第6回	ギター リコーダー	(学修内容) ギターの音階、コード リコーダー演奏法 (事前事後学修課題の内容) (60分) ギターの練習 リコーダーの練習
第7回	ギター リコーダー 木琴、鉄琴	(学修内容) ギターの音階、コード リコーダー演奏法、木琴、鉄琴の演奏法 (事前事後学修課題の内容) (60分) ギターの練習 リコーダー、木琴、鉄琴の練習
第8回	ギター リコーダー 木琴、鉄琴	(学修内容) ギターの演奏法 リコーダー演奏法、木琴、鉄琴の演奏法 (事前事後学修課題の内容) (90分) ギターの練習 リコーダー、木琴、鉄琴の練習
第9回	ギター リコーダー 木琴、鉄琴	(学修内容) ギターの演奏法 リコーダー演奏法、木琴、鉄琴の演奏法 (事前事後学修課題の内容) (120分) ギターの練習 リコーダー、木琴、鉄琴の練習
第10回	ギター リコーダー 木琴、鉄琴	(学修内容) ギターの演奏法 リコーダー演奏法、木琴、鉄琴の演奏法 (事前事後学修課題の内容) (120分) ギターの練習 リコーダー、木琴、鉄琴の練習
第11回	ギター リコーダー 木琴、鉄琴	(学修内容) ギターの演奏法 リコーダー演奏法、木琴、鉄琴の演奏法 (事前事後学修課題の内容) (120分) ギターの練習 リコーダー、木琴、鉄琴の練習
第12回	合奏	(学修内容) まとめ (事前事後学修課題の内容) (120分) 各自パートの練習
第13回	合奏	(学修内容) まとめ (事前事後学修課題の内容) (120分) 各自パートの練習
第14回	合奏	(学修内容) まとめ (事前事後学修課題の内容) (120分) 各自パートの練習
第15回	合奏	(学修内容) まとめ (事前事後学修課題の内容) (120分) 各自パートの練習

授 業 名	音楽療法各論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CL1704
英 文 名	Advanced Music Therapy			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	坂口 みゆき			対 象 学 生	幼児教育1回生				
授業の概要	音楽療法概論を踏まえて、心理療法としての音楽療法についてさらに理解を深める。クライアント（対象者）のニーズをさらに詳しく学び、音楽療法がクライアントをどのように援助するのか考察する。音楽療法概論に引き続き、音楽療法の「音楽」について、ワークショップやそれに伴うディスカッション等を通して体験的に理解を深める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 対象者の抱える様々なニーズを説明することができる 2) 様々なニーズを抱える対象者に対する音楽療法の概要を説明することができる。 3) 芸術的手段を通して創造的かつ自由に自己表現をすることができ、同時に表現中の自分自身の内的反応を素直に感じることができるようになる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	適宜プリントを配布する。								
参 考 書	稲田雅美 (2016) 『こころをつなぐミュージックセラピー：ことばを超える音との対話』ミネルヴァ書房 藤田哲也監修 串崎真志編著 (2016) 『絶対役立つ臨床心理学：カウンセラーを目指さないあなたにも』ミネルヴァ書房								
課題に対する フィードバック の方法	授業内で提出したレポートについては、コメント等を入れて返却する。 ワークショップやディスカッションでは、その場で適宜口頭でコメント・助言等を行う。								
留 意 事 項	配布プリントの次回の講義に関連する部分を読んだ上で授業に臨んでください。ワークショップでは特に、積極的・主体的な取り組みを評価します。また、学生からの積極的な発言は歓迎します。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など： 英国公認音楽療法士であり、英国の障害児支援施設や幼稚園において障害のある子どもの臨床経験を持つ。帰国後は、小児科併設施設で障害のある子ども～青年の臨床や、高齢者施設での臨床を行ってきた。授業では、臨床経験に基づいて事例の具体的な解説や実践的なワークショップを行う。								

授業名	音楽療法各論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	イントロダクション：音楽療法士に求められるもの	(学修内容) 秋学期の授業計画について説明を受け理解する/音楽療法士(2種)資格について確認する/音楽療法士に求められるものについて学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後学修として、配布資料を読み感想を小レポートにまとめて提出する。
第2回	音楽療法士の仕事を概観する	(学修内容) 音楽療法士の仕事の実際について、配布資料を読みながら理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後学修として、今回の授業で学んだことを小レポートにまとめて提出する。
第3回	ワークショップ(実技とディスカッション)：コラージュを演奏する	(学修内容) コラージュを制作し、作ったコラージュを見ながら即興的な音楽づくりをする。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として、ワークショップを通して感じたことや思ったこと、考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。
第4回	発達の援助と音楽療法：発達障害と知的障害の概観	(学修内容) 発達障害と知的障害について概観し、これらの障害を持つ子どものニーズを考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第5回	発達の援助と音楽療法：ニーズのある子どもの発達を援助する音楽療法	(学修内容) 様々なニーズを持つ子どもの発達を援助する音楽療法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み、内容を小レポートにまとめて提出する。
第6回	ワークショップ(実技とディスカッション)：音楽を目に見える形で表現する	(学修内容) 音楽を鑑賞しながら、様々な素材を用いて自由に描画・制作をする。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として、ワークショップを通して感じたことや思ったこと、考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。
第7回	知的障害と音楽療法：知的障害者の心のニーズ	(学修内容) 知的障害者の心のニーズについて、特にシナソンのセカンダリー・ハンディキャップの概念を通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第8回	知的障害と音楽療法：知的障害者の心のニーズを取り扱う音楽療法	(学修内容) 知的障害者の心のニーズを取り扱う音楽療法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第9回	ワークショップ(実技とディスカッション)：制作したものを音楽で表す	(学修内容) 前回のワークショップで制作したものを見ながら即興的な音楽づくりをする。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として、ワークショップを通して感じたことや思ったこと、考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。
第10回	精神疾患と音楽療法：精神疾患の概要	(学修内容) 精神疾患の概要を学び、精神障害を患う人びとの心のニーズや社会的ニーズについて考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第11回	精神疾患と音楽療法：精神障害者のニーズを取り扱う音楽療法	(学修内容) 精神障害者のニーズを取り扱う音楽療法とニーズに応じた実践形態について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第12回	ワークショップ(実技とディスカッション)：言葉を音楽で表す	(学修内容) 形容詞と名詞を組み合わせる言葉をつくり、その言葉を即興的に音楽で表す。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として、ワークショップを通して感じたことや思ったこと、考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。
第13回	高齢者と音楽療法：高齢者が患う病と心のニーズ	(学修内容) 高齢者が患う病の概要を学び、高齢者の心のニーズを考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第14回	高齢者と音楽療法：高齢者のニーズを取り扱う音楽療法	(学修内容) 高齢者のニーズを取り扱う音楽療法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第15回	秋学期のまとめとワークショップ(実技とディスカッション)：年度終わりの即興演奏	(学修内容) 秋学期に学んだことのまとめと、グループ即興を行う。ワークショップを通して感じたことなどを感想を話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として、ワークショップを通して感じたことや思ったこと、考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。

授業名	音楽療法概論			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	CL1701
英文名	Introduction to Music Therapy			開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	坂口 みゆき			対象学生	幼児教育1回生				
授業の概要	音楽療法の歴史を踏まえながら、現在行われている音楽療法の実践・理論の概要と、臨床場面で音楽を活用する意義について、特に音楽療法の先進国である欧米の現状から学ぶ。また、音楽療法がクライアント（対象者）のどのようなニーズを取り扱うのかを学ぶ。さらに、楽器を用いたワークショップやそれに伴うディスカッション等を通して、音楽療法における「音楽」と一般的な「音楽」の相違点と類似点を体験的に学ぶ。								
学修成果到達目標	1) 音楽療法の歴史・実践・理論の概要を説明することができる。 2) 音楽療法の実践領域と音楽療法が取り扱うニーズを説明することができる。 3) 音楽療法における「音楽」の意義について説明することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	適宜プリントを配布する。								
参考書	稲田雅美 (2016) 『こころをつなぐミュージックセラピー：ことばを超える音との対話』ミネルヴァ書房 藤田哲也監修 申崎真志編著 (2016) 『絶対役立つ臨床心理学：カウンセラーを目指さないあなたにも』ミネルヴァ書房								
課題に対するフィードバックの方法	授業内で提出したレポートについては、コメント等を入れて返却する。ワークショップやディスカッションでは、その場で適宜口頭でコメント・助言等を行う。								
留意事項	毎回、配布プリントの次回の講義に関連する部分を読んだ上で授業に臨んでください。ワークショップでは、特に積極的・主体的な取り組みを評価します。学生からの積極的な発言も歓迎します。								
オフィスアワー	週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。								
実践的教育	実践的教育 教員の実際経験など：英国公認音楽療法士であり、英国の障害児支援施設や幼稚園において障害のある子どもの臨床経験を持つ。帰国後は、小児科併設施設で障害のある子ども～青年の臨床や、高齢者施設での臨床を行ってきた。授業では、臨床経験に基づいて事例の具体的な解説や実践的なワークショップなどを行う。								

授業名	音楽療法概論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	イントロダクション	(学修内容) 春学期の授業計画について/音楽療法士(2種)資格について/音楽療法とは何か、その理解のための導入 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後学修として、配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第2回	音楽療法の歴史と発展	(学修内容) 音楽療法の誕生から現在までの発展について学ぶ。音楽療法とは何か、国際的な共通認識を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第3回	ワークショップ(実技とディスカッション):音楽療法で使う楽器に触れる・気持ちを音で表してみる	(学修内容) 音楽療法で使用する楽器に触れる。いろいろな気持ちや感情を様々な楽器を使って即興的に表す体験をする。感じたことを話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として、ワークショップを通して感じたことや思ったこと、考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。
第4回	心理療法としての音楽療法:行動学的アプローチ	(学修内容) 行動理論に基づく音楽療法の理論と実践について学ぶと同時に音楽療法が基本的な何を取り扱っているのかを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第5回	心理療法としての音楽療法:人間性心理学的アプローチ	(学修内容) 人間性心理学に基づく音楽療法の理論と実践について学ぶ。人間性心理学から他のアプローチにも通底する「セラピストの在り方」を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第6回	ワークショップ(実技とディスカッション):図形楽譜を使って即興する	(学修内容) 図形楽譜を用いて、即興的な音楽づくりを体験的に学ぶ。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として、ワークショップを通して感じたことや思ったこと、考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。
第7回	心理療法としての音楽療法:精神分析的アプローチ	(学修内容) 精神分析理論に基づく音楽療法の理論と実践について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第8回	音楽療法の対象者と実践形態	(学修内容) 音楽療法が対象者のどのようなニーズを取り扱うのかを学ぶ。またニーズに応じた実践形態を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第9回	ワークショップ(実技とディスカッション):絵を演奏する	(学修内容) 絵を見ながら、即興的な音楽づくりを行う。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として、ワークショップを通して感じたことや思ったこと、考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。
第10回	音楽療法の「音楽」について	(学修内容) 音楽療法における「音楽」について学ぶ。「即興的な音楽づくり」が音楽療法の臨床に用いられる意義を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第11回	心理療法と芸術の意義	(学修内容) ここまで学んできたことを踏まえて、改めて「心理療法」とは何か考察し、心理療法における芸術の意義を検討する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後学修として、この授業で学んだ「心理療法における芸術の意義」を小レポートのまとめ提出する。
第12回	ワークショップ(実技とディスカッション):物語を演奏する	(学修内容) 絵本などの物語を読み、即興的な音楽づくりをする。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として、ワークショップを通して感じたことや思ったこと、考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。
第13回	近年の音楽療法の動向:音楽中心音楽療法	(学修内容) 「音楽中心音楽療法」について学ぶ中で、即興的な音楽づくりの本質を考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第14回	近年の音楽療法の動向:文化中心音楽療法	(学修内容) 「文化中心音楽療法」について学ぶ中で、人と文化の関係と、クライアントの抱えるニーズについて理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第15回	ワークショップ(実技とディスカッション):「今」を演奏する	(学修内容) 「今」思いつくままに、即興で音を奏で、音楽づくりをする。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として、ワークショップを通して感じたことや思ったこと、考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。

授 業 名	音楽療法演習			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CL2709
英 文 名	Seminar on Music Therapy			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	坂口 みゆき			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	音楽療法実習（保育実習 又は ）に向けて子どもの発達を促す音楽活動を考える。また考えた音楽活動を発表し、クラスメイトを対象者に見立てて実践する（ワークショップ）。ディスカッションやレポート作業を通して、体験的な学びを言語化し考察する力や、考え・感じたことを他者と共有する力を身につける。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 子どもの発達を踏まえた音楽活動を考案することができる 2) 1)の音楽活動を発表し、ワークショップを展開することができる 3) 1)及び2)の体験的な学びをレポートにまとめ考察することができる								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)		課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	必要に応じて資料を配布する								
参 考 書	稲田雅美著『こころをつなぐミュージックセラピー：ことばを超える音との対話』ミネルヴァ書房								
課題に対する フィードバック の方法	授業内で提出したレポートについては、コメント等を入れて返却する。 ワークショップやディスカッションでは、その場で適宜口頭でコメント・助言等を行う。								
留 意 事 項	本演習は音楽療法実習の事前指導的な性格を持つため、本科目未履修の場合、また提出物の未提出や無断欠席等により単位を取得できなかった場合、実習ができなくなることがあります。積極的な取り組みと努力を特に必要とします。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：英国公認音楽療法士であり、英国の障害児支援施設や幼稚園において障害のある子どもの臨床経験を持つ。帰国後は、小児科併設施設で障害のある子ども～青年の臨床や、高齢者施設での臨床を行ってきた。授業では、臨床経験に基づいて実践的なワークショップなどを行う。								

授 業 名		音楽療法演習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	・イントロダクション ・ワークショップ：音楽的な再会	(学修内容) 春学期の授業計画と音楽活動の発表について説明を受け理解する/クラスメイトと即興的な音楽づくりを通して再会する (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として、ワークショップを通して感じたことや考えたことを小レポートにまとめ提出する。	
第2回	子どもの発達と援助 : 音楽療法と保育の共通点と相違点	(学修内容) 子どもの発達とその援助について学ぶ中で、音楽療法と保育の共通点と相違点を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み、内容を小レポートにまとめ提出する。	
第3回	子どもの発達と援助 : 子どもの音楽発達	(学修内容) 子どもの音楽発達について概観し、音楽を介した発達の援助にどのように生かすことができるか考える。発表について説明を受け理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み、内容を小レポートにまとめ提出する。	
第4回	個別指導 : 子どもの発達に即した音楽活動の発表に向けて	(学修内容) 「子どもの発達に即した音楽活動」の発表に向けて、個別指導を受ける。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 子どもの発達に即した音楽活動の発表内容を考え、ノート等にまとめて持参する。	
第5回	個別指導 : 子どもの発達に即した音楽活動の発表に向けて	(学修内容) 「子どもの発達に即した音楽活動」の発表に向けて、個別指導を受ける(前回からの続き)。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 子どもの発達に即した音楽活動の発表内容を考え、ノート等にまとめて持参する。	
第6回	子どもの発達に即した音楽活動 : 0歳児	(学修内容) 0歳児の発達段階を踏まえた音楽活動について発表担当者が発表する。考案した音楽活動を実施し、ディスカッションをする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表者は発表の準備をし、配布するレジメを作成する。 事後学修として、今回の発表についてレポートにまとめ提出する。	
第7回	子どもの発達に即した音楽活動 : 1歳児	(学修内容) 1歳児の発達段階を踏まえた音楽活動について発表担当者が発表する。考案した音楽活動を実施し、ディスカッションをする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表者は発表の準備をし、配布するレジメを作成する。 事後学修として、今回の発表についてレポートにまとめ提出する。	
第8回	子どもの発達に即した音楽活動 : 2歳児	(学修内容) 2歳児の発達段階を踏まえた音楽活動について発表担当者が発表する。考案した音楽活動を実施し、ディスカッションをする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表者は発表の準備をし、配布するレジメを作成する。 事後学修として、今回の発表についてレポートにまとめ提出する。	
第9回	子どもの発達に即した音楽活動 : 2歳児/3歳児	(学修内容) 2歳児/3歳児の発達段階を踏まえた音楽活動について発表担当者が発表する。考案した音楽活動を実施し、ディスカッションをする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表者は発表の準備をし、配布するレジメを作成する。 事後学修として、今回の発表についてレポートにまとめ提出する。	
第10回	子どもの発達に即した音楽活動 : 3歳児	(学修内容) 3歳児の発達段階を踏まえた音楽活動について発表担当者が発表する。考案した音楽活動を実施し、ディスカッションをする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表者は発表の準備をし、配布するレジメを作成する。 事後学修として、今回の発表についてレポートにまとめ提出する。	
第11回	子どもの発達に即した音楽活動 : 4歳児	(学修内容) 4歳児の発達段階を踏まえた音楽活動について発表担当者が発表する。考案した音楽活動を実施し、ディスカッションをする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表者は発表の準備をし、配布するレジメを作成する。 事後学修として、今回の発表についてレポートにまとめ提出する。	
第12回	子どもの発達に即した音楽活動 : 4歳児/5歳児	(学修内容) 4歳児/5歳児の発達段階を踏まえた音楽活動について発表担当者が発表する。考案した音楽活動を実施し、ディスカッションをする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表者は発表の準備をし、配布するレジメを作成する。 事後学修として、今回の発表についてレポートにまとめ提出する。	
第13回	子どもの発達に即した音楽活動 : 5歳児	(学修内容) 5歳児の発達段階を踏まえた音楽活動について発表担当者が発表する。考案した音楽活動を実施し、ディスカッションをする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表者は発表の準備をし、配布するレジメを作成する。 事後学修として、今回の発表についてレポートにまとめ提出する。	
第14回	子どもの発達に即した音楽活動 : 学童	(学修内容) 学童期の子どもの発達段階を踏まえた音楽活動について発表担当者が発表する。考案した音楽活動を実施し、ディスカッションをする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表者は発表の準備をし、配布するレジメを作成する。 事後学修として、今回の発表についてレポートにまとめ提出する。	
第15回	子どもの発達に即した音楽活動 : 学童 ワークショップ：学期終わりのグループ即興	(学修内容) 学童期の子どもの発達段階を踏まえた音楽活動について発表担当者が発表する。考案した音楽活動を実施し、ディスカッションをする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表者は発表の準備をし、配布するレジメを作成する。 事後学修として、今回の発表についてレポートにまとめ提出する。	

授 業 名	音楽療法総合演習			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CL2717
英 文 名	Integrated Seminar of Music Therapy			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	坂口 みゆき			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	音楽療法の実際について事例を通して学ぶことを中心とする。必要な理論や対象者のニーズを学び、ディスカッション・ワークショップを通して考察を深める。また、即興的音楽づくりのワークショップを行い、即興的・創造的に自己表現し他者とコミュニケーションすることを学ぶ。自分自身を理解することを通して対象者への理解を深めることを経験する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 音楽療法の対象者のニーズを理解・考察することができる 2) 事例を通して音楽療法の臨床を学び、その在り方や介入について考察することができる 3) 講義・ディスカッション・ワークショップを通して学んだ内容をレポートにまとめ考察することができる								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	適宜資料を配布する								
参 考 書	稲田雅美著『こころをつなぐミュージックセラピー：ことばを超える音との対話』ミネルヴァ書房								
課題に対する フィードバック の方法	ワークショップやディスカッションでは、その場で適宜口頭でコメント・助言等を行う。								
留 意 事 項	ディスカッションやワークショップを通して学びを深めます。積極的・自主的にクラスに貢献する姿勢を評価します。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：英国公認音楽療法士であり、英国の障害児支援施設や幼稚園において障害のある子どもの臨床経験を持つ。帰国後は、小児科併設施設で障害のある子ども～青年の臨床や、高齢者施設での臨床を行ってきた。授業では、臨床経験に基づいて事例の具体的な解説や実践的なワークショップなどを行う。								

授 業 名		音楽療法総合演習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	イントロダクション 実習の振り返り	(学修内容) 秋学期の授業計画について説明を受け理解する。夏休み中の実習で実際に行った音楽活動についてそれぞれ発表しディスカッションする。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 実習で行った音楽活動の内容や感想・反省点を発表する準備をしておく。	
第2回	〔前半〕心の発達を援助する音楽療法の実際 : 自閉スペクトラム障害を持つ子どものニーズ 〔後半〕即興的音楽づくりのワークショップ	(学修内容) 一例として自閉スペクトラム障害を取り上げ、障害の特性やニーズの理解を深めつつ、音楽療法がどのように援助をしていくのかを考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読み、内容を小レポートにまとめて提出する。	
第3回	〔前半〕心の発達を援助する音楽療法の実際 : 音楽療法の在り方 〔後半〕即興的音楽づくりのワークショップ	(学修内容) 自閉スペクトラム障害を持つ子どもの発達を援助する音楽療法について事例を通して理解を深める(グループワークとディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読み、グループワークができるように内容や感想をまとめておく。	
第4回	〔前半〕心の発達を援助する音楽療法の実際 : 介入の実際 〔後半〕即興的音楽づくりのワークショップ	(学修内容) 自閉スペクトラム障害を持つ子どもの発達を援助する音楽療法について事例を通して理解を深める(グループワークとディスカッションの続き) (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読み、グループワークができるように内容や感想をまとめておく。	
第5回	心の発達を援助する音楽療法の実際 : 体験的学び	(学修内容) 前回までの学びを踏まえ、ワークショップを行い体験的に学ぶ。ワークについてディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 第3回と第4回のグループワーク・ディスカッションの内容を小レポートにまとめて提出する。	
第6回	心の発達を援助する音楽療法の実際 : 体験的学び(続き)	(学修内容) 前回に引き続き、ワークショップを行い体験的に学ぶ。ワークについてディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回のワークショップを踏まえ、今回のワークショップの準備をしておく。	
第7回	〔前半〕心の発達を援助する音楽療法の実際 : 介入の実際 〔後半〕即興的音楽づくりのワークショップ	(学修内容) 自閉スペクトラム障害を持つ子どもの発達を援助する音楽療法について、さらに事例を読み進める(グループワークとディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読み、グループワークができるように内容や感想をまとめておく。	
第8回	〔前半〕心の発達を援助する音楽療法の実際 : 介入の実際 〔後半〕即興的音楽づくりのワークショップ	(学修内容) 引き続き自閉スペクトラム障害を持つ子どもの発達を援助する音楽療法について、事例を読み進める(グループワークとディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読み、グループワークができるように内容や感想をまとめておく。	
第9回	ワークショップ: 他者を音楽的に伴走(伴奏)する	(学修内容) 音楽療法士はどのようにクライアントの在り方を音楽的に支えるのかワークを通して体験的に学ぶ。ワークについてディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 第7回と第8回のグループワークとディスカッションの内容を小レポートにまとめて提出する。	
第10回	ワークショップ: 音楽的に「共にいる」こと	(学修内容) 前回に引き続き音楽療法士はどのようにクライアントの在り方を音楽的に支えるのか体験的に学ぶ。ワークについてディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回のワークショップを踏まえて、今回のワークショップの準備をしておく。	
第11回	〔前半〕グループ形態の音楽療法 : グループが形成されるプロセス 〔後半〕即興的音楽づくりのワークショップ	(学修内容) 小グループでのセラピーについて、文献を通して理解を深める(グループワークとディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読み、グループワークができるように内容や感想をまとめておく。	
第12回	〔前半〕グループ形態の音楽療法 : 相手を受けとめることから音楽的体験へ 〔後半〕即興的音楽づくりのワークショップ	(学修内容) 引き続き、小グループでのセラピーについて、文献を通して理解を深める(グループワークとディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読み、グループワークができるように内容や感想をまとめておく。	
第13回	〔前半〕グループ形態の音楽療法 : グループで「音楽すること」 〔後半〕即興的音楽づくりのワークショップ	(学修内容) 引き続き、小グループでのセラピーについて、文献を通して理解を深める(グループワークとディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読み、グループワークができるように内容や感想をまとめておく。	
第14回	「音楽療法の終結」と学びの終わりに向けて~即興的音楽づくりのワークショップ	(学修内容) 音楽療法の終結について学び、その重要性を理解・考察する。2年間の音楽療法の学びを振り返り、音楽療法の仲間とお別れする準備をする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 第11回~第13回のグループワークとディスカッションの内容を小レポートにまとめて提出する。	
第15回	「音楽療法の終結」と学びのまとめ~即興的音楽づくりのワークショップ	(学修内容) 前回に引き続き2年間の学びを振り返り、音楽療法の仲間とお別れする中で、「終結」の重要性にさらに思いを巡らせる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 2年間の音楽療法の学びを振り返り、学んだことや感想を発表できるように準備をしておく。	

授業名	音楽史			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	CL2716
英文名	History of Music			開講時期	秋学期		必修選択	必修	
担当者	山中 信子			対象学生	幼児教育2回生				
授業の概要	古代から現代までの西洋音楽史を概観し、その音楽の特徴を把握する。また、日本音楽の史的展開との比較・検討を通して、それぞれの様式発展の特徴を知る。このため、講義だけでなく、音楽史上の人物・および作品について研究発表を行い、ディスカッションやグループワーク等を通して授業を進めていく。								
学修成果到達目標	1) 西洋音楽の史的展開を把握するとともに各々の時代の作曲家の特徴的手法を聞き取り、理解することができる。 2) 日本音楽の史的展開を概観するとともにその音楽の特徴を理解することができる。 3) 西洋および日本音楽の史的展開の特徴を比較・検討することにより、各々の様式変遷の道程を幅広い視点から理解することができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	『いちばんやさしい音楽史』北村英明著 メトロポリタンプレス								
参考書	授業にて指示する。								
課題に対するフィードバックの方法	小レポートは回収後、コメントを付けて返却する。 また、発表に関しては履修者全員がコメントシートに記入し、それをもとに討議を行う。また、コメントシートは教員が回収した後、意見をピックアップし、授業で履修者全員と共有した後に返却する。								
留意事項	発表に関する相談(作品の選定・音や映像資料などの検索方法を含む)は個別に受け付ける。								
オフィスアワー	研究室に日時を掲示するので、確認すること。								
実践的教育									

授業名	音楽史	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	現代の音楽(偶然性の音楽)	(学修内容)偶然性の音楽(ジョン・ケージ)の音楽について (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業後、ジョン・ケージの音楽について、授業で取り上げた作品以外の作品を一つ取り上げて小レポートを作成し、提出すること。
第2回	現代の音楽(サウンドスケープ・ミニマルミュージック)	(学修内容)サウンドスケープ(マリー・シェーファー)、ミニマル・ミュージック(スティーヴ・ライヒ等)について (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業後、サウンドスケープ・ミニマルミュージックいずれかを選んで小レポートを作成し、提出すること。
第3回	ジャズ	(学修内容)ガーシュウィンとジャズについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業後、ガーシュウィンとジャズとの関係について小レポートを作成し、提出すること。
第4回	12音技法	(学修内容)シェーンベルクの12音技法について (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業後、シェーンベルクの作品について小レポートを作成し、提出すること。
第5回	近代	(学修内容)パリ博覧会と近代の音楽に関するグループ発表・ディスカッション (事前事後学修課題の内容)(60分) 近代の音楽に関する発表準備をしておくこと。
第6回	ロマン派	(学修内容)前・後期ロマン派の音楽についてのグループ発表・ディスカッション (事前事後学修課題の内容)(60分) 前・後期ロマン派の音楽に関する発表準備をしておくこと。
第7回	古典派	(学修内容)ハイドン・モーツァルト・ベートーヴェン等の音楽についてのグループ発表・ディスカッション (事前事後学修課題の内容)(60分) 古典派の音楽に関する発表準備をしておくこと。
第8回	前古典派	(学修内容)シンフォニーとソナタ形式について (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業後、マンハイム楽派とベルリン楽派の功績に関する小レポートを作成して提出すること。
第9回	バロック(様式)	(学修内容)コンチェルトとオペラの誕生について (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業後、バロック音楽の様式に関する小レポートを作成して提出すること。
第10回	バロック(作曲家とその功績)	(学修内容)J.S.バッハの音楽と調性について(メンデルスゾーンによるバッハ復活の経緯含む) (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業後、J.S.バッハの音楽作品と調性に関する小レポートを作成して提出すること。
第11回	中世・ルネサンス	(学修内容)グレゴリオ聖歌、単声から多声音楽への変遷、ヒルデガルド・フォン・ピンゲンの音楽について (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業後、グレゴリオ聖歌かヒルデガルド・フォン・ピンゲンの音楽のいずれかをテーマに選定し、小レポートを作成して提出すること。
第12回	雅楽	(学修内容)雅楽とその楽器のルーツ、伝播について (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業後、雅楽の伝播について小レポートを作成して提出すること。
第13回	雅楽以外の日本の音楽の諸相	(学修内容)浄瑠璃・能、その他の日本の芸能とその発展について (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業後、日本の芸能とその音楽の特徴について小レポートを作成して提出すること。
第14回	日本音楽史・西洋音楽史の発展とその比較	(学修内容)日本と西洋音楽の通史的比較 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業後、日本と西洋の音楽通史比較について小レポートを作成して提出すること。
第15回	小泉文夫の功績・授業のまとめ	(学修内容)小泉文夫の日本音楽史への視点とその功績について・授業のまとめ (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業後に小泉文夫の功績についてまとめ、小レポートを作成して提出すること。

授 業 名	レクリエーション実習			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CL2710
英 文 名	Recreation Training			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	名賀 亨			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	地域で展開されているレクリエーション事業についての情報収集を行い、事業に参加することを通して実際の活動について理解する。都道府県および市区町村のレクリエーション協会が実施する行事やイベントを理解するとともに、スタッフやインストラクターがどのような役割を果たしているのか学ぶ。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 外部のレクリエーション活動への参加を通してレクリエーション活動を身近な実戦として理解することができる。 2) レクリエーション活動の基礎的技能を身につけ、円滑な実践展開ができるようになる。 3) ルールや運営方法などを理解し、運営能力を身につけることができる。 4) 全体を通じてレクリエーションに対する理解を深め、レクリエーション実践の意識を高めることができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	使用しない 適宜プリントを配布								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	現場実習に関して必要な相談に応じ支援する								
留 意 事 項	レクリエーション協会が主宰する事業での実習（事業参加・スタッフ参加）、保育実習、教育実習、学内での主催事業などの組み合わせに十分留意して実習を計画し適切に参加すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	水曜日 12:20～13:00								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：1988年～18年間、ボランティア・市民活動支援組織において、その後2008年から13年間青少年を対象にしたボランティア学習プログラムを通じたレクリエーションプログラムを実践するとともに、ファシリテーターとしてのインストラクターの在り方について実践と研究を進めてきた。								

授業名	レクリエーション実習	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の枠組みや実習への取り組み方法などについての説明 (事前事後学修課題の内容) (60分) シラバスを確認するとともに、資格取得の意識を再確認しておく。
第2回	レクリエーション実習計画の策定	(学修内容) 必要な実習の内容と実習計画を策定する (事前事後学修課題の内容) (60分) レクリエーション協会実施の事業プログラムの情報を収集しておく
第3回	レクリエーション実習計画の策定	(学修内容) 必要な実習の内容と実習計画を策定する (事前事後学修課題の内容) (60分) レクリエーション協会実施の事業プログラムの情報を収集しておく
第4回	事業参加	(学修内容) 計画に基づいて学外実習に参加する (事前事後学修課題の内容) (60分) 参加する事業内容について情報を収集し実践の準備をしておく
第5回	事業参加	(学修内容) 計画に基づいて学外実習に参加する (事前事後学修課題の内容) (60分) 参加する事業内容について情報を収集し実践の準備をしておく
第6回	事業参加	(学修内容) 計画に基づいて学外実習に参加する (事前事後学修課題の内容) (60分) 参加する事業内容について情報を収集し実践の準備をしておく
第7回	事業参加	(学修内容) 計画に基づいて学外実習に参加する (事前事後学修課題の内容) (60分) 参加する事業内容について情報を収集し実践の準備をしておく
第8回	事業参加	(学修内容) 計画に基づいて学外実習に参加する (事前事後学修課題の内容) (60分) 参加する事業内容について情報を収集し実践の準備をしておく
第9回	事業参加	(学修内容) 計画に基づいて学外実習に参加する (事前事後学修課題の内容) (60分) 参加する事業内容について情報を収集し実践の準備をしておく
第10回	事業参加	(学修内容) 計画に基づいて学外実習に参加する (事前事後学修課題の内容) (60分) 参加する事業内容について情報を収集し実践の準備をしておく
第11回	事業参加	(学修内容) 計画に基づいて学外実習に参加する (事前事後学修課題の内容) (60分) 参加する事業内容について情報を収集し実践の準備をしておく
第12回	事業参加	(学修内容) 計画に基づいて学外実習に参加する (事前事後学修課題の内容) (60分) 参加する事業内容について情報を収集し実践の準備をしておく
第13回	事業参加	(学修内容) 計画に基づいて学外実習に参加する (事前事後学修課題の内容) (60分) 参加する事業内容について情報を収集し実践の準備をしておく
第14回	事業参加	(学修内容) 計画に基づいて学外実習に参加する (事前事後学修課題の内容) (60分) 参加する事業内容について情報を収集し実践の準備をしておく
第15回	授業のまとめ	(学修内容) 実習の内容を整理しまとめる (事前事後学修課題の内容) (60分) ここまでの実習を整理しておく

実習名	保育実習 a	対象学生	幼児教育2回生
担当者	武田 康晴		
実習の概要	<p>1. 目標・目的 「保育実習（保育所・施設）」の保育所実習で学んだ内容を発展的に深化させ、実践力や応用力をさらに高めることを目的とする。</p> <p>2. 保育実習（施設）の内容 利用者の成長・発達、またニーズを理解し、個々に応じた保育者の援助について学ぶ。 健康管理、安全対策、子どもや利用者の心身の状態に応じた環境づくりを学ぶ。 保育実習の内容（観察・参加・部分実習）に加えて、必要に応じて指導計画を立案し研究実習を行う。 保育士の業務内容や職業倫理を学び、記録に基づく省察と自己評価を行う。</p> <p>3. 実習生に対する指導方法 原則的に実習中に1回以上、巡回指導を行い、施設の実習指導担当者との連携のもとに実習生へのスーパービジョンを行う。</p> <p>4. 実習形態 学校の幹旋した児童福祉施設（児童館を含む）または障害者支援施設で実習を行う。 期間は、原則2回生の8月のうち10日間以上（休みを除く）であり、80時間以上の実習を行わなければならない。</p> <p>5. 事前事後指導等の内容等（必要性）について 「保育実習指導」で事前指導を受けた者が、実習を行うことができる。保育実習指導で提出物・レポート等の未提出並びに無断欠席した場合には、準備ができていないという理由で実習を行えないことがある。体調管理や衛生管理が求められる実習だけに、保育実習指導での着実な準備が実習実施の可否の判断基準となる。また、実習後には、実習先の評価に基づいた評価面談を行って、実習の学びを振り返る。実習日誌や出勤簿の提出を義務付ける。</p>		
備考	<p>1. 実習受講の条件など ・「保育実習」の実習を終了していること。 ・「保育実習」の単位を取得するには、「保育実習指導」の単位を取得することを条件とする。 「保育実習」と「保育実習指導」は形式上個別に単位認定されるが、それぞれが連動している科目のため片方のみ単位認定されることはない。</p> <p>2. 実習態度、参加意欲など 以下に反した場合、実習中止となることがある。 ・実習中に知り得た情報を第三者等に漏らしてはならない。実習に関する一切をSNSに挙げることを禁止する。 ・子どもと保護者の権利擁護を最優先とし、安全な実習が行えるように、危険防止、体調管理をしっかりと行う。</p>		

実習名	介護実習 a	対象学生	専攻科介護専攻
担当者	高岡 理恵・中村 洋子・野田 隆生		
実習の概要	<p>1. 実習の目的 講義、演習、学内実習で学んだ理論と技術を実際に活用し、利用者への総合的な介護が実践できるための基礎能力を習得する。 実習指導者の指導を受けながら、実習目標に沿った介護計画のたてかたや記録について学び、チームの一員として介護を遂行する能力を養い、介護福祉士の役割について理解を深めることを目的とする。</p> <p>2. 実習内容の区分及び形態 「実習施設・事業等（ ）」及び「実習施設・事業等（ ）」に区分して、210時間の介護実習を実施する。 「実習施設・事業等（ ）」 利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて、利用者、家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践・多職種協働の実践、介護技術の確認等を行うことに重点を置く。 秋学期に「介護総合演習」を配当し「実習施設・事業等（ ）」において5日間の実習を行う。1日8時間。 「実習施設・事業等（ ）」 一つの施設・事業所等において一定期間以上継続して実習を行う中で、利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程の展開を行う。 介護実習は春学期に「介護総合演習」を配当し、8月に「実習施設・事業等（ ）」において22日間の実習を行う。1日8時間。</p> <p>3. 実習施設 介護実習の実習施設は、老人福祉法に定められている特別養護老人ホーム、介護保険法に定められている老人保健施設、児童福祉法に定められている重度心身障がい児施設、障がい者自立支援法に定められている施設であって、本校と契約を取り交わしている施設である。</p> <p>4. 実習生に対する指導 実習中は、実習担当者から指導、助言を受けながら実習を行う。教員は週に1回訪問し、指導を行う。</p> <p>5. 実習受講条件 「介護総合演習」を受講していること</p> <p>6. 実習態度等 実習先の方針や守秘義務を遵守しなければなりません。積極的に実習に臨んでください。</p>		
備考	<p>実習先でオリエンテーションを受け、実習担当職員からの指導・助言を受けながら実習を行います。 介護総合演習を履修していなければ介護実習ができません。</p>		

実 習 名	介護実習 b	対 象 学 生	専攻科介護専攻
担 当 者	高岡 理恵・中村 洋子・野田 隆生		
実習の概要	<p>1. 実習の目的 講義、演習、学内実習で学んだ理論と技術を実際に活用し、利用者への総合的な介護が実践できるための基礎能力を習得する。実習指導者の指導を受けながら、実習目標に沿った介護計画のたてかたや記録について学び、チームの一員として介護を遂行する能力を養い、介護福祉士の役割について理解を深めることを目的とする。</p> <p>2. 実習内容の区分及び形態 「実習施設・事業等（ ）」及び「実習施設・事業等（ ）」に区分して、210時間の介護実習を実施する。 「実習施設・事業等（ ）」 利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて、利用者、家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践・多職種協働の実践、介護技術の確認等を行うことに重点を置く。 秋学期に「介護総合演習」を配当し「実習施設・事業等（ ）」において5日間の実習を行う。1日8時間。 「実習施設・事業等（ ）」 一つの施設・事業所等において一定期間以上継続して実習を行う中で、利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程の展開を行う。 介護実習は春学期に「介護総合演習」を配当し、8月に「実習施設・事業等（ ）」において22日間の実習を行う。1日8時間。 介護実習 b においては「実習施設・事業等（ ）」を行うものとする。</p> <p>3. 実習施設 介護実習の実習施設は、老人福祉法に定められている特別養護老人ホーム、介護保険法に定められている老人保健施設、児童福祉法に定められている重度心身障がい児施設、障がい者自立支援法に定められている施設であって、本校と契約を取り交わしている施設である。</p> <p>4. 実習生に対する指導 実習中は、実習担当者から指導、助言を受けながら実習を行う。教員は週に1回訪問し、指導を行う。</p> <p>5. 実習受講条件 「介護総合演習」を受講していること</p> <p>6. 実習態度等 実習先の方針や守秘義務を遵守しなければなりません。積極的に実習に臨んでください。</p>		
備 考			

授 業 名	社会の理解			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Understanding Society			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	必修	必修	
担 当 者	野田 隆生			対 象 学 生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>わたしたちは、生計が安定し、安心して安全な地域社会の中で暮らすことができれば、特段の不満は生まれません。しかし、日本経済の不況や自然災害による被災者の二次被害などが、容赦なく国民の生活を奈落の底へと誘っている現実がある。そうした時に、国は社会保障という枠組みで、国民の生活を立て直す施策を展開するという仕組みがある。本講では、国民一人ひとりに付与されている尊厳の保持や権利擁護の視点に基づきながら、地域の中で生きていくために必要とされる社会保障について理解することを目的とします。さらには、子どもの貧困、子ども虐待、障害、高齢化、ワーキングプアなどの問題を取り上げ、その現状と背景を分析しながら原因と解決策をディスカッションを通して考えていきたい。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1) 福祉の理念を理解し、尊厳の保持や権利擁護の視点及び専門職としての基盤となる倫理観を養うことができる。 2) 対象者の生活を地域の中で支えていく視点から、地域社会における生活とその支援についての基礎的な知識を身につけることができる。 3) さまざまな環境にある対象者への介護実践に対応できるように、社会保障の制度や施策についてその基礎的な知識を身につけることができる。 4) 介護実践を支える教養を高め、総合的な判断力及び豊かな人間性を養うことができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力 (課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	増田幸弘・三輪まどか・根岸忠 編著『変わる福祉社会の論点』信山社 2018年								
参 考 書	講義時に随時、文献・資料を紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	小レポートにはコメントを添えて返却する。プレゼンテーションの後には、批評ならびにコメントを行う。								
留 意 事 項	平素より時事問題に目を向け、批判的な視点で考究するようにして下さい。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業初回時に連絡をします。基本的に研究室(1R-404)に在室していれば対応します。また、急な質問等については学内g-mailを利用して下さい。								
実践的教育									

授 業 名	社会の理解	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに	(学修内容)本講の進め方や成績評価の方法について説明する。 (事前事後学修課題の内容)(15分) テキストのはしがきと目次を見ておくこと。
第2回	地域がどう変わったのか、変わるのか	(学修内容)地域の現状や市町村の役割について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト「 地域が変わる」(pp.3-40)を読んでおくこと。
第3回	高齢者を支える地域の仕組み	(学修内容)高齢者を取り巻く社会環境について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の内容をまとめておくこと。
第4回	介護とケアと子育てと	(学修内容)用語を頼りに現代社会における福祉的課題について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 介護と子育てのうちいずれかのトピックスを用意しておく。
第5回	家族の変容	(学修内容)家族のあり用について誰が介護をするのか、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキスト「 家族が変わる」(pp.41-80)を読んでおくこと。
第6回	生まれ方の多様化	(学修内容)子どもの誕生をめぐる問題について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキスト「 2 生まれ方の多様化」を読んでおくこと。
第7回	無戸籍児の福祉	(学修内容)無戸籍児の現状とその課題について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキスト「 4 日本国民なのに登録されない!？」を読んでおくこと。
第8回	高齢者に群がる人びと	(学修内容)認知症高齢者の現状とその課題について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキスト「 6 高齢者に群がる人びと」を読んでおくこと。
第9回	外国人労働者の受け入れとAI・ロボット時代	(学修内容)外国人労働者の受け入れをめぐる現状と課題について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト「 働き方が変わる」(pp.81-128)を読んでおくこと。
第10回	現代日本における貧困について	(学修内容)貧困の現状と課題について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト「 「中流」が変わる?」(pp.129-172)を読んでおくこと。
第11回	老後の社会保障	(学修内容)高齢者世帯の現状と課題について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキスト「 - 4 国民皆年金ではないの?」を読んでおくこと。
第12回	医療体制の変容と自分らしい最期を迎えるには	(学修内容)医療制度の変遷と終の棲家について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト「 医療が変わる」(pp.173-220)を読んでおくこと。
第13回	介護予防と社会保障	(学修内容)予防重視型システムのあり方について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキスト「 5 健康づくり・介護予防と社会保障」を読んでおくこと。
第14回	福祉現場のこれから	(学修内容)高齢者が増加する中で福祉施設に求められるものは何なのかを、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト「 福祉現場が変わる」(pp.221-255)を読んでおくこと。
第15回	まとめにかえて ～介護の魅力って、なに?～	(学修内容)介護の魅力について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テーマに沿った内容でまとめ、発表の準備を行っておくこと。

授 業 名	介護の基本			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Fundamental Nursing Care I			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	必修		
担 当 者	高岡 理恵			対 象 学 生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>介護福祉士の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解し、介護福祉士の専門職としての能力と態度を養う学習とする。</p> <p>そのために、介護福祉士の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、介護を必要とする人の理解や介護実践における安全とリスクマネジメントについての介護実践の知識を理論的に学ぶ。</p> <p>この授業は、講義を主とするが、ディスカッションを行い進めていく。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>多様化・高度化する介護ニーズ、介護福祉を取り巻く状況について理解することができる</p> <p>介護福祉士の専門性について理解できる。</p> <p>介護福祉士に求められる専門職としての態度が形成される</p> <p>介護実践における安全とリスクマネジメントについて理解できる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	新・介護福祉士養成講座『介護の基本』、中央法規								
参 考 書	適宜、紹介します								
課題に対するフィードバックの方法	授業内レポートについては確認後返却します								
留 意 事 項	介護福祉を取り巻く状況等について、歴史的背景をおさえつつ、現在進行形である様々な課題について思考できるよう新聞やニュース等に目をむけてください								
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業内でお知らせします 必要な時にはGメールを活用して連絡をしてください								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：社会福祉協議会で訪問介護及び介護支援専門員として勤務								

授業名	介護の基本	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 介護の目的、基本的な考え方	(学修内容) シラバスに沿って授業の進め方を知る。介護とは何か、ディスカッションを行いながら介護福祉士のイメージを膨らませる (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 介護とは何か、介護福祉士の職務は何かを考え言語化しておく 事後 ノーマライゼーションについて調べ発言できるようにしておく
第2回	障がいを持つ人の介護の歴史 ノーマライゼーションの理念	(学修内容) 障がいを持つ人の介護の変遷をから海外の優生思想、ノーマライゼーションについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 ノーマライゼーションについて調べ発言できるようにしておく 事後 基本的人権について調べ発言できるようにしておく
第3回	障がいを持つ人の介護の歴史 基本的人権と尊厳の保持	(学修内容) 戦争時における障がいを持つ人の基本的人権と尊厳について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 基本的人権について調べ発言できるようにしておく 事後 在宅介護の変遷についてホームヘルプサービスをもとに調べる
第4回	日本の社会福祉史における介護福祉の位置づけ	(学修内容) 日本社会、家族機能の変化と高齢者に対する介護の変遷について学ぶ(施設介護、在宅介護) (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 在宅介護の変遷についてホームヘルプサービスをもとに調べる 事後 介護保険法第1条を読み理解し、説明できるようにしておく
第5回	介護福祉制度のなりたちと発展	(学修内容) 時代に伴う介護ニーズの変化と措置制度から契約制度への変換を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 介護保険法第1条を読み理解し、説明できるようにしておく 事後 介護福祉士法第1条を調べ人に説明できるようにしておく
第6回	介護福祉士の役割と機能1 法的根拠と介護福祉士法	(学修内容) 社会福祉士及び介護福祉士法、及び介護福祉士養成や介護福祉士を支える専門職団体の役割や機能を学習する (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 介護福祉士法第1条を調べ人に説明できるようにしておく 事後 もとめられる介護福祉士像10項目を調べておく
第7回	介護福祉士の役割と機能2 求められる介護福祉士像	(学修内容) 求められる介護福祉士像と生涯研修制度について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 もとめられる介護福祉士像10項目を調べておく 事後 介護福祉職の職業倫理について調べる
第8回	介護福祉士の役割と機能3 専門職の倫理	(学修内容) 介護福祉職の職業倫理や法廷遵守についてディスカッションをしながら学ぶ (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 介護福祉職の職業倫理について調べる 事後 自身の考える「自立支援」とは何かを明確にしてくる
第9回	介護福祉士の役割と機能4 介護福祉の基本理念	(学修内容) 介護福祉士の基本理念である「尊厳」「自立支援」を支える介護について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 自身の考える「自立支援」とは何かを明確にしてくる 事後 介護職がチームで働くための多職種の職種と役割について調べる
第10回	多職種の機能と役割1 多職種の役割と専門性の理解	(学修内容) 医療・保健職の役割や機能について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 介護職がチームで働くための多職種の職種と役割について調べる 事後 自身の地域のサービスを調べまとめておく
第11回	多職種の機能と役割2 多職種の役割と専門性の理解	(学修内容) 介護福祉士以外の福祉職、その他インフォーマルな機能と役割について学習する (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 自身の地域のサービスを調べまとめておく 事後 介護労働によるリスクとは何か調べ、発表できるようにしておく
第12回	介護従事者の安全と健康管理	(学修内容) 介護労働に関する法律を理解し、安全な労働環境と作業環境について理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 介護労働によるリスクとは何か調べ、発表できるようにしておく 事後 感染症と感染経路について調べてくる
第13回	介護における安全の確保とリスクマネジメント	(学修内容) 実習施設に多い感染とリスクマネジメントについて演習を行いながら学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 感染症と感染経路について調べてくる 事後 課題を明らかにするために必要な資料をそろえる
第14回	介護福祉を取り巻く課題1 課題への取り組みとまとめ	(学修内容) 授業や時事から得た知識をもとに、介護福祉を取り巻く課題について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 課題を明らかにするために必要な資料をそろえる 事後 今日の学びを踏まえ発表準備を行う
第15回	介護福祉を取り巻く課題2 課題発表	(学修内容) 授業や時事から得た知識をもとに、介護福祉を取り巻く課題について考えたことを発表する (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 発表準備を行う 事後 発表資料(レポート)を作成する

授業名	介護の基本			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Fundamental Nursing Care			開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	野田 隆生			対象学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>住み慣れた地域で可能な限り生活を継続したいと願っている高齢者や障害者に対して、そのニーズを充足するために保健・医療・福祉の専門職からなる多職種の連携が叫ばれて久しい。本講では、介護福祉士の役割や機能について地域共生社会の理念などを通して理解し、現場において介護実践に求められる観察力、判断力及び思考力を養うことを目的とします。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 介護福祉士に求められる役割と機能について理解し、専門職としての態度を養うことができる。 2) 専門職倫理について理解し、介護実践における判断力や思考力を養うことができる。 3) 多職種の専門性を理解し、自立に向けた介護について考えることができる。 4) 介護を必要とする人の生活を支援するためのサービスをマネジメントすることができる。 5) 介護におけるリスクマネジメントと労働環境の整備・改善について考えることができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	介護福祉士養成講座編集委員会編『介護の基本』中央法規 2019年								
参考書	講義時に随時、文献・資料を紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	小レポートにはコメントを添えて返却する。								
留意事項	平素より時事問題に目を向け、批判的な視点で考究することができるようにして下さい。								
オフィスアワー	授業初回時に連絡をします。 基本的に研究室(1R-404)に在室していれば対応します。また、急な質問等については学内g-mailを利用して下さい。								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	はじめに	(学修内容)本講の進め方や成績評価の方法について説明する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストを必ず購入しておくこと。	
第2回	介護福祉士の専門性	(学修内容)介護福祉士を取り巻く社会環境を整理し、その専門性について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 指示したテキストの章を読んでおくこと。	
第3回	介護福祉士の倫理	(学修内容)介護福祉士の倫理について、ワークシートを使用しながらディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の講義後に配布したワークシートを完成させて、持参する。	
第4回	介護サービスの特性と歴史の変遷	(学修内容)戦後の高齢者福祉に関する制度の変遷とその背景について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 指示したテキストの章を読んでおくこと。	
第5回	高齢者に対する居宅系サービスの場とその特性	(学修内容)高齢者への居宅系福祉サービスについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 必要事項を記したワークシートを完成させ、持参すること。	
第6回	高齢者に対する入所系サービスの場とその特性	(学修内容)高齢者への入所系福祉サービスについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 必要事項を記したワークシートを完成させ、持参すること。	
第7回	障害者に対する居宅系のサービスの場とその特性	(学修内容)障害者への居宅系福祉サービスについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 必要事項を記したワークシートを完成させ、持参すること。	
第8回	障害者に対する入所系サービスの場とその特性	(学修内容)障害者への入所系福祉サービスについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 必要事項を記したワークシートを完成させ、持参すること。	
第9回	介護実践における連携について	(学修内容)多職種連携、チームケアについて理解し、介護福祉士の役割について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 指示したテキストの章を読んでおくこと。	
第10回	介護における安全の確保について	(学修内容)安全確保におけるリスクマネジメントについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 指示したテキストの章を読んでおくこと。	
第11回	介護の場における事故防止と安全対策について	(学修内容)介護の現場において予測できる事態への対応について、口頭発表を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) プレゼンテーションに必要な資料を収集し、まとめておくこと。	
第12回	感染症対策について	(学修内容)感染症について理解し、対応について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 指示したテキストの章を読んでおくこと。	
第13回	こころとからだの健康管理	(学修内容)専門職として必要なセルフケアについて、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 指示したテキストの章を読んでおくこと。	
第14回	よりよく生きるために	(学修内容)高齢者・障害者が最期まで生き生きを支えることができる地域社会について、口頭発表を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) プレゼンテーションに必要な資料を収集し、まとめておくこと。	
第15回	最終講 ～介護への「望み」～	(学修内容)介護への「望み」について、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 全講をふりかえり、「望み」について考えておくこと。	

授 業 名	介護ソーシャルワーク論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Theory of Nursing Care			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	武田 康晴			対 象 学 生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>ソーシャルワークとは、狭義には相談援助をさす言葉であり、広義には社会福祉援助全般をさす言葉である。本講義では、ソーシャルワークを広義にとらえ、ソーシャルワークを実践する1つの技術として介護を明確に位置付けることで、ソーシャルワークの理論に基づく介護の展開について考えていく。介護福祉学は実践の学であることから、理論を学ぶだけでなく、学生が自分で考え、自分の意見を表明し、教員や学生同士でディスカッションする場面を大切に授業を進める。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 介護とソーシャルワークの関係について明確に説明できるようになる。 2) ソーシャルワークの歴史的展開について基本概念の変遷について概要を説明できるようになる。 3) ソーシャルワークの基礎理論を用いて介護場面(事例)について解説できるようになる。 4) ソーシャルワークの理論に基づく介護について、自分自身が実践する前提で例を挙げて説明できるようになる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)		課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	必要なプリント等を配布する。								
参 考 書	必要に応じて紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出課題(レポート等)については口頭でコメントするか、コメントを記入して現物を返却する。								
留 意 事 項	「介護ソーシャルワーク」という概念は決して主流ではないので、既存の「介護」という概念にとらわれず、学びの中で常に新しく柔軟に考えることを大切にする。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に掲示し、授業時に口頭でも伝える。								
実 践 的 教 育									

授業名	介護ソーシャルワーク論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業オリエンテーションと導入	(学修内容) 授業の内容についてオリエンテーションを実施するとともに、現時点で介護について持っているイメージを挙げてKJ法で整理する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容に目を通し、質問を3つ以上考えておく。
第2回	ソーシャルワークとは何か? (ソーシャルワークの定義)	(学修内容) 国際ソーシャルワーカー連盟の定義他いくつかの定義を引用、解説しながら、ソーシャルワークの特徴、目的等について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、事後: インターネット等を活用してソーシャルワークのグローバル定義について解説を確認し、要点を書きだしておく。
第3回	ソーシャルワークの成立背景 (慈善組織協会とメアリー・リッチモンド)	(学修内容) 産業社会の近代化に伴い慈善事業の組織化が必要となった背景と、必然的に科学としてのソーシャルワークが萌芽した経緯について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 授業の際に提示するいくつかの語句について調べてくる。事後: ソーシャルワークの成立の流れとして説明できるように復習しておく。
第4回	ソーシャルワークの理論的展開 (課題解決アプローチまで)	(学修内容) ソーシャルワークの理論的変遷について、診断主義と機能主義の論争を経て課題解決アプローチに至る経過を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 授業の際に提示するいくつかの語句について調べてくる。事後: 理論的展開の流れとして説明できるように復習する。
第5回	ソーシャルワークの理論的展開 (医学モデルから生活モデルへ)	(学修内容) 1980年を境に医学モデルから生活モデル(社会モデル)に転換し現在に続くソーシャルワークの理論的基礎について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 授業の際に提示するいくつかの語句について調べてくる。事後: 医学モデルと生活モデルの違いについて具体例を挙げて説明する。
第6回	ソーシャルワークの専門性 (価値観、知識、技術)	(学修内容) ソーシャルワークの専門性について、専門性の構成要素という視点から明らかにする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配布した資料について予習しておく。事後: 価値観と知識・技術の関係について説明できるようになる。
第7回	ソーシャルワークの専門性 (価値観に関する演習)	(学修内容) 全国介護福祉士の倫理綱領をワークシートに加工し、各項目について具体例を考え、教員と学生、学生同士がディスカッションする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 全国介護福祉士の倫理綱領に目を通しておく。事後: ディスカッションを通じて感じたことをまとめる。
第8回	ソーシャルワークの専門性 (生活の援助という視点)	(学修内容) ソーシャルワークは生活の援助であることをおさえ、その視点からこれまでの援助活動を検証する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 生活の特徴について説明できるように準備しておく。事後: 生活の特徴を踏まえた援助実践を1つまとめる。
第9回	ソーシャルワークの基本原則 (講義)	(学修内容) バイステックの7原則を丁寧に読み込むことで、ソーシャルワークの基本原則、立ち位置について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配布する資料を読み込んでおく。事後: 授業の内容を復習し、具体例を挙げて説明できるようになる。
第10回	ソーシャルワークの基本原則 (演習)	(学修内容) バイステックの7原則を加工した演習シートを活用し、援助場面における反映についてディスカッションを取り入れながら授業を進める。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: バイステックの7原則について概要を説明できるようになっておく。事後: 演習を通じて学んだことをシートに線を引き整理する。
第11回	介護現場におけるソーシャルワーク (高齢者福祉)	(学修内容) 高齢者福祉現場におけるソーシャルワーク実践について事例を用いて検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配布した資料を読み込んでおく。事後: 事例検討の成果をまとめなおしておく。
第12回	介護現場におけるソーシャルワーク (障害児者福祉)	(学修内容) 障害児者福祉現場におけるソーシャルワーク実践について事例を用いて検討する。1 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配布した資料を読み込んでおく。事後: 事例検討の成果をまとめなおしておく。
第13回	災害と介護ソーシャルワーク	(学修内容) 最も介護ソーシャルワークが必要となる災害時の援助活動について、災害派遣福祉チームの動きも交えて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前: 事前に配布する資料(厚生労働省通知)に目を通し、質問を考えておく。事後: 組織図等を確認しておく。
第14回	災害と介護ソーシャルワーク	(学修内容) 災害ソーシャルワークの枠組みを踏まえ、東日本大震災、熊本地震、西日豪雨の事例を活用し、質疑応答を交えながら学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前: 過去の災害について、概要を調べておく。事後: 授業の内容を踏まえ、感想、考察、今後の展望など自分の考えをノートにまとめる。
第15回	授業の振り返りと総括	(学修内容) 要点を確認しながら授業の内容を振り返り、質疑応答によって深めていく。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: これまでの授業内容を振り返り質問を考えておく。事後: 介護ソーシャルワークに対する自分の考えをレポートにまとめる。

授業名	チームマネジメント論			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	
英文名	Theory of Team Management			開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	高岡 理恵			対象学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>介護実践は介護のみならず医療や保険等からなる包括的なチームによる実践です。この授業では、介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営と管理、人材育成の活用、それらに必要なリーダーシップとフォロワーシップなど、チームで働く力を養うためのストレスマネジメントやチームマネジメントの基礎的な知識を身につけることを目指します。本授業では、講義の他、いくつかの現場へ出向き、様々なチームのあり方、多様なメンバーでの会議、事業所組織の経営について学ぶ機会をもちます。</p> <p>また、反転授業を行うため、事前にしておかなければならない学修課題については必須です。</p>								
学修成果到達目標	<p>福祉サービスにおける組織の機能や構造を理解できる チームでケアを展開するために必要なチームの構成や役割について理解できる リーダーとフォロワーの役割について説明できる チームで働くためのストレスマネジメントについて理解できる</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	新介護福祉士養成講座『人間の理解』中央法規 適宜、プリントを配布します								
参考書	古川久敬『グループマネジメント入門』日本介護協会出版会								
課題に対するフィードバックの方法	授業内レポートは確認後、コメントを入れ返却を行う								
留意事項	マネジメントの知識や、介護実践にかかわる問題理解と解決にむけた考え方を得るために役立ちます。様々な現場へ出向く機会もあるので、積極的に学んでください。								
オフィスアワー	授業時に提示します 必要な時にはGメールを活用して連絡をしてください								
実践的教育									

授 業 名	チ-ムマネジメント論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 実習から学ぶチ-ムマネジメント	(学修内容)チ-ムとは、チ-ムマネジメントを4つの特性を軸に介護サービスに求められるマネジメントの視点を学習する (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 実習で学んだチ-ムとチ-ムを構成するメンバーを整理しておく 事後
第2回	チ-ムの機能と構造	(学修内容)介護実践におけるチ-ムの重要性を理解し、ディスカッションを行いながらチ-ムの目的、リーダーとフォロワーの役割を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 どんなチ-ムのありかたがあるのか検索しておく 事後 実習で学んだチ-ムの目標を把握し、まとめプリントに追加する
第3回	介護従事者の心身の管理1 介護労働と感情労働	(学修内容)感情労働の意味を理解し、介護労働への影響について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 感情労働をしている他の職種について調べ発言できるようにする 事後 自身のストレスについて具体的な例を挙げ説明できるようにする
第4回	介護従事者の心身の管理2 ストレスとストレスマネジメント	(学修内容)介護労働におけるストレス要因とそのマネジメント方法についてディスカッションを行いながら学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 自身のストレスについて具体的な例を挙げ説明できるようにする 事後 自身の防衛機制を具体的な例をあげ説明できるようにする
第5回	スーパービジョンの機能と役割	(学修内容)スーパービジョンの機能について学ぶ。演習を通して理解を深める (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 自身の防衛機制を具体的な例をあげ説明できるようにする 事後 スーパービジョンの機能について調べ発言できるようにする
第6回	チ-ム内の関係性をつくるマネジメント	(学修内容)人間関係を作るための傾聴力、情動のマネジメントについて学習する (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 人間関係を構築するための基本的姿勢について調べる 事後 実習を通じた具体的事例を発言できるようにまとめておく
第7回	プリセプター制度の意義、目的、方法	(学修内容)介護実習施設におけるプリセプター制度の意義、目的、方法について学習する (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 実習を通じた具体的事例を発言できるようにまとめておく 事後 介護施設におけるプリセプター制度について調べる
第8回	チ-ム運営の基本1 組織と運営管理	(学修内容)多様な施設の組織図を活用し、法人と事業所、事業所組織の階層等について学習する (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 介護施設におけるプリセプター制度について調べる 事後 実習施設の組織図を持参する
第9回	チ-ム運営の基本2 組織と運営管理の実際	(学修内容)協力施設に出向き実習、事業所の組織とマネジメント方法について学習する (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 実習施設の組織図を持参する 事後 学んだ内容をまとめレポートにして提出する
第10回	事業所組織の役割と機能	(学修内容)介護サービスに関係する設備、備品、人材確保やハラスメント防止について学習する (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 実習の施設・事業所の設備や備品等の取り扱いについてまとめる 事後 リーダーやフォロワーの果たす役割について調べてくる
第11回	実践力を高めるためのチ-ムマネジメント	(学修内容)介護実践の事例を活用し、リーダーシップ及びフォロワーシップの実際を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 リーダーやフォロワーの果たす役割について調べてくる 事後 事前に配布した資料を読み、説明できるようにしておく
第12回	コンピテンシーの育成	(学修内容)意欲づけとコンピテンシーを高めるためのコーチングを学ぶ (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 事前に配布した資料を読み、説明できるようにしておく 事後 OJTとOFF J Tについて説明できるようにしておく
第13回	人材の育成と管理1 キャリア開発の仕組み	(学修内容)介護施設における委員会やOJTの必要性と活用について学習する(委員会、OJT等) (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 OJTとOFF J Tについて説明できるようにしておく 事後 1年間のOJTの内容を考えてくる
第14回	人材の育成と管理2 キャリア開発の仕組みの実際	(学修内容)協力施設に出向き実習、委員会やOJTが、どのように策定されているのかを学習する (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後 1年間のOJTの内容を考えてくる 事後 学んだ内容をまとめレポートにして提出する
第15回	まとめ	(学修内容)自らのキャリア目標を意識するためのありがたいリーダー像を明確にする (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 学んだ内容をまとめレポートにして提出する 事後 ありがたいリーダー像についてまとめレポートにする

授業名	ターミナルケア論			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Thory of Terminal Care			開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	野田 隆生			対象学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>「死」とは何か？「いのち」って何だろう？この問いにははっきりとした答えはあるのだろうか。人は必ず死ぬという事実は、知識としてみなさんは理解しています。しかし、あなた自身や親しい人が余命いくばくもないと告知を受けたとしたら、あなたはどのような思いを抱きますか。</p> <p>本講では、まず現代社会における「死」の様相を明らかにし、次いで「死にゆく人」への関わりについて社会福祉なかならず介護においてどのような視点で捉えていくことが必要とされるのかについて考察を深めていきたい。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 現代社会における「死」と「生」について意見を述べるができる。</p> <p>2) 自らの死生観を養うことができる。</p> <p>3) 介護における終末期の関りについて「こころ」と「からだ」の両面より支援する技術と創造力を身につけることができる。</p> <p>4) 「生きること」への執着ではなく人生観を見出すことができる。</p> <p>5) 安楽死や尊厳死の違いについて説明することができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (65%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (35%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	随時資料を配布する。								
参考書	講義時に随時、文献・資料を紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	小レポートにはコメントを添えて返却する。								
留意事項	平素より時事問題に目を向け、批判的な視点で考究することができるようにして下さい。								
オフィスアワー	授業初回時に連絡をします。 基本的に研究室に在室していれば対応します。また、急な質問等については学内g-mailを利用して下さい。								
実践的教育									

授業名	ターミナルケア論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに ～「死」とは何なのか？～	(学修内容) 講義の進め方、成績評価の方法について説明する。 「死」に関してディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(15分) シラバスより学びの道筋をイメージしておく。
第2回	現代社会における誕生と死	(学修内容) 統計資料に基づき誕生と死の現状を把握し、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 『国民の福祉と介護の動向』『国民衛生の動向』や人口動態統計のサイトを閲覧しておく。
第3回	社会問題としてのターミナル・ケア	(学修内容) ターミナル・ケアが社会問題となっている背景について学び、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 時事問題の中から学修項目に照らした気になる話題を選択しておく。
第4回	ターミナル・ケアの歴史 ～ホスピス・PCUの成立過程～	(学修内容) ターミナル・ケアの歴史をその語義よりたどりながら、ホスピスならびにPCUへと変遷する過程について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 紹介した書籍を読んでおく。
第5回	ターミナル・ケアの歴史 ～ビハラの誕生と成立過程～	(学修内容) 仏教と基礎としたターミナル・ケアの成立過程について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 紹介した書籍を読んでおく。
第6回	全人的ケアについて ～4つの痛みへのアプローチ～	(学修内容) 全人的痛みの理解とその援助について事例を通じて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 紹介した書籍を読んでおく。
第7回	ホスピス病棟の実際 ～がん看護専門看護師を通じて～	(学修内容) ビデオ鑑賞；ホスピス病棟では、どのようなケアが展開されているのかを知り、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後、小レポート(文字数800字)を課題とする。
第8回	ビハラ病棟の実際 ～病と向き合う僧侶を通じて～	(学修内容) ビデオ鑑賞；ビハラ病棟では、僧侶がどのようなケアを展開し、患者と向き合っているのかを知り、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後、小レポート(文字数800字)を課題とする。
第9回	痛みを緩和する ～寄り添うケアに向けて～	(学修内容) ビデオ鑑賞；終末期の患者をアセスメントし、シートに記入する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後、アセスメントシートに患者のニーズを記入し、どのようなケアを展開する必要があるのかをまとめる。
第10回	痛みを緩和する ～遺されるものへのケア～	(学修内容) ビデオ鑑賞；遺族の気持ちに寄り添いながら展開される緩和ケアについて知り、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後、小レポート(文字数800字)を課題とする。
第11回	生死をめぐる諸問題 ～生殖補助医療とその課題～	(学修内容) 生殖補助医療の現状と代理出産の現実から主題に迫っていく。 資料をよく読み込んだ上で、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前に配布したワーク・シートを作成しておくこと。
第12回	生死をめぐる諸問題 ～安楽死と尊厳死～	(学修内容) 安楽死と尊厳死の違いを理解し、現場にて齟齬なく意見を述べる事ができるよう事例を通して学び、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前に配布したワーク・シートを作成しておくこと。
第13回	満足な看取りは可能か？ ～福祉施設での看取り～	(学修内容) ビデオ鑑賞；福祉施設での看取りについて考え、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後、小レポート(文字数800字)を課題とする。
第14回	満足な看取りは可能か？ ～在宅緩和ケアの現場より～	(学修内容) ビデオ鑑賞；在宅での緩和ケアの現場を取り上げ、家で看取ることについてディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後、小レポート(文字数800字)を課題とする。
第15回	まとめにかえて ～「生ききる」ことを支える介護とは～	(学修内容) 「生ききる」ことを支えることのできる地域社会の構築について考え、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) これまでの学びについて各回の要点をまとめておくこと。

授 業 名	介護技術			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Nursing Care Work Skills			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	高岡 理恵			対 象 学 生	専攻科介護専攻				
授業の概要	対象者の能力を活用し、自立を支援するための生活支援技術（食事・排泄・清潔保持）の基本を習得する。自分が行った技術について、科学的に説明できる能力を身につけるための学習とする。 この授業は、2コマを利用し、理論と実践を行う。実践については、学内で自分自身が対象者になる実体験を行うとともに、協力施設に向かい行うこともある。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 基本的な生活支援技術を身につける 2) 実践の根拠について説明できる。 3) 介護を受ける側の気持ちを理解できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術」、中央法規								
参 考 書	適宜紹介する								
課題に対する フィードバック の方法	毎回行う小テストは、確認後コメントをいれて返却を行う。 提出されたレポート等においても同様。								
留 意 事 項	なぜ、この方法をとっているのかということを常に頭におきながら介護技術を行ってください。 実践時には、メモを取りながら積極的に見学を行ってください。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業内で発表する 必要な時にはGメールを活用して連絡をしてください								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：社会福祉協議会で訪問介護及び介護支援専門員として勤務								

授業名	介護技術	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 自立にむけた食事の介護 食事介助の意義と目的	(学修内容) 授業の概要説明、食事介助の社会・文化的意義、身体的、心理的意義について、また食事を行う際の視点について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 シラバスを読んでおくこと 事後 自身の食文化について人に説明できるようにしておく
第2回	自立にむけた食事の介護 食事介助の基本	(学修内容) 「食べる」ための準備、環境整備を行い、介護技術を実践(実習)する (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 自身の食文化について人に説明できるようにしておく 事後 テキストp 2～40でわからない語句を調べノートにまとめる
第3回	自立にむけた食事の介護 用具の選択と食事形態	(学修内容) 食事に必要な様々な用具を見学し、食事形態(とろみ、ミキサー等)を試食し、口から食べる意味について考える。外出し見学実習を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストp 2～40でわからない語句を調べノートにまとめる 事後 見学実習した中からの気づきや感想をレポートにする
第4回	自立にむけた食事の介護 用具の選択と食事形態の振り返り 食事後の口腔ケア	(学修内容) 見学実習レポートをもとに振り返り、ディスカッションを行う。食事後の口腔ケアの意義や目的、方法について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 見学実習した中からの気づきや感想をレポートにする 事後 テキストp 41～80でわからない語句を調べノートにまとめる
第5回	自立にむけた食事の介護 心身の状態に応じた食事介助	(学修内容) 見学実習を行い、配膳、食事、下膳の様子を知る。一人の人を対象にし、その人の心身状態を観察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストp 41～80でわからない語句を調べノートにまとめる 事後 心身状態に応じた食事場面を観察したことをレポートにまとめる
第6回	自立にむけた食事の介護 心身の状態に応じた食事介助の振り返り 自立にむけた入浴・清潔保持の介護 入浴・清潔の介護の意義と目的	(学修内容) レポートをもとに食事介護を振り返りディスカッションを行う。 入浴・清潔保持の意義、視点について理解する (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 心身状態に応じた食事場面を観察したことをレポートにまとめる 事後 テキストp 81～150でわからない語句を調べノートにまとめる
第7回	自立にむけた入浴・清潔保持の介護 入浴・清潔保持の基本的介護	(学修内容) 「清潔保持」ための準備、環境整備を行い、介護技術を実践(実習)する。足浴、手浴の実践 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 テキストp 81～150でわからない語句を調べノートにまとめる 事後 テキストp 151～220でわからない語句を調べノートにまとめる
第8回	自立にむけた入浴・清潔保持の介護 入浴・清潔保持の基本的介護 入浴におけるリスクとリスクマネジメント	(学修内容) 「清潔保持」を行うための準備、環境整備を行い、介護技術を実践する 全身清拭の実践 洗髪の実践入浴における事故とその対応を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 テキストp 151～220でわからない語句を調べノートにまとめる 事後 テキストp 221～270でわからない語句を調べノートにまとめる
第9回	自立にむけた入浴・清潔保持の介護 心身の状態に応じた入浴・清潔保持の介護 特殊入浴を行う利用者	(学修内容) 見学実習を行い、特殊入浴の様子を知る。一人の人を対象にし、その人の心身状態を観察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストp 221～270でわからない語句を調べノートにまとめる 事後 心身状態に応じた入浴場面を観察したことをレポートにまとめる
第10回	自立にむけた入浴・清潔保持の介護 心身の状態に応じた入浴・清潔保持の介護 一般浴を行う利用者	(学修内容) 見学実習を行い、一般入浴の様子を知る。一人の人を対象にし、その人の心身状態を観察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 心身状態に応じた入浴場面を観察したことをレポートにまとめる 事後 見学した入浴場面を観察したことをレポートにまとめる
第11回	自立にむけた入浴・清潔保持の介護 入浴・清潔保持の介護振り返り 自立にむけた排泄の介護 排泄介護の意義と目的	(学修内容) レポートをもとに入浴介護を振り返りディスカッションを行う。 排泄介護の意義について、また、視点について理解する (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 見学した入浴場面を観察したことをレポートにまとめる 事後 テキストp 271～330でわからない語句を調べノートにまとめる
第12回	自立にむけた排泄の介護 排泄の基本的介護	(学修内容) 「排泄介護」を行うための準備、環境整備を行い、介護技術を実践する 用具を使用した排泄介護(ポータブルトイレ、便器、おむつ) (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 テキストp 271～330でわからない語句を調べノートにまとめる 事後 テキストp 310～でわからない語句を調べノートにまとめる
第13回	自立にむけた排泄の介護 心身の状態に応じた排泄介護	(学修内容) 後 見学実習を行い、排泄介護の様子を知る。一人の人を対象にし、その人の心身状態を観察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストp 310～でわからない語句を調べノートにまとめる 事後 心身状態に応じた排泄場面を観察したことをレポートにまとめる
第14回	自立にむけた排泄の介護 介護技術の振り返り	(学修内容) レポートをもとに入浴介護を振り返る。ストマのある方の対応について学ぶ。今まで学んだ介護技術の振り返りを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 心身状態に応じた排泄場面を観察したことをレポートにまとめる 事後 実技テストの準備として練習を行う
第15回	実技テストと振り返り	(学修内容) 実技テストを行い、その後振り返りディスカッションを行う。なぜその方法をとったのかということの説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 実技テストの準備として練習を行う 事後 実技テストに必要な知識について用紙にまとめ提出する

授業名	介護技術			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Nursing Care Work Skills			開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	高岡 理恵			対象学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	対象者の能力を活用し、対象者の状態・状況に応じた自立を支援するための生活支援技術、医療との連携や人生の最終段階の経過に沿った介護方法を習得する。また、実践の根拠について説明できる能力を身につける。 この授業は、2コマ連続で、理論と実技を行う。介護技術の総まとめであるので、他の授業で学んだ知識を活かし、しっかり受講してください。								
学修成果到達目標	医療との連携において介護福祉士の役割を理解したことを言語化することができる 基本的な介護技術を習得することができる 実践の根拠について他者に説明できる								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術」中央法規								
参考書	宮崎総一郎・佐藤尚武『睡眠と健康』、放送大学教育振興会、2013								
課題に対するフィードバックの方法	見学実習のレポートについては、コメントを入れて返却します。								
留意事項	施設での実践時には、メモを取りながら積極的に見学を行ってください。								
オフィスアワー	授業最初にお知らせします 必要な時にはGメールを活用して連絡をしてください								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：社会福祉協議会で訪問介護及び介護支援専門員として勤務								

授業名	介護技術	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 感染の知識と予防方法	(学修内容) 健康の意味と感染の知識を身に付け、予防について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 実習で学んだ感染予防についてまとめておく 事後 自身の休息と睡眠の時間について書き起こす
第2回	休息・睡眠の介護 安眠を促す介護	(学修内容) 生活習慣と睡眠の関係について学ぶ 褥そうの予防を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 自身の休息と睡眠の時間について書き起こす 事後 今日の授業のまとめレポートを書き提出
第3回	休息・睡眠の介護 安眠を阻害する要因	(学修内容) 安眠を阻害する要因を明らかにしグループワークを通して、室内環境や寝具の選択について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 自分自身の睡眠環境についてまとめてくる 事後 配布プリントを読みわからない語句を調べてくる
第4回	休息・睡眠の介護 休息・安眠につながる介護の工夫	(学修内容) 電法の意義と方法について学ぶ リラクゼーションの方法について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 配布プリントを読みわからない語句を調べてくる 事後 今日学んだ内容についてレポート提出
第5回	休息・睡眠の介護 心身の状態に応じた休息・睡眠の介護 リラクゼーション	(学修内容) 見学実習を行い、休息・睡眠の様子を知る 実際にリラクゼーションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 学校で学んだ技術を復習してくる 事後 見学実習を行い考察をレポートにする 評価1
第6回	休息・睡眠の介護 心身の状態に応じた休息・睡眠の介護 環境整備	(学修内容) 見学実習を行い、休息・睡眠の様子を知る。 実際に環境整備を行う (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 学校で学んだシーツ交換等復習しておく 事後 見学実習を行い考察をレポートにする 評価2
第7回	医療と介護 介護福祉士と医療行為、医療的ケアの違いを学ぶ	(学修内容) レポートをもとに休息・睡眠の介護を振り返りディスカッションを行う 医師法第17条に基づく内容の理解を行う (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 レポートを発表できるようにしておく 事後 医師法第17条を読み介護福祉士の行う医療的ケアの意味を考える
第8回	医療と介護 薬剤の知識と介護福祉士が行う薬剤使用	(学修内容) 介護福祉士が行う薬剤使用の意味と方法、留意点について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 医師法第17条を読み介護福祉士の行う医療的ケアの意味を考える 事後 配布した資料を読み整理しておく
第9回	医療と介護 緊急時の対応を学ぶ	(学修内容) 異常時の発見と緊急時の対応について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 屋内外における事故について調べておく 事後 学内にあるAEDの場所を把握する
第10回	リラクゼーションとコミュニケーションの実践	(学修内容) 東山ふれあい広場にてリラクゼーションとコミュニケーションの実践を行う (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 実践に必要な物品等準備を行う 評価3 事後 実践レポートを書き提出する
第11回	実践の振り返り 人生の最終段階における介護	(学修内容) 人生の最終段階の意義とその段階にある人への介護の視点 臨終に向かうプロセスと生活支援について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 デスカンファレンスの意味、方法について調べてくる 事後 テキストを読みわからない語句を調べてくる
第12回	人生の最終段階における介護	(学修内容) 死後のケアと家族への対応について理解する (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 テキストを読みわからない語句を調べてくる 事後 グリーフケアの意味を調べてくる
第13回	知識と技術の統合 介護技術のまとめ	(学修内容) 介護技術の総復習を行い、自身で介護技術試験の作成を行う (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 作成に必要な根拠となる資料を集めておく 事後 介護技術試験の作成をする
第14回	知識と技術の統合 介護技術試験の作成	(学修内容) 介護技術試験をグループで考え作成する (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 作成に必要な根拠となる資料を集めておく 事後 介護技術試験を仕上げ発表できるようにしておく
第15回	知識と技術の統合 介護技術試験発表と振り返り	(学修内容) 介護技術試験の発表を行い内容を振り返りディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 作成した試験を行えるよう準備しておく 事後 行ったあとの振り返りをレポートにして提出する 評価4

授業名	介護過程			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Nursing Care Process I			開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	高岡 理恵			対象学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。介護過程では、対象者との関係を構築することから始まる。利用者を知るために情報を集め、情報が意味することを解釈・分析を行い課題を見出し、課題解決にむけて介護実践の方法を計画的に進め、評価・修正するという思考過程を身につけます。</p> <p>介護福祉士が行う介護とはこの思考過程の有無に左右されるほど大切な授業です。主にディスカッションを行うながら進めていきます。</p>								
学修成果到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護実践における介護過程の意義を理解し、介護過程を展開するための一連のプロセスと視点を説明できる。 2. アセスメントの意義を理解し、なぜその目標をおいたのかを科学的に説明することができる。 3. 利用者と家族への説明と同意が、職業倫理に基づいた重要事項であることを理解し事例に活かすことができる。 								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	適宜、プリントを配布します。								
参考書	上田敏『ICFの利用と活用』萌文社								
課題に対するフィードバックの方法	提出された作成物は確認後、返却を行います。								
留意事項	この科目は利用者を理解したいという思いから始まります。単に課題を行わなければならないという視点ではなく、この人はどういう生活を望んでいるのだろうかという視点を大切にしてください。								
オフィスアワー	授業時に発表します 必要な時にはGメールを活用して連絡をしてください								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：社会福祉協議会で訪問介護及び介護支援専門員として勤務								

授業名	介護過程	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 介護過程の展開を学ぶ前意義について理解する	(学修内容) 授業の概要説明。 無意識な行動を意識化するワークを行い、意識化を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 シラバスを読むこと 事後 配布プリントを読み、わからない語句を調べてくる
第2回	介護過程の意義と基礎的理解 介護過程の意義・目的、プロセスを理解する	(学修内容) 介護過程とは何か、本人の望む生活の実現と科学的な思考過程に基づく実践の理解を学ぶ。介護過程のプロセスを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 配布プリントを読み、わからない語句を調べてくる 事後 ICFとICIDHについて調べる
第3回	介護過程の意義と基礎的理解 ICFの概念を理解する	(学修内容) ICIDHからICFへの変遷を知り、障害のとりえ方を学ぶ。調べてきたことについてディスカッションを行いながら進める。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 ICFとICIDHについて調べる 事後 ICFについて事例を出し説明できるようにする
第4回	介護過程の展開方法 ニーズをとらえる技法のひとつであるコミュニケーション方法について理解する	(学修内容) アセスメントの意味を理解し、ニーズをとらえる技法としてのコミュニケーションについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 非言語コミュニケーションについて理解してくる 事後 教員の情報を収集する(10回目までの継続した課題)
第5回	介護過程の展開方法 ニーズをとらえる技法である観察方法を理解する	(学修内容) アセスメントの意味を理解し、ニーズをとらえる技法としての観察方法について学ぶ。映像から、情報収集を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 教員の情報一部を発表できるようにしておく 事後 映像観察から得た情報をICFに分類しまとめる
第6回	介護過程の展開方法 ニーズをとらえる技法である傾聴方法を理解する	(学修内容) 宿題である分類箇所についてディスカッションを行いながら進める ICFに分類した情報の確認、生情報の意味について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 映像観察から得た情報をICFに分類しまとめる 事後 自身で測定できる場所を測定してくる
第7回	介護過程の展開方法 ニーズをとらえる技法である正しい測定方法を理解する	(学修内容) アセスメントの意味を理解し、ニーズをとらえる技法としての測定(客観的)について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 自身で測定できる場所を測定してくる 事後 対象を決め、測定を行い記録にとどめる
第8回	介護過程の展開方法 情報の統合と分析の意味を理解する	(学修内容) 事例を使用し、情報の統合と科学的根拠をもとに分析する意味と方法について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 対象を決め、測定を行い記録にとどめる 事後 マズローの欲求階層論についてまとめてくる
第9回	介護過程の展開方法 ニーズの意味とニーズの優先について理解する	(学修内容) ニーズの意味を理解し、マズローの欲求階層論等からニーズの優先度の視点について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 マズローの欲求階層論についてまとめてくる 事後 自己の目標を設定する
第10回	介護過程の展開方法 生活課題と支援目標を導き出す	(学修内容) 宿題である自己の目標をみながら、ディスカッションしながら目標の設定、設定時の留意点、見直し方法について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 自己の目標を設定する 事後 自己の目標が可能になるための計画を作成する
第11回	介護過程の展開方法 具体的な計画の立て方について理解する	(学修内容) 介護計画の視点と留意点、書き方及び実施後の記録方法について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 自己の目標が可能になるための計画を作成する 事後 自己の目標が可能になるための計画を作成する
第12回	介護過程の展開方法 様々な評価と評価方法について理解する	(学修内容) 調べてきた内容をもとに、評価の意味、時期、評価方法についてディスカッションしながら学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 自己の目標が可能になるための計画を作成する 事後 宿題である教員の情報収集をまとめてくる
第13回	事例を用いた情報収集と分析	(学修内容) 宿題である情報収集を用いてICFに分類する (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 ICFとICIDHについて復習しておく 事後 足りない情報を収集する
第14回	事例を用いた目標設定と計画	(学修内容) 情報の分析、目標設定および計画を作成する (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 分析に必要な資料を集めておく 事後 授業時間にできなかったものについて仕上げる
第15回	介護サービス計画(ケアプラン)との関係について理解する	(学修内容) 介護サービス計画と介護過程の関係について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 ケアプランについて調べてくる 事後 授業で行った内容プリントを整理しておく

授 業 名	介護過程			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Nursing Care Process			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	高岡 理恵			対 象 学 生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法が理解できることを目的とします。</p> <p>夏季実習で行った介護過程の展開を見直し、上記の目的と照らし、自身に必要な学びを深める授業となります。</p> <p>個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開ができるように、この授業においては、事例を使用し、介護過程の展開を行います。</p> <p>介護過程の展開を行うためには、科学的根拠が必要となるため、様々な知識を必要とするので、授業以外にもおおいに専門書を読んでください。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1. チームとして介護過程を展開することの意義を理解できる</p> <p>2. 対象者の状態・状況に応じた介護過程の展開ができる</p> <p>3. 介護過程の展開について、人に説明することができる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	授業内容に沿ったワークシートと資料を必要に応じて配布する								
参 考 書	適宜、紹介します								
課題に対するフィードバックの方法	課題（事例）は確認後、コメントをいれ返却します。								
留 意 事 項	<p>テキストで紹介されている考え方や他の人の考えに左右されず、自分の考えや視点を明らかにし、その考えをわかりやすく人に説明できるようにしてください。</p> <p>特に、介護過程では人間科学の視点が大きくその人に影響しますので、テキスト以外の本も参考にしてください。</p>								
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業内で提示します 必要な時にはGメールを活用して連絡をしてください								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育</p> <p>教員の実務経験など：社会福祉協議会で訪問介護及び介護支援専門員として勤務</p>								

授業名	介護過程	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 介護過程とチームアプローチ1	(学修内容) 夏季実習で行った介護過程の展開を再確認する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 再確認に必要な資料を集めておく 事後 まとめたものを発表できるように資料を作成する
第2回	介護過程とチームアプローチ2 他の専門職のケアとの関係性	(学修内容) 介護過程を行う上でのチームとチームアプローチについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 まとめたものを発表できるように資料を作成する 事後 発表する準備を行う
第3回	介護過程とチームアプローチ3 チームとしての介護過程の展開	(学修内容) チームの目標設定とチームケアの必要性について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 発表する準備を行う 事後 カンファレンスの行い方について予習しておく
第4回	介護過程とチームアプローチ4 カンファレンスの持ち方についての理解	(学修内容) 夏季実習で行った介護過程の展開を再確認したものを資料をもとにカンファレンスを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 カンファレンスの行い方について予習しておく 事後 発表後の教員からのコメント等を踏まえレポートにする
第5回	介護過程の展開の理解1 事例理解	(学修内容) 事例をもとに、情報の理解を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 事例を読んでおく 事後 情報の読み込みに必要な資料を集める
第6回	介護過程の展開の理解2 事例を用い、ICFの観点を考える	(学修内容) 事例からICFへの分類を行い、ICFの理解を深める (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 情報の読み込みに必要な資料を集める 事後 ICFについて復習しておく
第7回	介護過程の展開の理解3 事例を用い、統合・分析を行う	(学修内容) 事例をもとに情報を統合し分析を行い、分析に必要な知識を再確認する (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 ICFについて復習しておく 事後 分析に必要な資料を集める
第8回	介護過程の展開の理解4 事例を用い、ニーズの抽出と優先を考える	(学修内容) 事例からニーズを抽出しニーズの考え方、利用者主体について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 分析に必要な資料を集める 事後 マズローの欲求段階を復習しておく
第9回	介護過程の展開の理解5 事例を用い、目標設定する	(学修内容) 事例からその人の望む目標設定の考え方について学ぶ。短期目標、長期目標を考えたことを確認する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 マズローの欲求段階を復習しておく 事後 マズローの欲求段階を復習しておく
第10回	介護過程の展開の理解6 事例を用い、計画策定する	(学修内容) 優先順位の高い目標設定を行い、それが可能になるための計画を策定する (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 マズローの欲求段階を復習しておく 事後 計画に必要な内容をまとめ模造紙に仕上げる
第11回	介護過程の教授法1 介護過程について自身が教授する	(学修内容) 介護過程の振り返りを行い、ひとつひとつの意味の言語化を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 今までに配布した資料、参考になる図書をまとめ持参する 事後 教授するために必要なレジュメを作成する
第12回	介護過程の教授法2 教授するための方法を理解する	(学修内容) 介護過程を教えるため(言語化)にディスカッションを行いながら必要なレジュメの作成する (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 教授するために必要なレジュメを作成する 事後 レジュメに必要な図書を集める
第13回	介護過程の教授法3 教授するためのレジュメの作り方を学ぶ	(学修内容) 介護過程を教えるため(言語化)に必要なレジュメを作成する (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 レジュメに必要な図書を集める 事後 レジュメを最後まで完成させる
第14回	介護過程の教授法4 レジュメを使った指導の実践を行う	(学修内容) レジュメを使って発表準備を行う (事前事後学修課題の内容) (20分) 事前 レジュメを最後まで完成させる 事後
第15回	介護過程の教授法5 介護過程の展開についての実践を振り返る	(学修内容) 介護過程の教授法をプレゼンテーションする (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前 発表に必要な物品等の準備を行う 事後 事後指導された内容を含め振り返りレポートにして提出する

授業名	介護総合演習			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	
英文名	Nursing Care Practce I			開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	高岡 理恵			対象学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。介護実習の教育効果を高めるため、介護実習に向けての心がまえ、動機付け、事前の実習する施設や事業所についての理解等の準備を行うとともに、その他介護実習に必要な知識・技術・態度等について習得することをねらいとする。講義を中心とするが、ディスカッションを通し、理解を深められるように進めていく。</p>								
学修成果到達目標	<p>介護実習の目的や目標を理解し、それらに必要な事前の準備及び学習をすることができる 介護福祉士の対象を理解することができる 実習のイメージを膨らませ、自身の実習目標や学習課題を整えることができる</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	新・介護福祉士養成講座『介護総合演習』、中央法規								
参考書	社会福祉小六法 是枝祥子他『介護職のための根拠に基づいた記録の書き方』エルゼビアジャパン、2006 福祉用語辞典								
課題に対するフィードバックの方法	授業内レポートは確認後添削を行い返却する。実習目標、実習記録、プロセスレコード等の実習課題についても同様である。								
留意事項	実習先では、知識や技術と同様、利用者や職員とのコミュニケーションや誠実な態度が求められます。授業においても積極的に教員とコミュニケーションをとるようにしてください。								
オフィスアワー	授業時に提示します。必要ときにはGメールを活用して連絡してください。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：社会福祉協議会で訪問介護及び介護支援専門員として勤務								

授 業 名		介護総合演習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	ガイダンス 介護実習の概要 介護総合演習の位置づけを理解する	(学修内容) シラバスを見ながら授業の内容を確認する。 介護実習の全体概要を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 シラバスを読んでおく 事後 配布した資料を読んでおく	
第2回	介護実習の基本的理解1 介護実習の意義と目標を理解する	(学修内容) 介護実習の意義と目的についてディスカッションしながら学ぶ 介護実習の種類について理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 配布した資料を読んでおく 事後 配布した資料を読み、内容を省察できるようにする	
第3回	介護実習の基本的理解2 介護福祉士の職務を理解する	(学修内容) 介護福祉士の倫理綱領を理解する (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 配布した資料を読み、内容を省察できるようにする 事後 特別養護老人ホームの法的根拠を調べる	
第4回	介護実習の場の理解1 入所施設の理解(高齢者施設)	(学修内容) 映像を利用し、特別養護老人ホーム、老人保健施設の基本的な理解と利用者像について理解する。実習での学ぶべきポイントを学ぶ (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 特別養護老人ホームの法的根拠を調べる 事後 重症心身障害児施設の法的根拠を調べる	
第5回	介護実習の場の理解2 入所施設の理解(障がい児施設)	(学修内容) 重症心身障害児施設の基本的な理解と利用者像について理解する。実習での学ぶべきポイントを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 重症心身障害児施設の法的根拠を調べる 事後 在宅3本柱の内容について調べてくる	
第6回	介護実習の場の理解3 利用サービス事業所の理解(在宅3本柱)	(学修内容) ホームヘルプ事業、ショートステイの基本的な理解と利用者像について理解する。実習での学ぶべきポイントを学ぶ (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 在宅3本柱の内容について調べてくる 事後 小規模多機能型居宅介護の内容について調べてくる	
第7回	介護実習の場の理解4 利用サービス事業所の理解(小規模多機能)	(学修内容) 小規模多機能型居宅介護、デイサービス事業の基本的な理解と利用者像について理解する。実習での学ぶべきポイントを学ぶ (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 小規模多機能型居宅介護の内容について調べてくる 事後 障がい者施設の種類や内容を調べてくる	
第8回	介護実習の場の理解5 利用サービス事業所の理解(障がい者施設)	(学修内容) 障がい者自立支援法に基づく施設の基本的な理解と利用者像について理解する。実習での学ぶべきポイントを学ぶ (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 障がい者施設の種類や内容を調べてくる 事後 配布資料を読み理解しておく	
第9回	事前学習の内容と方法1 実習にあたっての心構えと注意点を理解する	(学修内容) 介護実習事前準備と事務手続きを行う。実習にあたっての心構え、注意点を再確認を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 配布資料を読み理解しておく 事後 介護実習に必要な事務手続きを行う	
第10回	事前学習の内容と方法2 実習記録の理解と方法、書きかたについて理解する	(学修内容) 実習記録の意義と目的、書き方について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 実習記録の書きかたのポイントを調べてくる 事後 配布資料を読み理解しておく	
第11回	事前学習の内容と方法3 プロセスレコードの理解と方法、書きかたについて理解する	(学修内容) プロセスレコードの書き方と活用法について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 配布資料を読み理解しておく 事後 時間の一部分をきりとってプロセスレコードを作成する	
第12回	事前学習の内容と方法4 実習目標の意義と考え方について理解する	(学修内容) 夏季実習施設の基本的理解を行う。 自己の目標を明確化する (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 実習へ行く施設について調べてくる 事後 実習目標の下書きを行う	
第13回	事前学習の内容と方法5 実習目標指導	(学修内容) 個別指導 自己の目標を明確化したものを言語化しディスカッションを通し、実習目標を完成させる (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 実習目標の下書きを行う 事後 実習目標を完成させる	
第14回	事前学習の内容と方法6 介護実習の実践をイメージする	(学修内容) 卒業生に実習内容等を聞き、実習への不安を取り除く (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 実習に関する質問を考えてくる 事後 記録物の整理を行う	
第15回	総合演習のまとめ	(学修内容) 実習前に必要な記録物の確認及び作成を行う。総合演習のまとめを行う (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 記録物の整理を行う 事後 介護実習記録への書き込める事項を埋める	

授 業 名	介護総合演習			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Nursing Care Practce			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	必修		
担 当 者	高岡 理恵			対 象 学 生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。介護実習の効果をも高めるため、介護実習にむけての事前学習を行うとともに、介護実習を振り返り、介護の知識や実践と結び付けて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし、専門職としての態度を養う。また、質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義と、その方法について理解できることをねらいとする。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>介護の知識や技術を実践と結び付けることができる。 自己の課題を明確にし、言語化することができる。 エビデンスの構築につながる実践研究を行うことができる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 () ()		
テ キ ス ト	新・介護福祉士養成講座『介護総合演習』、中央法規								
参 考 書	適宜、紹介します								
課題に対するフィードバックの方法	実習評価についてはルーブリックで示す。実習施設から返却された評価については個別面談にて評価を確認する。								
留 意 事 項	介護福祉士養成の締めくくりとして、他の教科で学んだ内容と実習からの学びを統合し、実践研究を行います。エビデンスの構築につながるように、文献を収集し自主的に研究を行ってください。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業時に提示します 必要なときにはGメールを活用して連絡してください								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：社会福祉協議会で訪問介護及び介護支援専門員として勤務								

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	ガイダンス 介護実習事前準備		(学修内容) 授業の進め方、11月実習の事前準備を行う ルーブリックを使用して自己評価を行う (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 実習の自己評価を行う 事後 実習施設の概要を調べてくる
第2回	事前学習の内容と方法1 実習施設について理解する 実習の振り返り カンファレンスの方法		(学修内容) 居宅実習の理解をするために春学期の振り返りを行う (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 実習施設の概要を調べてくる 事後 実習目標を設定する
第3回	事前学習の内容と方法2 目標の設定を行う		(学修内容) 居宅介護実習の理解を行い目標をディスカッションを行い見直し、設定する (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 実習目標を設定する 事後 実習施設の概要について調べてくる 資料持参すること
第4回	事前学習の内容と方法3 実習施設の理解を行う(地域性の理解)		(学修内容) 実習施設・事業所がある地域の理解及び社会資源の理解をする (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 実習施設の概要について調べてくる。資料持参すること 事後 実習記録に記載できる内容を記載する
第5回	事前学習の内容と方法4 学内オリエンテーション		(学修内容) 実習に必要な書類や課題について整理しマナーやルールについて確認を行う (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 実習記録に記載できる内容を記載する 事後 必要な書類を完成させておく
第6回	帰校日 帰校日の実習指導		(学修内容) 実習半ばに学校へ帰り、実習の指導を行う(記録や提出課題、利用者とのコミュニケーション等) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 指導を受けたい内容をまとめてくる 事後 指導を受けた内容をまとめて記載する
第7回	実習評価の確認と自己覚知		(学修内容) 客観的・主観的に夏季実習評価を行い、自己覚知を行う (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 実習内容、課題を提出できるようにまとめておく 事後 自己の評価を主観的に評価する
第8回	実習の振り返り1 実習での学びを振り返る		(学修内容) 実習で学んだことを目標に合わせ振り返り記録にとどめる (事前事後学修課題の内容)(45分) 事後 介護実習記録に施設の概要等を記録する 事後 介護実習の振り返りを発表できるよう資料を作成する
第9回	実習の振り返り2 実習での学びを共有する		(学修内容) 実習で学んだことを目標に合わせた振り返りを発表する (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 介護実習の振り返りを発表できるよう資料を作成する 事後 自己の評価を主観的に評価する
第10回	実習評価の確認と自己覚知		(学修内容) 客観的・主観的に居宅実習評価を行い、自己覚知を行う (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 自己の評価を主観的に評価する 事後 学校での学びから探究したい事柄についてテーマを考える
第11回	介護実践探求1 介護実践研究の方法を理解する		(学修内容) 介護実践研究の方法を学ぶ 実習から気になる事例を選択しディスカッションしながら深める (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 学校での学びから探究したい事柄についてテーマを考える 事後 テーマに即した必要な文献等を収集する
第12回	介護実践探求2 研究デザインの選択		(学修内容) 介護実践研究の方法を学ぶ。 文献の取り扱い方について理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テーマに即した必要な文献等を収集する 事後 配布した資料(研究方法)を読み研究を進める
第13回	介護実践探求3 分析方法の検討		(学修内容) 介護実践研究の方法を学ぶ 章立てに基づいて研究を行う (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 配布した資料(研究方法)を読み研究を進める 事後 研究デザインを提出できるようにする
第14回	介護実践探求4 個別指導		(学修内容) 介護実践研究の方法を学ぶ 発表資料を作成する (事前事後学修課題の内容)(120分) 事前 研究デザインを提出できるようにする 事後 事例研究をまとめる
第15回	介護実践探求5 研究発表		(学修内容) 自身の介護実践研究を発表する 他の発表者の研究を聞く (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 事例研究をまとめる 事後 質疑応答した内容をまとめて提出する

授 業 名	障害の理解			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Study of Disability			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	武田 康晴			対 象 学 生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>本講義のタイトルは「障害の理解」ではあるが、単に医学レベルでの障害の理解ではなく、社会モデルとしての障害理解を重視し、また障害をもちながら営む「生活」という視点で障害について理解を深めていく。障害に関する考え方は医学モデルから社会モデル、生活モデルへと変遷し、介護福祉士は介護という専門性を用いて生活支援に取り組むソーシャルワーカーだからである。具体的には、障害概念の変遷、主観としての障害、障害者福祉の制度、障害種別と生活、障害種別と介護等について扱っていく。単なる知識の習得だけでなく実践に活用できる応用力・実践力の獲得を目指すため、学生同士、教員と学生によるディスカッションを取り入れながら授業を進める。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 障害者福祉の基本理念であるノーマライゼーションについて、成り立ちを含め説明することができる。 2) 障害概念について、医学モデルと生活モデルの違いについて明確に説明することができる。 3) 自立支援について、介護場面における具体例をあげて説明することができる。 4) 各種の障害（身体障害、知的障害、精神障害、発達障害など）について、特徴を説明することができる。 5) 各種の障害特性と介護の留意点について、基礎的な事柄を説明することができる。 								
学位授与の 方針との関連		知識・理解							汎用的技能
		態度・志向性							総合的な学習経験と創造的思考力
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク	ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）	グループワーク I C T活用（自主学習支援）	プレゼンテーション					
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	プリントを配布する。								
参 考 書	授業の中で随時紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	レポート等に関してはコメントの記入、口頭での解説で対応する。								
留 意 事 項	実戦を想定して授業を実施するので、常に自分の考えを持ちながら授業に参加する。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に掲示し、授業中に口頭でも伝える。								
実 践 的 教 育									

授業名	障害の理解	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 障害に対するイメージ	(学修内容) シラバスを活用しながら授業計画について説明する。 障害に対するイメージについて、講師と学生がディスカッションする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前：シラバスの内容を確認しておく。
第2回	障害者福祉の基本理念 ノーマライゼーションについて	(学修内容) 障害者福祉の基本理念のうちノーマライゼーションについて、定義、内容、達成過程、現代的意義について解説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前：配布したプリントを読み、質問事項をまとめておく。事後：ノーマライゼーション達成過程の具体例についてまとめる。
第3回	障害者福祉の基本理念 自立と自立支援	(学修内容) 障害者福祉の基本理念である自立と自立支援について、概念成立の背景から福祉分野での意味について具体例を交えながら解説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前：自立と自立支援に関する自分なりの考えをまとめておく。事後：自立と自立支援について、介護現場での具体例を書き出してみる。
第4回	障害とは 医学モデルと生活モデル	(学修内容) 障害者基本法から生活モデルへの価値の転換という視点から、国際障害分類及び国際生活機能分類について具体例を交えて解説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前：配流したプリントを読み、分かったことをまとめておく。事後：ICFを活用した介護支援の例について書き出してみる。
第5回	障害とは 法制度に見る障害の定義	(学修内容) 障害者基本法など各種法制度に位置付けられた障害の定義について、法律の成立や改正の背景も含めて解説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前：配布したプリントを読み、障害の定義にあたる部分に線を引いてくる。事後：各障害について、特徴の概要についてノートにまとめる。
第6回	障害とは 障害が及ぼす心理的影響（障害の主観的側面）	(学修内容) 障害をもつ人の側に立ち、障害の心理的・主観的側面について基本事項を解説し、ディスカッションにより共感的理解に近づけていく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前：書籍またはインターネットで障害者の雪を探し、気持ちに着目して呼んでくる。事後：ディスカッションで感じたことをまとめる。
第7回	障害の理解とその援助 身体障害（肢体不自由・内部障害）の理解と援助	(学修内容) 身体障害のうち肢体不自由と内部障害について基本事項をおさえ、援助の留意点について検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前：配布したプリントを読み、質問事項をまとめてくる。事後：介護場面での留意点という視点からまとめなおしてみる。
第8回	障害の理解とその援助 進退障害（視覚障害・聴覚障害）の理解と援助	(学修内容) 身体障害のうち視覚障害と聴覚障害について基本事項をおさえ、援助の留意点について検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前：配布したプリントを読み、質問事項をまとめてくる。事後：介護場面での留意点という視点からまとめなおしてみる。
第9回	障害の理解とその援助 知的障害の理解と援助	(学修内容) 知的障害について基本事項をおさえ、援助の留意点について検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前：配布したプリントを読み、質問事項をまとめてくる。事後：介護場面での留意点という視点からまとめなおしてみる。
第10回	障害の理解とその援助 発達障害の理解と援助	(学修内容) 発達障害について基本事項をおさえ、援助の留意点について検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前：配布したプリントを読み、質問事項をまとめてくる。事後：介護場面での留意点という視点からまとめなおしてみる。
第11回	障害の理解とその援助 精神障害の理解と援助	(学修内容) 精神障害について基本事項をおさえ、援助の留意点について検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前：配布したプリントを読み、質問事項をまとめてくる。事後：介護場面での留意点という視点からまとめなおしてみる。
第12回	障害の理解とその援助 難病の理解と援助	(学修内容) 難病について基本事項をおさえ、援助の留意点について検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前：配布したプリントを読み、質問事項をまとめてくる。事後：介護場面での留意点という視点からまとめなおしてみる。
第13回	事例研究 障害者の事例について介護福祉の視点から分析、検討	(学修内容) これまで学んできた知識を総括的に活用し、障害者の事例について介護福祉の視点から分析、検討しディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前：これまでの学修内容を振り返り、不明点は解決しておく。事後：ディスカッションの内容をまとめる。
第14回	事例研究 障害者の事例について介護福祉の視点から分析、検討	(学修内容) これまで学んできた知識を総括的に活用し、障害者の事例について介護福祉の視点から分析、検討しディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前：これまでの学修内容を振り返り、不明点は解決しておく。事後：ディスカッションの内容をまとめる。
第15回	授業の総括と質疑応答	(学修内容) 全ての授業内容を総括的に振り返りながらまとめ、学生の質問に質疑応答形式で答えながら内容をさらに深めていく。 (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの授業を振り返り、質問事項をまとめておく。